

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第14集

九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 11

# 箱崎遺跡

—HZK1801・2006・2007 地点出土人骨編—



2024

九州大学埋蔵文化財調査室

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第14集

九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 11

# 箱崎遺跡

—HZK1801・2006・2007 地点出土人骨編—

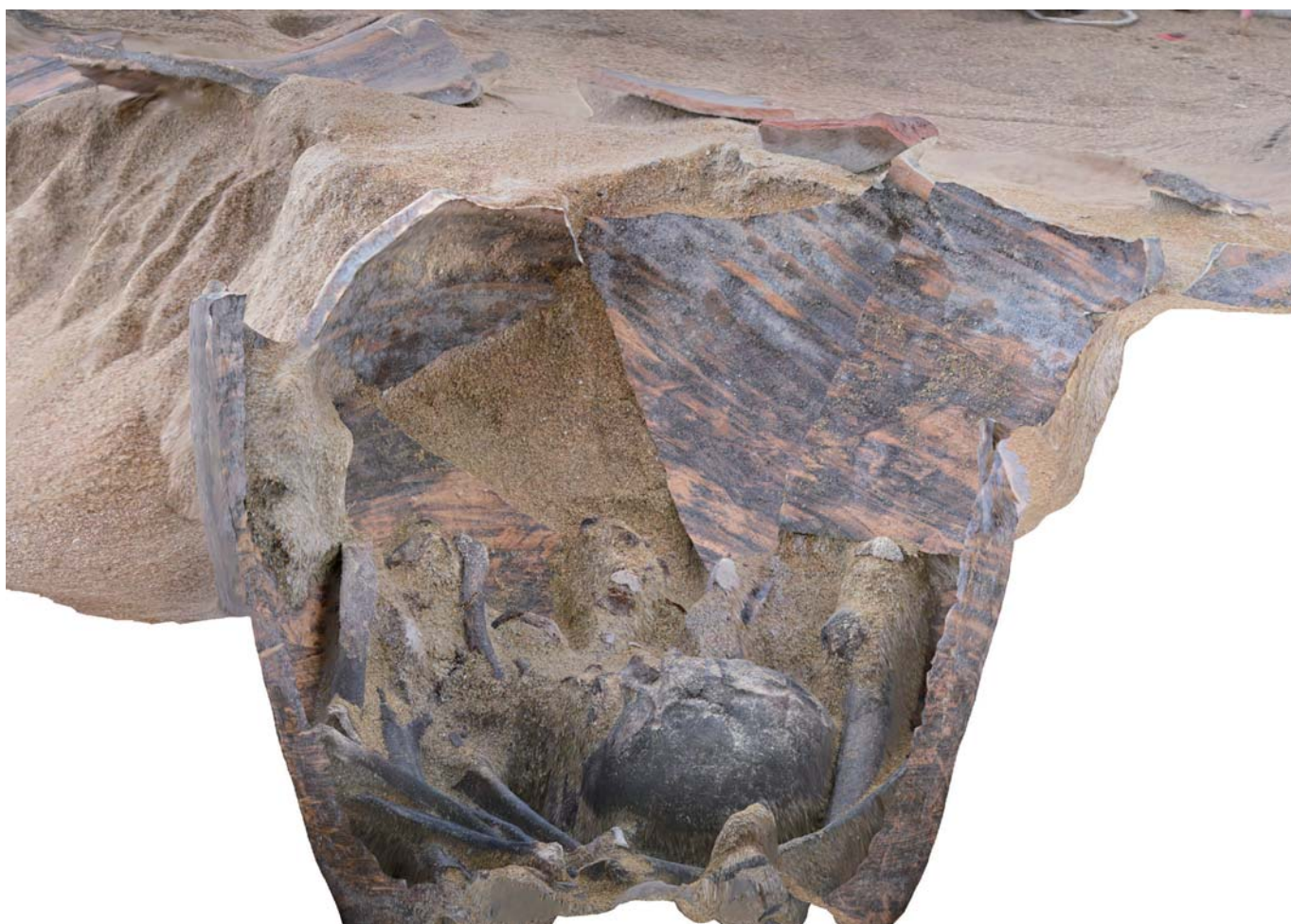


2024

九州大学埋蔵文化財調査室



HZK2007地点 ST145 (平面)



HZK2007地点 ST145 (断面見通し)



HZK2007地点 ST173 (平面)



HZK2007地点 ST173 (断面見通し)



HZK2007地点 ST109 (1面)



HZK2007地点 ST109 (2面)



HZK2007地点 ST117 (平面)



HZK2007地点 ST117 (断面見通し)

## 例 言

1. 本書は、九州大学箱崎キャンパス跡地において2018年・2020年に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果報告書である。「跡地」までが正式名称だが、本書では煩瑣を避け「箱崎キャンパス」と表記する。
2. 本書には2018年度に実施した HZK1801地点、2020年度に実施した HZK2006地点、HZK2007地点の調査成果のうち人骨に関する内容を調査順に掲載する。
3. 本書の内容は HZK1801地点、HZK2006地点、HZK2007地点の調査成果を掲載した『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告8～10』と補完しあっており、本書と合わせて適宜参照していただきたい。また、人骨の出土状況をふまえた遺構の総合的な評価は『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告8～10』の内容が優先する。
4. 調査主体は九州大学埋蔵文化財調査室である。
5. 発掘調査・整理作業の担当者・参加者は報告箇所に記した。
6. 検出遺構および土層の実測は、三阪一徳、齋藤瑞穂、福永将大、石川健、米元史織、舟橋京子、冨田啓貴が行った。製図は石井若香菜、田邊八子、門脇義徳、田中えみが行い、株式会社パスコが測量支援を行った。
7. 遺構写真は三阪、齋藤、福永が、人骨写真は各章の執筆者が撮影した。
8. 本書で使用する遺構記号は、次のとおりである。

SK：土坑、SP：ピット、ST：墓、SX：その他性格不明遺構等
9. 本書の執筆者は各章に記した。
10. 表紙デザインは、石井若香菜が担当した。
11. 本書に掲載した調査記録・写真および出土遺物は、九州大学埋蔵文化財調査室が収蔵保管する。
12. 本書の編集は、宮本監修のもと谷が担当した。

# 目 次

巻頭図版

例 言

目 次

挿図・表目次

写真図版一覧

## I 箱崎遺跡（HZK1801地点）調査出土近世人骨の埋葬状態と形質的特徴

はじめに	1
1. 出土状況	1
2. 形質的特徴	38
おわりに	45

## II 箱崎遺跡（HZK2006地点）調査出土近世人骨について

はじめに	55
1. 出土状況	55
2. 人骨所見	65
3. HZK2006における葬制	65
おわりに	66

## III 箱崎遺跡（HZK2007地点）調査出土近世人骨の埋葬状態と形質的特徴

はじめに	69
1. 出土状況	69
2. 形質的特徴	120
おわりに	128

写真図版

報告書抄録

# 挿図・表目次

## I 箱崎遺跡 (HZK1801地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質的特徴

第1図	HZK1801地点 ST40人骨出土状況	2
第2図	HZK1801地点 ST57人骨出土状況	4
第3図	HZK1801地点 ST58人骨出土状況	5
第4図	HZK1801地点 ST61・122人骨出土状況	7
第5図	HZK1801地点 ST62人骨出土状況	8
第6図	HZK1801地点 ST63人骨出土状況	9
第7図	HZK1801地点 ST64人骨出土状況	11
第8図	HZK1801地点 ST65人骨出土状況	11
第9図	HZK1801地点 ST66人骨出土状況	13
第10図	HZK1801地点 ST67人骨出土状況	14
第11図	HZK1801地点 ST70人骨出土状況	15
第12図	HZK1801地点 ST71人骨出土状況	16
第13図	HZK1801地点 ST72人骨出土状況	17
第14図	HZK1801地点 ST73人骨出土状況	18
第15図	HZK1801地点 ST78人骨出土状況	19
第16図	HZK1801地点 ST81人骨出土状況	19
第17図	HZK1801地点 ST83人骨出土状況	20
第18図	HZK1801地点 ST86人骨出土状況	21
第19図	HZK1801地点 ST87人骨出土状況	22
第20図	HZK1801地点 ST89人骨出土状況	22
第21図	HZK1801地点 ST90人骨出土状況	23
第22図	HZK1801地点 ST91人骨出土状況	24
第23図	HZK1801地点 ST92人骨出土状況	25
第24図	HZK1801地点 ST93人骨出土状況	26
第25図	HZK1801地点 ST95人骨出土状況	27
第26図	HZK1801地点 ST97人骨出土状況	28
第27図	HZK1801地点 ST102人骨出土状況	29
第28図	HZK1801地点 ST103人骨出土状況	30
第29図	HZK1801地点 ST109人骨出土状況	31
第30図	HZK1801地点 ST126人骨出土状況	34
第31図	HZK1801地点 ST127人骨出土状況	34
第32図	HZK1801地点 ST138人骨出土状況	36
第33図	HZK1801地点 ST141人骨出土状況	37
第34図	箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨 (男性) 主成分分析二次元展開図	40
第35図	箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨 (男性個体) 主成分分析二次元展開図	41
第36図	箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨 (女性) 主成分分析二次元展開図	42
第37図	箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨 (男性) の上 腕骨と大腿骨の長厚示数の単変量比較	43
第1表	男性頭蓋骨主成分分析集団間比較	39
第2表	男性頭蓋骨主成分分析個体比較	40
第3表	女性頭蓋骨主成分分析	41
第4表	推定身長と比較 (男性)	44
第5表	推定身長と比較 (女性)	44
第6表	HZK1801出土人骨一覧	47
第7表	箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨計測値一覧	50

第8表	頭蓋計測値の比較 (男性)	51
第9表	頭蓋計測値の比較 (女性)	52
第10表	上肢の計測値の比較 (男性)	53
第11表	下肢の計測値の比較 (男性)	53
第12表	上肢の計測値の比較 (女性)	54
第13表	下肢の計測値の比較 (女性)	54

## II 箱崎遺跡 (HZK2006地点) 調査出土近世人骨について

第1表	HZK2006地点の遺構に伴う人骨	66
-----	-------------------	----

## III 箱崎遺跡 (HZK2007地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質的特徴

第1図	HZK2007地点 SK24人骨出土状況	72
第2図	HZK2007地点 ST59人骨出土状況	74
第3図	HZK2007地点 ST62人骨出土状況	75
第4図	HZK2007地点 ST63人骨出土状況	76
第5図	HZK2007地点 ST65人骨出土状況	76
第6図	HZK2007地点 ST67人骨出土状況	77
第7図	HZK2007地点 ST75人骨出土状況	77
第8図	HZK2007地点 ST77人骨出土状況	79
第9図	HZK2007地点 ST78人骨出土状況	79
第10図	HZK2007地点 SX80人骨出土状況	80
第11図	HZK2007地点 ST82人骨出土状況	80
第12図	HZK2007地点 ST83人骨出土状況	81
第13図	HZK2007地点 ST87人骨出土状況	82
第14図	HZK2007地点 ST88人骨出土状況	82
第15図	HZK2007地点 ST91人骨出土状況	83
第16図	HZK2007地点 ST99人骨出土状況	85
第17図	HZK2007地点 ST100・101人骨出土状況	86
第18図	HZK2007地点 ST107人骨出土状況	88
第19図	HZK2007地点 ST108人骨出土状況	89
第20図	HZK2007地点 ST109人骨出土状況	89
第21図	HZK2007地点 ST110人骨出土状況	90
第22図	HZK2007地点 ST112人骨出土状況	91
第23図	HZK2007地点 ST114人骨出土状況	91
第24図	HZK2007地点 ST117人骨出土状況	92
第25図	HZK2007地点 ST118人骨出土状況	93
第26図	HZK2007地点 ST119人骨出土状況	93
第27図	HZK2007地点 ST125・126人骨出土状況	95
第28図	HZK2007地点 ST127人骨出土状況	96
第29図	HZK2007地点 ST130人骨出土状況	96
第30図	HZK2007地点 ST132人骨出土状況	97
第31図	HZK2007地点 ST133人骨出土状況	98
第32図	HZK2007地点 ST138人骨出土状況	99
第33図	HZK2007地点 ST139人骨出土状況	99
第34図	HZK2007地点 ST140人骨出土状況	100
第35図	HZK2007地点 ST141人骨出土状況	101
第36図	HZK2007地点 ST142人骨出土状況	102
第37図	HZK2007地点 ST143人骨出土状況	102
第38図	HZK2007地点 SK144人骨出土状況	103

第39図	HZK2007地点 ST145人骨出土状況	105	第58図	箱崎遺跡 (HZK2007) 出土人骨 (男性) の 上腕骨と大腿骨の長厚示数の単変量比較	126
第40図	HZK2007地点 ST146人骨出土状況	105	第59図	頭位方向・躯体正面と墓域における墓の位置の 関係について	129
第41図	HZK2007地点 ST150人骨出土状況	106	第1表	男性 (HZK2007) 頭蓋骨主成分分析集団間比較	122
第42図	HZK2007地点 ST151人骨出土状況	106	第2表	男性 (HZK2007) 頭蓋骨主成分分析個体比較	123
第43図	HZK2007地点 ST155人骨出土状況	108	第3表	女性 (HZK2007) 頭蓋骨主成分分析	125
第44図	HZK2007地点 ST157人骨出土状況	108	第4表	推定身長と比較 (男性)	127
第45図	HZK2007地点 ST160人骨出土状況	109	第5表	推定身長と比較 (女性)	127
第46図	HZK2007地点 ST163・164人骨出土状況	110	第6表	HZK2007出土人骨一覧	133
第47図	HZK2007地点 ST166人骨出土状況	111	第7表	箱崎遺跡 (HZK2007) 出土人骨計測値一覧	138
第48図	HZK2007地点 ST167人骨出土状況	112	第8表	頭蓋計測値の比較 (男性)	139
第49図	HZK2007地点 ST169人骨出土状況	113	第9表	頭蓋計測値の比較 (女性)	140
第50図	HZK2007地点 ST171人骨出土状況	114	第10表	上肢の計測値の比較 (男性)	141
第51図	HZK2007地点 ST172人骨出土状況	114	第11表	下肢の計測値の比較 (男性)	141
第52図	HZK2007地点 ST173人骨出土状況	115	第12表	上肢の計測値の比較 (女性)	142
第53図	HZK2007地点 ST174人骨出土状況	116	第13表	下肢の計測値の比較 (女性)	142
第54図	HZK2007地点 ST193人骨出土状況	118			
第55図	箱崎遺跡 (HZK2007) 出土人骨 (男性) 主成分分析二次元展開図	123			
第56図	箱崎遺跡 (HZK2007) 出土人骨 (男性個体) 主成分分析二次元展開図	124			
第57図	箱崎遺跡 (HZK2007) 出土人骨 (女性) 主成分分析二次元展開図	125			

## 写真図版一覧

巻頭図版 1	HZK2007地点 ST145 (平面) HZK2007地点 ST145 (断面見通し)	ST63上面観 ST64上面観
巻頭図版 2	HZK2007地点 ST173 (平面) HZK2007地点 ST173 (断面見通し)	写真図版 3
巻頭図版 3	HZK2007地点 ST109 (1面) HZK2007地点 ST109 (2面)	I章 HZK1801 ST65正面観 ST66正面観 ST67正面観
巻頭図版 4	HZK2007地点 ST117 (平面) HZK2007地点 ST117 (断面見通し)	ST65側面観 ST66側面観 ST67側面観
写真図版 1	I章 HZK1801 ST40正面観 ST57正面観 ST61正面観 ST40側面観 ST57側面観 ST61側面観 ST40上面観 ST57上面観 ST61上面観	ST65上面観 ST66上面観 ST67上面観
写真図版 2	I章 HZK1801 ST62正面観 ST63正面観 ST64正面観 ST62側面観 ST63側面観 ST64側面観 ST62上面観	写真図版 4
		I章 HZK1801 ST70正面観 ST71正面観 ST72正面観 ST70側面観 ST71側面観 ST72側面観 ST70上面観 ST71上面観 ST72上面観
		写真図版 5
		I章 HZK1801 ST86正面観 ST90正面観 ST93正面観

	ST86側面觀	ST78上面觀
	ST90側面觀	ST100上面觀
	ST93側面觀	写真図版11 Ⅲ章 HZK2007
	ST86上面觀	ST109正面觀
	ST90上面觀	ST130正面觀
	ST93上面觀	ST139正面觀
写真図版6	I章 HZK1801	ST109側面觀
	ST95正面觀	ST130側面觀
	ST109正面觀	ST139側面觀
	ST127正面觀	ST109上面觀
	ST95側面觀	ST130上面觀
	ST109側面觀	ST139上面觀
	ST127側面觀	写真図版12 Ⅲ章 HZK2007
	ST95上面觀	ST141正面觀
	ST109上面觀	ST145正面觀
	ST127上面觀	ST166正面觀
写真図版7	I章 HZK1801	ST141側面觀
	ST57上肢	ST145側面觀
	ST63上肢	ST166側面觀
	ST57下肢	ST141上面觀
	ST63下肢	ST145上面觀
	ST62上肢	ST166上面觀
	ST64上肢	写真図版13 Ⅲ章 HZK2007
	ST62下肢	ST172正面觀
	ST64下肢	ST193正面觀
写真図版8	I章 HZK1801	ST173正面觀
	ST65上肢	ST172側面觀
	ST67上肢	ST193側面觀
	ST65下肢	ST173側面觀
	ST67下肢	ST172上面觀
	ST66上肢	ST193上面觀
	ST71上肢	ST173上面觀
	ST66下肢	写真図版14 Ⅲ章 HZK2007
	ST71下肢	ST77上肢
写真図版9	I章 HZK1801	ST100上肢
	ST72上肢	ST77下肢
	ST90上肢	ST100下肢
	ST72下肢	ST78上肢
	ST90下肢	ST108上肢
	ST86上肢	ST78下肢
	ST109上肢	ST108下肢
	ST86下肢	写真図版15 Ⅲ章 HZK2007
	ST109下肢	ST109上肢
写真図版10	Ⅲ章 HZK2007	ST141上肢
	ST77正面觀	ST109下肢
	ST78正面觀	ST141下肢
	ST100正面觀	ST130上肢
	ST77側面觀	ST172上肢
	ST78側面觀	ST130下肢
	ST100側面觀	ST172下肢
	ST77上面觀	

# I 箱崎遺跡（HZK1801地点）調査出土近世人骨の埋葬状態と形質的特徴

米元史織<sup>1・2)</sup>・足達悠紀<sup>3)</sup>・松尾樹志郎<sup>3)</sup>・星野宙也<sup>3)</sup>・出見優人<sup>3)</sup>・植野律子<sup>3)</sup>・  
Bai Yang<sup>3)</sup>・Stephen Nguyen<sup>3)</sup>・James Loftus III<sup>3)</sup>・日高風海斗<sup>5)</sup>・  
森春奈<sup>5)</sup>・小高蒼大<sup>4)</sup>・吉村篤也<sup>4)</sup>・田渕朱莉<sup>5)</sup>・松村祐奈<sup>5)</sup>・舟橋京子<sup>2・6)</sup>

1：九州大学総合研究博物館

2：九州大学アジア埋蔵文化財研究センター

3：九州大学大学院地球社会統合科学府

4：九州大学共創学部

5：九州大学文学部考古学研究室

6：九州大学大学院比較社会文化研究院

※所属は全て2020年当時のものである

## はじめに

福岡県福岡市東区箱崎遺跡 HZK1801地点は2018年度に九州大学埋蔵文化財調査室によって発掘調査が行われ、近世・近代に属する人骨が多数出土した。そこで、九州大学アジア埋蔵文化財研究センターに人骨調査の依頼があり、当時九州大学大学院比較社会文化研究院基層構造講座関連の教職員と大学院生が現地で調査・取り上げを行った。その後、人骨は九州大学大学院比較社会文化学府基層構造講座に搬送され、九州大学アジア埋蔵文化財研究センターにおいて、出土人骨の整理・分析が行われた。なお、人骨は現在、アジア埋蔵文化財研究センター・九州大学大学院比較社会文化研究院基層構造講座の古人骨・考古資料収蔵室に保管されている。

人骨の年齢推定は、恥骨結合面は Todd (1920) を、耳状面は Lovejoy (1985)、咬耗は 栃原 (1957) を用い、性判定には、骨盤は Buikstra and Ubelaker (1994) を基準に、恥骨下角の角度・大坐骨切痕の角度・前耳状溝の有無、また Phenice (1969) の腹側弧、恥骨下陥凹、恥骨下枝内側面隆起に基づいて判定を行った。頭蓋は Buikstra and Ubelaker (1994) を基準に、眼窩上隆起・乳様突起・外後頭隆起で判定を行った。年齢の表記に関しては、九州大学医学部第二解剖学教室編集の『日本民族・文化の生成2』（九州大学医学部解剖学第二講座編、1988）記載の区分に従い、乳児0-1歳、幼児1-6歳、小児6-12歳、若年12-20歳、成年20-40歳、熟年40-60歳、老年60歳以上、成人は20歳以上（詳細は不明）とする。

本稿においては、出土状況については九州大学大学院地球社会統合科学府の大学院生と舟橋が、形質的特徴については米元が執筆した。

## 1. 出土状況

人骨の出土状況に関しては、頭位あるいは躯体正面、想定される棺の種類、改葬の有無、改葬部位に関して記述する。屈葬に関しては、体軸を示す指標として頭位を記述しているが、坐葬に関しては頭位および躯体正面を記述している。坐葬は通常頭部を上にして座した状態であり、体軸は地面に対

して垂直に近く頭位は上方を指向された埋葬姿勢である。一方で、江戸の発昌寺においては、出土人骨の骨盤により判断される身体の正面が、内部施設の「前」など正面を記した記号と一致していることや参道や墓地形成を探る手掛かりとなることが指摘されており (井汲 1991)、骨盤の向きを報告する必要性が指摘されている (谷川 2004)。したがって、本報告では先述の通り、坐葬で躯体正面が明らかでない場合はこれを記述することとする。ただし、坐葬の場合でも、背面に倒れ込み仰臥のような状態の場合や正座して上半身がその上に倒れ込んだような状態のように、体軸が水平に近い状態になっている場合には頭位も併せて記載するものとする。

葬法に関しては、遺体の周辺に空隙があったことが確実にわかるような、人骨の崩落がみられる場合には棺ありと断定し、人骨の出土範囲の形状から棺の存在が想定される場合には棺の種類に「?」を付している。加えて、墓の再開口を行っているものの改葬による収骨が認められない事例に関しては、改葬不明で (再開口あり) と記している。

一覧を第6表にまとめる。

【ST01】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓 (木棺?)  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

40cm×40cm の範囲から人骨が出土している。最も東側からは左寛骨が、腹側を上、腸骨翼を南西にした状態で出土している。この左寛骨と関節した状態で左大腿骨が遠位を西にした状態で出土している。寛骨の南西側からは肋骨片が出土している。寛骨の北側からも部位同定困難な骨片が出土しており、これらの中には火葬骨も混ざっている。

以上の出土状況から、本人骨は頭位・躯体正面・埋葬姿勢などは不明である。残存部位が少ないこと、左股関節が関節状態にあることから、軟部組織が完全に腐朽する以前の段階で削平あるいは改葬された可能性が高いと考えられる。

本個体に伴い、副葬品が出土している。左大腿骨直上および南側、寛骨北側の部位不明人骨片付近からそれぞれ銭貨が出土している。また人骨分布範囲の東西の端からはそれぞれ土器片が出土している。

【ST40】 (第1図)

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：有

甕棺内の北側から、頭蓋骨が頭頂部を上、顔面部を北側にした状態で出土している。頭蓋骨の南側から下顎骨が右側を上、オトガイが東向き状態で出土しており、下顎骨の周辺から上顎骨の左右中切歯・大臼歯3点が散乱した状態で出土している。頭蓋骨の直下から南西側にかけて、下部胸椎・腰椎・仙骨がほぼ関節状態で出土している。仙骨は仙骨底を上、腹側を西に向けた状態である。椎骨の西側から肋骨が散乱した状態で出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の南西側から右肩甲骨・右上腕骨が出土している。右上腕骨は近位を南東、遠位を北西にした状態で出土している。頭蓋骨の西側下位から、右橈骨・右尺骨が近位を北東上方に、遠位を南西下方



第1図 HZK1801地点 ST40人骨出土状況

にした状態で出土している。右肘関節は関節状態にないが、右橈骨と右尺骨は解剖学的位置関係を保っている。頭蓋骨の南側、下顎骨の北側から、左上腕骨が近位を南西、前面を上にし、長軸を東西にした状態で出土している。

下肢骨は、仙骨の南北からそれぞれ左右の寛骨が解剖学的位置関係を保った状態で出土している。左右寛骨の西側からはそれぞれ左右大腿骨・脛骨・腓骨がほぼ直立した状態で出土している。左右大腿骨は遠位を上、前面を東にした状態で出土しており、左右脛骨・腓骨は近位を上、前面を西にした状態で出土している。右大腿骨の上から右膝蓋骨が出土している。左右の股関節および膝関節は関節状態であり、股関節・膝関節ともに強屈した状態である。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を東に、躯体正面を西に向けた立膝坐葬であると推定される。一方で、立膝状態の座位屈葬の場合、通常上腕は近位を上方、遠位を下方にして出土する。ただし、本個体に関しては、左上腕骨は最上層から長軸をほぼ水平にした状態で出土しており、左前腕骨は出土していない。したがって、軟部組織がそれほど腐朽していない段階で一部の骨を持ち去る改葬行為が行われていたと推定される。

#### 【箱崎 ST40棺外人骨】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：不明  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

ST40の甕口縁の南西側に近接してST40とは別個体の下肢骨が出土している。北側から右大腿骨が前面を南側にした状態で出土しており、右大腿骨の東側から骨片が出土している。南側から左大腿骨が後面を上、近位を東にした状態で出土している。左大腿骨の南側から多数の骨片が出土している。左大腿骨の直上から左脛骨が出土しており、左大腿骨の南側から部位不明管状骨片が出土している。

以上の出土状況から、本個体はST40の埋葬に際し先行して存在していた墓が破壊され、その際掘り返された人骨がST40の甕口縁の外側に接して埋置されたと考えられる。

#### 【ST46】

頭位：北東、躯体正面：不明 葬法：不明  
埋葬姿勢：不明 改葬：有

東西70cm、南北40cmの範囲で散乱した状態で人骨が出土している。墓壙内の北東側から歯牙および鎖骨、指骨の一部が、南西側から足の骨が出土している。墓壙内の南側から左第1から第4中足骨が関節した状態で出土している。上半身の骨が北東側に集中していることから頭位は北東側であった可能性が考えられる。頭蓋骨や四肢骨は残存していないにもかかわらず、指・趾骨などの末端の部位の骨が出土している。

なお、本人骨の分布範囲の北西側と南東側から火葬骨が片ずつ出土している。火葬骨の出土に関して、墓壙内から炭が出土していないこと、本墓壙から出土した人骨は被熱していないと見られる骨がほとんどであることから、別の場所で火葬された別個体の骨が本墓に埋葬された可能性と、本墓の改葬ないし攪乱時に別個体の骨が混入した可能性が考えられる。前者の場合、本墓から出土している骨がごく一部分に限られているため、後者の可能性の方がより蓋然性が高いと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を北東に向けていたものと推定されるが、遺存していない部位が多く、埋葬姿勢は不明である。また、末端の部位の骨が遺存している一方で頭蓋骨や四肢骨が遺存していないことから、本個体は改葬ないし攪乱を受けたものと考えられ、その際に別個体の火葬骨が混入した可能性が指摘される。

【ST47】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

40cm×50cm の範囲から人骨が出土している。墓壙内の北西から頭蓋骨片・肋骨片が出土している。墓壙内の東側からは下部胸椎4点と第1腰椎が連なった状態で出土している。頭蓋骨の北側から左肋骨が出土しており、一部椎骨と解剖学的位置関係を保っている。左肋骨の東側から左鎖骨が近位を東側に向けて出土している。左鎖骨遠位の西側から上腕骨が出土している。椎骨の南西側より肩甲骨と乳切歯が出土している。最も南側から鼻骨が出土している。鉄片が鼻骨のやや北側から出土している。鉄片は釘と推定され木棺に使用されたものと考えられる。

以上の出土状況から、一部関節状態を保っている部位は見られるものの、遺存部位が少ないことから、詳細な埋葬姿勢は不明である。

【ST57】（第2図）

頭位：南西、躯体正面：北東 葬法：甕棺

埋葬姿勢：坐葬 改葬：不明（再開口：有）

甕棺から人骨が出土している。甕棺内最上位から上半身および骨盤が出土し、下層から頭蓋骨および上肢骨・下肢骨が出土している。

頭蓋骨が、甕棺内東より、頭頂部を下位に、後頭部を東に、顔面部を南西に向け、上下顎咬合状態で出土している。なお、頭蓋骨は甕棺蓋材の下から出土している。

頭蓋北西側より胸椎および腰椎が、上位胸椎を北東に向け関節した状態で出土している。また、胸椎下位より左肋骨がほぼ関節した状態で出土している。頭蓋下から頸椎が、また頭蓋西側より胸骨柄が出土している。

頭蓋北西側より右肩甲骨が出土しており、右肩甲骨の南側からは、右上腕骨が近位を北側、遠位を南側に向け、相対的位置関係を保った状態で出土している。また、右橈骨・尺骨が近位を南側に、遠位を北側に向けた状態で、右上腕骨遠位端南側に近接して出土している。これらの部位は概ね解剖学的位置関係を保っていることから、右上肢は肘関節を屈した状態であると推定される。頭蓋北側より左肩甲骨が出土しており、左肩甲骨とほぼ関節状態を保って左上腕骨が遠位を南西に向けた状態で出土している。また左上腕骨下位より、左前腕が近位を北、遠位を南に向けた状態で出土しており、左前腕遠位の南西側より左手根骨・手指骨が関節状態で出土している。頭蓋西側より左右寛骨が相対的位置関係を保った状態で出土しており、左右寛骨の間から仙骨が左耳状面を上にした状態で出土している。また左右寛骨の直下および南側から左右大腿骨が、それぞれ遠位を東と北東に向け、前面を上に向けた状態で出土している。左股関節は関節状態であるが右股関節は外れた状態である。左大腿骨下位より、左脛骨・左腓骨が長軸を揃え、近位を南東、遠位を北西に向け、相対的位置関係を保った状態で出土している。また、左脛骨・左腓骨の北から北西にかけ足根骨および足指骨が関節状態で出土している。また右脛骨・右腓骨が右大腿骨

ST57



第2図 HZK1801地点 ST57人骨出土状況

下位より近位を南東、遠位を北西に向けた状態で出土している。下腿部遠位付近から右距骨・右踵骨が出土している。右大腿骨遠位と下腿部の近位が10cm程度離れており膝関節は関節状態には無いが、右脛骨・右腓骨・右距骨・右踵骨は解剖学的位置関係を保っており、脛距関節は関節状態である。

以上のことから、本人骨は、本来は頭位を南西、躯体正面を北東に向けた坐葬であったと考えられる。ただし、右肘関節・右股関節・右膝関節が外れていることから、明瞭な骨の持ち去りは確認できないものの、再開口および遺体の操作が行われていたと推定される。全体としては関節状態を保っており、後述のように手元付近に置かれた副葬品がそのままの状態出土していることから、出土状況から観察される頭位・躯体正面はある程度埋葬当初の状態を保っていると考えられる。

頭蓋骨上位より板材が検出されたことから、甕棺の蓋が腐朽とともに落ち込んだものと考えられる。なお、腰椎下位から銭貨と手鏡が出土している。手鏡下位より左手骨と右手骨が出土しており、左中手骨が立った状態で、また右手骨が左手骨の下位から出土していることから、右手の上に手鏡を置きその上に左手を添えた状態であると推定される。さらに、甕棺内底部付近からは板状木製品と土師皿が出土している。

#### 【ST58】（第3図）

頭位：南西、躯体正面：北東 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：胡座坐葬 改葬：有

甕棺から人骨が出土している。甕棺内南西から頭蓋骨が顔面を下に、頭頂を東にした状態で出土している。頭蓋骨北側より下顎骨が咬合面を上、オトガイを北にした状態で出土している。

頭蓋骨南東下部より椎骨が前面を北西にし、関節状態を保った状態で出土している。上部胸椎付近で解剖学的位置関係に乱れが生じ、下部胸椎以下の椎骨が東側にずれている。肋骨は一部相対的位置関係を保った状態であり、後述する右下腿の直下より胸骨柄が出土している。

下顎骨北側から左上腕骨が近位を南に、遠位を北にし、ほぼ直立した状態で出土しており、その東側から左橈骨・左尺骨が近位を北側、遠位を南側にした状態で出土している。肘関節は関節していない。椎骨の東側より、右上腕骨が外側を上、近位を南西、遠位を北東側にした状態で出土している。右尺骨は肘頭が右上腕骨遠位直上から、近位を北東にした状態で出土しており、右上腕骨とは関節状態は保っていないが接した状態である。右尺骨の北東から右橈骨が出土している。

右大腿骨の北東から左寛骨が出土している。腸骨翼を南、腹側を上にした状態で出土している。左寛骨の西側から仙骨が仙骨底を上、腹側を西にした状態で出土している。右寛骨は左寛骨の南東から、腸骨翼を南東、背側を上にした状態で出土している。下顎骨北側より左大腿骨が近位を北東、遠位を南西、背側を上にした状態で出土している。左大腿骨の近位は左寛骨と近接した位置から出土しているがレベルが10cm程度異なっており左大腿骨の方が高い。左脛骨・左腓骨は左大腿骨の西側から遠位を南西に、近位を北東にし、相対的位置関係を保った状態で出土している。これらの左下腿部は左大腿骨と近接して出土しているが、大腿骨と解剖学的位置関係は保っていない。右大腿骨は近位を南、

ST58



第3図 HZK1801地点 ST58人骨出土状況

遠位を北、内側を上にした状態で出土している。右脛骨・右腓骨は右大腿骨の直下から長軸を揃え近位を北側にした状態で出土している。右大腿骨および右脛骨は概ね解剖学的位置関係を保っている。

以上の出土状況から、本人骨は躯体正面を北東にした状態の坐葬であると推定される。上肢は左肘を屈し前腕を腹部付近に置いた状態であり、下肢は左膝を立て胡坐の状態であったと推定される。一方で、本個体はほぼ全身が揃っているものの頭蓋骨が一部の破片を除いて遺存していないことから、改葬を受けていると推定される。左右股関節・左膝関節が外れているものの他の部位は相対的位置関係を保っていることから、四肢骨の軟部組織が完全に腐朽する前に改葬が行われたものと推定される。

なお、人骨最下層と底部付近の甕器壁側面から土師皿、右寛骨の上から鉄片、左尺骨・左橈骨の上から木片、右下顎枝の下部から銭貨が出土している。

【ST59】

頭位：東、躯体正面：西 葬法：方形木棺

埋葬姿勢：坐葬 改葬：無

45cm×45cmの範囲から人骨が出土している。最も西側からは頭蓋骨および歯牙が出土している。頭蓋骨は顔面を下方やや東に向け頭蓋底を上にした状態である。左大腿骨は最も南側から、近位を東下方に、遠位を西にし、ほぼ直立した状態で出土している。左大腿骨の北西側から左上腕骨が近位を南西上方に、遠位を北東にし、ほぼ直立した状態で出土している。これらの骨の北側からは、右側の上下肢骨が出土している。最も北側から右大腿骨が近位を東南、遠位を北西にし、近位を下にしてほぼ直立した状態で出土している。右上腕骨は右大腿骨の南西から、近位を東南、遠位を北西にし、近位を上にして直立した状態で出土している。左大腿骨の内側の下位から、左前腕が長軸を南北に揃えた状態で出土している。

以上のことから、本人骨は躯体正面を西側に、上肢を左右下肢の間に配した坐葬であると推定される。軟部組織の腐朽に伴い、頭蓋および上半身が前方に倒れたと考えられる。このことから、埋葬施設そのものは遺存していないものの、軟部組織の腐朽時に遺体の周囲に空間があるような木棺に埋葬されていた可能性が高いと考えられる。

頭蓋骨の西側から鉄製品が出土している。左大腿骨直上からは土師皿が出土しており、さらに左大腿骨の外・内側から銭貨が出土している。土師皿と銭貨は遺体の腹部付近に置かれていたと推定される。

【ST60】

頭位：北 葬法：長方形木棺

埋葬姿勢：仰臥屈葬 改葬：無

40cm×65cmの範囲から人骨が出土している。頭蓋骨は頭が最も北側から、顔面を南西、右側頭部を上にした状態で出土している。左上腕骨は頭蓋骨の下から、近位を北、遠位を南にした状態で出土している。左橈骨・左尺骨は左上腕骨の南側から、長軸を東西に、近位を東にした状態で出土している。このことから、左上肢は肘関節を屈曲して、前腕を回内した状態であったと考えられる。左尺骨の南側からは、左大腿骨が近位を北、遠位を南西上方にした状態で出土している。左大腿骨の南西側からは、左腓骨と左脛骨が長軸を揃えて、近位を北、遠位を西下方にした状態で出土している。左下肢骨は解剖学的位置関係を保っており、膝関節を強屈した状態で出土している。左下肢骨の西側から右下肢骨が出土している。右脛骨は左脛骨の西側から、近位を東北、遠位を西南下方にした状態で出土している。右脛骨の北側から長軸を揃えた状態で、右大腿骨が出土している。右大腿骨は近位を北にして、遠位を南上方にした状態で出土している。右腓骨片は右大腿骨の南側に位置している。

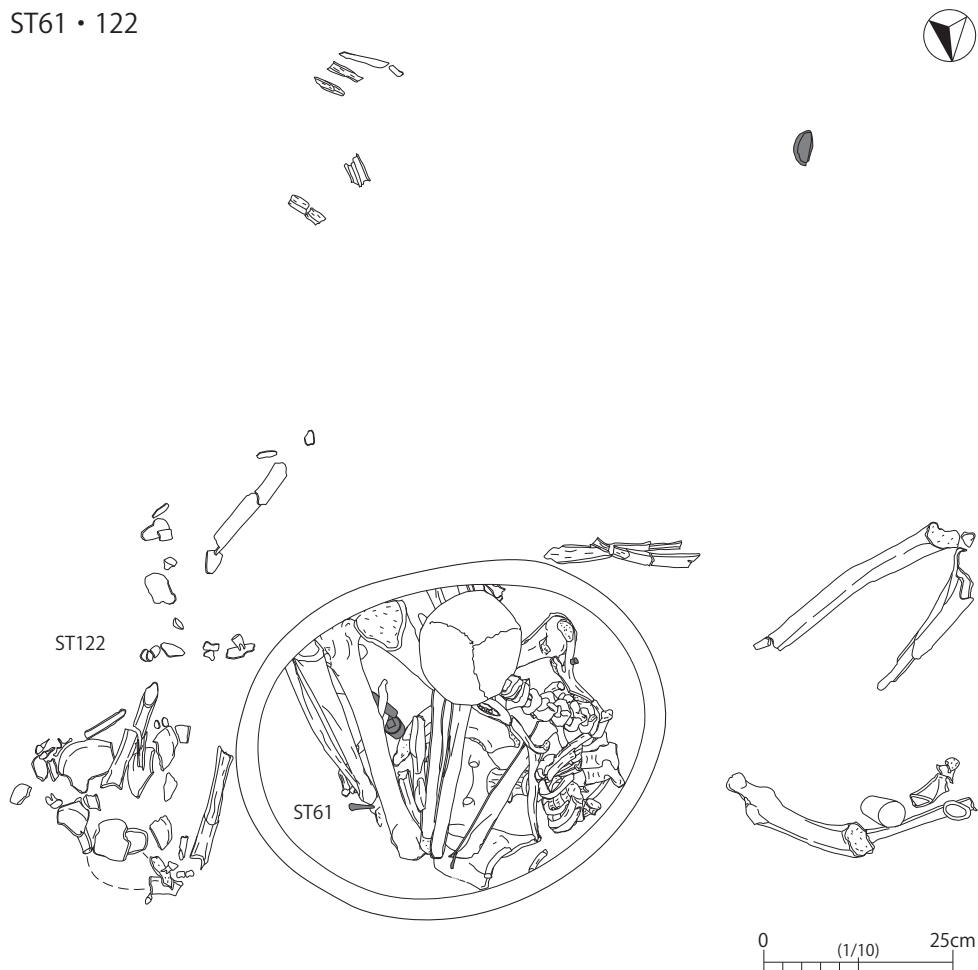
以上のことから、本個体は頭位北向き、顔面部は南西向きで左上肢は肘関節を回内屈曲し前腕を腹部付近に置いた仰臥屈葬と推定される。仰臥屈葬にもかかわらず頭蓋骨が左肩口付近から出土していることから、遺体が狭矮な木棺内に頭部から頸部が左側あるいは上方に湾曲した状態で埋置されていたと推定される。

顔面部の南側から毛抜が、左大腿骨の近位の西側から釘と土師皿が出土している。釘と土師皿は遺体の腹部付近に置かれていたと推定される。右大腿骨の近位の西側からは長軸を南北にした小刀と土師皿が直立した状態で出土している。最も西側から出土した土師皿は側面を上、内面を西側にし、ほぼ直立した状態であり、土師皿の口縁部はその東側から出土した小刀の長軸と平行である。小刀と土師皿は遺体の右大腿外側に置かれていたと推定される。加えて、これらの遺物の長軸は東側の左上腕骨の長軸と平行である。したがって、左上腕外側の延長線上に棺の東側の棺長壁、土師皿および小刀の延長線上に西側の棺長壁が存在していたと考えられる。土師皿が直立しているのは、棺内に流入した土砂により棺壁に押し付けられたためと推定される。一方で、棺小口壁の位置は頭蓋北端および左右下腿部南端と推定される。

【ST61】（第4図）

頭位：南、躯体正面：南東 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

甕棺から人骨が出土している。甕棺内の南側から頭蓋骨が後頭部を上、顔面を下、頭頂部を南



第4図 HZK1801地点 ST61・122人骨出土状況

東に向け、上顎骨と下顎骨が咬合した状態で出土している。

頭蓋骨の北西側から、頸椎と上部胸椎が関節し後面を上に向けた状態で出土し、その北側から下位胸椎・腰椎および仙骨が概ね関節状態を保って出土している。仙骨は甕棺内中央底部付近に位置し腹側を南東に向けている。

左上肢骨は頭蓋骨および躯幹骨の下位から出土し、頸椎の下位から左鎖骨が、頭蓋骨の北側から左肩甲骨が烏口突起を下方に向けた状態で、左肩甲骨の西側下位から左上腕骨が遠位を北東に向けた状態で出土している。肩関節は概ね関節状態を保っている。左上腕骨の南側から左橈骨と左尺骨が近位を北に、遠位を南に向けて長軸を揃え、回内した状態で出土し、遠位付近から指骨が出土している。左上腕骨と左前腕骨は相対的位置関係を保ち、左肘関節を強屈し手を腹部付近に置いていたと考えられる。右上肢骨は、頭蓋骨の北西側から右鎖骨が出土し、右鎖骨の上位から右肩甲骨が後面を西に向けた状態で出土している。頭蓋骨の西側、胸椎の南側から右上腕骨が近位を上方に向けた状態で出土している。肩関節は関節状態を保っている。甕棺内南側、右上腕骨遠位部の東側から右前腕が遠位を南東に向けた状態で出土し、右前腕の遠位周囲から右手骨が出土している。右上腕骨と右前腕は相対的位置関係を保っており、右肘関節は軽屈し右手を右膝のあたりに置いていたと考えられる。

下肢は、甕棺内中央に位置する仙骨の北側から左寛骨が、南側から右寛骨が、恥骨結合面を東に向け出土しており、寛骨と仙骨は関節状態を保っている。左寛骨に関節して左大腿骨が近位を北西側下方に、遠位を南東側上方に向けた状態で出土している。左大腿骨の東側から左脛骨および左腓骨が近位を南東側上方に、遠位を北西側下方に向けた状態で長軸を揃えて出土し、左脛骨遠位部の北西下位から左踵骨が、左脛骨遠位部の下位から、寛骨よりもやや高いレベルで左の中足骨が長軸を揃えた状態で出土している。左大腿骨遠位の東側に左脛骨と左腓骨の近位が位置すること、左大腿骨は近位よりも遠位が、脛骨と腓骨は遠位よりも近位のレベルが高いことから、左膝関節は膝を立てて屈した状態であったと考えられる。右寛骨に関節して右大腿骨が近位を下に、遠位を上に向けた状態で出土している。右大腿骨の東側から右脛骨と右腓骨が近位を南東に、遠位を北西に向けた状態で出土している。右大腿骨遠位の直下に右脛骨の近位が位置し、その南東側に右腓骨の近位が位置すること、右脛骨と右腓骨の遠位が右股関節の下位に位置することから、右膝関節も膝を立てて屈した状態であったと考えられる。

以上のことから、本人骨は頭位南向き・躯体正面南東向きの坐位屈葬であると考えられる。甕棺内の底に腰を据え、膝を立てた坐位で埋葬されたと考えられる。全身がやや右側に傾いた状態で埋葬されており、そのため左上肢が軟部組織の腐朽に伴い下方へ落ちた結果、近位が右上肢側に倒れ、その後上体が右側に傾いたことで頭蓋骨が右下肢の方向へ傾いたものと考えられる。本人骨は多くの部位が遺存しており、概ね解剖学的位置関係を保っていることから、改葬を受けていないと考えられる。

甕棺内上面から釘、左大腿骨直下から右恥骨の間の甕棺内底部付近からキセル・鉄製品・銭貨が出土している。



第5図 HZK1801地点 ST62人骨出土状況

## 【ST62】（第5図）

頭位：北東、躯体正面：南西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：胡座坐葬 改葬：無

甕棺から人骨が出土している。甕棺内の西側から頭蓋骨が頭頂部を下、顔面を北に向けた状態で出土している。上顎骨と咬合した状態で下顎骨がオトガイを北、咬合面を下にして出土している。頭蓋骨の上位から頸椎が3点前面を上にし、上面西向きの関節状態で出土しており、その東側から胸椎が東西に連なるように出土している。胸椎の北東からは腰椎が出土している。第5腰椎の直下から仙骨が、腰椎と関節状態を保ち腹側南東向きで出土している。椎骨の南側から左肋骨が、北側から右肋骨が概ね解剖学的位置関係を保って出土している。右肋骨直下から胸骨体がほぼ直立した状態で出土している。

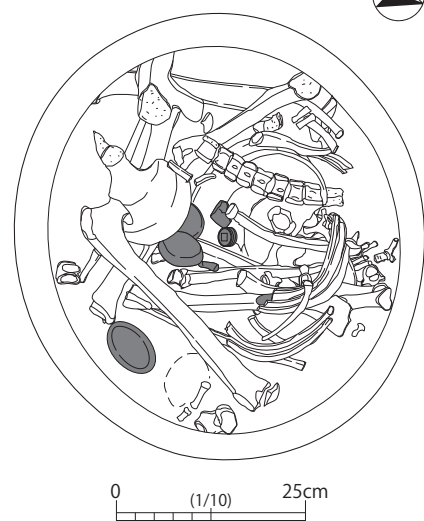
甕棺内の南東側からは左鎖骨が近位を北にして出土しており、その下位からは左肩甲骨が関節窩を南西にし、背側を上にした状態で出土している。左肩甲骨の南東からは左上腕骨が近位を西、遠位を東にして肩甲骨と関節した状態で出土している。左上腕骨と関節して左尺骨が近位を東、遠位を西、前面を上にした状態で出土している。左橈骨は、近位を東、遠位を西、外側を上にした状態で長軸を尺骨と揃えて出土している。このことから、左上肢は肘関節を屈曲、前腕を回内した状態と考えられる。甕棺内の北側からは右鎖骨が近位を南にした状態で出土しており、その下位から右肩甲骨が関節窩を北にして出土している。右肩甲骨の北側からは右上腕骨が近位を西、遠位を東にした状態で出土している。右肩関節は関節状態にないが、概ね解剖学的位置関係を保っていると言える。右上腕骨遠位付近から右橈骨・右尺骨が近位を北、遠位を南にして出土している。これらの右上肢骨の相対的な位置関係から、右上肢は肘関節を屈曲し前腕を腹部上に置いた状態であると考えられる。

仙骨の南側からは左寛骨が、北側からは右寛骨がそれぞれ関節した状態で出土している。左寛骨の南側からは左寛骨臼と関節して左大腿骨が近位を北東下方、遠位を上方に向けて出土している。左大腿骨の北側からは左脛骨・左腓骨が近位を南西上方、遠位を北東下方にした状態で出土している。最下層からは左足が足根骨から趾骨まで関節状態を保って、足先を北、足底面を上にした状態で出土している。甕棺内北西側からは右大腿骨が近位を東下方、遠位を上方にして出土している。右大腿骨遠位の西側からは右脛骨・右腓骨が近位を北西上方、遠位を南東下方に向けた状態で出土している。このことから、左右下肢は膝を立て屈曲した状態であったと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位北東、躯体正面を南西に向けた坐葬であると考えられる。上肢は肘関節を屈し左右の手を腹部にのせ、下肢は胡座の状態と考えられる。本人骨はほぼ全ての部位が遺存しており、多くの部位で関節状態を保っていることから、改葬は行われていないものと推定される。

遺物として甕棺内最下層の左足西側から扇とキセルの火口・鉢および玉が出土している。左前腕および骨盤付近からは土師皿が1点ずつ出土している。これらはいずれも遺体の腹部付近に副葬されていたと推定される。左上腕骨遠位部の南北からそれぞれ円形の木材の節が出土している。また、毛髪も残存しており、左前腕部南側か

ST63



第6図 HZK1801地点 ST63人骨出土状況

ら出土している。

【ST63】 (第6図)

頭位：南、躯体正面：北 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：不明 (再開口：有)

甕棺から人骨がまとまった状態で出土している。甕棺内の南側、最上位から左右寛骨が出土している。右寛骨は腹側を下、腸骨翼側を北に向けた状態で出土している。左寛骨は腹側を上、腸骨翼側を南にした状態で出土している。寛骨の下から甕棺の破片が出土している。右寛骨の東側から近位を南側、前面を上にした状態で右大腿骨が出土している。右大腿骨頭と右寛骨臼は関節状態を保っている。右脛骨・右腓骨が近位を北、遠位を南、前面を下にして、右大腿骨の骨体部下に遠位端の一部が被るような状態で出土している。右大腿骨の遠位と右下腿の近位側はやや離れており、右膝関節は関節状態を保っていないが、相対的な位置関係から膝関節を強屈した状態と考えられる。右大腿骨遠位東側から右距骨・右踵骨が関節状態を保って出土している。右脛距関節は関節状態を保っていない。左寛骨の直下からは左大腿骨が近位を南上方、遠位を下方に向け、前面を上にした状態で出土している。

左大腿骨頭と左寛骨臼は関節状態を保っていない。左脛骨・左腓骨は左右寛骨直下から近位を西に長軸を東西に揃え前面を下にした状態で出土しており、左膝関節は関節状態を保っていない。左下腿の遠位側からは、左距骨・左踵骨・左足根骨が出土している。左距骨・踵骨は関節状態にあるが、左脛距関節は関節状態にない。

右大腿骨の西側からは右肋骨、頸椎が出土している。頸椎は関節状態を保っている。左大腿骨の東側からは左肋骨・胸椎が出土している。胸椎は上部胸椎を北側に、下部胸椎を南側に向け、一部関節状態を保って出土している。右大腿骨の西側から鎖骨が近位を南にした状態で、肩甲骨が上側を北、前面を上にした状態で出土している。右大腿骨の下からは、右上肢骨が出土している。右上腕骨は近位を北側上方に、遠位を下方に向けた状態で、右尺骨は近位北向き前面を上にした状態で出土しており、これらの南側からは右橈骨が近位西向き、前面を下にした状態で出土している。右上肢骨は関節状態を保っていない。左大腿骨の東からは左鎖骨が出土している。左肋骨直下からは左肩甲骨が上側を南、前面を上にした状態で出土している。寛骨北側からは左上腕骨が近位を北西、遠位を南東、背側を上にした状態で出土している。右肋骨の下からは左前腕が近位を南にした状態で出土している。左肘関節は外れており、関節状態を保っていない。

甕棺内の最下層から頭蓋骨が、顔面部を東向き、左側頭部を上にした状態で出土している。下顎骨は左下顎枝側を上に向けオトガイを東に向けた状態で出土しており、上下顎は咬合状態を保っていないが、左下顎頭は下顎窩の付近に位置し、顎関節は関節状態を保っていると考えられる。

以上の出土状況から、本個体は頭位南向き、躯体正面を北に向けた状態で埋葬された可能性が考えられる。また、頭蓋骨が最も低く寛骨が最も高い位置から出土すること、四肢骨の多くが関節状態を保たず出土する一方で、椎骨や上下顎、右股関節は関節状態を保っていることから、本個体は軟部組織が一部腐朽した段階で再開口し、遺体を人為的に動かす行為が行われた可能性がある。しかし、頭蓋骨や四肢骨は概ね残存しており、骨を持ち去った明瞭な痕跡はない。

頭蓋骨直上から銭貨、鉄片、土師皿が出土しており、銭貨の上からキセルの吸い口が出土している。土師皿2点は右大腿骨の東西からそれぞれ出土しており、西側の土師皿は外面を上にしており、東側は内面を上にして出土している。これらは遺体の腹部付近に置かれたと推定される。

【ST64】 (第7図)

頭位：南東、躯体正面：北西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：坐葬

改葬：無

甕棺から人骨が出土している。甕棺内中央付近から頭蓋骨が左頭頂部を上にし、顔面をおよそ南西に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態である。躯幹は頭蓋骨南東側から出土している。胸椎・肋骨は関節状態を保って出土しており、躯体の前面がほぼ北西を向いている。腰椎・仙骨は関節状態を保っており、腹側を南西に向けて出土している。

右上肢骨は、右肩甲骨が頭蓋骨南東側の上部胸椎およびそれに伴う肋骨群の下位北西側から出土している。その北側から右上腕骨が近位を南にし、肩関節を保持した状態で出土している。右上腕骨遠位の西側から右前腕が近位を東にし、長軸を東西にした状態で出土している。右尺骨が北に位置し、右橈骨が南に位置している。右肘関節は関節状態を保っており、肘関節を屈し前腕が回外した状態で出土している。右橈骨遠位端の西・南西側から、指骨が出土している。左上肢骨は、下顎骨の南側から左鎖骨が遠位を西にし、近位が下に落ちた状態で出土している。左鎖骨の南側から左肩甲骨が、背側をやや上にした状態で出土している。その西側から左上腕骨が近位を南東にし、遠位を北西にした状態で出土している。左上腕骨・左肩甲骨はほぼ関節状態を保って出土している。左前腕は左上腕骨の北西から出土している。左橈骨が南に位置し、左尺骨が北に位置し、遠位を北西にした状態で出土している。左肘関節は関節状態を保っており、肘関節を伸展し前腕が回外した状態で出土している。

下肢骨は甕棺内西側から出土している。右寛骨が右上腕骨の下から、腹側を西に向け出土している。左右の仙腸関節が外れ、仙骨がやや北へ動いた状態で出土しているが、概ね解剖学的位置関係を保っている。左寛骨は躯幹骨の下位から出土し、前面を上にした状態で出土している。左股関節は左大腿骨頭がやや外れた状態で出土している。右股関節はほぼ関節状態を保って出土している。右大腿骨は遠位を南西に、前面を上にして出土している。その下位に右脛骨・右腓骨が位置しており、これらの遠位端は右大腿骨頭の下に位置している。左大腿骨は遠位を南に向け、後面を上に向けて出土している。膝蓋骨は左脛骨近位の北西に近接し、左腓骨は左脛骨の直下から遠位をほぼ北に向けて出土している。左右膝関節は関節状態を保って強屈した状態である。左右脛距関節も関節状態を保持している。左足は遠位を北東に向け、右足は遠位を南西に向けた状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨は正面ほぼ北西向きの坐葬であると推定される。右下肢の外側に右上肢を回し、左上肢を左右下肢の間に置き、上体が左下肢の方へ傾き、頭部が軟部組織の腐朽に伴い、

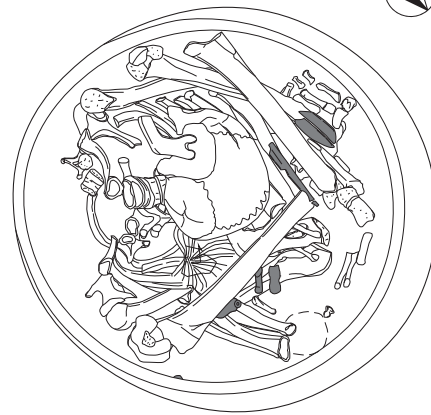
ST64



0 (1/10) 25cm

第7図 HZK1801地点 ST64人骨出土状況

ST65



0 (1/10) 25cm

第8図 HZK1801地点 ST65人骨出土状況

腹部に転落した状態で出土している。その際、右肩が肩関節を保ったまま躯幹の下位に潜り込むように倒れたものと考えられる。この上体の傾きにより左寛骨や左下肢に上体の重みがかかり、左寛骨腹腔側が上を向き、下肢がやや左に倒れたものと推定される。

左足首西側からは土師皿2点が合わせ口状態で出土している。指骨の一部の上から銭貨が出土しており、手元付近に置かれていた可能性がある。右肋骨の北からそれぞれ円形板状木片が出土している。右上腕骨頭北側と頭蓋骨下位より毛髪が出土している。右足の下位および腰の下位にあたる最下層より木製品が出土している。

【ST65】(第8図)

頭位：南東、躯体正面：北西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：胡座坐葬 改葬：無

甕棺内から人骨が出土している。甕棺内の中央部から頭蓋骨が、左側頭部を上にした状態で顔面を南斜め下方向に向け、頭頂を北西に向けた状態で出土している。下顎骨は、上顎骨とほぼ関節状態を保って出土している。甕棺内南東側から下部胸椎から第5腰椎が甕棺内の底部側に前面を上にした状態で出土している。頭蓋骨東側から、頸椎から上部胸椎が上面を下に向け連なった状態で出土している。したがって、頸椎から上部胸椎は頭蓋骨の転落に伴い北西側に倒れ込んだと考えられる。頭蓋骨の北東側から右肋骨が、頭蓋骨の南側から左肋骨がまとまった状態で出土している。頭蓋骨の南側から左肩甲骨・左上腕骨が関節状態で出土している。左上腕骨は近位を東側上方に、遠位を西側下方に向け出土している。左上腕骨の北西側、下位から左尺骨と左橈骨が近位を南に、遠位を北に向け、長軸を南北に揃えた状態で出土しており、左橈骨が東側に位置している。頭蓋骨の北東側からは右肩甲骨・右鎖骨・右上腕骨・右前腕骨が関節状態で出土している。右上腕骨は近位を東側上方に向け、遠位を下方に向けた状態で出土している。右上腕骨の北側から右尺骨と右橈骨が遠位を北西にし、長軸を揃えた状態で出土しており、右橈骨が右尺骨よりも北東側に位置する。右肘関節はほぼ関節状態を保っており、左肘関節も相対的な位置関係は概ね正しく、左前腕は回内、右前腕は回外し、肘関節を軽屈した状態である。

甕棺内の西側底部付近から左右寛骨、仙骨が前面を上に向けた状態で出土している。保存状態が良好ではないため関節状態を保っていたかどうか不明であるが、解剖学的位置関係は概ね正しい。右寛骨の北東側から右大腿骨が近位を下方に、遠位を上方に向けた状態で出土している。右大腿骨の西側から右脛骨が近位を東側上方、遠位を西側下方に向けた状態で出土している。右脛骨の直下から右腓骨が出土している。したがって、右股関節・右膝関節は関節状態を保ち、膝を立てた状態である。左大腿骨の西側から右踵骨が出土している。右踵骨の南西側から右踵骨以下の足根骨・中足骨・趾骨が、第1指を東に、第5指を西側にして右足を内旋した状態で出土している。左寛骨の上位から、左大腿骨が近位を北西側下方、遠位を南側上方に向け、前面を下にした状態で出土している。左大腿骨の上方から左脛骨が近位を南側上方、遠位を北側下方に向けて出土している。左脛骨の北側から左中足骨・左趾骨が出土している。以上より、左股関節・左膝関節は関節状態を保っていないが概ね解剖学的位置関係は正しく、膝を立てた状態である。

以上の出土状況から、本人骨は頭位南東、躯体正面を北西に向けた坐葬であると考えられる。右上肢は、肘を軽屈し右大腿骨の外側に添えるような状態、左上肢は肘を屈し左手は腹部上にのせ、下肢は足首付近で左右の足を交差させた胡座の坐葬と推定される。加えて、軟部組織の腐朽に伴い、頭部が左右下肢の間に転落したと推定される。本人骨はほぼ全ての部位が遺存しており、多くの部位で関節状態を保っていることから、改葬は行われていないものと推定される。

甕棺内の最上層から木蓋片1点が出土している。右脛骨の南側から毛髪が出土しており、右脛骨の直下の右側前腕中央付近直上から玉・金属製品および布製品が出土している。左脛骨の西側から、土師皿2点が合わせ口の状態で出土している。腰椎直下の甕棺内底部から厚さ1cmの木片が3点、左脛骨内側から板状の木片が2点出土している。

【ST66】(第9図)

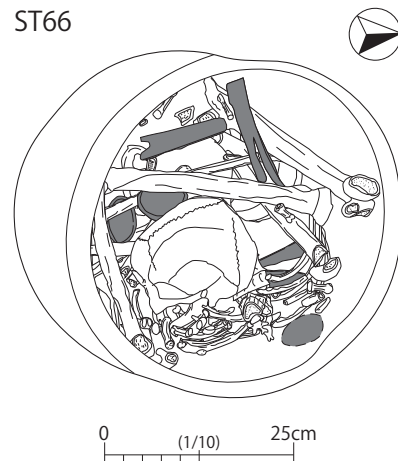
頭位：北東、躯体正面：南西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：無

甕棺から人骨がまとまった状態で出土している。甕棺内の中央から頭蓋骨が顔面部を南東、左頭頂部を上に向けて出土している。頭蓋骨の下から下顎骨がオトガイを南東、左側を上に向けた状態で出土しており、

上下顎は関節状態を保っていないが解剖学的位置関係は概ね正しい。頭蓋骨の北東側下位から椎骨が連なった状態で出土しており、その南東側から左肋骨が、北西側から右肋骨が椎骨に近接した位置から出土している。左肋骨の南側から左鎖骨、左肩甲骨が出土しており、左肩甲骨の関節窩の付近から左上腕骨頭が近位を東、後面を上に向けた状態で出土している。このことから、左肩関節は関節状態を保っていると考えられる。左上腕骨の骨体中央下位から左前腕が近位を南に向けた状態で出土している。左尺骨は内側を上、橈骨は前面を上にした状態で出土している。左肘関節は関節状態を保っていないが、上腕と前腕の相対的位置関係から、肘を屈し手を腹部付近に置いた状態であったと考えられる。右肋骨の北側から右肩甲骨が関節窩を西側に、肩峰を上に向けた状態で出土している。その西側から右上腕骨が近位を北東側上方、遠位を下方、前面を上に向けた状態で出土しており、右肩関節は関節状態を保っている。右上腕骨遠位に右尺骨の近位が隣接した状態で出土しており、右尺骨が近位を北西、外側を上に向けた状態で出土しており、右肘関節は関節状態を保っている。

椎骨に連なった状態で仙骨片が甕棺内底部から出土している。仙骨片の北西、南東側から左右寛骨が腸骨側を東に、前面を上に向けた状態で出土している。左寛骨の寛骨臼に左大腿骨頭が関節した状態で、左大腿骨が近位を西側上方、遠位を下方、後面を上に向けた状態で出土している。左大腿骨の南側から、左下腿が長軸を揃えた状態で出土している。左下腿はともに遠位を北西に、内側を上に向けた状態である。左膝関節は10cmほどずれてはいるが、概ね解剖学的位置関係を保っており、左膝を立て強屈した状態であったと考えられる。左大腿骨の遠位下から指骨、手根骨が出土している。また、左大腿骨の遠位南側から左膝蓋骨が出土しており、軟部組織の腐朽後に膝蓋骨が下に落ち込んだと考えられる。右寛骨の寛骨臼に大腿骨頭が関節した状態で、右大腿骨が近位を南西に、後面を上に向けた状態で出土している。右大腿骨の遠位付近から右脛骨が近位を接した状態で出土している。右脛骨は近位を北、内側を上に向けた状態で、右腓骨は近位を南、内側を上に向けて、長軸を揃えた状態で出土している。右膝関節は腓骨がやや離れるものの大腿骨と脛骨はほぼ関節状態を保っており、屈曲した状態であったと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位北東向き、躯体正面を南西に向けた坐葬であると考えられる。上肢は下肢の内側に配し、肘を屈し前腕を腹部上で互い違いにした状態である。下肢は軟部組織の腐朽後に甕棺内の下部に倒れ込んだと考えられる。本人骨はほぼ全ての部位が遺存しており、関節状態



第9図 HZK1801地点 ST66人骨出土状況

を保っている部位が多いことから、改葬は行われていないものと推定される。

本人骨に伴って、腹部付近から土師器が2点出土している。この他にも板状の木片が複数出土している。

【ST67】(第10図)

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

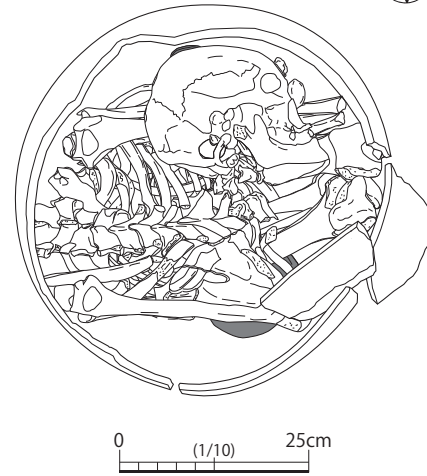
甕棺から人骨が出土している。頭蓋骨は甕棺内の南側から右側頭部を上にし、顔面を西側に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態をほぼ保っている。

大後頭孔に接して環椎が出土し、その北側から軸椎が出土している。第3頸椎が下顎骨の東側から出土しており、以下甕棺内の東側に向かって第4腰椎まで、後面を上にした状態で出土し、関節状態を保っている。また、第3・4腰椎の椎骨の下から第5腰椎と仙骨が上下に連なって出土している。椎骨の南側から左肋骨が、北側からは右肋骨が一部関節状態を保ったまま出土しているが、その他の肋骨は左右下肢骨の上、あるいはその間から出土している。下部の肋骨は左右寛骨の間から出土している。

右鎖骨は頸椎の北側から、近位を北西側、遠位を南東側に向けて出土しており、遠位端は右上腕骨頭に近接している。右肩甲骨は右鎖骨の東側から出土しており、肩峰を右上腕骨頭にのせていることから、右の肩関節はほぼ関節状態を保っていると考えられる。また、頭蓋骨の直下から、左肩甲骨が肩峰を南西に向け、後面を上にした状態で出土しており、頭蓋骨直下に位置する左上腕骨頭とおおよそ解剖学的位置関係を保っていることから、左肩関節もほぼ関節状態にあったと考えられる。右上腕骨は右鎖骨・右肩甲骨と関節状態を保ち、背側を上に向け、近位を東側、遠位を西側に向けた状態で出土している。右上腕骨の直下から右橈骨・右尺骨が近位を東側、遠位を西側に向け、右橈骨を上にした状態で出土している。右の肘関節は関節状態を保って出土しており、肘関節を軽屈し、前腕をわずかに回内した状態である。左上腕骨は頭蓋骨直下から、後面を上に向け、近位を東側、遠位を西側に向けた状態で、右上腕骨と東西軸を揃えて出土している。左上腕骨の直下から、左橈骨・尺骨が近位を東側、遠位を西側に向け、左橈骨を上にした状態で出土している。左の肘関節は関節状態を保っていると考えられ、肘関節を強屈し、前腕をわずかに回内した状態であると考えられる。

仙骨の北側から右寛骨、南側から左寛骨が出土している。左右の寛骨は恥骨を西側に、腸骨翼を上に向けており、仙骨と仙腸関節を保った状態で出土している。右大腿骨は右寛骨の西側から、前面を上に向け、近位を東側下方、遠位を西側上方に向けて出土しており、右股関節はほぼ関節状態を保っている。左大腿骨は左寛骨の西側から、前面を上に向け、近位を南東側下方、遠位を北西側上方に向けた状態で出土しており、左股関節はほぼ関節状態を保っている。右脛骨・右腓骨は右大腿骨の下から、後面を上に向け、近位を西側上方、遠位を東側下方に向けた状態で長軸を東西に揃えて出土しており、右膝関節はほぼ関節状態を保っている。左脛骨・腓骨は左大腿骨の下から、後面を上に向け、近位を西側上方、遠位を東側下方に向けた状態で長軸を東西に揃えて出土しており、左膝関節はほぼ関節状態を保っている。このことから、左右の股関節・膝関節はともに強屈しており、立膝の状態で

ST67



第10図 HZK1801地点 ST67人骨出土状況

あると考えられる。右距骨は右脛骨の遠位端の直下から出土しており、右の脛距関節は関節状態を保っている。右距骨の北東側から右踵骨が出土しており、右距骨下関節は関節状態を保っていると考えられる。右足根骨の南西側から、右の第1中足骨・第2中足骨が近位を北東側、遠位を南西側に向けて出土している。左距骨は左脛骨の遠位端の直下から出土しており、左の脛距関節は関節状態を保っている。左距骨の東側から左踵骨が出土しており、左距骨下関節は関節状態を保っていると考えられる。左の第1中足骨は近位を南側、遠位を北側に向け、右趾骨の上に位置している。左右ともにやや内旋し右足を左足の上に乗せた状態で出土しており、基節から中節骨は、軟部組織の腐朽によってやや乱れた状態である。

以上のことから、本人骨は本来、頭位は東向きで、躯体正面を西側に向けた立膝の坐葬である。上肢は、両腕を回内し軽屈した状態で、下肢の外側に回し、下肢は膝を立て右足に左足をのせた状態で埋葬されたと考えられる。埋葬後に上体が前方へ倒れ、その際に頸椎が胸椎以下と泣き別れの状態になったと推定される。上下顎、環椎、軸椎、上肢の諸関節は概ね関節状態を保っていることから、上体が前方に倒れた時点では軟部組織の腐朽はそれほど進んでいなかったものと考えられる。ほぼ全ての部位が概ね関節状態を保っていることから改葬は行われていないものと考えられる。

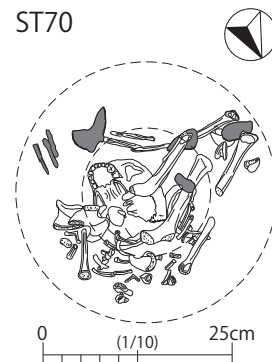
頭頂部と甕棺の南壁の間から、土師皿の破片が挟まった状態で出土している。右大腿骨の中位直下より、漆器片が出土している。

#### 【ST70】(第11図)

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明（再開口：有）

甕棺から人骨が出土している。甕棺内中央から頭蓋骨が顔面部を南、頭頂部を下に向けた状態で出土している。頭蓋骨の北西側から下顎骨がオトガイを下方に向け、咬合面を北西に向けた状態で出土している。甕棺内の北東側から椎骨、肋骨が出土している。椎骨と肋骨は関節状態を保っていないが、肋骨は甕棺内北東側から概ねまとまって出土しており、椎骨も一部連なった状態で出土している。頭蓋骨の東側から左坐骨が出土している。頭蓋骨の北東側から肩甲骨片が出土している。頭蓋骨の北側から左上腕骨が、近位を北東側やや上方に向け、遠位を南西に、前面を上に向けた状態で出土している。頭蓋骨の北側から右上腕骨が近位を南西側やや上方に向け、遠位を北東に向け、外側を上に向けた状態で出土している。頭蓋骨の南西側から右尺骨が近位を西に、内側を上に向けた状態で出土しており、右尺骨遠位の西側から右橈骨が、近位を南東に向け、遠位部を尺骨の遠位部に接するような状態で、前面を上に向けて出土している。右上腕骨と右尺骨が左頭蓋骨の北側と南西側に分かれて出土していることから、右肘関節は解剖学的な位置を保っていない。

頭蓋骨の東側から右寛骨が腸骨翼を北西側、腹側を上に向けた状態で出土しており、その上位から左寛骨が寛骨臼を南西側に向け、背側を上に向けた状態で出土している。右寛骨からは離れた位置、頭蓋骨の北東側から右大腿骨が遠位を南西に、前面を上に向けた状態で出土している。右大腿骨の南西側から右脛骨が近位を上向き、後面を北東側に向けた状態で出土している。左寛骨から離れた位置、頭蓋骨の西側から左大腿骨が遠位を南西側やや上方に、後



第11図 HZK1801地点 ST70人骨出土状況

面を上に向けた状態で出土している。左大腿骨は一部頭蓋骨の上に乗っている状態である。左大腿骨の南西側から左脛骨が近位を南西上に向け、前面を上に向けた状態で出土している。左右の股関節、膝関節は解剖学的な位置を保っていない。

以上の出土状況から、椎骨や肋骨がまとまった状態で出土しているものの、大腿骨が頭蓋骨の上方から出土していること、関節状態を保って出土している骨がほとんど無いことから、本個体の本来の埋葬姿勢は不明である。したがって、本個体に関しては、頭蓋骨や四肢骨など人体の中で比較的大きな骨を持ち去るという行為は行われていないが、躯幹部の軟部組織が完全に腐朽する前段階で、再開口および遺体を動かす行為が行われたと推定される。

甕棺内の南半分から木片が5点出土している。

【ST71】(第12図)

頭位：北東、躯体正面：南西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

甕棺から人骨が出土している。甕棺内の西側から頭蓋骨が左側頭部を上、顔面を南に向けて、やや下を向いた状態で出土している。頭蓋骨の南東側から下顎骨が左側面を上、オトガイを西にした状態で出土しており、顎関節は外れている。甕棺内東側から腰椎が一部上下に連なった状態で出土しているが、その他の椎骨は腰椎の南東側から散らばった状態で出土している。また、腰椎の西側から肋骨の右側が北、左側が南側にまとまって出土している。腰椎の下から仙骨が出土しており、関節状態を保っていると考えられる。右肩甲骨は頭蓋骨の北東側から出土している。右上腕骨は頭蓋骨の北側から近位を南側上方、遠位を北側下方に向け後面を上にした状態で出土しており、右肩関節は関節状態を保っていない。右上腕骨の下から、右尺骨・右橈骨が近位を北側、遠位を南側に向け、回外した状態で出土しており、右肘関節は関節状態を保っていると考えられる。右肘関節は強屈し、手を右肩関節の辺りにのせるような状態であったと考えられる。左肩甲骨は甕棺内の南東側から後面を上に向けて出土している。左肩甲骨の烏口突起側から左鎖骨が近位を北東側、遠位を南西側に向けて出土している。左上腕骨は左肩甲骨の南東側から出土し、近位を南西側上方、遠位を北東側下方に向け、後面を上にした状態で出土している。このことから、左肩関節はほぼ関節状態を保っていると考えられる。左上腕骨の中位付近の直下から、左尺骨・左橈骨が近位を東側、遠位を西側に向け、後面を上にした状態で出土している。このことから、左肘関節を躯体側に軽屈したような状態であったと考えられる。

腰椎の北西側から右寛骨、南東側から左寛骨が、正面を南西側に向けた状態で出土している。右寛骨の西側から右大腿骨が近位を北側、遠位を南側上方に向けた状態で出土しており、右股関節は関節状態を保っている。左大腿骨は左寛骨の下から、近位を北側、遠位を南側上方に向けて出土しており、左股関節は関節状態を保っている。右大腿骨の下から、右脛骨・右腓骨が近位を南側上方、遠位を北側下方に向けた状態で、長軸を南北に揃えて出土しており、右膝関節は関節状態を保っている。左大

ST71



第12図 HZK1801地点 ST71人骨出土状況

腿骨の西側から、左脛骨・左腓骨が近位を南側上方、遠位を北側下方に向けた状態で、長軸を南北に揃えて出土しており、左膝関節は関節状態を保っている。このことから、左右の股関節・膝関節はともに関節状態を保ち、膝を立て屈した状態であると考えられる。左脛骨の北側から左距骨が出土しており、脛距関節は関節状態を保っている。左右脛骨の北側から趾骨がまとまって出土している。

以上のことから、本人骨は本来、頭位は北東向きで、躯体正面を南西側に向けた立膝坐葬であると考えられる。上肢は、右前腕を躯体側に強屈させて手を肩関節の辺りにのせるような状態であり、また、左前腕は下肢の外側に回し、下肢は膝を立てた状態であったと考えられる。埋葬後に上体が前方に倒れ、その際に頭蓋骨が前方に転落し、落下とともに顎関節が外れたものと考えられる。上肢の諸関節は関節状態を保持していることから、上体が西側に倒れた時点では軟部組織の腐朽はそれほど進んでいないことが推定される。

左脛骨の東側から碗が内面を上にした状態で出土し、西側直下からは錢貨が出土している。

#### 【ST72】（第13図）

頭位：南、躯幹正面：北 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：胡座坐葬 改葬：無

甕棺内から人骨が出土している。甕棺内の南側から頭蓋骨が左頭頂部を上にして、顔面部を下方やや北に向けた状態で出土しており、下顎骨は上顎骨と相対的位置関係を概ね保った状態で出土している。

頭蓋骨の南側から頸椎が、頸椎の南側から胸椎が連なった状態で出土しており、頭蓋骨の西側から腰椎が、腰椎の北側から仙骨が腰椎と連なった状態で出土している。仙骨は仙骨底を南、背側を上向きにした状態で出土している。甕棺内の西側、腰椎の上位に左肋骨が、甕棺内の東側、頭蓋骨の下位から右肋骨が複数まとまった状態で出土している。

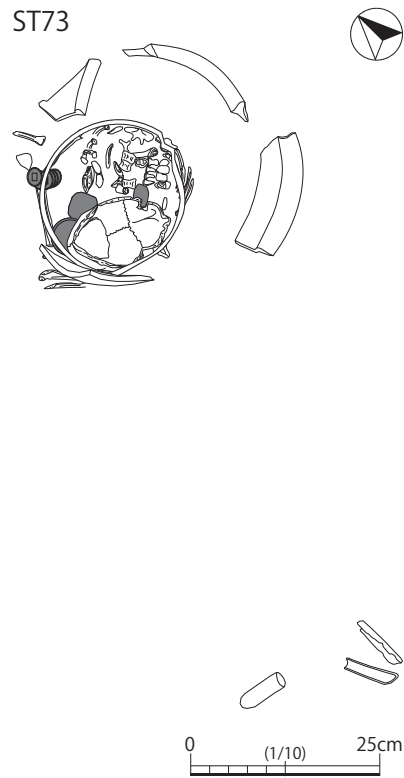
左上肢骨は、甕棺内の南西側、頸椎の西側から左肩甲骨が背側を上に向けて出土しており、左肩甲骨に関節して左上腕骨が近位を南に、遠位を北に、外側を上方に向けた状態で出土している。左肩関節は関節状態を保っている。左上腕骨の北側から左尺骨が近位部を左上腕骨の遠位に接し、遠位を東に向けた状態で、左上腕骨遠位部の東側から左橈骨が近位を西に、遠位を東に向けた状態で出土している。左上腕骨と左尺骨・橈骨は相対的な位置関係を概ね保っており、左肘関節は屈して手を腹部付近に置いていたと考えられる。左橈骨遠位部周辺から左の指骨が出土している。右上肢骨は、頭蓋骨の南側から右鎖骨と右肩甲骨が出土し、右肩甲骨は右鎖骨および頸椎の下位から、背側を南に向けた状態で出土している。頭蓋骨の下位より左上腕骨が近位を南に、遠位を北に向け前面を上に向けた状態で出土している。右肩関節も関節状態を保っている。頭蓋骨の北側から右尺骨と右橈骨が、近位を東に、遠位を西に向けた状態で南側から出土している。右上腕骨と右尺骨・右橈骨は相対的な位置関係を保っており、右肘関節は屈して前腕を回内し、前腕が足付近に置かれた状態である。

ST72



第13図 HZK1801地点 ST72人骨出土状況

左下肢骨は、仙骨と関節した状態で左寛骨が出土し、左寛骨の北側から左大腿骨が遠位を下方に、近位を上方に向けた状態で出土している。左寛骨と左大腿骨は概ね関節状態を保っている。左大腿骨の下位から左脛骨が近位を上方に、遠位を下方にした状態で出土している。右下肢骨は、仙骨と関節した状態で右寛骨が出土している。右寛骨と関節して右大腿骨が遠位を東に向け、近位を下方に、遠位を上方にした状態で出土している。股関節は左右ともに関節状態にある。右大腿骨の北側から、右大腿骨に関節して右脛骨が近位を上方に、遠位を下方に向けた状態で出土している。膝関節は左右ともに関節状態にあり<sup>1)</sup>、膝を屈した状態である。右脛骨遠位に関節して右距骨が出土し、右距骨周辺から右足骨が出土していることから、右足首関節は関節状態を保っていると考えられる。右足の骨は、第1指を上、第5指を下、足先を西にした状態で出土している。右足の北側の近接した位置から左脛骨と関節した状態で左足骨が出土している。



第14図 HZK1801地点 ST73人骨出土状況

以上のことから、本人骨は顔面を北に向け、頭位は南向きの坐葬である。上肢は、左右の肘関節を軽屈し、右腕は右足の外側に回し、左手は腹部付近にのせた状態で、下肢は両足を差し違えにした胡座の状態で見られる。軟部組織が腐朽する過程で体が右側に倒れ、頭蓋骨が右側に転じたものと考えられる。

本人骨に伴い、右寛骨の下位から木片が、甕棺内北側の右足首直上付近から陶磁器・銭貨・毛抜などの副葬品が出土している。

【ST73】(第14図)

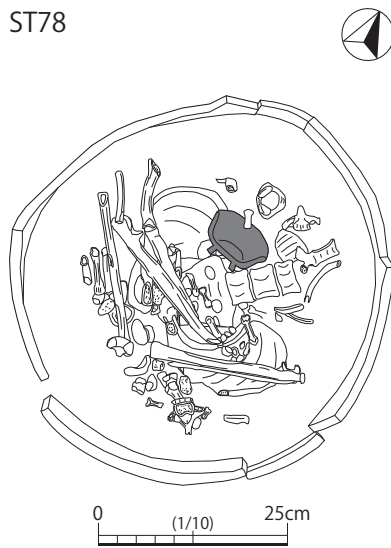
頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：無

小型の甕棺内中央部から人骨が出土している。甕棺内の南側から頭蓋骨が顔面を南東に、後頭骨を北西に、頭頂を下に向けた状態で出土している。

頭蓋骨の北東側から椎骨が2列に連なった状態で出土している。軟部組織の腐朽に伴い頭蓋骨が前方に転じた際に、椎骨の上部も前方に転じた結果と考えられる。椎骨の北側から右肋骨が、南側から左肋骨がまとまった状態で出土している。頭蓋骨の北側から椎体、椎弓、左坐骨が出土している。

頭蓋骨の南側から左右不明の前腕と考えられる長管骨片が出土している。椎骨、肋骨の北側から右尺骨が近位を東に、前面を上に向けた状態で出土している。右尺骨の北側から右橈骨が遠位を南側下方にし、甕棺内胴部に沿うような状態で出土している。右前腕付近から指骨が出土している。右前腕は近接して出土しているが関節状態を保っていない。

頭蓋の北側から右腸骨が寛骨臼を上、腸骨翼を東に向けた状態で出土している。右肋骨の直下から左腸骨が出土している。頭蓋骨の北西側から右大腿骨が近位を北東に、前面を上に向けた状態で出土している。右大腿骨の東側下層から左大腿骨が近位を北に後面を上に向けた状態で出土しており、



第15図 HZK1801地点 ST78人骨出土状況



第16図 HZK1801地点 ST81人骨出土状況

左大腿骨の遠位側は頭蓋骨の下位に位置する。頭蓋骨の南西側から脛骨・腓骨が遠位を北西、近位を南東に長軸を揃えた状態で出土している。以上より、左右の股関節、膝関節は概ね解剖学的位置関係を保っている。

以上の出土状況から、椎骨・肋骨が甕棺内の東側に解剖学的位置関係のある程度保った状態で出土していること、右前腕、指骨が体軸に対して北側から出土しており、本来は頭位を東に、躯体正面を西に向けた坐葬であると考えられる。軟部組織の腐朽に伴い頭蓋骨が前方に転じたと考えられ、解剖学的位置関係を保っている部位が多いこと、人骨の遺存状況に不自然な点が少ないことから改葬は行われていないものと考えられる。

また、頭蓋骨側の北側から紅皿・木製品・六道銭が、直下から紅皿・木片が出土している。

#### 【ST78】(第15図)

頭位：北東、躯体正面：南西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：有

甕棺から人骨が出土している。甕棺内東側から肋骨と椎骨が出土している。椎骨は一部関節状態を保ち、環椎と軸椎は近接して出土している。第3から第5腰椎と仙骨は北東から南西に連なった状態で腹側を上にして出土している。

右鎖骨が甕棺内の西側から肩峰端を北西、上面を上にした状態で出土している。右鎖骨の南側から右橈骨・右尺骨が近位を北西に向け、長軸を揃え右尺骨を上にした状態で出土している。右前腕の南東側から左橈骨・尺骨が近位を北東にした状態で出土し、右前腕は長軸を揃え橈骨を上にした状態で出土している。左右前腕の遠位端付近から手根骨・指骨がまとまった状態で出土している。

右腓骨が遠位を南東、内側を上にした状態で出土している。右腓骨の下から左中足骨、基節骨、左距骨が出土している。左距骨は遠位を西、底面を下にした状態で、その下から左踵骨が関節状態を保って出土している。左足の東側から右の足根骨が出土している。右足は解剖学的位置関係を保っていないが、右腓骨の下から左足骨が遠位を北西に向けた状態で出土していること、南東側から右足根骨がまとまった状態で出土していることから、足先を交差して埋葬されたものと考えられる。

甕棺内中央部の甕底部付近から仙骨が出土している。左右寛骨は仙骨と関節状態を保って、腸骨側

を東に、恥骨結合面を上に向けた状態で出土している。恥骨結合部付近より舟状骨、有鉤骨、小菱形骨、三角骨、指骨が出土している。

以上の出土状況から、本人骨は甕棺に躯体正面を南西向きに埋葬されたと考えられる。左右前腕や骨盤、足根骨が関節状態を保って出土しているにもかかわらず頭蓋骨や左右上腕骨、左右下肢骨がほとんど残存していないことから、軟部組織が完全に腐朽する前に人骨の持ち去りを伴う改葬を受けたものと考えられる。

本人骨に伴って土師器が出土している。

【ST81】(第16図)

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有

甕棺底部付近から人骨が出土している。甕棺内東側から右尺骨が近位を北側に向けて出土している。右尺骨の南東側から右趾骨が、西側からは指骨がまとまって出土している。右尺骨の北西側から、左橈骨が近位を東側に向け、前面を上にした状態で出土している。左橈骨の西側から指骨・歯牙がまとまって出土している。左橈骨の北側から、左腓骨片が遠位を東に向け、外側を上にした状態で出土している。また、甕棺内の南西側から左膝蓋骨が、その下から右膝蓋骨が出土している。

保存状態が良好でないため詳細な埋葬姿勢は不明である。頭蓋骨や長管骨の多くが出土していないにもかかわらず、指・趾骨の遺存状態は良好であることから改葬の可能性が考えられる。

甕棺内西側から板状木製品が出土している。左橈骨の南側からキセル、六道銭が出土している。

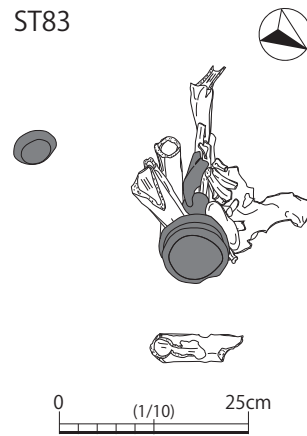
【ST83】(第17図)

頭位：南西、躯体正面：北西 葬法：土壙墓(木棺?)  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

15cm×20cmの範囲から人骨が出土している。中央付近より、右尺骨・右橈骨が近位を南西、遠位を北東に向けた状態で出土している。右橈骨遠位端の北側から右手根骨および右中手骨が関節した状態で出土しており、手先を北西に向け、掌面を南西に向けた状態と推定される。また右手骨の南側から左中手骨および基節骨が出土しており、その下位からは左手根骨が掌面を西に、近位を北西に向け、関節した状態で出土している。このことから、腹腔上で両手の平を東西で重ねた状況と推定される。右尺骨・右橈骨の北西側から寛骨が出土している。寛骨の南側から右大腿骨が関節した状態で、近位を北東、遠位を南西、後面を上に向けた状態で出土している。右大腿骨の上位より左脛骨が近位を南西、遠位を北東に、前縁を上に向けた状態で出土している。右大腿骨と左脛骨の間から左腓骨が出土している。

以上のことから、本人骨は下肢・寛骨の位置から本来は頭位を南西、躯体正面を北西に向けた坐葬の可能性が考えられる。一方、軟部組織の腐朽に伴い右膝が解離し、右腓骨が近位を南西にして倒れ、右大腿骨はやや後ろ向きに倒れ、左下腿も右下肢側に倒れたと推定される。埋葬施設は遺存していないものの、後出の本遺跡の他の事例を見ると、木棺の可能性が考えられる。また、本人骨は、削平を受けているため断定はできないものの、残存部位に限っては改葬の痕跡は認められない。

本人骨に伴い、下肢の右側および体の背側に当たる位置から土師皿が出土しており、右手首直上付



第17図 HZK1801地点 ST83人骨出土状況

近からは銭貨が出土している。

【ST86】(第18図)

頭位：南、躯体正面：北 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬

改葬：不明(再開口：有)

甕棺内からまとまった状態で人骨が出土している。甕棺内の最下層西側から頭蓋骨が底部を上、顔面部を北に向けた状態で出土しており、頭蓋骨の上、やや北側にずれた位置から下顎骨が歯冠咬合面を下に向け、オトガイを北に向けた状態で出土している。頭蓋骨が甕棺内底部付近まで落ちた際、上下顎は咬合状態を保っておりその後、顎関節の軟部組織が腐朽し、顎関節が外れ下顎骨の位置がやや北側に動いたと考えられる。

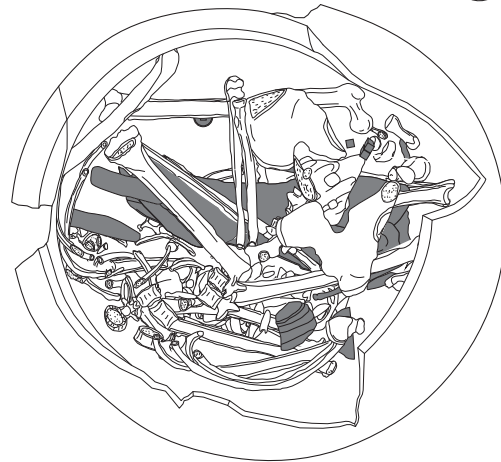
甕棺内最上位の北側から椎骨がまとまって出土しており、一部連なっているものも存在する。そ

のやや南側から腰椎2点が南北に連なった状態で出土している。腰椎のさらに南側からは仙骨が仙骨底を北、背側を上にした状態で出土している。椎骨の東側から右肋骨が、西側から左肋骨がまとまって出土している。甕棺内の北東側からは胸骨柄が鎖骨切痕を上に向けた状態で出土しており、胸骨の東側から環椎・椎骨・肋骨片の一部が散らばった状態で出土している。

甕棺内の東側から右鎖骨が胸骨端を北側にした状態で出土している。甕棺内の底部付近、頭蓋骨の北東側から右肩甲骨が関節窩を北東、腹側を上に向けた状態で出土している。右肩甲骨の東側、10cm程度上方から右上腕骨が近位を北側上方、外側を上に向けた状態で出土している。右上腕の遠位端からやや東に離れた甕棺内の中央部から右前腕が近位を南東、前面を上長軸を揃えた状態で出土している。右肩関節および右肘関節は関節状態にないが、おおよその位置関係は正しく、右肘関節を屈し手を腹部付近に置いた状態と考えられる。甕棺内の北側からは左肩甲骨が関節窩を上、背側を南にして出土している。左肩甲骨の東側からは左上腕骨が近位を北東上方、遠位を下方に前面を上に向けた状態で出土している。甕棺内の北側から左前腕が近位を西、左橈骨は後面を上、左尺骨は外側を上に向け長軸を東西に揃えた状態で出土している。左肩関節および左肘関節は関節状態を保っておらず、左前腕の遠位側が左上腕骨の遠位付近に位置するなど大きく動いた状態である。

甕棺内南側の最上位から左右寛骨が腸骨側を北、背側を上に向けた状態で、それぞれ仙骨との関節状態を保って出土している。右寛骨の南東側から右大腿骨が近位を南西、前面を上に向けた状態で出土している。右大腿骨遠位の北西側から右脛骨・右腓骨が近位を東側上方、後面を上に向けた状態で出土している。右脛骨・右腓骨遠位の南側から右踵骨が近位を東、底面を上に向けた状態で出土しており、右踵骨の近位に右腓骨の遠位が接している。このことから、右股関節・右膝関節・右脛距関節はおおよそ関節状態を保っており、膝を立てた状態であると考えられる。最上層の左寛骨西側から左大腿骨が近位を南、内側を上に向けた状態で出土している。左大腿骨下位東側から左脛骨が近位を南西側上方、遠位を下方、後面を上に向け、左腓骨は近位を南側上方、遠位を下方、内側を上にした状態で出土している。左脛骨遠位の北西側から左距骨が後面を上に向けた状態で出土している。このことから、左股関節は屈曲した状態で、左膝関節・左脛距関節は関節状態を保っていないが、本来立膝

ST86



0 (1/10) 25cm

第18図 HZK1801地点 ST86人骨出土状況

坐葬であったと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を南、躯体正面を北に向けた座位屈葬であると考えられる。上肢は、肘関節を屈し手を腹部付近に置いて、下肢は膝と股関節を強屈し膝を立てた状態と考えられる。本人骨はほとんどの部位が遺存しているが、躯体正面を北に向け坐葬で埋葬された遺体が甕棺内で前方に倒れ込んだだけでは、骨盤が甕棺内最上位かつ頭蓋骨が底部付近に位置するのは不自然である。一方、四肢骨は関節状態をある程度復元できるような近接した位置関係にある。このことから、本個体は軟部組織が完全に腐朽する前に再開口され、遺体が人為的な操作を受けたものと推定される。

本人骨に伴い、複数の遺物が出土している。左前腕近位付近および左大腿骨の近位付近から土師皿が出土している。また、甕棺内東側および腰椎付近から銭貨が出土している。同じく腰椎付近からは数珠も出土している。これらの遺物よりも下位の頭蓋骨直上南側から木片、キセルが出土している。頭蓋西側からは黒色遺物 (ガラス片)・土師皿・キセルが出土している。甕棺内最下層からは釘が出土している。また、頭蓋骨の下位より毛髪が出土している。

【ST87】 (第19図)

頭位：南、躯体正面：北 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

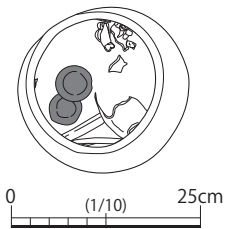
甕棺から人骨が出土している。頭蓋骨は甕棺内の南西側から頭頂部を西側に向け、顔面部を下に向けた状態で出土している。また、甕棺の東側から頭蓋骨片が出土している。後頭部の東側から上下顎が咬合状態を保って出土している。

後頭部の南東側から、左上腕骨が近位を南西側上方、遠位を北東側下方にした状態で出土している。左上腕骨の下から、左尺骨・左橈骨が長軸を東西に揃えて出土しており、左上腕骨と左前腕骨の相対的な位置関係から関節状態を保っていたと考えられ、左肘関節を強屈し手を右肩関節あたりにのせた状態であったと考えられる。

甕棺内の北東側から、右大腿骨が近位を南側下方に向け、遠位を北側上方に向けた状態で出土している。右大腿骨の西側から、右脛骨が近位を北東側上方、遠位を南西側下方に向けた状態で出土しており、右大腿骨と右脛骨は相対的な位置関係から関節状態を保っていたと考えられる。右脛骨の西側から、左大腿骨が近位を南側下方、遠位を北側上方に向けた状態で出土している。左大腿骨の西側から、左脛骨・左腓骨が近位を北東側上方、遠位を南西側下方に向けた状態で出土しており、左大腿骨と左脛骨・左腓骨は相対的な位置関係から関節状態を保っていたと考えられる。このことから、左右下肢は膝関節を強屈した立膝の状態と考えられる。

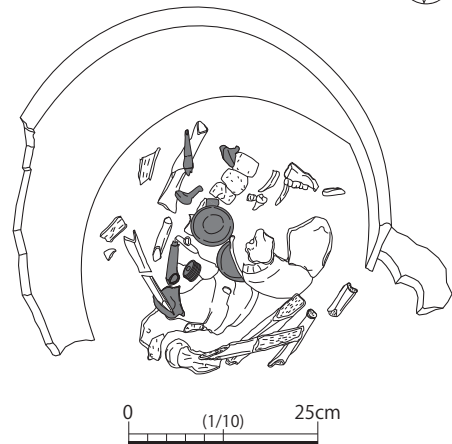
以上のことから、本人骨は本来、頭位は南向き、

ST87



第19図 HZK1801地点 ST87人骨出土状況

ST89



第20図 HZK1801地点 ST89人骨出土状況

躯体正面を北に向けた状態で、左肘関節を屈し、立膝坐葬で埋葬されたと考えられる。また、長管骨の多くが遺存しており、左肘関節や左右下肢の膝関節は関節状態を保っていることから、改葬は行われていないものと考えられる。

頭蓋骨の北東側から土師皿が2点出土している。上位から出土した土師皿は底部を上に向け、下位から出土した土師皿は内面を上に向けた状態で出土している。

【ST89】(第20図)

頭位：南西、躯体正面：東 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：不明

破損した甕棺内の底部付近から人骨が出土している。甕棺内の北西側から頭蓋骨片が顔面が南東側の下に向けた状態で出土している。頭蓋骨の西側から下顎骨片が出土しており、その周辺から歯牙が1点出土している。軀幹骨は、下顎骨の直下から環椎が出土している。また、頭蓋骨南側から腰椎および仙骨が西から東に連なった状態で出土している。仙骨は腹側を東側やや上方に向けた状態で出土している。上肢骨は、甕棺内の西側から右上腕骨が直立した状態で出土している。右上腕骨の遠位北東側からは、右前腕骨が出土している。頭蓋骨の北側から左上腕骨が、近位を東に、長軸を北に向けた状態で出土している。

下肢骨は、頭蓋骨の直下南側から左寛骨が仙腸関節がほぼ関節した状態で出土している。頭蓋骨の北東側から左大腿骨・左脛骨が長軸を北西－南東に揃えた状態で出土している。左寛骨と左大腿骨は解剖学的位置関係をほぼ保っている。

以上の出土状況から、本人骨は躯体正面東向きの坐葬と推定される。大きく削平されていることから改葬に関しては不明である。

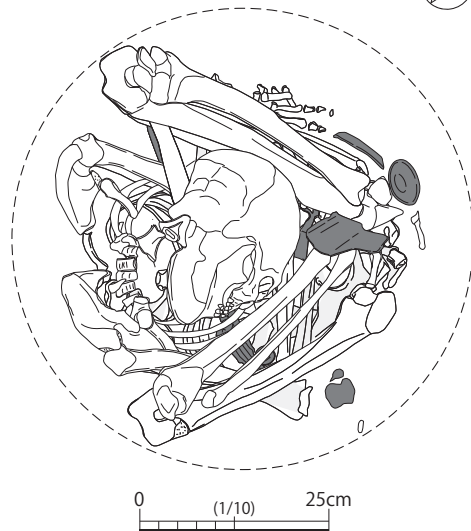
本個体に伴い、複数の副葬品・遺物が出土している。右上腕骨の周辺からキセルの吸い口が出土し、仙骨の直上から火口が出土している。腰椎直上および頭蓋骨直下から土師皿が2点出土している。仙骨の直上からは六道銭も出土している。このことから、キセルは左腕付近に、土師皿及び六道銭は腹部付近に置かれていたと推定される。この他にも、右上腕骨の直下から釘が出土しており、左坐骨の付近から鉄片が出土している。

【ST90】(第21図)

頭位：西、躯体正面：東 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：胡座坐葬 改葬：無

甕棺から人骨が出土している。甕棺内最上面からは石が2点、石の直下からは人骨が出土している。頭蓋骨は、甕棺の中央部より後頭部を上にし、顔面を南側やや下に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態で出土している。軀幹は、頭蓋骨の大後頭孔付近から仙骨までがほぼ連なった状態で出土している。頸椎から胸椎は南北に連なっており、弧を描くようにして下部胸椎から仙骨は腹側を上にし東西方向に連なっている状態で出土している。椎骨の南北から、肋骨が出土している。右肋骨が南側に位置し、左肋骨が北側に位置している。その間に胸骨が出土している。その間から

ST90



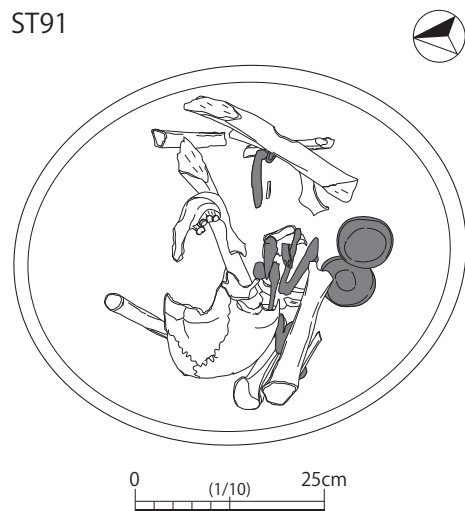
第21図 HZK1801地点 ST90人骨出土状況

胸骨体が背側を上にして出土している。上肢骨は頭蓋骨の西側上方から東側下方にかけて出土している。下顎骨の西側から左右肩甲骨が出土している。左右鎖骨は頭蓋骨および左右肩甲骨の南側から出土している。右鎖骨は右肩甲骨の東から近位を北西側上方、前面を上にした状態で出土している。左鎖骨は左肩甲骨の東に、後面を上にして出土している。左上肢骨は、左上腕骨が左鎖骨の北側から、近位を北西上方にし、前面を上にして出土している。左上腕骨遠位の北東側から左橈骨・左尺骨が遠位を北東にし長軸を揃えた状態で出土している。左橈骨が西に位置し、左尺骨が東に位置している。左肘関節を屈し回外した状態で出土している。左尺骨遠位端の南東側からは左手の骨が手根骨を西、指の骨遠位を東にしてほぼ関節状態で出土している。右上肢骨は、右上腕骨が右肩甲骨と関節状態で遠位を南東にし、後面を上にして出土している。右上腕骨の北東から右橈骨・右尺骨が遠位を北東にし、後面を上にして右橈骨が西に位置した状態で出土している。右上肢骨は右肘関節を屈し回内した状態で出土している。右手の骨は右橈骨遠位端の北西側から、手根骨から右指骨がほぼ関節し、指を伸展した状態で出土している。

下肢骨は、左右寛骨が腹側を上にし、仙骨の南北から仙腸関節が関節した状態でそれぞれ出土している。左大腿骨は骨体が左前腕骨骨体の上から、近位を南東にし、後面を上にして出土している。左股関節は左大腿骨頭がやや外れた状態で出土している。左膝蓋骨は左大腿骨遠位の直上から出土している。その南西から左脛骨・左腓骨が出土し、左脛骨が上に位置し、左腓骨が下に位置している。左脛骨は遠位を南東にし、内側面を上にして出土している。左腓骨は遠位を南東にし、腹側面を上にして出土している。左下肢骨は股関節・膝関節を強屈し内旋した状態である。左腓骨遠位端の南側から左足の骨が足背部を上方やや東に向け、足根骨を北、足先側を南にした状態で出土している。右下肢骨は右大腿骨が右上肢の上から、近位を東にし、後面を上にして出土している。右股関節は右大腿骨頭がやや外れた状態で出土している。右大腿骨の北側から右脛骨・右腓骨が、遠位をやや東にし、前面を上にして出土している。右下肢骨は膝関節を屈し外旋した状態で出土している。右足骨は右脛骨の北側から、足背部を上、足根骨を南、足先を北に向けた状態で出土している。右趾骨は左掌骨直下に位置している。

以上の出土状況から、本人骨は躯体正面東向きの坐葬であると推定される。上肢は左上肢を下肢の外側に回し膝を抱えたような状態であり、左上肢は手を腹部付近に置いていたと考えられる。下肢は足首付近で左右の足が交差した胡座の状態であり、頭部が軟部組織の腐朽に伴い腹部に転落したと考えられる。全体が臀部方向に滑り、やや仰臥に近い坐葬になっている。

なお、本個体に伴い複数の遺物が出土している。右足首付近直上・右下肢外側から木片が出土している。腹部付近からキセル・木製扇・木製の小型容器・銭貨が出土している。キセルは火口を南にし、上にして木製の扇直上から出土している。木製の小型容器はキセルの火口付近直上から小木炭片が入った状態で、蓋を北西に位置し、底部を南東に位置した状態で出土している。その東側からは六道銭が出土している。左寛骨直下からは板状木製品が出土している。足元付近からは土師皿が



第22図 HZK1801地点 ST91人骨出土状況

2点出土している。1点は内面を南西に向けほぼ垂直に横倒しになっており、1点は内面を上にして斜めになった状態で出土している。

【ST91】(第22図)

頭位：北、躯体正面：南西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：不明

甕棺から人骨が出土している。甕棺内北西側からは頭蓋骨が顔面部を下方やや南東にし、頭頂部を南西にした状態で出土している。頭蓋骨東側からは下顎骨が出土している。下顎骨は咬合面を下にし、オトガイを東にした状態で出土している。顎関節は外れた状態で出土している。

頭蓋骨北側から右上腕骨が近位を北東にし、遠位が頭蓋骨の下から出土している。頭蓋骨の下からは右橈骨が遠位を東にして出土している。右上腕骨と右橈骨は解剖学的位置関係を保ち、右肘関節を屈し回内した状態で出土している。左上腕骨は下顎東側から近位を北東にして出土しており、その遠位東側から左前腕骨が近位を北にして出土している。左橈骨は近位が左上腕骨遠位の南側に位置し、遠位をやや南西にして出土している。左橈骨の直下からは左尺骨が近位を北にして出土している。左上腕と左前腕は解剖学的位置関係を保ち、左肘関節を屈し回内した状態で出土している。

甕棺内最下層の左尺骨遠位部の西側からは左寛骨片が出土している。前頭骨の下からは右寛骨片が出土している。左右の寛骨の間から仙骨が腹側を南西やや上方に向けて出土している。右寛骨の西側からは右大腿骨が近位を南東にし、後面を上にして出土しており、右股関節はほぼ関節状態を保って出土している。その南に右脛骨は遠位を南東にし、内側面を上にして出土している。右脛骨の直下から右腓骨は近位を南東にし、前面を上にして出土している。右下肢骨は膝関節を強屈した状態で出土している。右大腿骨・右脛骨・右腓骨は解剖学的位置関係を保った状態で出土している。

左橈骨の上からは左大腿骨が近位を南西にし、後面を上にして出土している。左脛骨は左上腕骨骨体の上から頭蓋骨下部に潜り込むような状態で出土している。左脛骨は骨体の近位側が左上腕骨骨体上にややのった状態で下顎骨の直下に位置し、頭蓋骨の下から遠位を西にして出土している。左脛骨の下位西側からは左腓骨が出土し、近位を西にして出土している。左下肢は大腿骨、脛骨、腓骨、踵骨が解剖学的位置関係を保って出土している。

以上の出土状況から本人骨は躯体正面南西ないし西向きの坐葬であると推定される。頭蓋骨は軟部組織の腐朽に伴い腹部付近に落下した状態で出土している。左下肢は大腿骨・脛骨・腓骨・踵骨は解剖学的位置関係を保って出土しているものの足首付近が腹部上にとった状態であり、本来の埋葬姿勢とは考えにくい。本遺跡においては軟部組織の腐朽過程での人骨を持ち出さない遺体への操作の事例も見られる。ただし、本事例に関しては、軟部組織の腐朽過程で左下腿の足首側が本来位置していた大腿骨直上から腹腔側に転がった可能性もあることから判断を保留する。

なお、本人骨に伴い遺物が複数出土している。右手付近からは木片及び銭貨が1点出土している。腹部付近からは火打金および毛抜と推定される遺物・土器片・鋏・キセルが出土している。毛抜と



第23図 HZK1801地点 ST92人骨出土状況

推定される遺物と鉢は刃先を東に向けた状態で出土している。キセルは火口を東にし、吸い口を西にして出土している。甕棺内南側からは土師皿が2点出土し、1点が内面を上にして出土している。右腓骨の下からは銭貨が複数枚出土している。

【ST92】(第23図)

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬？ 改葬：有

甕棺内底部付近から人骨が出土している。甕棺内の最も西側から下顎骨が出土しており、下顎骨の東側から、左脛骨および左大腿骨・右上腕骨が、近位を北西、遠位を南東にし、長軸を揃えた状態で出土している。これらの長管骨のさらに東側からは、右大腿骨が、近位を南、遠位を北にした状態で出土している。最も東側からは椎骨が出土している。これらの長管骨の下位からは、肋骨・椎骨および左右前腕・右脛骨が散乱した状態で出土している。解剖学的位置関係を保っている部位は見られない。

以上の出土状況から本人骨の頭位・躯体正面・埋葬姿勢は不明である。一方で、頭蓋骨・骨盤といった主要部位が認められないことから、本人骨は軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けていると考えられる。

なお、本人骨に伴い複数の遺物が出土している。左大腿骨と脛骨の遠位部付近から土師皿および木片が出土しており、甕棺内東側から釘が出土している。

【ST93】(第24図)

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

甕棺から人骨が出土している。甕棺内の西側から頭蓋骨が顔面部を南西向き、左側頭部を上にした状態で出土している。頭蓋骨の南側から咬合状態を保って下顎骨が出土している。

甕棺内の東側から椎骨が出土している。椎骨を境に南北に左右肋骨が連なって出土しており、胸椎は上面を西にしている。

右肩甲骨が頭蓋骨の東側から背側を上、近位を南にした状態で出土している。右肩甲骨の西から右鎖骨が肩峰端を北、上面を上にした状態で出土している。頭蓋骨の東、右肩甲骨の下から右上腕骨が近位を東、遠位を西、内側を南にした状態で出土している。右肩関節は外れているものの、右肘関節は関節状態を保ち、右前腕は南に約90度屈しており、右橈骨・右尺骨は遠位を南、前面を上にし、解剖学的位置関係を保っている。右前腕骨の南側から右手根骨・指骨片が出土している。

甕棺内の南端、左肋骨の西側から左肩甲骨が上縁を上、外側縁を南にした状態で出土している。左肩甲骨の西側から左上腕骨が近位を南、遠位を北、前面を上にした状態で出土している。左上腕骨の北側から左尺骨・左橈骨が左肘関節をやや屈し相対的位置関係を保った状態で出土している。左前腕は回内しており、左橈骨が左尺骨の上のった状態で出土している。

甕棺内の東端から仙骨が仙骨底を上、前面を北

ST93



第24図 HZK1801地点 ST93人骨出土状況

西にした状態で出土している。仙骨の南北からはそれぞれ左右寛骨が腸骨翼を上、腹側を西にした状態で出土している。骨盤は相対的位置関係を保っている。右上腕骨の西側下から右大腿骨が遠位を上、前面を南にした状態で出土している。右大腿骨の西側から右脛骨・右腓骨が相対的位置関係を保ち、近位を上にし、ほぼ直立した状態で出土している。左寛骨の西から左大腿骨が遠位を西にした状態で出土しており、股関節は関節状態を保っている。左前腕の西から左脛骨が前面を北、近位を上にした状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位東、躯体正面西向きの坐葬と考えられる。上肢は肘関節を屈し前腕を腹部付近に置き、下肢は立膝坐葬であったと推定される。

右上腕骨の北側から毛髪が出土しており、軟部組織の腐朽に伴い頭部が両膝の間に転落し、毛髪が体の右側に落ちたものと考えられる。

なお、本人骨に伴い複数の遺物が出土している。右上腕骨骨体直上からはキセルの吸い口が出土しており、右前腕直上から木片が、直下からキセルの火口が出土している。右前腕直下からはこの他にも銭貨、鉄製品が出土しており、右腕の上下に副葬品が置かれているような状態であったと考えられる。

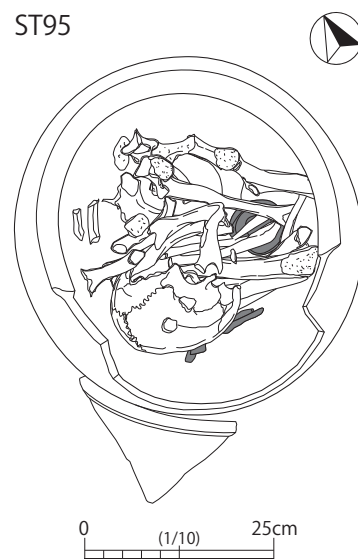
#### 【ST95】（第25図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

甕棺から人骨が出土している。甕棺内南西側から頭蓋骨が顔面を南東やや下に、左側頭部を上に向け、下顎が咬合した状態で出土している。

頭蓋骨北西側からは右上腕骨が長軸を東西、近位を西にして出土しており、右上腕骨北側からは肋骨が出土している。下顎骨のオトガイ北東側から左上腕骨が出土している。左上腕骨は前面を上、近位を北西、遠位を南東にした状態で出土している。頭蓋骨直下から左・右の前腕が長軸を東西に揃えた状態で出土している。右前腕は近位を西、左前腕は近位を東にし、いずれも回内した状態で出土している。上腕と前腕は解剖学的位置関係を保っており、左・右上肢は肘関節を強屈して回内状態である。左・右前腕の北側から右鎖骨が出土しており、右鎖骨の下から右寛骨が出土している。左上腕骨の北から左寛骨と左大腿骨が関節した状態で出土している。左寛骨を東西にして、椎骨と連なって、左大腿骨が左上腕とほぼ揃えた状態である。寛骨上からは椎骨が出土している。頭蓋骨の南東側からは右下肢骨と左脛骨がほぼ長軸を揃えて出土している。右下肢は右大腿骨が近位を北西、遠位を南東にして、右脛骨と右腓骨をほぼ揃えて、長軸を東西、近位を東にした状態である。また、膝関節を強屈した状態でほぼ解剖学的位置関係を保っている。

以上のことから、本人骨は頭位を北、躯体正面を南に向けた坐葬であったと考えられる。上肢は、左右の肘関節を強く屈し前腕を腹部付近に置き、左右の股関節・膝関節を強屈した立膝の状態であったと考えられる。



第25図 HZK1801地点 ST95人骨出土状況

なお、本人骨に伴い複数の遺物が出土している。左肘部分直下から土師皿が内面を上にした状態で出土している。土師皿は遺体の左上肢外側に置かれていたと推定される。右下肢外側から銭貨と鋏が出土しており、鋏は刃先を東側に向けて出土している。銭貨と鋏は足元付近に置かれていたと推定される。

【ST97】(第26図)

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：有

甕棺から人骨が出土している。甕棺内最上位からは四肢骨が、四肢骨の下から頭蓋骨が出土している。

甕棺内最上位の北側からは右下肢骨が長軸を東西に揃えた状態で出土している。甕棺内北西側から右脛骨・腓骨が近位を西、外側を上にした状態で出土している。右膝蓋骨が右腓骨の近位下から出土している。また、右大腿骨は右腓骨の南側から、近位を東北、前面を上にして出土している。このことから、右下肢は概ね解剖学的位置関係を保っており、膝関節を強屈した状態である。

甕棺内南側からは上肢骨と左大腿骨が出土している。最も南から左上腕骨が出土し、その北側から左鎖骨、左尺骨、左橈骨、右肩甲骨が出土している。右肩甲骨は、背側を上、関節窩を南西にした状態で出土している。右肩甲骨の下から右鎖骨が下面を上にして、肩峰端を北西に向け、長軸を北西にした状態で出土している。左肩甲骨の南から左鎖骨が、肩峰を南東、下面を上にした状態で出土している。左鎖骨の胸骨端付近から左橈骨が近位を下、後面を東にした状態で出土している。左尺骨は左橈骨の南東から、近位を東南、内側を上にした状態で出土している。左尺骨・左鎖骨の下から左上腕骨が、近位を西、内側を上にした状態で出土している。左上肢の肘関節は関節していない。左大腿骨は、近位を東、前面を上にした状態で出土している。左大腿骨頭の近位から左寛骨臼の破片も出土している。左大腿骨と右下肢骨の下から左脛骨が、左大腿骨とほぼ直交した状態で出土している。左脛骨は近位を南、内側を上にして出土しており膝関節は関節状態を保持していない。

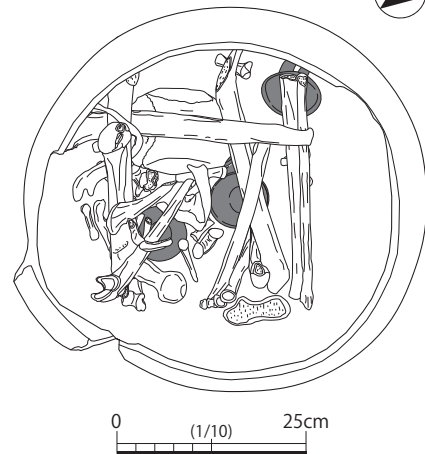
左脛骨直下から頭蓋骨が、顔面を南、後頭部を北に向けた状態で出土している。頭蓋骨の南東から下顎骨が、咬合面を下、オトガイを北にした状態で出土している。脛骨遠位付近からは右上肢が長軸を東西に揃えて出土している。右上肢は左尺骨の北側、長軸を東西に揃えた状態である。右尺骨・右橈骨は近位を上、前面を西にして、ほぼ長軸を揃えて接した状態で出土している。右上腕骨は遠位を東、内側を上にした状態で出土している。右上肢は肘関節を強屈した状態である。

甕棺内底部付近からは足根骨、趾骨、椎骨、肋骨、指骨が散落した状態で出土している。これらの骨は関節状態を保持していない。

以上のように、甕棺内の北側から右側の、南側から左側の四肢骨が出土していることから、本人骨は、躯体正面を西に向けた坐葬であると考えられる。ただし、頭蓋骨が左脛骨の下から出土すること、躯幹骨から骨盤がほとんど見られないことから、軟部組織が完全に腐朽する前に改葬を受けている可能性が考えられる。

本人骨に伴い、遺物が複数出土している。右脛骨・右腓骨の近位下から不明円形木材が出土してい

ST97



第26図 HZK1801地点 ST97人骨出土状況

る。椎骨の北側から土師皿が出土しており、陶磁器が土師皿の直下から出土している。陶磁器と土師皿の北東側と東側から土師皿が各1点ずつ出土している。甕棺内の底部からは板状木製品が出土している。

【ST101】

頭位：西、躯体正面：南 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

60cm×60cmの範囲から人骨が出土している。最も北西側より頭蓋骨および前腕が出土しており、東側からは下肢骨が出土している。頭蓋骨は頭頂部を北東にし、顔面を上方やや南東側に傾けた状態で出土している。上下顎は咬合状態に近い。下肢骨は左右大腿骨が長軸を南北にした状態で、近位側に比べ遠位側のレベルが若干高い状態で出土している。これら大腿骨の南側からは左右下肢骨が近位を上、遠位を下にした状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は頭位を西にし、躯体正面を南に向けた立膝状態の屈葬ないし坐葬であったと推定される。埋葬施設は遺存していないものの本遺跡の他の事例を参考にすると円形ないし方形の木棺の可能性が考えられる。

本個体に伴い、腹部付近と推定される大腿骨西側からは土師皿が2点出土している。

【ST102】（第27図）

頭位：北東、躯体正面：南西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：坐葬 改葬：有

甕棺から人骨が出土している。甕棺内の南端から頭蓋骨が顔面を北東やや下向き、頭蓋底を上、頭頂を南西にした状態で出土しており、頭蓋骨の北東側から下顎骨が咬合状態を保った状態で出土している。

下顎骨に接して長軸を南北にした状態で左上腕骨が出土している。左上腕骨の西、頭蓋骨の下部から近位を東、遠位を西にした状態で左前腕骨が解剖学的位置関係を保ち回内した状態で出土している。頭蓋骨の北西から長軸を東西にした状態で右橈骨が出土している。

下顎骨の北、下部から左寛骨が出土している。左寛骨の西から遠位を南東、近位を北西にし、解剖学的位置関係を保った状態で左大腿骨が出土している。左大腿骨の西から膝関節を屈し、近位を北、遠位を南東、後面を上にし、相対的位置関係を保った状態で左脛骨・左腓骨が出土している。右寛骨は左大腿骨の東側から出土しており、右寛骨の西から遠位を南、近位を北、後面を上にした状態で右大腿骨が出土している。右大腿骨の西側から右脛骨が相対的位置関係を保ち、近位を上にした状態で出土している。右脛骨の直下から右腓骨が長軸を揃えて出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位北東、躯体正面南西向きの坐葬と推定される。四肢骨は強屈しており、頭蓋骨は軟部組織の腐朽に伴い腹部に転落したものと考えられる。右大腿骨と寛骨は本来の位置からやや北西にずれている可能性があり、



第27図 HZK1801地点 ST102人骨出土状況

右上肢骨および躯幹骨が殆ど遺存していないこととあわせて考えると、本個体は軟部組織が一部腐朽した後に改葬を受けたと推定される。

なお、頭蓋骨の下、腹部付近に副葬品が置かれている。最上位から土師皿が内面を上にした状態で出土し、直下の北東側からは毛抜、キセルの吸い口が長軸を揃え先端を南東にした状態で出土している。鉢の刃部直上から銭貨が4枚と毛抜が出土しており、毛抜の刃先直上からキセルの火口が出土している。

【ST103】 (第28図)

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬？ 改葬：不明

甕棺から人骨が出土している。甕棺内最上層西側から、胸椎が関節した状態で出土しており、椎骨の周辺からは肋骨が多数出土している。椎骨の南東側から右上腕骨が近位を南西、遠位を北東上方にした状態で出土している。右上腕骨の下位から右脛骨が近位を西側下方、遠位を東側に向け右上腕骨と交差した状態で出土している。右上腕骨の北西側から右前腕が近位を北西に、遠位を南東に向けた状態で出土している。右橈骨直上から歯牙が数点、歯列を保って咬合面を東、頬側を上にした状態で出土している。また右脛骨下位周辺より足の指骨や恥骨、鎖骨などが出土している。甕棺内最下層北側より下顎骨右側面が、内面を上、オトガイを南に向けた状態で出土している。

以上のことから、本人骨は一部関節状態を保っているが、遺存状態は良好ではなく、本来の埋葬姿勢や改葬の有無は不明である。

なお、本人骨に伴い遺物が複数出土している。尺骨の北東側からは、尺骨と長軸を並行にし、キセルが出土している。また橈骨直上の歯牙直下からは漆器片が出土している。人骨の直下からは蓋材と考えられる木材が出土しており、その下からはモミガラが出土している。

【ST107】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬？ 改葬：不明

大きく破損した甕棺内の底部付近から人骨が出土している。甕棺内東側から寛骨が腸骨翼を東に、腹側を上にした状態で出土している。寛骨の下より南側から肋骨が出土している。甕棺内の南東側から距骨が出土しており、その周辺から指骨が散乱した状態で出土している。

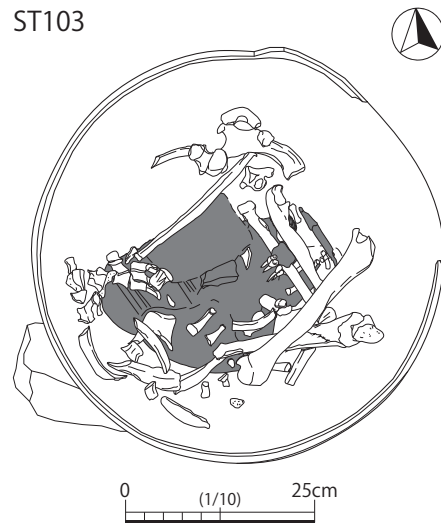
以上のことから、本個体は解剖学的位置関係を保っておらず、埋葬姿勢は不明である。

【ST108】

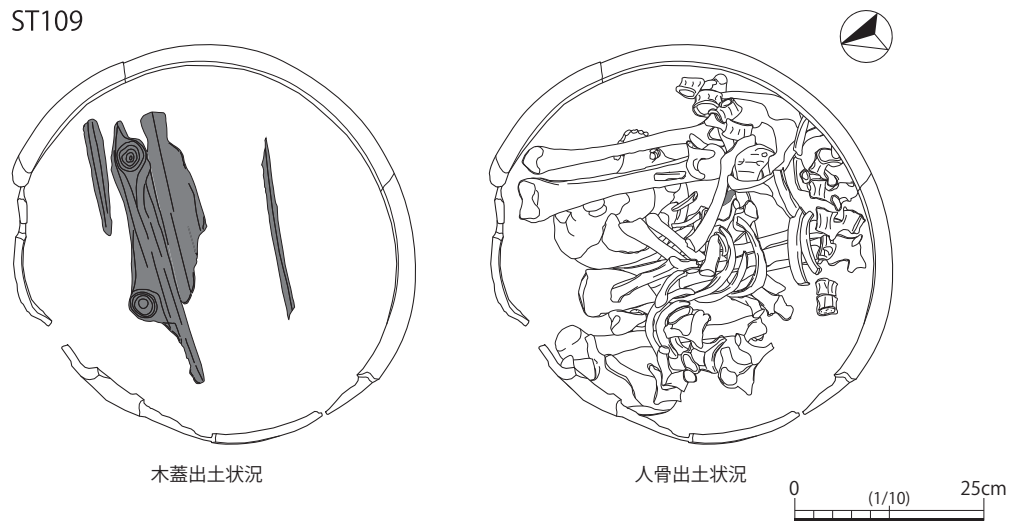
頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬？ 改葬：不明

大きく破損した甕棺底部付近から人骨が出土している。甕棺の中央から指骨、肋骨が数点出土している。長管骨は全く残存しておらず、改葬時ないしは攪乱により甕を破壊し、ほとんどの骨が持ち去られたものと考えられる。

このことから、本人骨の遺存状態は良好ではないため、詳細な埋葬姿勢は不明である。



第28図 HZK1801地点 ST103人骨出土状況



第29図 HZK1801地点 ST109人骨出土状況

## 【ST109】(第29図)

頭位：南、躯体正面：北 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：不明（再開口：有）

甕棺から人骨が出土している。甕棺内の北側最下層から頭蓋骨が顔面部を南東に、頭頂部を下方に向けた状態で出土している。頭蓋骨の南西側から下顎骨が歯冠の咬合面を上に向け、オトガイを北に向けた状態で出土している。甕棺内の東側、最下層に位置する頭蓋骨付近から軸椎が出土している。甕棺内の最上層の最も南側から第11胸椎から第2腰椎までが連なった状態で出土しており、いずれも上面が西に向き、下面が東を向いており、概ね関節状態を保っている。甕棺内の上位西側から頸椎がまとまった状態で出土している。胸椎は甕棺内の南側に散らばった状態で出土している。肋骨は甕棺内の南側、椎骨付近から出土するが椎骨との関節状態は保っていない。

甕棺内の最下層中央から右鎖骨が東西を軸にして内側を西に向けた状態で出土している。甕棺内の北東から右上腕骨が近位を北上方に、遠位を南下方に向けて出土している。頭蓋骨の西側最下層から右尺骨と右橈骨が近位を北東に、遠位を南西に向けた状態で出土しており、右肘関節は解剖学的位置関係を保っていない。甕棺内の中央から右手指骨が出土している。甕棺内の中央最上層から左鎖骨が近位を北西、外側を南東にした状態で出土している。甕棺内の北西側から左肩甲骨が上角を上方に向け肩峰を北に向けて出土している。左肩甲骨の東側から左上腕骨が近位を北上方に、遠位を南に向けた状態で出土しており、左肩関節は解剖学的位置関係を保っている。さらに左上腕骨遠位の南東側に接して左橈骨と左尺骨が近位を北東に、遠位を南西に向けた状態で出土しており、左肘関節は相対的な位置関係を保ち左前腕を回外、軽屈している。

甕棺内の南東から右寛骨が前面を南に向け出土している。右寛骨の西側に接して仙骨が前面を西側に向けた状態で出土している。仙骨西側から左寛骨が前面を北側に、腸骨翼を上に向けた状態で出土している。仙腸関節は左右ともに関節状態を保っていない。右寛骨の北側から右大腿骨が近位を南下方に、遠位を北上方に向け出土している。右股関節は関節状態を保っていないが右寛骨との相対的な位置関係は概ね正しい。右大腿骨の直上から右腓骨が近位を東に、遠位を西に向け、右大腿骨の近位側と交差するような状態で出土している。右腓骨の北側下層から右脛骨が近位を北東に、遠位を南西に向けた状態で出土している。以上のことから右膝関節は関節状態を保っていないと考えられる。

甕棺内の西側、左寛骨の西側から左大腿骨が近位を南、遠位を北に向けた状態で出土している。甕棺内の西側から左脛骨が近位を北に、遠位を南に向けた状態で出土している。左脛骨のやや東側直上から左腓骨が近位を北側上方に、遠位を南側下方に向けた状態で出土している。左股関節は関節状態ではないが、解剖学的位置関係を概ね保っている。また左膝関節も解剖学的位置関係を保っており、股関節・膝関節ともに強屈している。

以上のことから本人骨は、頭位は南、躯体正面を北に向けた坐葬であると考えられる。上肢は、肘を屈曲し大腿上で前腕を交差させており、下肢を強屈させた状態で埋葬されたと考えられる。頭蓋骨は顔面を南東に向け、頭蓋底が上を向いた状態で最下層から出土したことから軟部組織の腐朽に伴い頭蓋骨が前方に落ち込んだものと考えられる。また、右肘関節や右膝関節など主に右側は関節状態を保っていない一方で、左肘関節や左膝関節、左右の股関節など相対的な位置関係を概ね保って出土する部位も多い。加えてほぼ全身の部位が遺存していることから、本人骨は、軟部組織が完全に腐朽する前に墓が再開口され、人為的に遺体が動かされていると考えられる。

本人骨に伴い遺物が複数出土している。最上位から木蓋片が、最下層からはキセルが出土している。キセルは吸い口側が右腓骨骨体上に位置し、火口が右脛骨西側から出土しており、本来腹部付近に置かれていた火口側が左下腿の下に落下したと推定される。

【ST114】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

最も東側から頭蓋骨が頭頂部を東に、顔面を下向きの状態で出土している。頭蓋骨の南西側から上下の顎骨片が咬合状態で出土している。頭蓋骨の南側から不明人骨片が出土している。頭蓋骨の北側から左大腿骨・左脛骨が出土している。頭蓋骨のより西側からは右大腿骨・右脛骨が出土している。

また、埋葬施設は遺存しておらず明瞭な痕跡も残っていないものの、本遺跡の他の事例を考慮すると、木棺の可能性が考えられる。

【ST120】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

ST65（甕棺）の周辺から人骨が出土している。ST65の甕棺の南東付近から頭蓋骨片が内面を上に向けた状態で出土しており、その頭蓋骨片の南側からも頭蓋骨片が出土している。ST65の南東側から出土した頭蓋骨片の下位より、軸椎が齒突起を南西に向け、前面を上に向けた状態で出土し、その他、長管骨片も長軸を南北に向けた状態で出土している。頭蓋骨片の上位に近位側をのせた状態で左大腿骨が近位を南西に、遠位を北東やや下方に、後面を上に向けた状態で出土している。頭蓋骨の東側から右大腿骨が近位を南西側、遠位を北西側やや上方に向け、後面を上に向けた状態で出土している。

以上のことから、本人骨は遺存状態が良好ではないため詳細な埋葬姿勢は不明であるが、ST65との位置関係から、ST65の墓を作る際に破壊され人骨が動かされたと推定される。

また、埋葬施設は遺存しておらず明瞭な痕跡も残っていないものの本遺跡の他の事例を考慮すると、木棺の可能性が考えられる。

左大腿骨の東側から土器片が出土している。

【ST122】

頭位：東、躯体正面：西 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：立膝坐葬もしくは仰臥屈葬 改葬：無

130cm×50cmの範囲から人骨が出土している。本土壙墓はST61（甕棺）によって墓壙の東側が破壊されており、本人骨はST61を中心に東西2つに分かれて出土している。

人骨分布範囲内西側からは、本来の埋葬姿勢を保っていると推定される一群が出土している。ST61の西側からは左前腕骨が近位を東に向け、長軸を東西方向にして左橈骨遠位側が左尺骨の上ののった状態で出土しており、左腕は回内した状態であったと考えられる。その西側からは、右大腿骨が近位を東側下方、遠位を西側上方に向けた状態で出土している。右大腿骨の遠位と接して右腓骨が出土しており、右腓骨の遠位は西側下方に向けている。右腓骨の北側から右脛骨が出土している。また、右下肢の南側に左下肢が位置しており、左大腿骨が近位を北東側下方に向け、遠位を南西側上方に向けた状態で出土している。左大腿骨の遠位と接して左脛骨が出土しており、左脛骨の近位を南西側上方、遠位を北東側下方に向けている。このことから、左右下肢は膝関節を強屈し立膝の状態と考えられる。

一方で、ST61を挟んで東側の人骨群はほとんど解剖学的位置関係を保っていない。最も東側から頭蓋骨の一部が出土している。頭蓋骨の西側直上に右鎖骨と右上腕骨・右前腕が、その西側からは左上腕骨が出土している。左右上腕骨は長軸を南北に揃えた状態である。

これらの出土状況から、本個体は本来頭位東向き、躯体正面西向きの坐葬ないしは頭位東向きの仰臥屈葬で埋葬されていたと考えられる。ST61がST122を破壊して作られた際に、出土した人骨がST61の東側にまとめられたと考えられる。また、埋葬施設は遺存しておらず明瞭な痕跡も残っていないものの本遺跡の他の事例を考慮すると、木棺の可能性が考えられる。

左上腕骨の直下から釘が出土している。

#### 【ST122南側別墓】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

墓壙は確認されていないが30cm×20cmの範囲から人骨が出土している。北側から大腿骨片が、南側からは腓骨片が出土している。これらの人骨の西側に50cm程度離れた位置からは土師皿が出土しており、本個体に伴う副葬品の可能性が考えられる。

#### 【ST126】（第30図）

頭位：南東、躯体正面：西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：坐葬 改葬：無

甕棺から頭蓋骨片、下顎骨、四肢骨などが分散して出土している。甕棺内中央最下層より頭蓋が後頭骨を上、頭頂部を下に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態であり、顔面部は南東を向いている。

頭蓋骨の直上から左上腕骨が近位を北、遠位を南、外側を上にした状態で出土している。左上腕骨遠位の西に左橈骨の近位が位置しており、遠位を西に向けている。左橈骨の北側から、左尺骨が近位を東、遠位を西に向けた状態で出土している。このことから、左肘関節は外れているが、相対的な位置関係を保ち、左肘関節は体軸側に屈曲した状態である。右肩甲骨が頭蓋骨直上の東側から出土している。右肩甲骨と右上腕骨は関節し、右上腕骨の近位を東に、遠位を西下方に向けた状態、右上腕骨遠位端の西に右橈骨・右尺骨の近位が位置している。右肘関節は関節状態を保っており、体軸側に屈曲した状態である。

甕棺内南側の左上肢骨の上位から左大腿骨が出土している。左大腿骨は近位が西側下方、遠位が東

側上方を向き、後面が上の状態で出土している。左大腿骨頭の北に左寛骨が位置しており、腸骨翼が東側、腹側が上を向いている。左脛骨は左大腿骨の上から近位を東側上方、遠位を西側下方に向けた状態で出土している。左腓骨は左大腿骨の北側に位置し、近位を東側上方、遠位を西側下方に向けた状態で出土している。左股関節の状態は左寛骨臼の部分が遺存していないため不明だが、左寛骨、左大腿骨の相対的位置関係は大きく乱れておらず、左股関節・左膝関節を屈曲した状態である。右前腕の西側から右大腿骨、右脛骨、右腓骨が出土している。右大腿骨は頭蓋骨の北西から、近位を南下方、遠位を北上方に向けた状態で出土しており、右大腿骨の上位南側に右脛骨・右腓骨が近位を北上方、遠位を下方に向けて位置する。右脛骨・右腓骨は後面が上を向いた状態で出土している。左右膝関節は相対的な位置関係を保っており、膝関節を強屈した状態である。

また本甕棺内の上位のレベルからは、本来埋葬されていた個体とは風化の程度が著しく異なる頭蓋骨片・下顎骨・上下肢骨などが出土しており、二次的に流入したものと推定される。

以上の出土状況から、本人骨の埋葬姿勢は坐葬であり、寛骨の出土位置が墓壇内の東側であったことから、躯体を西に向けた状態で埋葬されていたものと推定される。出土した人骨の多くは関節状態を保っていることから改葬など人為的な攪乱は受けていないものと考えられ、軟部組織の腐朽により、頭蓋が転落し、上肢帯が頭蓋骨の上またはその北側に落ち、その上に左大腿骨が倒れたと考えられる。一方で、甕棺内の上位から他の人骨が出土していることから、本墓は蓋上の墓壇内埋土中に別個体の人骨が存在していたことが分かる。別個体とともに甕棺片が出土していないことから、本甕棺上に埋置されていた別の甕棺内に埋葬されていた人骨が甕棺の破損により本甕内に流入した可能性は低い。一方で、本遺跡の墓壇の切り合い関係から、本甕棺の墓壇掘削時に、先行する墓壇を壊して作られた可能性は考える。その際に破壊された他の墓から出土した人骨が、本甕棺の蓋板上に置かれていた、あるいは埋土に混入し甕棺の蓋の腐朽に伴い棺内に流入した可能性が考えられる。

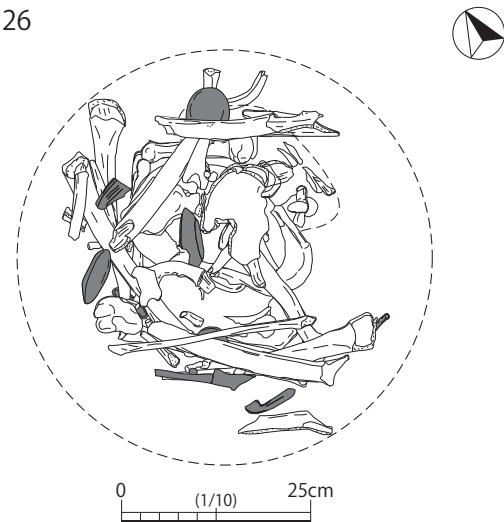
本人骨に伴い、左大腿骨近位から骨体中央部の下から、一部木質部分が消失した状態のキセルが東北東-西北西を長軸にした状態で出土している。

【ST127】(第31図)

頭位：不明、躯体正面：西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：無

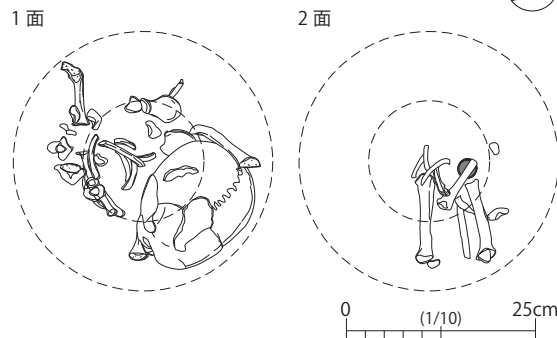
本人骨は、小型の甕棺内底部付近から出

ST126



第30図 HZK1801地点 ST126人骨出土状況

ST127



第31図 HZK1801地点 ST127人骨出土状況

土している。頭蓋骨は顔面部を北に、頭頂部を上にし、上顎骨は下顎骨と咬合した状態で出土している。頭蓋骨東側からは肋骨と椎骨が散乱した状態で出土している。これらの躯幹骨と一緒に、頭蓋骨北東から右上腕骨が長軸を東西にして出土している。左上腕骨は頭蓋骨直下から、長軸を南北にし遠位を北にした状態で出土している。

左大腿骨は頭蓋骨の南側に接して、近位を東側下方、遠位を西にした状態で出土している。大腿骨の近位東側に接して腸骨が出土している。肋骨、椎骨の東側からは右大腿骨が、近位を南東側上方、遠位を北西にし直立した状態で出土している。頭蓋骨直下からは左・右脛骨が長軸を揃えて、近位を北東、遠位を南西にした状態で出土している。左脛骨遠位は甕棺内の底部直上に位置している。

以上のことから、本人骨は躯体正面を西にして下肢を屈曲した坐葬と推定される。

#### 【ST128】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

土壙から頭蓋骨片、大腿骨片が出土している。

頭蓋骨は内面を上、顔面を南東にした状態で出土している。頭蓋骨の南西から下顎骨が出土している。下顎骨はオトガイを南、咬合面を東にした状態で出土しており、上下顎は咬合状態である。

頭蓋骨の南西から長軸を南北方向にした状態で大腿骨が出土している。

人骨の遺存状態が良好ではないため、埋葬姿勢および改葬は不明である。また、埋葬施設は遺存しておらず明瞭な痕跡も残っていないものの本遺跡の他の事例を考慮すると、木棺の可能性が考えられる。

なお、頭蓋骨直下から不明銅製品が出土している。

#### 【ST129】

頭位：南東、躯体正面：北西 葬法：方形木棺

埋葬姿勢：坐葬 改葬：無

40cm×50cmの範囲から人骨が出土している。北東側から頭蓋骨が顔面を下にし、頭頂を北にした状態で出土している。

頭蓋骨の直下から前腕片が長軸を東西方向にして出土している。頭蓋骨東側からは右上腕骨が近位を上にし、ほぼ垂直に立った状態で出土している。頭蓋骨の北西からは右下肢骨が出土し、西側からは左下肢骨が出土している。左右大腿骨は近位を下方、遠位を上方にして出土しており、左右脛骨は近位を上方遠位を下方にした状態で出土している。左右下肢は膝関節を強屈し、膝を立てた状態で出土している。左右下肢及び右上肢のそれぞれの骨の位置関係は大きく乱れてはいない状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位南東、躯体正面北西向きの坐葬であると推定される。頭蓋骨は軟部組織の腐朽に伴い腹部付近に落下した状態で出土している。

なお、本人骨に伴い下顎骨直下からは鋏が出土しており、腹部付近に副葬されていたと推定される。

#### 【ST130】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

30cm×30cmの範囲から人骨が出土している。墓壙内中央から頭蓋骨が頭頂骨を下、顔面を北西に向けた状態で出土している。頭蓋骨の北西側から右前腕が近位を北、遠位を南に向けた状態で出土している。頭蓋骨南側からは腓骨が長軸を東西方向に向けた状態で出土している。

本人骨は、遺存状態が良くないため、本来の埋葬姿勢や改葬は不明である。また、埋葬施設は遺存しておらず明瞭な痕跡も残っていないものの本遺跡の他の事例を考慮すると、木棺の可能性が考えられる。

【ST134】 (第32図)

頭位：不明、躯体正面：不明

葬法：土壙墓 (木棺?)

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

15cm×30cmの範囲から人骨が出土している。左右大腿骨が南西に長軸を揃えた状態で、南側から右大腿骨、北側から左大腿骨が出土している。左大腿骨の北側から寛骨、橈骨、肋骨が、南側から下顎骨片が出土している。右大腿骨遠位直下から上顎骨が出土している。

以上のことから、本人骨は保存状態が良好ではないため、詳細な埋葬姿勢は不明である。また、埋葬施設は遺存しておらず明瞭な痕跡も残っていないものの、本遺跡の他の事例を考慮すると、木棺の可能性が考えられる。

【ST138】

頭位：北東 葬法：土壙墓 (木棺?)

埋葬姿勢：仰臥屈葬 改葬：無

50cm×40cmの範囲から人骨が出土している。最も北東側から頭蓋骨が右側頭骨を上にして、顔面を南側に向けた状態で出土している。頭蓋骨の西側から下顎骨が右外側面を上、オトガイを南に向けた状態で出土している。上顎骨と下顎骨は相対的な位置関係を保っている。

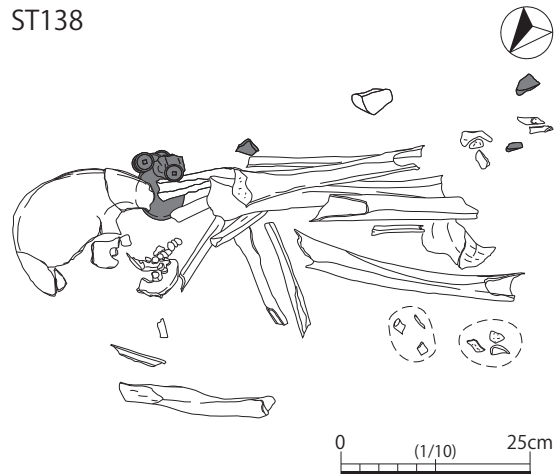
頭蓋骨の下位から環椎が出土している。

上肢は、頭蓋骨の下位から左鎖骨が出土している。頭蓋骨の南側から左上腕骨が近位を北に、遠位を南に向け、左上腕骨の西側から左前腕が近位を南東に、遠位を北西に向けて出土している。左肘関節は左前腕を回内、強屈し、手を顎付近に置いた状態であると考えられる。頭蓋骨の西側から右上腕骨が近位を北東に、遠位を南西に向けて出土している。右上腕骨の南側、やや離れた位置から右前腕が近位を西に、遠位を東に向け、長軸を揃えて出土している。右肘関節は前腕を回内して屈し、手を胸部付近に置いた状態であると考えられる。

下肢は、墓壙内の南西側から左寛骨が出土し、左寛骨に関節して左大腿骨が近位を南西に、遠位を北東に向けて出土している。左大腿骨の東側から左脛骨が、左脛骨の下位から左腓骨が近位を北東に、遠位を南西に向けて長軸を揃えた状態で出土している。左大腿骨・左脛骨・左腓骨が概ね長軸を揃えていることから左膝関節を強屈していたと考えられる。右前腕の近位南西側から20cm程度離れた位置から右寛骨片が出土し、右寛骨片の東側から右大腿骨が近位を南西に、遠位を北東に向けた状態で出土している。右大腿骨の南東側から右脛骨が近位を北東に、遠位を南西に向けた状態で出土している。左右の下肢は股関節・膝関節を強屈した状態である。

以上のことから、本人骨は頭位北東向きの仰臥屈葬であると考えられる。上肢は、左右の肘関節を屈し、左手を顎付近に、右手を胸部付近にのせた状態であり、左右の股関節および膝関節を強屈した

ST138



第32図 HZK1801地点 ST138人骨出土状況

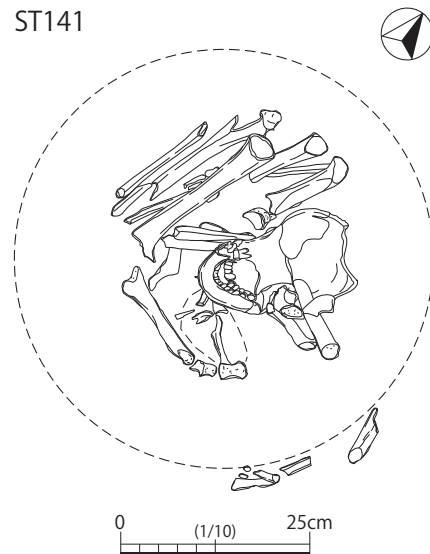
状態で埋葬されたと考えられる。また、本人骨は遺存している多くの部位が相対的な位置関係を保っていることから、改葬を受けていないと考えられる。

なお、本人骨に伴い遺物が複数出土している。左肩口付近から、土師皿、鉢、銭貨が出土している。鉢は刃先を顔の方に向けて左上腕骨と平行に左上腕骨直下に置かれていたと考えられる。

また、埋葬施設は遺存しておらず明瞭な痕跡も残っていないものの、本遺跡の他の事例を考慮すると、木棺の可能性が考えられる。

#### 【ST141】（第33図）

頭位：南東、躯体正面：北西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無



第33図 HZK1801地点 ST141人骨出土状況

甕棺から人骨が出土している。甕棺内中央部から頭蓋骨が頭頂部を北東、顔面部を下に向けた状態で出土している。上顎骨と咬合した状態で下顎骨が出土しており、顎関節は関節状態を保っている。下顎切歯が甕棺内の底部付近から遊離歯の状態出土している。

頭蓋骨の南東側から右上腕骨が近位を上方に向け、遠位を下方に直立した状態で出土している。右上腕骨の南側からは鎖骨が遠位側を上方に直立した状態で出土している。右前腕は、近位側1/2程度が頭蓋骨の直下の右上腕骨の遠位付近より出土しており、近位を北東、遠位を南西に向け、回内した状態で出土している。右肘関節の相対的な位置関係は概ね正しく、肘を屈し腹部に置いた状態であるとされる。下顎骨の南側からは左上腕骨が近位を東、遠位を西に向けた状態で出土している。

甕棺内底部直上から右寛骨・左寛骨片が近接して出土している。頭蓋骨の北西から右大腿骨が近位を下方、遠位を上方に向け、内側を上にした状態で出土している。右大腿骨の西側からは右脛骨・右腓骨が近位を上方、遠位を下方、前面を上にして出土している。右脛骨の南側からは右距骨・右踵骨が外側を下にした状態で出土しており、右脛距関節は関節状態を保っている。右下肢骨の南側からは左大腿骨が近位を南側下、遠位を上、後面を上にした状態で出土している。左大腿骨の西側からは左脛骨・左腓骨が近位を上、遠位を下、前面を上にして出土している。寛骨と大腿骨は、左右ともに近接した位置から出土し相対的な位置関係は正しいと言える。このことから、左右の股関節は屈曲した状態であったと考えられる。また、左右下肢骨はやや北側に傾いているものの膝関節は左右ともに相対的な位置関係を保っており、膝を立て屈した状態であるとされる。

以上の出土状況より、本人骨は頭位南東、躯体正面北西向きの坐葬であるとされる。上肢は、肘関節を回内・屈曲し右手を左腹部付近に置き、下肢は膝を立てた状態の坐葬と推定される。軟部組織が腐朽する過程で頭蓋骨が前方に転じたものと考えられる。なお、下顎歯が遊離し甕の底部付近に落ち込んでいることから、頭蓋骨が転じた段階では甕棺の中に土が流入していなかったと考えられる。本人骨は多くの部位が遺存しており、概ね相対的な位置関係を保っていることから、改葬は行われていないものと推定される。

甕棺外の南東からは甕棺に沿って人骨が数点出土している。ほぼST141の甕棺に接した状態で下顎骨が出土しており、ST141とは部位が重複する。そのため、これらの人骨はST141に先行する墓に

伴うものであると推定される。

【ST152】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

大きく破損した甕棺から人骨が出土している。甕棺は口縁部から胴部にかけて割られ、1/3程度のみが残存している状態である。甕棺内の北側から頭蓋骨片が出土している。頭蓋骨の南からは指骨、肋骨が数点出土している。また甕棺外から頭蓋骨後頭部が出土している。長管骨は全く残存していない。

このことから、本人骨の保存状態は良好ではないため、詳細な埋葬姿勢は不明である。改葬ないし削平に伴い、骨が取り去られ、その際に甕棺外に頭蓋骨の一部が取り残されたものと考えられる。

## 2. 形質的特徴

箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨の頭蓋骨各計測項目の基礎統計量は第7表に示す。近世江戸時代に関しては鈴木尚 (1985a,b) 以来、大名家や将軍など名前のわかる個人を中心に研究が進められてきた (馬場・坂上 2012)。近年、さらに庶民層と中流程度の武士層の形質の違いが明らかにされるなど、階層と形質の関連を中心に研究が展開している (Sakaue2012)。その中で、鈴木の一連の研究 (1967,1985a,b) において「典型的貴族形質」の特徴は以下のようにまとめられている。

- ① 低身長・大形の頭・短頭型または中頭型で長頭型ではない
- ② 顔高、上顔高の増大と顔幅の減少に基づく超狭顔型化
- ③ 前頭骨の頬骨突起の繊細化と垂直下垂
- ④ 高度の狭鼻型と高い鼻根の隆起、高く鋭い前鼻棘
- ⑤ 眼窩の高径、幅径の増大による入口面積の拡大、しばしば高眼窩型
- ⑥ 上顎骨の縮小：中顔幅の短縮、鼻棘点の後退、上顎歯槽突起のV字化、歯槽上溝の出現
- ⑦ 下顎骨体の縮小：歯槽下溝の出現、オトガイの強い突出、下顎枝の繊細化、咀嚼筋と咬力伝達機能の弱体化
- ⑧ 歯列の不整とかすかな歯冠咬耗

この形質的特徴は主として上下顎および咀嚼筋の弱体化を要因とする可能性が高く、その程度に応じて形質の発現に若干の差が生じると述べられている (鈴木 1967)。現在は、発掘個体数の膨大な江戸市中を主な対象として研究が進んでおり、庶民層と武士層の形質的違いも江戸市中における検討がなされるのみである。一連の研究で、武士階層における貴族形質の共有に関しては地域を超えて確認されつつあるが、庶民層の形質およびその地域差に関してはほとんど明らかになっていない。箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨はその点において、博多という地方の都市部に属し、被葬者も七星板を副葬される (齋藤ほか 2019) 等特異な点が指摘されており、この遺跡から出土した人骨の形質的特徴を明らかにすることは極めて重要である。以下、本遺跡出土人骨の形質的特徴を明らかにするため比較群との比較を行っていく。

### 頭蓋骨

#### 【男性】 (第7・8表)

頭蓋最大長は、186.3mmと比較集団の中では最大値を示し大きい。頭蓋最大幅は137.1mm、Ba-Br高は138.9mmといずれも中間的な値を示す。頭長幅示数 (73.7) は長頭、頭長高示数 (74.7) は中頭、

頭幅高示数（101.5）は狭頭で、脳頭蓋の形態は幅に対して長径と高径がやや大きく、上記①のような傾向を示さず、原田や天福寺など福岡県内の庶民層と同傾向を示す。

頬骨弓幅は136.7mm、中顔幅は101.9mmと相対的に大きく、顔高は124.4mm、上顔高は73.2mmと比較的大きい。コルマン顔示数（90.0）は高狭顔を示し、ウィルヒョウ顔示数（121.4）は正顔を示す。コルマン上顔示数（53.3）は中上顔を示し、ウィルヒョウ上顔示数（72.5）は低顔を示す。上顔高も高い値を示すが、幅径、特に中顔幅も大きいため、示数にすると低顔傾向となる。

眼窩は、眼窩幅が42.1mm、眼窩高が33.3mmと低い値を示すため、眼窩示数79.2の中眼窩である。

鼻型は、鼻幅26.0mm、鼻高が52.2mmで鼻示数は49.9と中鼻型であり、やや幅広い傾向を示す。また鼻根部は、鼻根彎曲示数が72.4と比較群中で小さい値を示し、やや高い鼻立ちである。

以上、男性の顔面頭蓋の形質的特徴を概観すると、脳頭蓋のシェイプは幅径が狭く、長径・高径が大きく、顔面形態はやや低顔で眼窩も鼻型も幅広く、鼻立ちは高いという特徴を示す。

#### 【女性】（第7・9表）

女性に関しては、計測可能な項目が複数あった個体がST72のみであったため、ST72のみの値を用いて比較を行う。頭蓋最大長175.0mm・頭蓋最大幅127.0mm、Ba-Br高133.0mmと、幅径が小さい。頭長幅示数（72.6）は長頭、頭長高示数（76.0）は高頭、頭幅高示数（104.7）は狭頭を示し、脳頭蓋は幅径に対し長径や高径が大きい傾向にある。

頬骨弓幅は123.0mm、中顔幅93.0mm、上顔高は64.0mmと、幅径がやや広く顔高は低い傾向を示す。コルマン顔示数（85.4）は中顔を示し、ウィルヒョウ顔示数（112.9）は低顔を示す。コルマン上顔示数（52.0）は中上顔を示し、ウィルヒョウ上顔示数（68.8）は低顔を示す。上顔高は低い値を示し、幅径、特に中顔幅もやや大きいため、低顔傾向を示すと言えよう。

眼窩の形は、眼窩幅が37.0mm、眼窩高が32.0mmで、眼窩示数は86.5で中眼窩であり、比較集団より眼窩の幅径・高径ともに小さい傾向を示す。

鼻型は、鼻幅は26.0mm、鼻高は47.0mm、鼻示数は55.3と広鼻であり、幅径が広い。また鼻根部は、鼻根彎曲示数が94.4と比較群中で大きい値を示し、やや低い鼻立ちである。

以上、女性（ST72）の頭蓋骨の形質的特徴を概観すると、脳頭蓋のシェイプは幅径が狭く、長径・高径が相対的に大きく、顔面形態はやや低顔で眼窩も鼻型も幅広く、鼻立ちは低いという特徴を示す。

### 頭蓋骨の比較分析

#### ・主成分分析

頭蓋9項目（頭蓋最大長・最大幅・Ba-Br高・頬骨弓幅・上顔高・眼窩幅・眼窩高・鼻幅・鼻高）を用いて男女それぞれ主成分分析を行った。男性の個体の分析に関しては頬骨弓幅ではなく中顔幅を用いている。

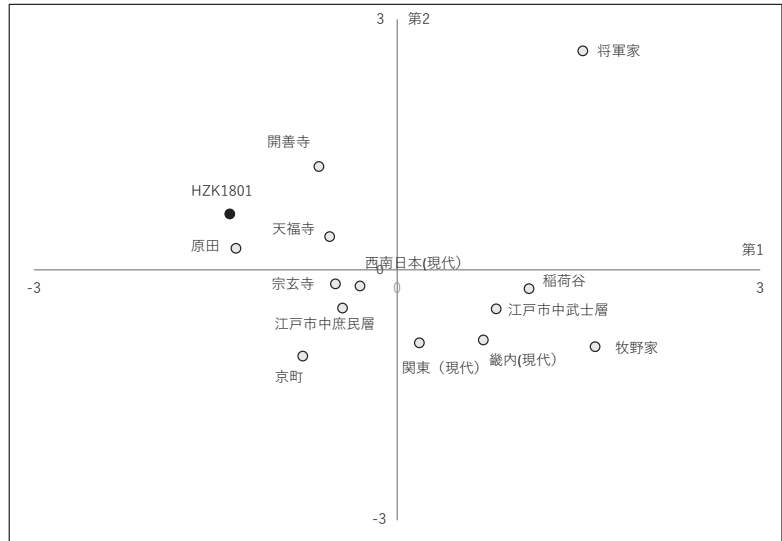
#### 【男性】

第一主成分（第1表 X軸：固有値3.65、寄与率40.56%）は、脳頭蓋は長径と、顔面部は頬骨弓幅と鼻幅と負の相関を、脳頭蓋の幅径と顔面部の高径・眼窩のサイズと正の相関を示す。第二主成分（Y軸：固有値2.15、寄与率23.91%）

第1表 男性頭蓋骨主成分分析集団間比較

	1	2
1最大長	-0.73	0.65
8最大幅	0.87	0.28
17バジオン・プレグマ高	0.11	0.74
45頬骨弓幅	-0.71	0.09
48上顔高	0.43	0.70
51眼窩幅 (L)	0.69	0.25
52眼窩高 (L)	0.78	0.29
54鼻幅	-0.54	-0.16
55鼻高	0.52	0.66
固有値	3.65	2.15
寄与率	40.56	23.91
累積寄与率	40.56	64.47

は鼻幅とのみ低い負の相関を、それ以外の項目と正の相関を示し、概してサイズファクターと考えられる。第一主成分を横軸に、第二主成分を縦軸にとり二次元展開した図が第34図である。縦軸で上に位置するほど頭蓋骨全体のサイズが大きい。横軸で右に位置すると顔面部の高径と眼窩のサイズが大きい傾向を示し、左に位置すると脳頭蓋と顔面部の幅径が大きいことを示す。



第34図 箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨 (男性) 主成分分析二次元展開図

箱崎遺跡 (HZK1801) 出土の男性人骨は、第2象限に位置し、顔面部の形態は原田や天福

寺、開善寺のような福岡県内の諸集団と類似する傾向を示し、江戸の武士層や畿内・関東の現代人集団とは形態的に異なる。サイズを示す縦軸ではなく、質的な違いを示す横軸に注目すると、第一主成分で正の値を示すのは関東と畿内の現代人と武士層、超現代的とも評される将軍・大名家である (鈴木1985a,b)。一方、江戸市中の庶民層 (早桶出土人骨) をはじめ、福岡県内の近世・近代の人骨はすべて負の値を示す。開善寺はその多くが武士で高・狭顔が指摘された集団であるが、江戸の大名・将軍家と比較するとその傾向は顕著ではないことがわかる。これは、「ほとんどが甕棺から出土したもの」(松下 2005) とするなかで、埋葬様式による区別を行わずに平均値化した結果、庶民層を一定程度含み込んでいる、あるいは武士は身分・階層の序列に従ってその特有の形質も傾斜することが指摘されており (Sakaue 2012)、江戸市中から遠く離れた地方武士層の特徴である可能性もあるだろう。

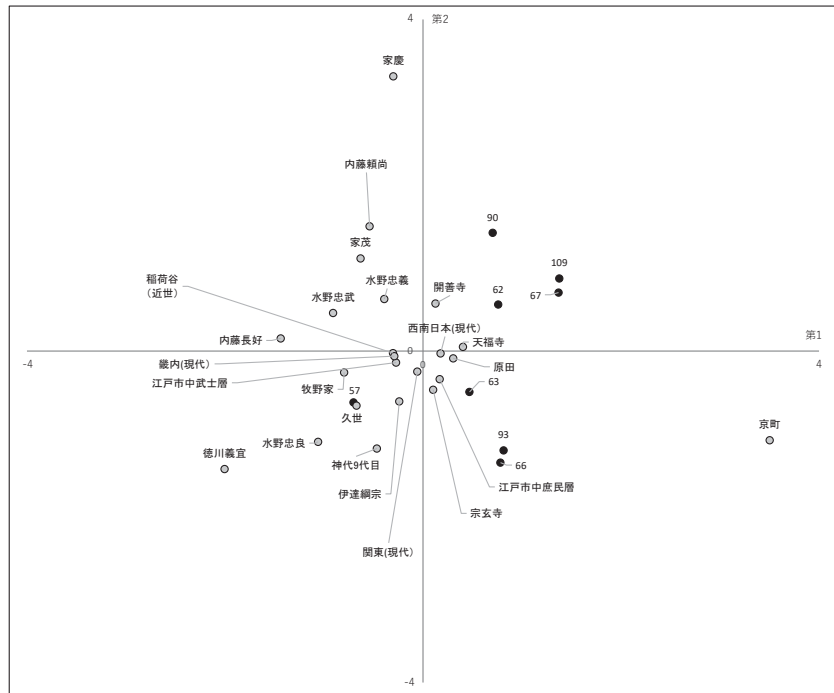
さらに、箱崎遺跡 (HZK1801) の男性は保存状態が良好な個体が多いため、個体を対象として主成分分析を行った (第35図)。個体数を最大とするため頬骨弓幅ではなく中顔幅を用いている。第一主成分 (第2表 X軸: 固有値1.95、寄与率21.70%) は、脳頭蓋では長径と高径と、顔面部は幅径と正の相関を、脳頭蓋の幅径と顔面部は高径と負の相関を示す。第二主成分 (Y軸: 固有値2.14、寄与率23.73%) は、中顔幅のみと負の相関を示すが、概してサイズファクターといえる。第一主成分を横軸に、第二主成分を縦軸にとり二次元展開した図が第35図である。第一主成分を示す横軸が頭蓋骨の質的な差を示す軸といえ、マイナスに武士層や将軍・大名が位置し、プラスに原田・天福寺・江戸市中庶民層・開善寺・宗玄寺が位置する。

第35図をみると箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨は ST57以外の6体は横軸で正の値を示し、脳頭蓋の長径と顔面部の幅径が相対的に大きいことがわかる。一方、ST57は第一主成分得点が負の値を示し、ほぼ久世と同じ位置である。

第2表 男性頭蓋骨主成分分析個体比較

	1	2
1最大長	0.52	0.63
8最大幅	-0.35	0.73
17バジオン・プレグマ高	0.14	0.85
46中顔幅	0.98	-0.07
48上顔高	-0.07	0.45
51眼窩幅	0.15	0.34
52眼窩高	-0.43	0.20
54鼻幅	0.59	0.00
55鼻高	-0.14	0.34
固有値	1.95	2.14
寄与率	21.70	23.73
累積寄与率	21.70	45.43

特徴としては、上顔高は77mmとやや高めであるが、同時に頬骨弓幅や中顔幅が相対的に狭い。そのため上顔示数や顔示数はすべて箱崎遺跡出土人骨内で最大を示す。眼窩と鼻腔は、眼窩示数が81.0で中眼窩型、鼻示数が48.1で中鼻型と概ね平均的である。この顔幅の減少は②と⑥の上顎骨の縮小を示し、ひいては下顎の脆弱化を示唆し、これらは咀嚼機能に起因すると考えられている（馬場・坂上2012）、いわゆる貴族形質形成の主要因と関連する可能性が高い。



第35図 箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨 (男性個体)  
主成分分析二次元展開図

これまで武士層以外にこのような形質が発現している事例が無いわけではなく、大野城市瑞穂遺跡出土人骨（米元・足達ほか 2022）や古野遺跡出土人骨（中井・米元ほか 2015）も、古野の場合保存状態の関係で上顔高を用いていないが、頭蓋形質が庶民層よりも武士層に近いという結果が得られている。例えば古野の場合は高原家の主な墓域であり、有力層であるがゆえに庶民層とは異なる交流があった可能性が高いことも想定することができるなど、大野城市内に出土するこれらの集団の歴史的経緯や、墓地を形成した集団の婚姻圏に何らかの特異性に起因する可能性を指摘している（米元・足達など 2022）。Sakaue (2012) においても指摘されているように、早桶に埋葬された庶民層の中にもいわゆる貴族形質を示す個体も存在することから、庶民層の形質のヴァリエーションの1つに過ぎない可能性もあるが、箱崎遺跡 (HZK1801) に埋葬された被葬者の身分・職能的な特異性に起因する可能性もあろう。なぜなら、箱崎遺跡からは七星板という副葬品が確認されている。七星板は現状類例がほとんどなく、対比しうる例としては黒田綱政墓や大阪・大念寺が挙げられるのみの稀有な副葬品である（齋藤ほか 2019）。しかし、ST57以外にも七星板を副葬する墓は存在し、そのうち頭蓋骨の計測が可能であった男性はST90とST109である。この2体は、ST57とは異なる、開善寺や天福寺と同じ象限に位置し（第35図）、七星板の副葬が貴族形質とイコールで結びつくわけではないことも指摘できる。ST90は柩目取りした桶の側板の転用、ST109は脆弱で詳細の確認が不明であったとされており、ST57出土の例（B類）（齋藤ほか 2019）と全く同じではないことには注意が必要かもしれないが、副

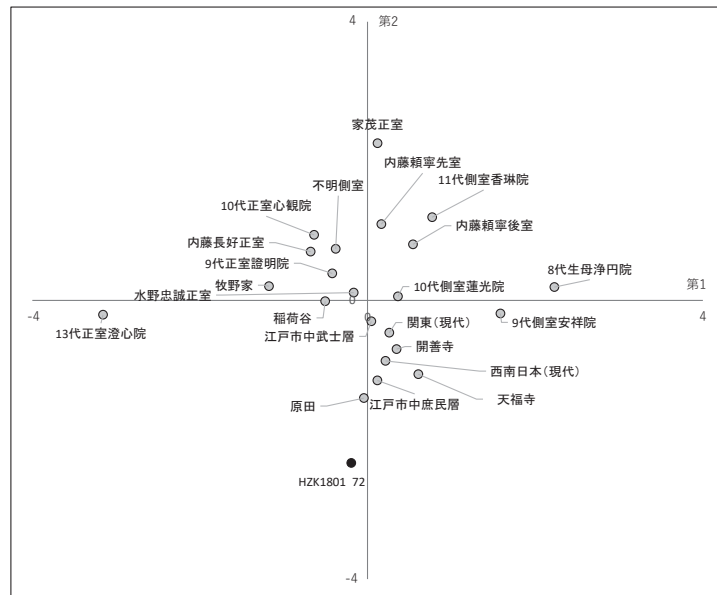
第3表 女性頭蓋骨主成分分析

	1	2	3	4
1最大長	0.67	-0.25	-0.46	0.50
8最大幅	0.47	0.81	0.11	0.29
17バジオン・プレグマ高	0.63	0.25	-0.53	-0.51
45頬骨弓幅	0.89	-0.31	0.32	-0.07
48上顔高	0.54	0.36	0.55	-0.26
51眼窩幅 (L)	0.70	0.10	0.05	-0.02
52眼窩高 (L)	-0.37	0.65	0.12	0.16
54鼻幅	0.55	-0.32	-0.10	0.20
55鼻高	0.52	0.52	0.13	0.07
固有値	3.34	1.81	0.95	0.74
寄与率	37.15	20.10	10.58	8.17
累積寄与率	37.15	57.24	67.82	76.00

葬品における ST57 の卓越性は現状不明である。この点に関しては今後の検討を要する。

【女性】

女性は ST72 のみを用いている。第一主成分 (第 3 表 X 軸: 固有値 3.34、寄与率 37.15) は眼窩高以外と正の相関を示し、サイズファクターと考えられる。第二主成分 (Y 軸: 固有値 1.81、累積寄与率 20.10) は主に脳頭蓋の幅径と高径、顔面部の高径と眼窩のサイズと正の相関を示し、脳頭蓋の長径、頬骨弓幅と鼻幅と負の相関を示すことから、図の上方に位置するほど脳頭蓋の幅径が大きく、顔面部は高い傾向があり、図の下方に位置するほど低顔であることを示している。第一主成分を横軸に、第二主成分を縦軸にとり二次元展開した図が第 36 図である。



第36図 箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨 (女性) 主成分分析二次元展開図

箱崎遺跡 (HZK1801) 出土 ST72 の女性は、第三象限に位置し、原田や天福寺などの福岡県内の各集団や江戸市中庶民層の頭蓋形質と類似し低顔傾向を示す。この点は、ST57 の特異性を強調するものである。

【主成分分析まとめ】

男性も女性も、概して福岡県内の近世・近代に属する集団、原田や天福寺、江戸市中の庶民層と類似する頭蓋形質を示すことがわかる。特に顔面部の幅径が相対的に大きい傾向があり、武士層が示すような高狭顔傾向をもたない。江戸市中出土の早桶に埋葬された庶民層の形質が京町や箱崎 (HZK1801) や原田・天福寺と形質としては類似し、武士層とは異なることから、庶民層も地域を越えて共通する形質を有し、階層による違いが顕現している可能性が高いのではないかと考えられる。例えば弥生時代のように、高顔・高身長 of 北部九州地域と低顔・低身長 of 南九州、あるいは東日本へと高顔・高身長のいわゆる渡来形質は弱まっていくことが知られている (Doi and Tanaka1987) が、江戸の庶民層と福岡県原田や天福寺、箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨の類似から、このような地域性は近世・近代においては明瞭ではないと言えよう。近世・近代における形質的な地域性の減少は、他地域における検出例の少なさに一部起因するが、武士層が形成するいわゆる貴族形質の極端な特殊性を主要因とするだろう。すなわち貴族形質の共通性が強固であるために、これらと比較すると庶民層の地域的な差が検出されにくくなるのではないかと考えるのである。しかし、庶民層の相対的な顔幅・鼻幅が広く、脳頭蓋は長径が大きく長頭に寄るといった傾向が地域を超えて共通することも確かであろう。この点は、それ以前の低顔・低身長 of 南九州、あるいは東日本へと高顔・高身長のいわゆる渡来形質は弱まっていく弥生時代とは傾向を異にし、おそらく戦国時代以降江戸時代において形成された傾向であろう。

しかし ST57、さらには古野遺跡出土人骨 (中井・米元ほか 2015) や瑞穂遺跡出土人骨 (米元・

足達ほか 2022) のような例外も存在する。この点に関しては、箱崎遺跡に埋葬された被葬者の身分・職能的な特異性に起因する可能性があり、考古学的な検討結果を待ちたい。

#### 四肢

【男性】(第10・11表)

上肢(第10表)

・上腕骨：最大長は301.4mm、中央周や最小径・最大径も比較群中で大きい。最小周も大きいため、全体として頑丈な傾向を示す。

・橈骨：最大長、横径、矢状径のいずれも中程度の値を示す。最小周がやや大きいため、全体として頑丈な傾向を示す。

・尺骨：最大長、横径、矢状径のいずれも中程度の値を示す。最小周がやや大きいため、全体として頑丈な傾向を示す。

下肢(第11表)

・大腿骨：最大長が左側423.5mm、右側420.6mmと比較群中では大きい傾向にある。中央周も87.9mmと大きく、長くて太い傾向を示すが、中央断面示数が96.9と横径と矢状径の値が近く、断面形状からみると柱状性や粗線の後方への突出は顕著ではない。上骨体断面示数は75.7とやや小さく、骨体上横径が大きい傾向を示す。大殿筋の発達が明瞭ではないことを示すと考えられる。

・脛骨：全長・最大長は341.3mm・341.5mmと大腿骨と同様に比較群中では大きい傾向にある。中央最大径・中央横径・栄養孔位最大径・栄養孔位横径も大きく、中央周・最小周・栄養孔位周も比較群中で大きい値を示す。大腿骨と同様に長くて太い傾向を示す。中央断面示数は比較群中において小さめの値を示し、脛骨の扁平性が強く、ヒラメ筋線の発達も明瞭であることを示す。

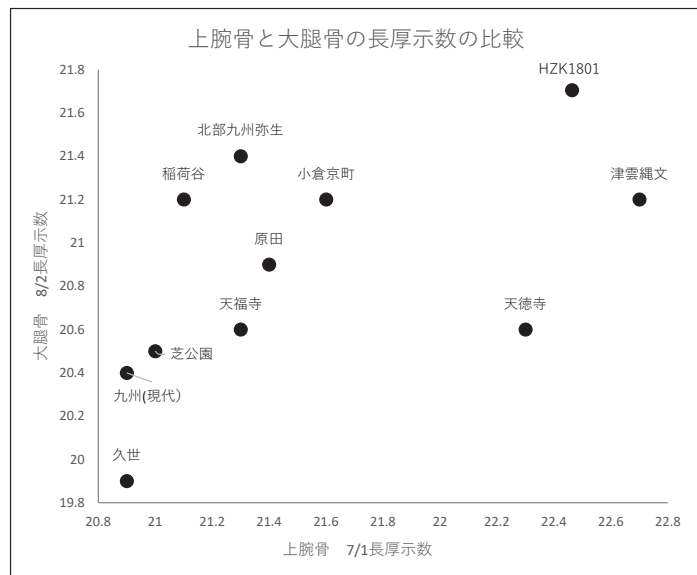
上肢と下肢の比較(第37図)

男性の四肢骨の長さとの関係から頑丈性の検討を行うため、上腕骨と大腿骨の長厚示数を二次元プロットした図が第37図である。本分析においては津雲縄文(清野・平井 1928)と北部九州弥生人(中橋・永井 1989)の値も用いている。第37図において明らかであるのは、箱崎遺跡(HZK1801)出土人骨は上腕骨・大腿骨ともに長径に比して周径が大きいことである。江戸時代の各集団と比べると箱崎遺跡出土人骨の上腕骨と大腿骨の頑丈性は明らかであり、四肢骨の長径が短く周径(特に上腕)が大きい津雲縄文時代人と比べても遜色なく、また大腿骨中央周の大きさが顕著である。

【女性】(第12・13表)

上肢(第12表)

・上腕骨：最大長は右側の値のみであるが260.0mmと中程度の値を示す。中央最大径20.6mmは比較集団中で最大であり、最小径15.7mmは中程度である。最小周55.8mmと比較的大きく、中央周



第37図 箱崎遺跡(HZK1801)出土人骨(男性)の上腕骨と大腿骨の長厚示数の単変量比較

61.6mm も最大である。そのため、比較集団中では頑丈な特徴を示す。

- ・ 橈骨：最大長が195.0mm、横径・矢状径は中程度の値を示すが、最小周は比較集団中で最大である。
- ・ 尺骨：最大長が214.0mm、横径は中程度の値を示すが、矢状径・最小周は比較的大きい。

下肢 (第13表)

・ 大腿骨：最大長が右側379.0mm と比較群中ではやや大きい傾向を示す。中央断面示数は97.9、上骨体断面示数は71.4と小さい。矢状径に対して横径がやや大きい傾向が指摘される。粗線の後方突出は弱く、殿筋粗面の発達も不明瞭であることがわかる。しかし、中央周が77.0mm と大きいため全体的に太くて長く頑丈な傾向を示す。

・ 脛骨：最大長が右側275.0mm と比較集団中で小さい値を示す。中央断面示数は67.5、栄養孔位断面示数は70.3と、いずれも小さめの値を示し、脛骨の扁平性はやや強く、ヒラメ筋線の後方への突出も明瞭である。

- ・ 腓骨：最小周が30mm と比較集団中で中程度の値を示す。

身長比較 (第4・5表)

大腿骨最大長に Pearson と藤井の身長推定式を適用して身長を算出した。男性の推定身長は160.9cm (Pearson 式)、159.4 (藤井式左側) である (第4表)。女性の推定身長は、145.9cm (藤井式右側) である (第5表)。大腿骨の長さから推定した身長は比較集団中で最大であり、江戸時代、特に市中の比較集団中よりはやや大きい。女性は江戸市中の各集団と比較すると平均的な値を示す。

平本 (1972・2004) は、縄文時代から明治までの身長の変化を検討した結果、古墳時代から近世にかけて平均身長が低くなっていく傾向を指摘し、さらに江戸時代の平均身長は、近代初期と同程度で、日本の歴史上最も低いと指摘している。しかし、箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨の特に男性に関してはやや平均より高い傾向がみられる。男性に関しては原田や席田青木も同様の傾向を示し、大野城市瑞穂遺跡出土人骨 (米元など 2022) も同様に推定身長が高い傾向を示した。平本 (2004) の値は江戸市中の、特に一橋高校遺跡を主体としたものであり、地方にまで低身長化の影響は及んでいない可能性もある。箱崎遺跡の被葬者の居住域や集団の特性に関しては議論が必要であるが、筑紫野市原田遺跡 (原田村) や大野城市瑞穂遺跡 (瓦田村) も同様に高身長であることから、少なくとも福岡県

第4表 推定身長の比較 (男性)

男性	n	M		
		(Pearson 式)	(藤井式)	
HZK1801	L	4	160.9	159.4
	R	8	-	158.8
古野 (SX36)	(近世)	1	158.8	156.6
天福寺 <sup>1)</sup>	(近世)	24	159.4	157.4
原田 <sup>2)</sup>	(近世)	30	160.4	158.7
稲荷谷 <sup>3)</sup>	(近世)	12	157.9	155.4
席田青木 <sup>4)</sup>	(近世)	30	160.2	158.5
八丁堀三丁目 II <sup>5)</sup>	(近世)	13	159.3	157.3
天徳寺 <sup>6)</sup>	(近世)	37	157.7	155.2
芝公園 <sup>6)</sup>	(近世)	15	160.6	159.0
九州 <sup>7)</sup>	(現代)	59	157.7	155.2

1) 中橋 (1987)、2) 中橋・土肥 (2008)、3) 岡崎ほか (2004)、4) 中橋 (1993)、5) 梶ヶ山・馬場 (1993)、6) 加藤 (1991)、7) 阿部 (1957)  
\*比較集団の身長は平均値より算出。

第5表 推定身長の比較 (女性)

女性	n	M		
		(Pearson 式)	(藤井式)	
HZK1801	L	-	-	
	R	1	145.9	
天福寺 <sup>1)</sup>	(近世)	18	146.9	146.5
原田 <sup>2)</sup>	(近世)	12	147.3	147.0
稲荷谷 <sup>3)</sup>	(近世)	8	147.1	146.8
席田青木 <sup>4)</sup>	(近世)	15	148.5	148.5
八丁堀三丁目 II <sup>5)</sup>	(近世)	6	142.9	141.8
天徳寺 <sup>6)</sup>	(近世)	19	145.6	145.1
芝公園 <sup>6)</sup>	(近世)	13	147.2	147.0
将軍家 (成人) <sup>7)</sup>	(近世)	8	146.2	-
九州 <sup>8)</sup>	(現代)	13	146.8	146.4

1) 中橋 (1987)、2) 中橋・土肥 (2008)、3) 岡崎ほか (2004)、4) 中橋 (1993)、5) 梶ヶ山・馬場 (1993)、6)・7) 加藤 (1991)、8) 阿部 (1957)、6) 馬場・坂上 (2012) \*比較集団の身長は平均値より算出。

下においては、都市や農村部の集団構成の違いによるものではないだろう。江戸時代における東西の栄養状態の違い（速水 2000）に起因する可能性と、あるいはサンプリングバイアス、すなわち一橋高校遺跡から算出された江戸市中の推定身長が極端に低かったという可能性も現状は捨てきれない。一方、箱崎遺跡出土人骨は上腕骨と大腿骨の周径も大きく、太く頑丈であるという特徴を有する。高身長という傾向は福岡県内出土の近世・近代の人骨に共通する傾向ともいえるが、周径については他集団よりも顕著である。これは箱崎遺跡を墓地とした集団の職業的な特性による可能性が高いのではないかと考えられよう。この点については、今後遺跡を形成した人々に関する考古学的な見解を待ちたい。

## おわりに

箱崎遺跡（HZK1801）出土の近世人骨についてその出土状況をまとめると以下のとおりである。

本遺跡においては、坐葬および仰臥屈葬が認められる。このうち坐葬の躯体正面に関しては、躯体正面の明らかな30例中、北から西を指向している事例が18例と全体の6割に上り、基本的に北から西を主としている。このように特定の方角を指向して墓を作った可能性が高い事例が、箱崎遺跡近在の福岡県下で発掘された近世墓においても幾つも見られる。先行研究においては、近世墓における躯体正面や顔面の向きに関しては、墓道との関連（井汲 1991）や中世以来の宗教的意味合いが指摘されている。今後同時代・地域の類例を比較し本遺跡における埋葬姿勢の特性を明らかにしたい。

また本遺跡では、埋葬後の遺体の二次的な移動に関しては、①人骨が持ち去られた改葬と考えられる事例、②人骨の持ち去りは見られないものの墓を再開し遺体を操作している事例、③本来の埋葬場所から移動され別の場所に埋置された事例が見られる。これらに関しても、儀礼的行為／非儀礼的行為双方の可能性から行為の復元を行う必要があるだろう。

形質的特徴をまとめると以下のとおりである。

- 男性の頭蓋形質は、上顔高は73.2、上顔示数（K）・上顔示数（V）は53.3・72.5とやや低く、眼窩のサイズはやや小さめ、鼻型は幅広の傾向を示す。
- 女性の頭蓋形質は、上顔高は64.0、上顔示数（K）・上顔示数（V）は52.0・68.8とやや低く、眼窩や鼻型なども幅広の傾向を示す。
- 男性と女性の頭蓋形質の傾向は共通しており、男女ともに福岡県内の各集団や江戸市中庶民層と共通する。しかし、個体ごとの特徴をみていくとST57のみ傾向が異なり、高狭顔傾向を示す。このように、庶民階層に属する集団・個体の形質がいわゆる貴族形質に類するという傾向は、大野城市内では、古野遺跡出土の男性や瑞穂遺跡出土の男性にも確認されている。例えば古野遺跡の場合は高原家の主な墓域であり、有力層であるがゆえに庶民層とは異なる交流があった可能性が高いことが想定されており、箱崎遺跡ST57の男性に関しても、何か特殊な歴史的背景がある可能性も考えられる。多様な形質を有していたであろう近世・近代の庶民層のヴァリエーションの1つにすぎない可能性もあるが、箱崎遺跡から出土した集団の身分や職能について何らかの特異性があった可能性も十分考えられよう。
- 身長は男性160.9cm（Pearson式）159.4cm（藤井式）、女性145.9cm（藤井式）であり、男性については江戸市中出土人骨の平均と比較するとやや高身長であるが、筑紫野市原田遺跡出土人骨の推定身長とは近似している。

- 上腕骨と大腿骨に関しては、周径が他集団より顕著に大きく、太く頑丈な傾向を示す。この点については、同時代の他集団とは明らかに異なる傾向であり、箱崎遺跡の墓地を形成した集団の職業的な特性に起因する可能性がある。

## 謝辞

人骨の発掘および本報告を行うにあたり、九州大学埋蔵文化財調査室の三阪一徳氏（現：岡山理科大学）、石川健氏（現：大野城市教育委員会）、齋藤瑞穂氏（現：神戸女学院大学）、福永将大氏（現：九州大学総合研究博物館）、谷直子氏に多くのご配慮を賜りました。深謝いたします。

また、本出土人骨の発掘作業に従事した地球社会統合科学府（当時）の冨田啓貴（現：広島県立歴史博物館）・Jeremy Dunin、クリーニング作業に従事した地球社会統合科学府の中野真澄・Ferrero Ciralie、人文科学府考古学研究室所属（2020年当時）の田中佑希乃・唐尚暉・永島さくら・諸岡初音・進藤奈々穂・今村竜平・矢崎空音・瀧内更朝・田渕朱莉・松村祐奈・栗原悠里子・藤岡実優・野村華鈴・渡邊響・共創学部所属（2020年当時）の筒井優菜・有尾緒美・米山玲緒・佐々木真子・田代魁斗・湊姫に感謝いたします。

## 参考文献

- 馬場悠男（1991）人体計測法 II 人骨計測法. 人類学講座別巻1, 雄山閣出版.
- 馬場悠男・坂上和弘（2012）第4章第1節寛永寺徳川將軍親族遺体の形態学的研究. 寛永寺谷中徳川家近世墓所調査団編, 東叡山寛永寺徳川將軍家御裏方霊. 吉川弘文館. pp. 223-394.
- Buikstra J.H. and Ubelaker D.H. (1994) Standards for Data Collection From Human Skeletal Remains. Fayetteville, Arkansas :Arkansas Archaeological Survey Report Number44.
- Brooks S. and Suchey J.M. (1990) Skeletal age determination based on the os pubis: A comparison of the Acsadi-Nemeskeri and Suchey-Brooks methods. *Human Evolution* 5, pp.227-238.
- Doi Naomi and Tanaka Yoshiyuki. 1987. A Geographical Cline in Metrical Characteristics of Kofun Skulls Western Japan. *人類学雑誌* 19-3
- 速水融（2000）歴史人口でみた日本 文春新書.
- 平本嘉助（1972）縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代変化 *人類誌*, pp.221-236.
- 平本嘉助（2004）江戸時代人の身長と棺の大きさ. 江戸遺跡研究会編, 墓と埋葬と江戸時代, 吉川弘文館, 東京, pp.201-223.
- 原田忠昭（1954）西南日本人頭蓋骨の人類学的研究 *人類学研究*1, pp.11-51.
- 井汲隆夫（1991）内部施設と葬法. 発昌寺跡, 新宿区南元町遺跡調査会. 東京, pp.135-138.
- 欠田早苗（1959）畿内人頭蓋骨の人類学的研究—現代畿内人骨と江戸時代後期墳墓骨について—. *人類学輯報*25, pp.53-83.
- 加藤征（1991）江戸時代人骨の形質に関する人類学的研究. 平成2年度科学研究費補助金一般研究B研究成果報告.
- 川久保善智・澤田純明・大野憲五・竹下直美・隅康二・埴原恒彦（2011）第7章1：東畑瀬遺跡9区から出土した人骨について. 東畑瀬遺跡3 東畑瀬遺跡6G・7・9区—嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6一, pp.218-239.
- 河本美夫（1959）久世家歴代の頭骨に就いて 第2部頭蓋観察 *人類学研究* 6, pp.341-400.
- 清野謙次・宮本博人（1926）「津雲貝塚人骨の人類学的研究 第2部 頭蓋骨の研究」『人類学 雑誌』41
- 九州大学医学部解剖第二講座編（1988）日本民族・文化の生成2. 九州大学医学部解剖第二講座所蔵個人骨資料集成, 六興出版.
- Lovejoy C.O., Meindl R.S., Pryzbeck T.R., Mensforth R.P. (1985) Chronological metamorphosis of the auricular surface of the ilium: a new method for the determination of adult skeletal age at death. *American Journal of Physical Anthropology*, 68, pp.15-28.

Martin, R., Saller, K. (1957) Lehrbuch der anthropologie. Fischer, Stuttgart.

森田茂 (1950) 関東地方人頭蓋骨の人類学的研究. 東京慈恵医科大学解剖学教室業績集 3, pp.1-54.

中橋孝博・永井昌文 (1989) 「弥生人の形質, 男女差, 寿命」『弥生文化の研究1』雄山閣出版.

中橋孝博・土肥直美 (2008) 原田第1・2・40・41号墓地出土の近世人骨. 原田第1・2・40・41号墓地下巻, 筑紫野市教育委員会.

中井歩・福永将大・米元史織・岩橋由季・谷澤亜里・早川和賀子・舟橋京子・足立達朗・中野伸彦・小山内康人・田中良之 (2015) 古野遺跡第2次調査出土近世人骨について. 大野城市教育委員会編, 乙金区画整理地内埋蔵文化財調査報告書 乙金遺跡群—古野第2遺跡調査—

小野千吉郎 (1957) 久世家歴代の頭骨に就いて 第一部頭蓋計測 人類学雑誌95, pp.89-106.

岡崎健治・重松辰治・舟橋京子・石川健・田中良之 (2004) 稲荷谷近世墓地群から出土した近世人骨. 国道502号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書, pp.262-323.

大川市教育委員会編 (1997) 大川市文化財調査報告書4:西新開遺跡, 大川市教育委員会.

大野城市教育委員会編 (2017) 薬師の森遺跡第43次・善一田遺跡第6・7次・古野遺跡第7次調査. 大野城市文化財調査報告書第146集・乙金第二土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書19・乙金地区遺跡群19, 大野城市教育委員会.

Sakaue K (2006) Application of the Suchey-Brooks system of pubic age estimation to recent Japanese skeletal material. Anthropol Sci 114:59-64.

Sakaue K (2012) Craniofacial Variation among the Common People of the Edo Period. Bull Natl Mus Nat Sci, Ser D 38:39-49.

齋藤瑞穂, 三阪一徳, 舟橋京子, 石川健, 谷直子, 富田啓貴, 宮本一夫 (2019) 近世甕棺と七星板—福岡市箱崎遺跡(九州大学箱崎キャンパス HZK1801地点)の調査成果—, 日本考古学協会第85回総会.

坂田邦洋 (1996) 比較人類学. 青山社.

鈴木尚 (1985a) 骨は語る 徳川将軍・大名家の人びと. 財団法人東京大学出版.

鈴木尚 (1985b) 江戸時代における貴族形質の顕現. 人類学雑誌93 (1), pp.1-32.

谷川章雄 (2004) 江戸の埋葬施設と副葬品. 江戸遺跡研究会編, 墓と埋葬と江戸時代, 吉川弘文館, 東京, pp.224-250.

栃原博 (1957) 日本人歯牙の咬耗に関する研究. 熊本医学会雑誌, 31.

Ubelaker, D.H. (1989) Human Skeletal Remains: Excavation, Analysis, Interpretation (2nd Edition). Washington, D.C.: Taraxacum.

米元史織・高椋浩史・李ハヤン・岩橋由季・谷澤亜里・早川和賀子・中井歩・舟橋京子・田中良之 (2013) 自然化学分析—福岡県大野城市原口遺跡第4次調査B区出土近世人骨について—, 乙金地区遺跡群7～原口遺跡第1～4次調査—大野城市教育委員会.

第6表 HZK1801出土人骨一覧

遺構番号	人骨所見				出土情報						
	保存状態	年齢	性別	備考	葬法	頭位	躯体正面	姿勢	改葬	改葬部位	
ST01	△	成年	男性	火葬骨(別個体)の混入	土壇墓(木棺?)	不明	不明	不明	不明		
SK02	△	小児	判定不能								
ST14	△	若年後半以上	不明								
SX36	△	不明	不明								
SX36周辺	△	不明	不明	火葬骨(頭蓋骨片、大腿骨の骨体部の一部、長管骨の一部、肋骨片)							
SX37	△	不明	不明								
ST40	○	若年	男性		甕棺	東	西	立膝坐葬	有り	左前腕	
ST40棺外	△	成人	不明		不明	不明	不明	不明	不明		
SX45	△	成年—熟年	女性								
SX45周辺	△	不明	不明								
ST46	△	成年	不明	別個体(火葬骨)の混入	不明	北東	不明	不明	有り	頭蓋・骨盤・四肢	

I 箱崎遺跡 (HZK1801地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質の特徴

遺構	人骨所見				出土情報					
	保存状態	年齢	性別	備考	葬法	頭位	躯体正面	姿勢	改葬	改葬部位
ST47	△	成人	不明	下顎乳犬歯および別個体(火葬骨)の混入	土壇墓(木棺?)	不明	不明	不明	不明	
SK53	△	成人	不明		不明	不明	不明	不明	不明	
ST57	◎	成年	男性	下部胸椎に Lipping あり	甕棺	南西	北東	坐葬	再開口	
ST58	○	成年前半	女性		甕棺	南西	北東	胡座坐葬	有り	頭蓋
ST59	△	成年	女性?		方形木棺	東	西	坐葬		
ST60	△	成年	男性	骨膜炎の所見あり	長方形木棺	北	—	仰臥屈葬	無し	
ST61	◎	熟年	女性	胸椎に Lipping あり	甕棺	南	南東	立膝坐葬	無し	
ST62	◎	老年	男性	第5腰椎が仙椎化 仙腸関節癒合	甕棺	北東	南西	胡座坐葬	無し	
ST63	◎	老年	男性		甕棺	南	北	坐葬	再開口	
ST64	◎	老年	女性	下顎右犬歯にエナメル質減形成	甕棺	南東	北西	坐葬	無し	
ST65	◎	老年	男性	右寛骨の寛骨臼と右大腿骨の骨頭が 変形 右大腿骨骨体に骨折	甕棺	南東	北西	胡座坐葬	無し	
ST66	◎	老年	男性	仙腸関節癒合 上顎中切歯唇側面にエナメル質減形成	甕棺	北東	南西	坐葬	無し	
ST67	◎	老年	男性		甕棺	東	西	立膝坐葬	無し	
ST70	○	幼児	判定不能		甕棺	不明	不明	不明	再開口	
ST71	◎	老年	男性	胸椎・腰椎に重度 Lipping	甕棺	北東	南西	立膝坐葬	無し	
ST72	◎	成年後半	女性	下顎切歯歯石沈着	甕棺	南	北	胡座坐葬	無し	
ST73	△	乳児	判定不能	別個体の長管骨片が混入	甕棺	東	西	坐葬	無し	
S75	△	成年	女性	前耳状溝あり	不明	不明	不明	不明	不明	
ST76	△	熟年以上	不明		不明	不明	不明	不明	不明	
ST78	△	熟年	女性	前耳状溝あり	甕棺	北東	南西	不明	有り	頭蓋・左右上腕・左右下肢
ST81	△	成年	不明	別個体(火葬骨)混入	甕棺	不明	不明	不明	有り	頭蓋・骨盤・四肢
ST83	△	老年	女性		土壇墓(木棺?)	南西	北西	立膝坐葬	無し	
SX84	△	成年	不明							
ST86	◎	熟年	男性	第5腰椎の仙椎化。仙腸関節癒合	甕棺	南	北	立膝坐葬	再開口	
ST87	△	小児	判定不能	下顎左犬歯にエナメル質減形成 別個体と考えられる下顎右第2大臼歯が遺存	甕棺	南	北	立膝坐葬	無し	
ST87周辺	△	熟年	不明							
SX88	△	成人	不明							
ST89	△	若年後半~成年前半	女性		甕棺	南西	東	坐葬	不明	
ST90	◎	老年	男性		甕棺	西	東	胡座坐葬	無し	
ST91	△	成年	女性	脛骨に骨膜炎。別個体(火葬骨)混入	甕棺	北	南西	坐葬	不明	
ST92	△	熟年以上	男性	別個体(火葬骨)混入	甕棺	不明	不明	坐葬?	有り	
ST93	◎	老年	男性	椎骨 Lipping あり	甕棺	東	西	立膝坐葬	無し	
ST94	△	成人	不明	左脛骨にげっ歯類の噛み跡						
ST95	◎	熟年以上	女性		甕棺	北	南	立膝坐葬	無し	
ST96	△	成人	男性							
ST97	◎	老年	男性	頸椎・胸椎 Lipping あり。腰椎骨折の可能性。 左鎖骨骨折。脛骨に骨膜炎あり	甕棺	東	西	坐葬	有り	躯幹骨・骨盤
SX99	△	成年	不明							
SX100	△	成年	不明							
ST101	△	成年	女性		土壇墓(木棺?)	西	南	不明	不明	
ST102	△	成年	不明	上顎犬歯にエナメル質減形成	甕棺	北東	南西	坐葬	有り	右上肢・躯幹骨
ST103	△	成年	男性	右鎖骨骨折の可能性	甕棺	不明	不明	不明	不明	
SX104	△	不明	不明							
SX106	△	成人	不明	別個体(火葬骨)混入						
ST107	△	熟年	女性	胸椎に Lipping あり	甕棺	不明	不明	坐葬?	不明	
ST108	△	不明	不明		甕棺	不明	不明	坐葬?	不明	
ST109	◎	熟年	男性		甕棺	南	北	坐葬	再開口	
ST110	△	不明	不明	別個体(火葬骨)混入						
SK111	△	熟年	不明							

遺構	人骨所見				出土情報					
	保存状態	年齢	性別	備考	葬法	頭位	躯体正面	姿勢	改葬	改葬部位
ST112	△	不明	不明							
SX113	△	不明	不明							
ST114	△	熟年	不明		土壌墓（木棺?）	不明	不明	不明	不明	
ST115	△	熟年	不明							
ST117	△	不明	不明							
ST119	△	不明	不明							
ST120	△	不明	不明		土壌墓（木棺?）	不明	不明	不明	不明	
ST122	△	成年	不明		土壌墓（木棺?）	東	西	立膝坐葬 もしくは 仰臥屈葬	無し	
ST122別個体	△	不明	不明	右脛骨に齧歯類による噛み痕あり	土壌墓（木棺?）	不明	不明	不明	不明	
ST124	△	不明	不明							
ST126	△	熟年一老年	男性		甕棺	南東	西	坐葬	無し	
ST126別個体	△	老年	女性							
ST127	○	幼児	判定不能		甕棺（小型）	不明	西	坐葬	無し	
ST128	△	老年	不明		土壌墓（木棺?）	不明	不明	不明	不明	
ST129	△	成年後半	不明		方形木棺	南東	北西	坐葬	無し	
ST130	△	成人	男性?		土壌墓（木棺?）	不明	不明	不明	不明	
SK131	△	不明	不明	別個体（火葬骨）混入						
SX132	△	熟年	男性	別個体（上顎左第1大白歯）の混入						
ST134	△	成年一熟年	不明		土壌墓（木棺?）	不明	不明	不明	不明	
ST135	△	成人	不明							
SK136	△	不明	不明							
ST137	△	不明	不明							
ST138	○	成年一熟年	男性		土壌墓（木棺?）	北東	—	仰臥屈葬	無し	
SK139	△	若年一成年前半	不明							
SK140	△	不明	不明	別個体（火葬骨）混入						
ST141	△	若年	女性		甕棺	南東	北西	立膝坐葬	無し	
ST141別個体	△	熟年	不明							
SK143	△	不明	不明	火葬骨含む						
SK144	△	不明	不明	別個体（火葬骨：橈骨片・左寛骨片）混入						
ST145	△	若年一成年前半	不明	別個体（火葬骨：肋骨片および非火葬骨：大腿骨頭など）混入						
SK146	△	成年	女性?							
ST147	△	不明	不明							
ST148	△	不明	不明	別個体（火葬骨：頭蓋骨片）混入						
ST149	△	成年	女性							
SK150	△	未成人	不明							
ST152	△	若年一成年前半	不明		甕棺	不明	不明	不明	不明	
ST01	△	成人	不明							
SK02	△	不明	不明	右上腕骨・左腓骨に齧歯類による噛み跡あり						
SP06	△	不明	不明							
SX24	△	若年一成年前半	不明							
SX26	△	不明	不明							
SX43の下	△	不明	不明	火葬骨	不明			不明	不明	
SK48一括 (4面より下)	△	不明	不明							
SK48一括	△	成人	不明							
SK53	△	成人	不明							
HZK1602（応用化学第3地点）										
ST01	△	幼児	不明		甕棺					
ST02	△	成人	男性		甕棺					
ST03	△	熟年	男性		甕棺					

I 箱崎遺跡 (HZK1801地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質の特徴

第7表 箱崎遺跡 (HZK1801) 出土人骨計測値一覧 (単位: mm)

Martin No		57	62	63	65	66	67	71	86	90	93	97	109	138	61	72	95
		男性 熟年	男性 老年	男性 老年	男性 老年	男性 熟年後半-老年	男性 老年	男性 老年	男性 老年	男性 熟年	男性 老年	男性 老年	男性 老年	男性 熟年	男性 成年-熟年	女性 熟年	女性 成年後半
M1	頭蓋最大長	179	189	180	191	184	190	186	182	192	178		190	195	178	175	175
M8	頭蓋最大幅	135	140	135	137	133	136	139	136	143	135	141	135		133	127	135
M17	Ba-Br 高	135	138	141		128	144		135	144	133	146	145		132	133	
M8/1	頭長幅示数	75.4	74.1	75.0	71.7	72.3	71.6	74.7	74.7	74.5	75.8		71.1		74.7	72.6	77.1
M17/1	頭長高示数	75.4	73.0	78.3		69.6	75.8		74.2	75.0	74.7		76.3		74.2	76.0	
M17/8	頭幅高示数	100.0	98.6	104.4		96.2	105.9		99.3	100.7	98.5	103.5	107.4		99.2	104.7	
M5	頭蓋基底長	104	99	100		103	102		106	108	114		105			95	
M9	最小前頭幅	91	90	92	94	133	96	98	95	100	89		92		89	127	87
M11	両耳幅				124		125	124			131	125	126			113	116
M12	最大後頭幅																
M23	頭蓋水平周	515	532	522		517	529		524		519						
M24	横弧長	314	321	321		297	318		321		307						
M25	正中矢状弧長	270		299					275								
M40	顔長	95	108	98		105	100		96	100	99		101			95	
M43	上顔幅	103	109	103		105	110		104	110	109		106			98	
M44	两眼窩幅	97	95	96		97	99	98	97	100	103	101	97			91	
M45	頬骨弓幅	129		134	137	135	138		139	140	140		138		124	123	
M46	中顔幅	91	104	102		105	109	97	98	102	107	97	109		91	93	
M47	顔高	126	134	122			118		116	126	117		136		113	105	
M48	上顔高	77	78	69	60	75	75			73	72		80		67	64	
M47/45	顔示数 (K)	97.7		91.0			85.5		83.5	90.0	83.6		98.6		91.1	85.4	
M48/45	上顔示数 (K)	59.7		51.5	43.8	55.6	54.3			52.1	51.4		58.0		54.0	52.0	
M47/46	顔示数 (V)	138.5	128.8	119.6			108.3		118.4	123.5	109.3		124.8		124.2	112.9	
M48/46	上顔示数 (V)	84.6	75.0	67.6		71.4	68.8			71.6	67.3		73.4		73.6	68.8	
M51L	眼窩幅	42	42	41		42	42	40	43	46	43		40		40	37	
M52 L	眼窩高	34	34	31		32	36	32	35	32	32		35		32	32	
M52/52 L	眼窩示数 L	81.0	81.0	75.6		76.2	85.7	80.0	81.4	69.6	74.4		87.5		80.0	86.5	
M51R	眼窩幅	41	43	40	37	42	40	42	42	45	44		39		24	39	
M52 R	眼窩高	33	34	31	33	32	35	31	34	33	31		34		41	31	
M52/51 R	眼窩示数 R	80.5	79.1	77.5	89.2	76.2	87.5	73.8	81.0	73.3	70.5		87.2		170.8	79.5	
M54	鼻幅	26	27	26	25	26	26	24	24	28	28		26			26	
M55	鼻高	54	54	49	46	50	53	50	54	54	54		56			47	
M54/55	鼻示数	48.1	50.0	53.1	54.3	52.0	49.1	48.0	44.4	51.9	51.9		46.4			55.3	
M50	前眼窩間幅	17	14	18		15	17	20	17	16	16		19			17	
F	鼻根横弧長	23	23	23		19	23	24	22	23	24		31			18	
50/F	鼻根湾曲示数	73.9	60.9	78.3		78.9	73.9	83.3	77.3	69.6	66.7		61.3			94.4	
M57	鼻骨最小幅	7	5	7		3	10	11	7	6	7		7		7	6	
M72	全側面角	78	75	80		80	78		89		76		75		75	85	
M73	鼻側面角	85	78				75		76		78		72		80	90	
M74	齒槽側面角	77	71				74						70		70	70	
M65	下顎頭間幅	120	130	126					124	132	124		135			119	
M66	下顎角幅	97			105			107		96	95		108		91		
M68	下顎骨長																
M69	オトガイ高	37	44	39	33					39	34		43		33	28	
M70 R	下顎枝高	71		55	58				58	65			66			50	
M70 L	下顎枝高	71							62	66			69		58	50	
M71 R	下顎枝幅	35	29	34	31			31		37			36			32	
M71 L	下顎枝幅	36		35				32	37	37	39		37	33		32	
M71/70 R	下顎枝示数	49.3		61.8	53.4					56.9			54.5			64	
M71/70 L	下顎枝示数	50.7							59.7	56.1			53.6			64	

第8表 頭蓋計測値の比較 (男性) (単位: mm)

Martin No.	HZK1801			裏槍 <sup>1)</sup> (近世)		早稲 <sup>1)</sup> (近世)		原田 <sup>1)</sup> (近世)		開善寺 <sup>1)</sup> (近世)		稲荷谷 <sup>1)</sup> (近世)		天福寺 <sup>1)</sup> (近世)		宗玄寺 <sup>6)</sup>		京町 <sup>7)</sup>	
	n	M	S.D	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1 最大長	12	186.3	5.6	50	177.4	131	181.5	25	185.3	6	185.2	14	175.4	38	182.6	36	180.8	37	180.3
8 最大幅	12	137.1	3.0	50	141.3	131	138.5	26	135.9	4	138.8	15	142.4	38	138.6	44	135.2	30	135.2
17 バジオン・プレグマ高	10	138.9	6.0	50	138.0	131	136.2	20	138.4	1	143.0	8	138.9	33	139.2	31	136.9	14	136.9
8/1 頭長幅示数	11	73.7	1.7	50	80.0	131	76.0	25	73.6	4	75.2	14	80.7	37	76.0	35	78.3	23	74.6
17/1 頭長高示数	9	74.7	2.4	50	78.0	131	75.0	19	75.0	1	75.7	8	79.7	33	76.2	26	75.1	11	75.7
17/8 頭幅高示数	10	101.5	3.7	50	98.0	131	98.0	19	101.0			8	96.9	33	100.8	29	96.9	12	101.8
45 頬骨弓幅	9	136.7	3.5	50	133.1	131	134.9	19	136.1	3	136.3	8	137.4	25	136.4	18	135.9	2	135.0
46 中顔幅	11	101.9	5.7	50	97.3	131	99.9	18	99.5	4	98.3	7	97.7	24	101.8	31	99.0	24	98.1
47 顔高	8	124.4	7.6	-	-	-	-	11	121.6	1	133.0	6	128.0	14	126.9	18	128.9	14	125.0
48 上顔高	9	73.2	6.0	50	73.7	131	72.2	17	72.8	3	71.0	7	75.6	18	74.5	17	73.3	19	70.3
47/45 顔示数 (K)	7	90.0	6.3	-	-	-	-	10	89.6			6	93.9	13	93.2	10	93.3	1	93.3
47/46 顔示数 (V)	8	121.4	9.9	-	-	-	-	9	122.5			6	131.1	13	123.9	8	54.4	2	52.6
48/45 上顔示数 (K)	8	53.3	4.9	50	55.0	131	54.0	14	53.3	2	51.4	6	56.1	17	54.4	17	130.1	8	127.1
48/46 上顔示数 (V)	8	72.5	5.6	50	76.0	131	72.0	11	73.4	2	72.4	6	78.3	17	73.1	16	73.5	12	70.2
51 眼窩幅	10	42.1	1.7	50	43.4	131	43.3	24	42.2	4	43.0	8	44.6	24	42.6	29	43.7	29	42.7
52 眼窩高	10	33.3	1.7	50	35.6	131	34.1	24	35.0	2	35.5	8	36.9	24	34.1	34	36.1	32	35.0
52/51(L) 眼窩示数	10	79.2	5.4	50	82.0	131	79.0	24	83.0	1	78.7	8	82.7	24	80.9	29	83.1	26	81.2
54 鼻幅	11	26.0	1.3	50	24.5	131	25.6	23	25.6	2	23.5	7	26.1	24	26.5	28	25.4	32	25.5
55 鼻高	11	52.2	3.0	50	53.6	131	52.3	25	51.2	3	56.7	7	54.4	24	52.9	31	55.5	32	52.4
54/55 鼻示数	11	49.9	3.0	50	46.0	131	48.9	23	50.0	2	40.8	7	48.1	24	50.1	28	45.9	28	49.2
M50 前眼窩間幅	10	16.9	1.8	50	16.9	131	16.9	22	19.1	4	18.0	6	16.7				27	17.67	
F 鼻根横弧長	10	23.5	3.0	-	-	-	-	22	21.9	4	22.0	6	19.5						
50/F 鼻根湾曲示数	10	72.4	7.6	-	-	-	-	22	87.3	4	81.8	6	85.2						
M57 鼻骨最小幅	10	7.0	2.3	50	7.2	131	7.3	26	8.2	4	8.3	6	8.6				29	7.38	

1) 坂上 (2012)、2) 中橋・土肥 (2008)、3) 松下 (2005)、4) 岡崎ほか (2004)、5) 中橋 (1987)、6) 松下 (1995)、7) 松下 (1993)

MartinNo.	綱重 <sup>8)</sup>	家宣 <sup>9)</sup>	家重 <sup>9)</sup>	家慶 <sup>9)</sup>	家茂 <sup>9)</sup>	徳川 義直 <sup>9)</sup>	将軍家 (計)		伊達 政宗 <sup>9)</sup>	伊達 忠宗 <sup>9)</sup>	伊達 綱宗 <sup>9)</sup>	内藤 頼尚 <sup>9)</sup>	内藤 長好 <sup>9)</sup>	内藤 頼直 <sup>9)</sup>	水野 忠義 <sup>9)</sup>	水野 忠武 <sup>9)</sup>	水野 忠良 <sup>9)</sup>	牧野家 <sup>9)</sup> (近世)	神代 9代目 <sup>11)</sup>	畿内 <sup>12)</sup> (現代)		西南日本 <sup>13)</sup> (現代)		関東 <sup>14)</sup> (現代)			
							n	M												n	M	n	M		n	M	n
1 最大長	190.0	186.0	182.0	192.0	184.0	167.0	6	183.5	193.0	182.0	180.0	179.0	175.0	183.0	181.0	180.5	175.2	9	174.8	179.0	37	177.3	108	181.4	143	178.9	
8 最大幅	149.0	144.0	145.0	156.0	142.0	138.0	6	145.7	140.0	150.0	144.0	152.0	147.0	143.0	145.2	141.3	134.5	8	141.5	132.0	37	142.9	108	139.3	143	140.3	
17 バジオン・プレグマ高	144.0	136.0	143.0	150.0	142.0	133.0	6	141.3	136.0	138.0	129.0	148.0	138.0	144.0	139.0	141.2	133.5	9	137.7	132.0	37	139.1	108	139.3	143	138.1	
8/1 頭長幅示数	78.5	77.4	79.7	81.3	77.3	82.6	6	79.5	72.5	82.4	80.0	84.9	84.0	78.1	80.2	78.2	76.2	8	81.3	73.7	37	80.7	108	76.6	143	78.5	
17/1 頭長高示数	75.8	73.2	78.5	70.2	77.3	79.6	6	75.8	70.5	75.8	71.7	84.9	78.9	78.6	76.8	78.2	76.2	9	78.8	73.7	37	78.4	108	76.9	143	77.3	
17/8 頭幅高示数	96.7	94.5	98.5	96.2	100.0	96.4	6	97.1	97.1	101.4	89.6	97.4	93.9	100.7	95.7	99.2	99.2	8	97.6	100.0	37	97.5	108	100.1	143	98.6	
45 頬骨弓幅	142.0	136.0	140.0	126.0	131.0	113.0	6	131.3	133.0	138.0	132.0	128.0	125.0	127.0	129.8	119.6	119.5	7	129.3	126.0	32	133.5	106	134.5	144	132.9	
46 中顔幅	-	-	-	95.0	92.0	83.0	3	90.0	100.0	100.0	98.0	95.0	87.0	92.0	95.8	89.7	88.6	8	93.0	94.0	32	97.2	107	99.9	143	98.6	
47 顔高	135.0	137.0	138.0	140.0	141.0	-	5	138.2	(130.0)	(126.0)	120.0	124.0	121.0	-	-	131.0	132.5	5	125.4	-	-	-	66	122.2	142	123.8	
48 上顔高	82.0	82.0	78.0	82.0	82.0	73.0	6	79.8	(76.0)	(78.0)	71.0	69.0	72.0	(75.0)	75.7	76.2	75.0	5	73.0	75.0	30	69.9	92	71.8	144	70.7	
47/45 顔示数 (K)	95.1	100.7	98.6	111.1	107.6	-	5	102.6	97.7	91.3	90.9	96.9	96.8	-	-	109.5	110.9	5	96.9	-	-	-	64	91.4	142	93.1	
47/46 顔示数 (V)	-	-	-	147.3	153.3	-	2	150.3	130.0	126.0	122.4	130.5	139.1	-	-	146.0	149.5	5	132.3	-	-	-	65	122.2	141	125.4	
48/45 上顔示数 (K)	57.7	60.3	55.7	65.8	62.6	64.6	6	61.1	57.1	56.5	53.8	53.9	57.6	(59.1)	58.5	63.7	62.8	5	56.4	59.5	27	52.3	90	53.5	144	53.3	
48/46 上顔示数 (V)	-	-	-	86.3	89.1	88.0	3	87.8	76.0	78.0	72.4	72.6	82.8	(81.5)	79.0	84.9	84.4	5	77.0	79.8	28	72.1	91	71.8	143	71.8	
51 眼窩幅	49.0	48.0	46.0	43.0	46.0	36.0	6	44.7	43.0	43.0	43.0	42.0	42.0	45.0	45.5	41.8	42.2	9	44.3	41.0	37	41.8	108	43.0	142	42.7	
52 眼窩高	40.0	39.0	38.0	37.0	38.0	38.0	6	38.3	39.0	38.0	36.0	36.0	37.0	35.2	35.0	34.0	9	37.8	36.0	37	35.1	108	34.4	144	34.3		
52/51(L) 眼窩示数	81.7	81.3	83.9	86.1	82.6	105.6	6	86.9	90.7	88.4	83.7	87.8	90.8	82.4	77.4	83.7	80.5	9	85.3	87.8	37	84.0	108	80.2	142	80.4	
54 鼻幅	28.0	26.0	25.0	23.0	22.0	20.0	6	24.0	26.0	27.0	26.0	26.0	23.0	24.0	23.5	21.2	23.8	9	22.9	21.0	37	25.0	108	25.9	144	25.0	
55 鼻高	62.0	62.0	58.0	57.0	58.0	55.0	6	58.7	58.0	59.0	56.0	52.0	51.0	61.0	57.0	51.6	52.3	9	54.3	56.0	37	53.4	108	52.2	143	52.0	
54/55 鼻示数	45.2	41.9	43.2	40.4	37.9	36.4	6	40.8	44.8	45.8	46.4	50.0	45.1	39.3	41.2	41.1	45.5	9	42.2	37.5	37	47.0	108	49.8	143	48.4	
M50 前眼窩間幅	-	-	-	16.0	15.0	13.0	3	14.7	19.0	18.0	18.0	19.0	16.3	16.3	17.5	14.8	16.4	9	15.6	-	37	18.3	108	17.4	142	17.8	
F 鼻根横弧長	-	-	-	19.0	21.0	17.0	3	19.0	23.0	21.0	21.0	24.0	22.5	19.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50/F 鼻根湾曲示数	-	-	-	84.2	71.4	76.5	3	77.4	82.6	85.7	85.7	79.2	88.9	85.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
M57 鼻骨最小幅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	6.2	-	36	6.3	108	7.1	144	7.0

8) 鈴木尚 (1985a)、9) 鈴木尚 (1985b)、10) 加藤 (1991)、11) 川久保ほか (2011)、12) 欠田 (1959)、13) 原田 (1954)、14) 森田 (1950)

I 箱崎遺跡 (HZK1801地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質の特徴

第9表 頭蓋計測値の比較 (女性) (単位: mm)

Martin No.	HZK1801-ST72		江戸市中武士層 (駿) <sup>1)</sup> 女性		江戸市中庶民層 (早稲) <sup>2)</sup> 女性		原田 <sup>3)</sup> 女性		開善寺 <sup>4)</sup> 女性		稲荷谷 <sup>5)</sup> 女性		天福寺 <sup>6)</sup> 女性		牧野家 <sup>7)</sup> 女性		西南日本 <sup>8)</sup> (現代) 女性		関東 <sup>9)</sup> (現代) 女性	
	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n
1 最大長	175.0	48	169.1	70	172.3	26	172.8	6.0	172.3	14	164.1	38	174.7	3	167.0	42	172.8	82	170.8	
8 最大幅	127.0	48	135.3	70	133.2	26	131.1	5.0	136.2	15	135.8	38	133.5	4	133.8	42	133.8	82	135.9	
17 バジオン・ブレグマ高	133.0	48	132.0	70	130.6	23	131.3	2.0	132.0	11	130.3	35	132.7	4	131.3	42	131.5	81	132.5	
8/1 頭長幅示数	72.6	48	80.0	70	77.0	24	75.5	5.0	78.7	14	83.4	38	76.5	2	80.4	42	77.5	82	79.7	
17/1 頭長高示数	76.0	48	78.0	70	76.0	22	76.1	2.0	77.4	11	79.5	35	76.1	2	77.7	42	76.2	81	77.7	
17/8 頭幅高示数	104.7	48	98.0	70	98.0	20	100.9	2.0	102.3	11	96.5	35	99.4	3	98.0	42	98.4	81	97.7	
45 頬骨弓幅	123.0	48	123.8	70	125.0	19	123.7	2.0	126.5	7	122.3	30	126.5	2	114.5	42	124.3	84	124.9	
46 中顔幅	93.0	48	92.2	70	93.3	19	94.5	2.0	90.0	5	88.8	25	95.5	2	83.5	42	93.6	84	93.5	
47 顔高	105.0	-	-	-	-	13	112.2	1.0	115.0	4	113.5	15	115.9	-	-	10	113.0	84	115.0	
48 上顔高	64.0	48	68.5	70	66.7	16	67.1	2.0	64.5	5	66.2	22	68.8	1	67.0	48	68.6	83	67.1	
47/45 顔示数 (K)	85.4	-	-	-	-	10	92.0	1.0	95.8	3	92.2	15	91.1	-	-	10	90.5	84	92.2	
47/46 顔示数 (V)	112.9	-	-	-	-	8	118.1	1.0	127.8	3	127.6	15	120.9	-	-	10	118.3	84	123.3	
48/45 上顔示数 (K)	52.0	48	55.0	70	53.0	12	54.6	1.0	51.7	5	53.6	22	54.3	-	-	40	55.1	83	53.8	
48/46 上顔示数 (V)	68.8	48	75.0	70	72.0	11	71.6	2	71.7	5	74.5	22	71.8	-	-	40	73.2	83	72.0	
51 眼窩幅 (L)	37.0	48	41.2	70	40.8	19	40.4	2	40.5	6	41.7	30	40.5	2	39.5	42	40.7	84	41.1	
52 眼窩高 (L)	32.0	48	34.6	70	33.3	17	33.9	3	33.7	6	36.3	30	34.3	1	35.0	42	34.0	84	33.8	
52/51(L) 眼窩示数	86.5	48	84.0	70	82.0	17	84.2	2	81.5	6	87.2	29	84.8	1	89.7	42	83.7	84	82.4	
54 鼻幅	26.0	48	24.5	70	24.4	24	25.0	2	22.0	7	25.9	26	25.3	1	24.0	42	25.2	84	24.5	
55 鼻高	47.0	48	49.4	70	48.5	25	47.2	2	49.0	7	48.9	28	49.9	2	49.0	42	48.7	84	49.0	
54/55 鼻示数	55.3	48	50.0	70	51.0	24	53.0	2	45.2	7	52.9	26	51.0	1	48.0	42	51.9	84	50.2	
M50 前眼窩間幅	17.0	48	16.3	70	16.4	25	17.0	1	14.0	7	16.3	2	14.0	2	14.0	57	16.8	84	17.4	
F 鼻根横弧長	18.0	-	-	-	-	24	19.1	1	17.0	7	18.5	-	-	-	-	57	19.6	-	-	
50/F 鼻根湾曲示数	94.4	-	-	-	-	24	89.0	1	82.4	7	88.9	-	-	-	-	57	88.7	-	-	
M57 鼻骨最小幅	6.0	48	7.8	70	7.0	25	7.5	-	-	5	7.7	-	-	-	-	57	8.6	84	7.1	

Martin No.	家茂	6代側室	6代側室	9代側室	12代側室	4代生母	10代正室	9代正室	13代正室	不明	11代側室	10代側室	8代生母	内藤頼朝	内藤長好	内藤頼重	内藤頼重	内藤頼重	水野忠友	水野忠城
	正室 <sup>1)</sup>	法心院 <sup>2)</sup>	蓮浄院 <sup>3)</sup>	安祥院 <sup>4)</sup>	本寿院 <sup>5)</sup>	実成院 <sup>6)</sup>	心観院 <sup>7)</sup>	證明院 <sup>8)</sup>	澄心院 <sup>9)</sup>	側室 <sup>10)</sup>	香琳院 <sup>11)</sup>	蓮光院 <sup>12)</sup>	浄円院 <sup>13)</sup>	正室 <sup>14)</sup>	正室 <sup>15)</sup>	先室 <sup>16)</sup>	後室 <sup>17)</sup>	正室 <sup>18)</sup>	正室 <sup>19)</sup>	正室 <sup>20)</sup>
1 最大長	173.0	174.0	171.8	172.1	161.4	169.9	166.0	166.9	159.0	164.8	170.0	174.8	173.3	165.0	172.0	167.0	176.0	172.0	183.5	175.2
8 最大幅	144.0	131.1	137.8	139.1	136.3	140.0	143.0	135.8	126.8	136.8	141.1	139.8	139.5	145.0	140.0	140.0	141.0	140.0	143.5	137.0
17 バジオン・ブレグマ高	141.0	133.0	139.1	138.9	130.1	128.9	123.8	134.8	126.7	133.2	138.3	124.9	142.0	133.0	130.0	132.0	136.0	142.0	136.5	132.8
8/1 頭長幅示数	83.3	75.3	80.2	80.8	84.4	82.4	86.1	81.4	79.7	83.0	83.0	80.0	80.5	87.9	81.4	84.3	80.1	81.4	-	78.1
17/1 頭長高示数	81.5	76.4	80.9	80.7	80.6	75.9	74.5	80.8	79.7	80.8	81.3	71.5	81.9	80.6	75.6	79.0	77.3	82.6	-	75.8
17/8 頭幅高示数	98.0	102.1	100.9	99.9	95.5	92.1	86.2	99.2	99.9	97.3	98.0	89.3	101.8	91.7	93.5	94.3	96.5	101.4	-	96.9
45 頬骨弓幅	114.0	123.4	123.6	131.3	118.6	121.6	120.5	119.4	107.5	120.9	124.2	124.9	134.1	120.0	117.0	124.0	121.0	119.0	-	118.2
46 中顔幅	83.0	90.9	86.3	96.4	83.8	84.4	85.5	87.9	79.3	89.8	94.9	89.9	95.4	91.0	88.0	93.0	89.0	88.0	-	90.0
47 顔高	114.0	-	-	121.7	-	-	111.0	120.1	100.7	-	117.4	115.4	124.5	-	114.0	119.0	119.0	-	-	-
48 上顔高	66.0	-	-	69.6	-	-	70.0	67.8	64.8	71.2	72.8	70.5	74.1	-	65.0	72.0	67.0	-	-	65.7
47/45 顔示数 (K)	100.0	-	-	92.7	-	-	92.1	100.5	93.6	-	94.5	92.4	92.8	-	97.4	96.0	98.4	-	-	-
47/46 顔示数 (V)	137.3	-	-	126.2	-	-	129.8	136.5	127.0	-	123.8	128.3	130.4	119.8	129.6	128.0	133.7	-	-	-
48/45 上顔示数 (K)	57.9	-	-	53.0	-	-	58.1	56.8	60.2	58.9	58.6	56.5	55.3	-	55.6	58.1	55.4	-	-	-
48/46 上顔示数 (V)	79.5	-	-	72.2	-	-	81.9	77.1	81.7	79.2	76.7	78.4	77.7	-	73.9	77.4	75.3	-	-	-
51 眼窩幅 (L)	42.0	40.1	42.1	41.4	37.9	40.7	38.1	41.0	35.5	39.7	39.8	42.3	42.7	37.0	37.0	39.0	40.0	42.5	42.5	39.8
52 眼窩高 (L)	37.0	35.2	36.0	32.1	34.9	34.7	34.8	35.9	37.5	36.4	35.0	38.4	35.1	34.0	36.0	37.0	36.0	37.5	-	36.2
52/51(L) 眼窩示数	88.2	87.9	85.6	77.5	92.1	85.1	91.3	87.5	105.4	91.7	88.0	90.9	82.2	91.9	97.3	94.9	90.0	88.2	-	-
54 鼻幅	25.0	26.3	24.7	26.8	27.3	26.0	24.9	23.3	19.4	21.7	22.4	25.4	25.5	25.0	21.0	21.0	24.0	24.0	-	24.8
55 鼻高	51.0	52.2	47.8	49.7	51.1	50.3	47.7	47.8	46.7	49.8	50.2	51.6	50.9	50.0	48.0	54.0	51.0	54.0	52.7	49.5
54/55 鼻示数	49.0	50.4	51.6	53.9	53.5	51.7	52.2	48.9	41.5	43.5	44.6	49.2	50.2	50.0	43.8	38.9	47.1	44.4	-	-
M50 前眼窩間幅	17.0	17.5	16.9	15.0	14.9	15.5	14.1	16.7	12.2	15.3	15.5	18.3	18.3	19.0	15.0	20.0	14.0	16.0	-	16.5
F 鼻根横弧長	19.0	20.0	21.0	19.0	22.0	20.0	18.0	21.5	17.0	19.0	19.0	21.0	21.9	24.1	18.0	24.0	16.5	22.0	-	-
50/F 鼻根湾曲示数	89.5	87.7	80.5	78.7	67.7	77.5	78.4	77.7	71.8	80.6	81.8	87.1	83.6	78.8	83.3	83.3	84.8	72.7	-	-
M57 鼻骨最小幅	-	4.9	8.1	6.4	7.9	8.1	5.4	5.6	4.7	6.3	7.8	9.6	7.2	-	-	-	-	-	-	-

1) 坂上 (2012)、2) 中橋・土肥 (2008)、3) 松下 (2005)、4) 岡崎ほか (2004) 5) 中橋 (1987)、6) 加藤 (1991)、7) 原田 (1954)、8) 森田 (1950)、9) 鈴木尚 (1985b)、10) 馬場・坂上 (2012)

第10表 上肢の計測値の比較（男性）（単位：mm）

Martin No.	HZK1801			古野 <sup>1)</sup>		原口 <sup>2)</sup>		天徳寺 <sup>3)</sup>		芝公園 <sup>4)</sup>		原田 <sup>5)</sup>		稲荷谷 <sup>6)</sup>		天福寺 <sup>7)</sup>		小倉京町 <sup>8)</sup>		久世 <sup>9)</sup>		九州 <sup>10)</sup> (現代)				
	男性			男性																						
	n	M	SD	n	M	SD	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M		
上腕骨																										
1最大長	5	301.4	15.9	3	308.0	20.7	2	287.0	2	287.0	42	289.5	14	301.4	15	294.4	6	293.2	21	296.9	5	278.8	1	301.5	106	295.3
2全長	5	297.6	15.2	3	308.0	21.4	1	295.0	2	283.0	41	285.7	14	297.0	15	290.3	8	287.0	19	293.3	5	276.8	1	298	106	290.6
5中央最大径	13	23.3	1.9	15	23.9	1.6	1	23.0	2	22.0	83	22.4	47	22.2	22	22.8	6	22.7	22	23.1	11	23.2	6	21.8	106	21.9
6中央最小径	13	18.5	1.2	15	18.2	1.3	1	17.0	2	20.1	83	17.0	47	17.3	22	17.8	6	18.5	22	17.7	11	18.0	6	16.8	106	16.9
7骨体最小周	13	66.5	2.9	15	66.5	3.5	2	63.5	3	61.0	-	-	46	62.0	28	63.5	16	62.3	22	63.8	9	65.9	5	64.6	106	61.8
7a中央周	13	71.1	4.2	15	71.3	4.0	1	67.0	2	66.5	83	64.9	47	65.7	22	67.8	6	64.5	22	66.5	10	69.0	6	65.8	106	63.7
6/5骨体断面示数	13	79.5	6.5	15	76.5	6.4	1	-	2	90.7	83	76.2	47	78.4	22	78.4	6	81.8	22	77.6	10	77.8	6	76.6	106	79.1
7/1長厚示数	5	22.5	1.2	3	23.2	1.2	2	-	2	21.8	42	22.3	14	21.0	15	21.4	6	21.1	16	21.3	6	21.6	1	20.9	106	20.9
橈骨																										
1最大長	7	222.1	12.2	7	233.7	10.4	3	220.3	3	216.3	54	222.8	23	226.9	14	225.8	5	219.6	23	228.5	4	215.8	5	230.4	64	219.9
2機能長	7	209.1	10.9	7	220.3	8.6	3	209.0	3	206.0	55	208.4	24	212.8	17	211.8	7	207.7	23	212.2	2	196.5	6	211.7	64	208.2
3最小周	10	44.4	1.5	4	45.3	1.3	3	41.3	4	41.5	82	39.9	50	40.4	30	43.6	12	39.8	23	42.2	10	43.3	6	42.1	63	40.1
4骨体横径	13	17.6	1.1	4	17.5	1.3	3	16.3	4	16.4	84	16.5	51	16.2	32	17.1	14	301.8	23	17.5	12	17.6	-	-	63	16.0
4a 骨体中央横径	7	16.1	1.3	9	16.8	1.0	3	15.7	3	14.1	83	15.1	52	14.9	18	15.8	5	15.2	23	15.7	3	16.0	6	14.8	63	15.2
5骨体矢状径	13	12.2	1.2	4	12.3	0.5	3	12.3	4	12.1	84	11.7	51	11.6	32	12.2	14	12.2	23	12.6	12	12.3	6	11.7	63	11.7
5a 骨体中央矢状径	7	12.4	0.8	9	12.6	1.0	3	12.7	3	11.6	83	11.9	52	11.8	18	12.4	5	12.2	14	12.6	3	13.0	-	-	63	11.9
3/2長厚示数	7	21.1	1.1	7	20.6	0.8	3	19.8	3	19.3	55	19.3	23	19.4	16	20.5	6	18.9	21	19.8	2	22.1	6	19.9	61	20.4
5/4骨体断面示数	13	69.6	7.2	13	70.5	7.4	3	75.6	4	73.8	84	71.2	51	71.9	32	71.7	14	70.0	23	72.0	12	69.8	-	-	60	71.4
5a/4a 中央断面示数	7	77.5	8.7	9	75.0	6.5	3	81.0	3	82.9	83	78.9	52	79.2	18	79.1	5	80.3	22	80.3	3	81.5	-	-	40	77.9
尺骨																										
1最大長	5	242.2	12.2	8	246.3	15.0	2	237.0	2	229.5	51	239.2	25	243.0	10	247.8	6	236.2	18	244.6	3	231.0	4	244.8	62	236.2
2機能長	6	213.7	8.8	8	213.8	12.2	2	210.0	2	206.0	58	209.1	27	213.1	14	216.7	11	206.8	18	214.6	3	203.7	4	211.5	64	209.2
3最小周	9	39.7	1.9	12	39.9	1.4	2	33.5	2	35.0	78	35.4	46	35.8	24	40.9	12	34.8	20	37.5	4	39.3	4	35.9	65	35.8
11矢状径	12	13.8	1.9	4	13.5	1.7	2	13.5	3	13.5	89	12.7	52	12.9	38	12.8	17	13.1	24	13.1	10	13.4	8	14.0	63	12.8
12横径	12	16.7	1.7	4	17.5	0.6	2	16.0	3	16.8	89	16.4	52	15.9	37	17.0	17	16.4	24	17.0	10	16.9	7	15.0	64	16.5
6/7長厚示数	6	18.6	0.9	8	18.7	0.9	2	-	2	17.0	58	17.0	27	17.0	14	18.7	11	16.8	18	17.5	3	18.9	4	17.7	63	17.0
11/12骨体断面示数	12	85.1	24.2	14	77.5	7.2	2	-	3	80.7	89	78.3	52	81.8	37	75.5	17	80.2	23	77.9	10	79.8	8	86.8	63	74.9

1) 中井など、2) 米元など、3) 加藤 (1991)、4) 中橋・土肥 (2008)、5) 岡崎ほか (2004)、6) 中橋 (1987)、7) 松下 (1993)、8) 九州大学医学部解剖学第2講座 (1988)、9) 阿部 (1957)、10) 鑄編 (1955)

第11表 下肢の計測値の比較（男性）（単位：mm）

Martin No.	HZK1801			古野 <sup>1)</sup>		原口 <sup>2)</sup>		天徳寺 <sup>3)</sup>		芝公園 <sup>4)</sup>		原田 <sup>5)</sup>		稲荷谷 <sup>6)</sup>		天福寺 <sup>7)</sup>		小倉京町 <sup>8)</sup>		久世 <sup>9)</sup>		九州 <sup>10)</sup> (現代)				
	男性			男性																						
	n	M	SD	n	M	SD	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M		
大腿骨																										
1最大長	4	423.5	25.4	8	420.6	25.1	1	412.0	1	418.0	41	405.2	18	415.8	24	420.2	9	407.4	19	416.9	10	410.2	2	429.5	59	406.5
2自然位長	4	423.3	26.9	8	416.3	26.2	1	410.0	1	414.0	40	403.0	17	418.6	17	415.5	8	406.5	12	412.8	5	389.2	2	425.5	59	403.2
6中央矢状径	15	27.1	2.0	14	27.1	2.3	1	29.0	1	25.0	93	27.3	51	27.2	43	28.2	20	28.4	18	27.7	26	28.0	6	28.3	59	26.5
7中央横径	15	28.1	2.8	14	27.3	2.3	1	26.0	1	24.9	93	26.1	51	26.7	43	26.6	21	26.7	18	26.7	25	27.5	8	24.8	59	25.6
8中央周	15	87.9	6.5	14	87.2	6.9	1	87.0	1	77.0	93	83.6	51	84.8	43	86.4	20	84.1	17	85.2	25	86.9	6	84.7	59	82.4
9骨体上横径	15	32.5	3.0	14	32.1	2.9	1	32.0	3	30.1	92	31.3	51	31.2	42	31.6	20	30.6	17	30.2	20	31.8	8	31.8	59	29.4
10骨体上矢状径	15	24.5	1.6	14	25.3	1.7	1	23.0	3	22.6	92	24.0	52	23.9	42	25.6	20	25.7	17	26.1	22	24.8	8	24.8	59	24.3
8/2長厚示数	4	21.7	1.3	8	21.4	1.3	1	21.2	1	18.6	40	20.6	16	20.5	17	20.9	8	21.2	8	20.6	5	21.2	2	19.9	59	20.4
6/7中央断面示数	15	96.9	9.9	14	100.0	10.3	1	111.5	1	100.4	93	105.1	51	102.1	43	106.3	20	106.7	17	103.4	25	101.9	6	114.4	59	103.8
10/9上骨体断面示数	15	75.7	5.8	14	78.9	4.6	1	71.9	3	75.1	92	77.1	51	76.9	42	81.5	20	84.2	17	87.3	20	78.1	8	78.2	58	82.8
脛骨																										
1全長	8	341.3	16.5	9	338.7	16.3	1	321.0	1	316.0	35	329.9	15	339.4	20	334.2	10	301.8	13	334.5	5	313.6	4	340.3	61	320.3
1a 最大長	8	341.5	17.9	9	342.4	14.8	1	328.0	1	320.0	37	334.0	17	343.0	21	339.0	10	335.5	17	336.5	5	318.6	4	344.3	60	326.9
8中央最大径	13	30.2	2.4	15	29.1	2.9	1	27.0	1	26.8	83	27.7	48	28.7	25	28.7	10	28.7	13	29.6	6	27.7	9	27.4	61	27.8
8a 栄養孔位最大径	13	34.2	3.0	14	32.9	3.9	1	29.0	1	30.9	80	31.9	48	33.0	39	33.2	16	34.0	17	33.1	17	32.4	-	-	60	30.6
9中央横径	13	22.2	1.6	15	22.0	1.7	1	20.0	1	19.6	83	20.7	48	20.8	25	22.5	10	21.6	13	22.0	6	21.3	7	20.1	61	21.1
9a 栄養孔位横径	13	24.5	2.5	14	24.6	2.2	1	23.0	1	20.9	81	23.2	49	23.5	39	24.7	16	24.6	17	23.9	18	23.4	-	-	61	23.7
10中央周	13	83.3	5.0	14	80.9	6.3	1	74.0	1	74.0	83	76.8	48	78.8	25	80.9	10	77.2	13	79.5	6	76.8	-	-	62	78.4
10a 栄養孔位周	13	93.8	7.3	15	91.3	8.5	1	82.0	1	80.0	-	-	-	-	39	91.5	14	88.6	16	88.9	18	87.6	-	-	61	88.9
10b 最小周	12	76.2	4.0	14	74.7	5.5	1	69.0	1	67.0	80	69.9	46	71.9	41	72.3	17	70.6	15	73.1	13	71.0	7			

I 箱崎遺跡 (HZK1801地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質の特徴

第12表 上肢の計測値の比較 (女性) (単位: mm)

Martin No.	HZK1801									原口 <sup>1)</sup>		天徳寺 <sup>2)</sup>		芝公園 <sup>3)</sup>		原田 <sup>4)</sup>		稲荷谷 <sup>5)</sup>		天福寺 <sup>6)</sup>		小倉京町 <sup>7)</sup>		將軍家正室 <sup>8)</sup>		將軍家側室 <sup>9)</sup>		江戸女性 <sup>10)</sup>		近代女性 <sup>11)</sup>				
	女性 L			女性 R			n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M				
	n	M	S.D.	n	M	S.D.	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M		
上腕骨																																		
1最大長	0	-	-	1	260.0	-	1	260.0	17	266.8	18	269.7	8	260.4	4	268.5	19	273.7	1	281.0	5	257.2	7	263.3	38	264.8	34	275.6						
2全長	0	-	-	1	257.0	-	1	256.0	16	262.6	17	265.5	5	258.6	5	264.8	15	271.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5中央最大径	7	20.6	1.4	6	20.2	1.9	1	19.3	58	19.9	37	19.2	10	19.0	5	19.0	20	20.3	6	20.8	5	18.5	12	19.2	38	18.9	34	19						
6中央最小径	7	15.7	1.7	6	15.7	1.8	1	15.9	58	15.0	37	14.4	10	14.8	5	15.2	20	15.5	6	15.7	5	12.8	12	14	38	14.7	34	14.7						
7骨体最小周	5	55.8	4.1	5	55.8	6.8	1	56.0			36	52.9	14	52.9	11	51.4	21	56.0	4	54.5	5	50.5	10	53	38	53.7	34	54.2						
7a中央周	7	61.6	4.0	6	61.0	5.4	1	57.0	58	57.6	37	56.4	10	56.3	4	52.5	20	59.3	6	60.2	5	53.2	12	55.4	38	55.9	34	55.6						
6/5骨体断面示数	7	169.3	242.1	6	77.9	7.0	1	82.6	58	75.6	37	75.0	10	78.0	5	80.1	20	75.9	6	75.6	5	68.9	12	73.1	38	77.8	34	77.2						
7/1長厚示数	0	-	-	1	20.8	-	1	21.5	17	21.3	18	19.9	7	20.2	4	18.8	17	20.7			4	20	7	19.8	38	20.3	34	19.7						
橈骨																																		
1最大長	1	195.0	-	1	195.0	-	1	193.0	29	199.1	20	204.4	10	196.4	5	196.2	12	187.9	-	-	4	187.5	9	193.7	38	196.3	34	200.2						
2機能長	1	182.0	-	1	184.0	-	1	183.0	29	187.4	21	192.2	12	185.2	6	185.2	11	183.5	-	-	4	174.3	10	183.1	38	182.1	34	186.6						
3最小周	4	38.3	2.2	4	38.5	4.4	1	34.0	57	34.7	38	34.2	16	37.8	10	33.4	16	35.7	3	37.0	6	33.4	11	33.8	38	34.2	34	34.1						
4骨体横径	7	14.9	1.3	6	15.3	1.5	1	15.4	58	14.7	38	14.4	18	14.4	12	15.1	16	301.8	3	15.0	6	15.5	12	14.5	38	14.5	34	13.8						
4a 骨体中央横径	1	13.0	-	1	14.0	-	1	13.3	58	13.7	38	13.3	9	13.6	5	13.8	14	14.0	-	-	6	12.9	12	13.3	38	13.6	34	13.7						
5骨体矢状径	7	10.0	1.2	6	10.0	1.3	1	9.6	57	10.1	38	10.0	18	9.8	12	10.1	16	10.3	3	10.3	5	8.8	12	9.4	38	10.1	34	10.1						
5a 骨体中央矢状径	1	9.0	-	1	10.0	-	1	9.7	57	10.0	38	10.0	9	10.0	5	10.2	14	10.2	-	-	5	8.8	12	9.4	38	10.1	34	9.9						
3/2長厚示数	1	19.8	-	1	19.0	-	1	18.6	28	18.2	21	17.7	9	20.0	5	18.4	11	19.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5/4骨体断面示数	7	67.3	4.9	6	65.2	-	1	62.4	57	68.5	38	69.6	18	68.8	12	67.2	15	67.4	3	69.6	6	57.4	12	64.9	38	69.7	34	73.2						
5a/4a 中央断面示数	1	69.2	-	1	71.4	-	1	73.1	57	73.7	38	76.3	9	73.9	5	74.6	14	73.2	-	-	6	76.9	12	71.4	38	74.3	34	72.6						
尺骨																																		
1最大長	1	214.0	-	1	215.0	-	2	207.0	28	216.0	18	219.2	9	215.1	2	212.0	11	211.1	-	-	4	208.3	6	210.2	38	215.2	34	218						
2機能長	1	187.0	-	1	187.0	-	2	183.0	34	190.1	23	191.5	12	191.5	4	188.3	11	184.3	-	-	5	180.4	6	184.3	38	188.8	34	190.2						
3最小周	5	35.4	2.7	5	33.8	1.9	2	29.5	58	31.8	39	30.9	16	36.2	8	30.4	12	32.4	-	-	7	31.3	8	31.4	38	31.8	34	32.1						
11矢状径	6	11.5	0.8	6	11.5	1.0	2	9.5	60	11.0	42	10.5	18	11.1	13	10.8	17	11.2	2	12.0	7	9.6	11	10.6	38	10.8	34	10.6						
12横径	6	14.0	0.6	6	14.8	1.7	2	13.1	59	14.1	42	14.0	18	14.4	13	13.9	17	14.3	2	14.0	7	13.1	11	14	38	13.9	34	13.7						
3/2長厚示数	1	18.2	-	1	16.6	-	2	16.1	33	16.8	22	15.9	11	18.5	4	15.7	11	17.6	-	-	5	18.4	6	17.5	38	16.8	34	16.9						
11/12骨体断面示数	6	82.2	5.7	6	77.8	4.9	2	73.3	59	78.6	42	75.8	18	77.2	13	77.5	17	79.0	2	86.2	7	73.2	11	75.7	38	77.7	34	77.1						

1) 米元など、2) 加藤 (1991)、3) 中橋・土肥 (2008)、4) 岡崎ほか (2004)、5) 中橋 (1987)、6) 松下 (1995)、7) 馬場・坂上 (2012)

第13表 下肢の計測値の比較 (女性) (単位: mm)

Martin No.	HZK1801									原口 <sup>1)</sup>		天徳寺 <sup>2)</sup>		芝公園 <sup>3)</sup>		原田 <sup>4)</sup>		稲荷谷 <sup>5)</sup>		天福寺 <sup>6)</sup>		小倉京町 <sup>7)</sup>		將軍家正室 <sup>8)</sup>		將軍家側室 <sup>9)</sup>		江戸女性 <sup>10)</sup>		近代女性 <sup>11)</sup>				
	女性 L			女性 R			n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M		
	n	M	S.D.	n	M	S.D.	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
大腿骨																																		
1最大長	0	-	-	1	379.0	-	-	-	22	375.9	13	382.5	12	382.8	8	382.0	18	380.6	2	361.0	6	365.8	7	378	38	377.5	34	381.8						
2自然位長	0	-	-	1	378.0	-	-	-	19	371.6	12	376.9	8	378.8	8	376.9	16	376.7	-	-	4	362.8	5	375	38	374.2	34	378.5						
6中央矢状径	5	23.6	1.8	7	25.1	3.0	-	-	65	23.4	37	22.9	27	24.1	15	24.3	21	23.6	9	24.3	7	22.7	10	23.6	38	23.5	34	24.3						
7中央横径	5	24.2	1.6	6	25.0	2.5	-	-	65	23.5	37	23.3	27	24.3	15	24.5	21	24.0	9	24.6	7	21	12	22.4	38	23.1	34	23						
8中央周	4	77.0	4.7	7	72.7	20.7	-	-	64	73.7	37	73.1	27	75.7	16	74.6	21	75.2	9	76.4	7	68.6	10	72.6	38	73.9	34	74.3						
9骨体上横径	5	28.6	1.5	7	27.4	4.6	-	-	65	28.3	38	27.7	31	28.8	14	28.7	17	27.7	9	29.2	7	25.6	10	26.5	38	27.9	34	28.3						
10骨体上矢状径	5	20.4	1.9	6	23.3	4.1	-	-	65	20.9	38	20.2	31	22.4	14	21.6	17	22.7	10	21.4	7	21.2	10	22.4	38	23.4	34	23.6						
8/2長厚示数	0	-	-	1	19.0	-	-	-	19	19.8	12	19.7	7	20.6	8	19.3	15	19.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/7中央断面示数	5	97.9	10.6	6	102.6	13.6	-	-	65	100.1	37	98.6	27	99.7	15	99.4	21	98.7	9	99.3	7	108.1	10	105.2	38	101.8	34	105.8						
10/9上骨体断面示数	5	71.4	6.8	6	80.1	9.3	-	-	65	74.4	38	73.3	31	78.0	14	75.4	17	82.3	9	73.9	7	83.1	10	85	38	83.8	34	83.4						
脛骨																																		
1全長	1	275.0	-	0	-	-	1	307.0	15	304.1	15	306.5	13	304.8	7	303.1	15	301.8	-	-	4	300.7	9	300.6	38	303.5	34	304.5						
1a 最大長	0	-	-	0	-	-	1	300.0	14	307.6	15	310.3	18	306.4	7	307.6	15	305.6	-	-	5	308	10	305.9	38	308.1	34	308.8						
8中央最大径	5	26.2	2.2	7	26.7	1.8	1	28.2	58	24.0	36	23.4	15	24.5	7	25.3	17	24.4	-	-	7	22.1	12											

## II 箱崎遺跡(HZK2006地点)調査出土近世人骨について

舟橋京子<sup>1・2)</sup>・米元史織<sup>2・3)</sup>

1：九州大学大学院比較社会文化研究院

2：九州大学アジア埋蔵文化財研究センター

3：九州大学総合研究博物館

### はじめに

福岡県福岡市東区箱崎遺跡(HZK2006)は2020年度に九州大学埋蔵文化財調査室によって発掘調査が行われ、中近世に属する人骨が多数出土した。そこで、九州大学アジア埋蔵文化財研究センターに人骨調査の依頼があり、出土人骨の整理・分析が行われた。

人骨の年齢推定は、咬耗は栃原(1957)を用いた。年齢の表記に関しては、九州大学医学部第二解剖学教室編集の『日本民族・文化の生成2』(九州大学医学部解剖学第二講座編、1988)記載の区分に従い、乳児0-1歳、幼児1-6歳、小児6-12歳、若年12-20歳、成年20-40歳、熟年40-60歳、老年60歳以上、成人は20歳以上(詳細は不明)とする。本調査区出土人骨は火葬骨がその大半を占めており、その焼成温度の推定はWahl(2008)を基に行った。

遺構に関しては、本調査区では単葬の一次埋葬以外にも、火葬骨も多く出土している。火葬は通常複葬の形を取り、一次葬にあたる火葬後に中間葬である骨拾い(拾骨)、二次葬にあたる臓骨器の埋置という過程を経る(土井・佐藤 1979)。この様な複葬制としての火葬の痕跡は遺跡でもしばしば見られる(田中 1985、米元他 2014など)。一方で、遺跡の発掘調査事例では遺体焼却後そのままその場所で埋葬する、いわゆる一次葬で終わる(=単葬)火葬事例も散見される(舟橋・田中 2002など)。単葬の場合も複葬の場合も葬法としてはいずれも火葬である。遺構の性格としては、前者の一次葬である遺体焼却後、火葬した人骨をほぼそのまま火葬した場で埋葬した場合(e.g. 吉母浜遺跡の軸椎のみの拾骨事例)や、拾骨後の火葬骨を埋置したと判断できる場合(e.g. 尾窪遺跡の蔵骨器事例)には火葬墓とする。ただし、火葬後・拾骨後に残された火葬骨が出土した遺構に関しては、厳密には墓ではないとする本遺跡HZK1805地点の報告表記(福永 2020)を踏襲し、火葬土坑として記載する。

本調査区の遺構に伴う人骨の一覧は第1表の通りである。

### 1. 出土状況

【A区SX01】

葬法：火葬・土葬

遺構：集積・埋葬

拾骨：有

本遺構は馬骨と人骨が重層的に出土している。

上層からは馬骨が、右側を上にし、頭部を南、尾部を北にした状態で出土している。胴部は胸椎および腰椎・仙椎が南北に連なった状態で出土しており、その西側からは肋骨が解剖学的な位置関係を保った状態で出土している。これらの躯幹骨の西側からは四肢骨が出土している。上部胸椎側からは

前肢が肩関節を東、前腕を西にした状態で肩甲骨から前腕部まで出土している。腰椎および仙椎の西側からは、大腿骨が長軸を南-北にした状態で出土している。頭部は、頭部と同程度のサイズの礫上に置かれた状態であり、頭部と胸椎以下の間に頸椎は認められない。

馬の頭部と肩部の間の馬骨よりも低い位置の25cm×50cmの範囲から人骨が出土している。人骨は分布範囲の中央付近北側から成人の頭蓋骨・歯牙が、顔面を東に向け右側頭部を上にした状態で出土している。その周囲から、被熱した四肢骨片や未成人に帰属すると推定される被熱していない永久歯および乳歯が散乱した状態で出土している。これらの人骨付近から銭貨および泥面子が出土している。

以上の出土状況から、本遺構に関しては以下の2通りの形成過程が想定しうる。

まず初めに、土葬および火葬された複数個体を埋葬あるいは集積した遺構が先行して存在しており、そののちに、馬が埋葬されたという形成過程が考えられる。

一方で、垂直的位置関係としては人骨が馬骨の下位から出土している。ただし、水平的位置関係をみると人骨と馬骨は全く重なっていない。人骨の出土した範囲は本来馬の頸椎にあたるが、この部分には馬骨はほとんど遺存していない。したがって、馬が先行して埋置され、その後に馬の埋葬遺構を切る形で人骨の集積土壌が掘り込まれたという形成過程も想定しうる。加えて、馬の後肢も膝関節以下は遺存しておらず、頸部以外にも埋没後に切られた部位が存在する可能性も考えうる。

#### 【A区 SK04】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

楕円形の墓壙内から焦土とともに火葬骨が出土している。火葬骨は残存部が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

#### 【A区 SK07】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

楕円形の墓壙内から焦土・炭化物とともに火葬骨が出土している。残存部が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

#### 【A区 SK08】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

楕円形の墓壙内から火葬骨が出土している。火葬骨は少量であり残存部が少ない。

#### 【A区 SK09】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

円形の墓壙内から火葬骨が出土している。火葬骨は少量である。

#### 【A区 SK10】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

円形の墓壙内から焦土・炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨・躯幹骨および上肢・下肢とほぼ全身に及ぶが、量はそれほど多くないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK11】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

楕円形の墓壙内から焦土・炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は墓壙底から20～25cmほど浮いた位置から頭蓋骨・躯幹骨および上肢・下肢とほぼ全身に及ぶ部位が出土している。ただし残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

この他に火葬骨とほぼ同じレベルにおいて土器片・動物骨が出土している。

【A区 SK12】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

楕円形の墓壙内から焦土・炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨および四肢骨片であるが、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK13】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

楕円形の墓壙内から礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨および四肢骨片であるが、少量である。

【A区 SK14】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

楕円形の大型の墓壙内から多数の礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨および四肢骨片であるが少量である。

また、土器片も出土している。

【A区 SK15】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑

拾骨：有

楕円形の墓壙内から焦土・被熱した礫・炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨および四肢骨片であり、墓壙内北西側から頭蓋骨片がまとまった状態で出土しており、その南東側から四肢骨が出土している。これらの人骨群の東西からはそれぞれ礫と炭化材が出土している。以上のことから本人骨は頭蓋を北西側にした状態で火葬されたのち、拾骨され他所に埋置されたものと推定される。

【A区 SX16】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：不明

不整形の墓壙内から多数の礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、出土量も少ない。

【A区 SK16】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

墓壙の形状が不明な50cm×100cmの範囲から複数の礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨および四肢骨片であるが、少量である。

【A区 SK17】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

円形の墓壙内から焦土・炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨、躯幹骨および四肢骨片であり全身の部位が出土しているが、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SP21】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：不明

小型の円形の墓壙内から焦土・炭化材とともに火葬骨が出土している。残存部位・量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK22】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

隅丸長方形の墓壙内から焦土・被熱した複数の礫とともに火葬骨が出土している。残存部位・量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK23】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

隅丸長方形の墓壙内から被熱した礫1点とともに火葬骨が出土している。火葬骨は少量である。

【A区 SK24】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：不明

不整形の墓壙内から少量の炭化物及び火葬骨が出土している。

【A区 SK25】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

楕円形の墓壙内から焦土・被熱した礫とともに火葬骨が出土している。50cm 四方の狭い範囲から出土している。火葬骨はほぼ全身の部位が遺存している。火葬骨はより上層から頭蓋・躯幹骨および上肢骨が、下層から下肢骨が出土している。人骨の出土している範囲及び出土部位の上下関係から、本個体は坐葬の状態で火葬された可能性が考えられる。また、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK27】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

小型の円形の墓壙内から礫および火葬骨が出土している。火葬骨は躯幹骨および四肢骨が少量遺存している。

【A区 SK28】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

楕円形の墓壙内から焦土・被熱した礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨はほぼ全身の部位が遺存しているが、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK29】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

楕円形の墓壙内から火葬骨が出土している。火葬骨はほぼ全身の部位が遺存しているが、少量である。

【A区 SK30】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑

拾骨：有

不整形の墓壙内から焦土・被熱した複数の礫・大量の炭化材とともに火葬骨が出土している。火葬骨は60cm 四方の範囲から出土しており、ほぼ炭化材の上から出土している。ほぼ全身の部位が遺存しており、より上層から頭蓋骨片および上肢骨片が出土し、より下位の位置から下肢骨片が出土している。

さらに、礫の隙間に落ち込んだ状態で最下層からは仙骨および寛骨の小片が出土している。以上の出土状況から、本個体は坐葬で火葬された可能性が考えられる。また、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK31】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

不整形の墓壙内から焦土・被熱した礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は下肢骨を中心に遺存しており、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SX32a・SK32b】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

SX32aは不整形の墓壙内から焦土・被熱した礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片で、残存部位・量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

さらにこの下からも円形の墓壙 SK32b が検出されており、墓壙内からは焦土と火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨片および大腿骨片などが出土しているが、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK34】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

円形の墓壙内から焦土とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片で、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK35】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

隅丸方形の墓壙内から焦土・炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片で、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK36】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

楕円形の墓壙内から焦土・被熱した礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨、上肢骨・下肢骨など全身に及ぶが、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK37】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑

拾骨：有

隅丸長方形の墓壙内から、焦土・被熱した礫とともに火葬骨が出土している。最下層からは被熱した礫が出土しており、その直上の50cm×100cmの長方形の範囲から炭化物が、最上層から火葬骨が

出土している。火葬骨は頭蓋骨、上肢骨・下肢骨など全身に及び、最も北側からは寛骨片が出土しており、その南側から大腿骨および脛骨片が出土している。残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

**【A区 SK38】**

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

円形の墓壙内から火葬骨が出土している。墓壙内からは土師皿も出土している。

**【A区 SK40】**

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

不整形の墓壙内から焦土・被熱した礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は頭蓋骨、上肢骨・下肢骨など全身に及ぶが、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。本人骨に伴って土師皿も出土している。

**【A区 SK41】**

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

不整形の墓壙内から焦土・被熱した礫、炭化材とともに火葬骨が出土している。火葬骨は墓壙内全体から出土しており、頭蓋骨、上肢骨・下肢骨など全身に及び、出土量も本遺跡内では比較的多い事例である。ただし残存量は1体分には満たないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

**【A区 SK42】**

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

楕円形の墓壙内から焦土・被熱した礫、被熱した板碑、炭化材とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片化しており、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

**【A区 SK43】**

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

円形の墓壙内から焦土・被熱した礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

**【A区 SK44】**

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

不整形の墓壙内から炭化物および火葬骨が出土している。火葬骨はほぼ全身の部位が遺存しているが、少量である。

【A区 SD46】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

不整形の墓壙内から焦土とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SK48】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

円形の墓壙内から焦土、炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SP49】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

小型の円形の墓壙内から炭化物、土師器片とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、出土量も少ない。

【A区 SP51】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

小型の円形の墓壙内から炭化物、土師器片とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、出土量も少ない。

【A区 SP54】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

円形の墓壙内から火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、出土量も少ない。

【A区 SK55】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

不整形の墓壙内から焦土・炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は墓壙内全体から出土し、細片で残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【A区 SX56】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

墓壇ラインの不明な広い範囲内から多数の被熱した礫・炭化物とともに火葬骨が出土している。墓壇内西側からは、部位不明の火葬骨片と被熱していない大腿骨が出土している。東側からは、被熱した頭蓋骨片・椎骨片・橈骨片他、部位同定困難な火葬骨片が出土している。

【A区SK57】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：有

切り合った大型と小型の円形の墓壇内から炭化物、土師器片とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、出土量も少ない。

【A区SK59】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

円形の墓壇内から礫とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、出土量も少ない。

【G区SK02】

葬法：不明

遺構：不明

拾骨：不明

墓壇ラインの不明な広い範囲内から炭化物とともに骨片が出土している。人骨には明瞭な被熱の痕跡は認められず細片であり、出土量も少ない。

【G区旧SK12】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：不明

不整形の墓壇内から多数の炭化物・焦土とともに火葬骨および被熱していない人骨が出土している。人骨はすべて細片である。

【G区SK13】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：有

円形の墓壇内から多量の炭化材・被熱した礫・焦土とともに火葬骨が出土している。火葬骨はすべて細片であり、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

また、土師皿も出土している。動物骨の混入も見られる。

【G区旧SK14】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

墓壇ラインの不明な広い範囲内から礫および炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、出土量も少ない。

【G区 SX16】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

墓壇ラインの不明な広い範囲内から焦土および炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、出土量も少ない。また動物骨の混入が見られる。

【G区 SK17】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

不整形の墓壇内から火葬骨が出土している。火葬骨はすべて細片である。

【G区 SK18】

頭位：南西

遺構：土壇墓（長方形木棺か？）

埋葬姿勢：屈葬

不整形の墓壇内から人骨が出土している。墓壇内南西側から頭蓋骨が左側頭部を上、顔面を南東側にした状態で出土しており、その北側からは下肢骨が長軸を南西 - 北東にした状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は頭位南西の屈葬の可能性が考えられる。

【G区 SK19】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

不整形の墓壇内から被熱した礫・炭化物とともに火葬骨が散乱した状態で出土している。火葬骨はすべて細片であり、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【G区 SK24】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：不明

不整形の小型墓壇内から火葬骨が出土している。火葬骨はすべて細片である。

【G区 SK27 (SK31内)】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：有

円形の墓壇内から若干の焦土および炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、残存量は少ない。

【G区 SK31】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：有

不整形の墓壇内から若干の焦土および炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、

残存量は少ない。

#### 【G区 SK32】

葬法：火葬

遺構：不明

拾骨：有

不整形の墓壙内から若干の焦土および炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、残存量は少ない。

#### 【G区 SK33】

葬法：火葬

遺構：火葬土坑か？

拾骨：有

不整形の墓壙内全体から複数の被熱した礫、若干の焦土および炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は細片であり、残存量が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

## 2. 人骨所見

HZK2006地点から出土した人骨のほとんどが被熱して細片化していることから、形質的特徴の検討を行うことはできなかった。これらの人骨はクラックが入り硬化していることから火葬されたと推定される。ただし、骨そのものは黒色あるいは灰色の部分もみられることから、焼成温度は部分的には300-500度前後であったと推定される（Wahl 2008）。この温度はA区SK17のように歯根が遺存している事例が複数認められることから支持される（Beach et al. 2008）。

## 3. HZK2006における葬制

本調査区においては、性格不明な遺構を除き、G区SK18のみが明確な単葬用（土葬）の墓であり、その他はすべて火葬骨を主とした遺構である。これらの火葬骨の出土した遺構に関しては、焦土・炭化物および被熱した礫が相伴しており、明らかに遺構内で火葬をしたと推定される火葬土坑が確認される。これらの火葬土坑に関しては、全てに拾骨の痕跡が認められ残存する火葬骨の量は極めて少なく、火葬時の姿勢が明らかな事例は得られていないが、2例のみ上肢骨と下肢骨が上下に重層的に出土しており、火葬時に坐葬の姿勢であった可能性がうかがわれる。このような坐葬は、いわゆる中世的な埋葬姿勢である仰臥ないし側臥の屈葬とは異なるが、類例は大分県笠松遺跡（金・田中 1993）や熊本県尾窪遺跡（熊本県教委 1973）において報告されている。また、残存部位に特に傾向は無く、頭蓋骨・躯幹骨・上肢骨・下肢骨まんべんなく遺存している。ただし、中世吉母浜遺跡で意識的に拾骨の対象として挙げられていた第2頸椎（軸椎）（田中 1985）は本調査地点の各遺構においても確実に部位同定できる範囲では遺存は確認されておらず、本調査地点においても第2頸椎が拾骨の対象部位として最低限必要なものとして認識されていた可能性も考えられる。

一方で、これらの火葬土坑からは明瞭に複数個体が出土している事例は無いことから、同一の火葬土坑が複数回あるいは複数個体の火葬に使用された積極的な根拠は認められない。ただし、繰り返しになるが1遺構当たりの出土火葬骨量が非常に少ないため断定は困難である。

また、確実に火葬骨を拾骨後に埋置した二次葬の地である墓と断定できるような遺構も本調査区では検出されていない。したがって、本調査地点がHZK1805地点と同様に火葬を行った場所であるという事実関係は確認できたが、火葬後拾骨された火葬骨が埋置されたいわゆる火葬墓と明瞭にわかるような事例は得られていない。

## おわりに

HZK2006地点からは多数の火葬骨および一次葬の人骨が出土した。また、これらの火葬骨が出土した遺構のうち、焦土・炭化物・被熱した礫を伴い明らかに火葬に使用され、その後火葬骨が拾骨されたと推定される火葬土坑も多く存在する。この火葬土坑は基本的には単体を一度火葬する際に使用されたと推定される。

## 引用・参考文献

- Beach, J. J., Passalacqua, V. N. and Chapman, N. E., 2008. Heat-related changes in tooth color: temperature versus duration of exposure. The analysis of burned human remains. Elsevier. pp.137-144.
- 土井卓司・佐藤米司1979「総論」『葬送墓制研究集成第1巻 葬法』名著出版 pp.11-35.
- 福永将大2020「火葬土坑群の位置づけ」『九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告3 箱崎遺跡』九州大学埋蔵文化財調査室 pp.86-90.
- 金宰賢・田中良之1993「笠松遺跡火葬墓出土人骨」『笠松遺跡』大分県教育委員会 pp.43-53.
- 熊本県教育委員会1973『尾窪一熊本県下益城郡城南町尾窪中世墓群の研究一』
- 田中良之1985「中世の遺構」『吉母浜遺跡』下関教育委員会 pp.31-100.
- 栃原博1957「日本人歯牙の咬耗に関する研究」『熊本医学会雑誌』31-4熊本医学会 pp.1-50.
- Wahl, J., 2008. Investigations on pre-roman and roman cremation remains from southwestern Germany: results, potentialities and limits. The analysis of burned human remains. Elsevier. pp.145-161.
- 米元史織・舟橋京子・早川和香子・高椋浩史・岩橋由季・谷澤亜里・中井歩・田中良之2014「薬師の森遺跡第16・32時調査出土人骨について」『宇乙金地区遺跡群10—薬師の森遺跡第15・16・22・32・34・35次調査一』大野城市教育委員会.

第1表 HZK2006地点の遺構に伴う人骨

調査区	遺構番号	出土部位	被熱の有無	備考
A	SX01	被熱無：①前頭骨片，左側頭骨片，上下顎永久歯列歯牙，②混合歯列歯牙 被熱有：尺骨片，指骨，趾骨片	混合	最低3体分（成人2体，幼児1体），馬骨
A	SK04	不明骨片	有	
A	SK07	不明骨片	有	
A	SK08	右錐体，肋骨，中節骨（指骨），右乳様突起付近，歯根，下肢骨その他長管骨片あり	有	成人
A	SK09	長管骨片	有	
A	SK10	左右頬骨片，右側頭骨片，右下顎等片，歯根，頸椎片，肋骨片，上腕骨片，指骨，大腿骨片	有	
A	SK11	頭蓋骨片，尺骨片，大腿骨片，不明長管骨	有	被熱の無い骨片と動物骨片も混入
A	SK12	頭蓋骨，四肢骨片	有	
A	SK13	頭蓋骨片，歯根，肋骨片，前腕片，指骨，左大腿骨片，左膝蓋骨，四肢骨片	有	
A	SK14	頭蓋骨片，四肢骨片	有	
A	SK15	頭蓋骨片，大腿骨片，膝蓋骨片含む不明骨片	有	成人，男性の可能性

調査区	遺構番号	出土部位	被熱の有無	備考
A	SX16	椎骨片, 四肢骨片	有	
A	SK16	頭蓋骨及び四肢骨片	有	
A	SK17	左頬骨片, 右上顎骨片, 下顎骨辺, 歯根片, 環椎片, 椎骨片, 上腕骨片, 頭蓋骨片, 尺骨片, 左寛骨片, 大腿骨片, 脛骨片	有	
A	SP21	部位不明細片	有	
A	SK22	頭蓋骨, 長管骨片	有	
A	SK23	頭蓋骨, 長管骨片	有	
A	SK24	部位不明細片	有	
A	SK25	頭蓋骨片, 左右下顎頭片, 歯根片, 椎骨片, 肋骨片, 上腕骨片, 尺骨片, 頭骨片, 左右寛骨片, 右大腿骨頭片, 左膝蓋骨片, 脛骨片, 指骨, 趾骨	有	成人
A	SK27	椎弓, 長管骨片, 脛骨片	有	
A	SK28	肋骨他不明細片	有	
A	SK29	頭蓋骨片, 下顎骨片, 脛骨片, 四肢骨片	有	
A	SK30	頭蓋骨片, 歯根, 仙骨片, 寛骨片, 右肩甲骨片, 大腿骨片, 腓骨片, 他不明骨片多数あり	有	
A	SK31	左恥骨片, 大腿骨片, 長管骨片	有	
A	SX32a	長管骨片	有	
A	SK32b	頭蓋骨片, 大腿骨粗線付近片, 不明細片	有	
A	SK34	頭蓋骨片, 橈骨片	有	
A	SK35	不明骨片	有	
A	SK36	頭蓋骨片, 上腕骨片, 大腿骨片, 脛骨片	有	
A	SK37	頭蓋骨片, 寛骨片, 大腿骨片, 脛骨片, 不明四肢骨片	有	
A	SK38	不明四肢骨片	有	
A	SK40a	頭蓋骨片, 四肢骨片, 不明骨片	有	
A	SK40b	下肢骨(長管骨片)	有	
A	SK41	左右頬骨眼窩付近片, 頭蓋骨片, 左上顎骨歯槽付近片, 長管骨片	有	成人
A	SK42	不明骨片	有	
A	SK43	長管骨片	有	
A	SK44	長管骨片	有	
A	SD46	不明骨片	有	
A	SK48	不明骨片	有	
A	SP49	不明骨片	有	
A	SP51	不明骨片	有	
A	SP54	胸椎, 肩甲骨片, 不明骨	有	
A	SK55	不明骨片, 頭蓋骨片あり	有	
A	SX56	頭蓋骨片, 椎骨, 橈骨, 大腿骨片(被熱無し), 長管骨片(被熱あり), 四肢骨片	混合	

II 箱崎遺跡（HZK2006地点）調査出土近世人骨について

調査区	遺構番号	出土部位	被熱の有無	備考
A	SK57	長管骨片, 頭蓋骨片, 肋骨片	有	
A	SK59	頭蓋骨片, 肋骨片, 不明骨片	有	
G	SK02	長管骨片	無	
G	SK13の南	四肢骨片	有	被熱していない人骨が若干混入
G	SK13	不明骨片, 四肢骨片	有	
G	SK13の東	頭蓋骨片, 指骨, 長管骨片	有	動物骨混入
G	SX16	頭蓋骨片, 下顎体舌側付近片, 上腕骨片, 橈骨片, 大腿骨片・趾骨他	有	成人
G	SK17	長管骨片	有	
G	SK18	頭蓋骨片, 上下顎歯牙, 右大腿骨片, 四肢骨片	無	熟年男性
G	SK19	長管骨片, 頭蓋骨片, 不明骨片	有	
G	SK24	上下顎骨片, 歯根片, 部位不明細片	有	
G	SK24の北	四肢骨細片, 指骨	有	成人
G	SK27 (SK31内)	不明骨片	有	
G	SK31	長管骨片, 不明骨片	有	
G	SK32	長管骨, 椎弓片	有	
G	SK33	頭蓋骨片, 右錐体片, 歯根片, 椎骨片, 指骨片, 大腿骨片, 趾骨片, 四肢骨片	有	

### Ⅲ 箱崎遺跡（HZK2007地点）調査出土近世人骨の 埋葬状態と形質的特徴

米元史織<sup>1・2)</sup>・舟橋京子<sup>2・3)</sup>

1：九州大学総合研究博物館

2：九州大学アジア埋蔵文化財研究センター

3：九州大学大学院比較社会文化研究院

#### はじめに

福岡県福岡市東区箱崎遺跡（HZK2007）は2020年度に九州大学埋蔵文化財調査室によって発掘調査が行われ、近世・近代に属する人骨が多数出土した。そこで、九州大学アジア埋蔵文化財研究センターに人骨調査の依頼があり、九州大学総合研究博物館の米元が現地で調査・取り上げを行った。その後、人骨は九州大学大学院比較社会文化研究院基層構造講座に搬送され、九州大学アジア埋蔵文化財研究センターにおいて、出土人骨の整理・分析が行われた。

人骨の年齢推定は、恥骨結合面は Todd (1920) を、耳状面は Lovejoy (1985)、咬耗は 栃原 (1957) を用い、性判定には、骨盤は Buikstra and Ubelaker (1994) を基準に、恥骨下角の角度・大坐骨切痕の角度・前耳状溝の有無、また Phenice (1969) の腹側弧、恥骨下陥凹、恥骨下枝内側面隆起に基づいて判定を行った。頭蓋は Buikstra and Ubelaker (1994) を基準に、眼窩上隆起・乳様突起・外後頭隆起で判定を行った。年齢の表記に関しては、九州大学医学部第二解剖学教室編集の『日本民族・文化の生成2』（九州大学医学部解剖学第二講座編、1988）記載の区分に従い、乳児0-1歳、幼児1-6歳、小児6-12歳、若年12-20歳、成年20-40歳、熟年40-60歳、老年60歳以上、成人は20歳以上（詳細は不明）とする。

#### 1. 出土状況

人骨の出土状況に関しては、HZK1801と同様に、頭位あるいは躯体正面、想定される棺の種類、改葬の有無、改葬部位に関して記述する。屈葬に関しては、体軸を示す指標として頭位を記述しているが、坐葬に関しては頭位および躯体正面を記述している。坐葬は通常頭部を上にして座した状態であり、体軸は地面に対して垂直に近く頭位は上方を指向された埋葬姿勢である。一方で、江戸の発昌寺においては、出土人骨の骨盤により判断される身体の正面が、内部施設の「前」など正面を記した記号と一致していることや参道や墓地形成を探る手掛かりとなる（井汲 1991）ため、骨盤の向きを報告する必要性が指摘されている（谷川 2004）。そのため、坐葬で躯体正面が明らかな場合はこれも併せて記述することとする。

葬法に関しては、遺体の周辺に空隙があったことが確実にわかるような、人骨の崩落がみられる場合には棺ありと断定し、人骨の出土範囲の形状から棺の存在が想定される場合には棺の種類に「？」を付している。加えて、埋葬後の遺体に対する人為的な行為として、骨を棺内から取り出し他の場所へ移す収骨を伴う改葬を行った可能性が高い事例と、収骨は行っていないが人為的に棺内の遺骨を大きく乱している事例が確認されており、HZK1801と同様に前者については改葬有（改葬による収骨）、

後者は改葬不明（再開口あり）と区別して記載を行った。

火葬骨については、判別できた部位がどの位置から出土したかを検討した。土坑内に炭や炭化物を伴って少量の火葬骨のみが出土している場合は、土坑内で火葬が行われた後に骨が持ち去られている可能性が高く、その場合はHZK2006と同様に火葬土坑の可能性が高いと判断した。遺構の性格としては、厳密には墓ではないため、いわゆる茶毘場と考え、火葬土坑として記載する。炭や炭化物も人骨同様少量であった場合は遺構の性格は不明（土壙墓？）としている。一次葬である遺体焼却後火葬した人骨をそのまま火葬した場で埋葬した場合や、拾骨後の火葬骨を埋置したと判断できる場合には火葬墓とする。火葬の場合は、改葬の有無ではなく、拾骨の有無を記している。

一覧を第6表にまとめる。

【SK03】

頭位：不明 葬法：火葬土坑

埋葬姿勢：不明 拾骨：有

被熱した礫の直上あるいは礫の隙間から火葬骨が出土している。火葬骨は少量であり頭蓋骨片が礫分布範囲のほぼ中央付近から出土している。残存部位が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【SK04】

頭位：不明 葬法：火葬土坑

埋葬姿勢：不明 拾骨：有

被熱した礫の直上あるいは礫の隙間から火葬骨が出土している。火葬骨は少量である。残存部位が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。火葬骨とともに炭が多く出土している。

【SK05】

頭位：北 葬法：火葬土坑

埋葬姿勢：不明 拾骨：有

被熱した礫の直上あるいは礫の隙間から火葬骨が出土している。火葬骨は少量である。歯牙片が人骨出土範囲の北側からまとまった状態で出土しており、その南側からは頸椎・胸椎片が出土しており、歯牙の西側からは指骨片が出土している。また、人骨出土範囲の南側からは大腿骨が出土している。

以上の出土状況から本個体は頭位北向きの姿勢で火葬され、残存部位が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

火葬骨とともに炭が多く出土している。

【SK06】

頭位：不明 葬法：火葬土坑

埋葬姿勢：不明 拾骨：有

円形の墓壙内から焦土（黒色土）とともに火葬骨が出土している。火葬骨は少量である。残存部位が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

【SK09】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

楕円形の墓壙内から炭化物とともに少量の火葬骨が出土している。

## 【SK10】

頭位：不明 葬法：不明  
埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

大型の円形の土壇内から炭化物とともに火葬骨が出土している。火葬骨は少量である。

## 【SK12】

頭位：不明 葬法：火葬土坑の可能性  
埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

楕円形の土壇内から焦土（黒色土）とともに火葬骨が出土している。火葬骨は少量である。残存部位が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

## 【SK20】

頭位：北の可能性あり 葬法：火葬土坑の可能性  
埋葬姿勢：不明 拾骨：有

円形の土壇内から人骨が出土している。本土壇はST21に南端を切られている。人骨は残存状態が良好ではなく白色化した火葬骨片が散乱するのみである。土壇内の北側から頭蓋骨が出土し、中央付近から上腕骨が、最も南側から脛骨片が出土していることから、頭位を北に向けた状態で火葬された可能性も考えられる。残存部が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

## 【ST21】

頭位：北 葬法：土壇墓  
埋葬姿勢：側臥屈葬 拾骨：有

SK20の南端を切る円形の土壇内から人骨が出土している。頭蓋骨は土壇内の北側から右側頭部を下に向けた状態で出土している。土壇内の南側から下肢骨片が長軸を南西－北東に向けて出土している。膝関節を屈した側臥屈葬位で埋葬されていたと推定される。

本人骨に伴い、土師坏が出土している。

## 【SK22】

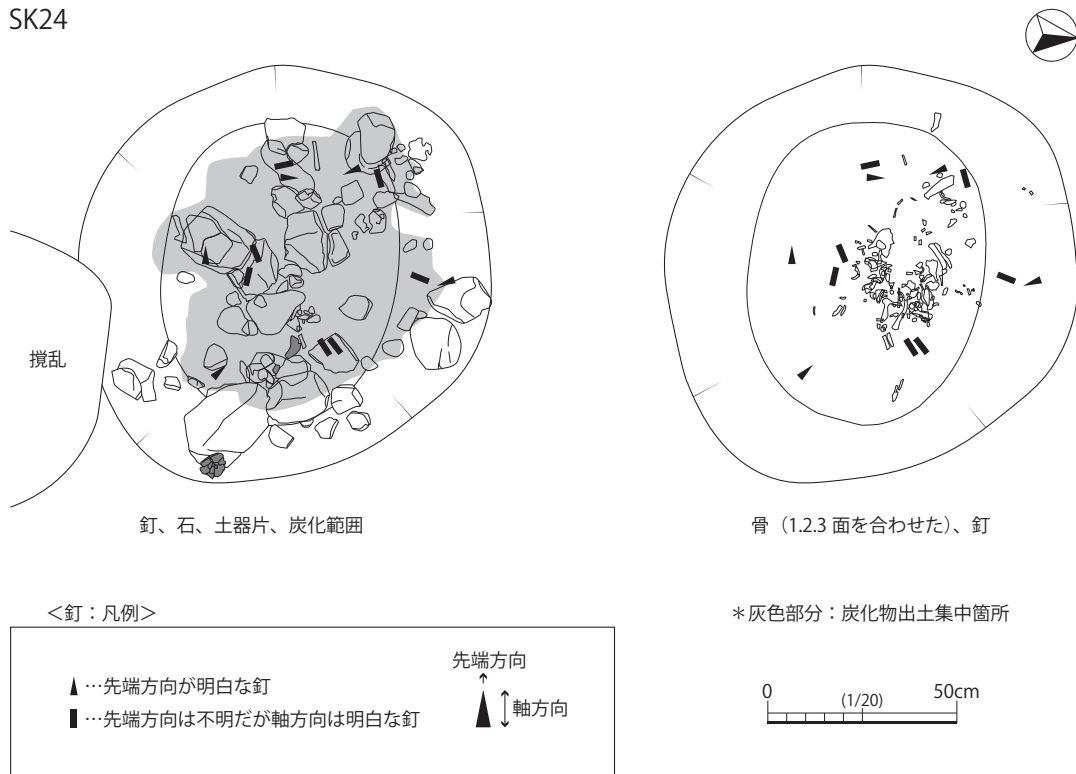
頭位：不明 葬法：火葬土坑の可能性  
埋葬姿勢：不明 拾骨：有

不定形の土壇内から人骨と炭化物が出土している。人骨は残存状態が良好ではなく火葬骨（詳細部位不明）が散乱するのみである。残存部が少ないことから火葬後拾骨され、他所に埋葬されたものと推定される。

## 【SK24】（第1図）

頭位：不明 葬法：火葬土坑の可能性  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

隅丸長方形の墓壇内から焦土・被熱した礫・炭化材とともに火葬骨が出土している。火葬骨は四方を炭化材で囲まれた範囲から出土している。最上層からは人骨出土範囲の北西側から大腿骨片が、南側から肩甲骨片が出土している。これより下位からは人骨出土範囲の中心部から、上顎骨片・環椎片・頸椎片・大腿骨片および前腕部片が出土している。さらに下からは人骨分布範囲内北側から頭蓋骨片および下顎骨片が出土しており、南側から仙骨片が出土している。最下層からは北側から頭蓋骨・仙骨片および前腕部片・寛骨片・大腿骨片が出土しており、南側から大腿骨片が出土している。加えて最下層からは歯根片も多数出土している。これらの火葬骨は他の火葬骨出土遺構と比較すると出土した火葬骨の量は比較的多いが、1体分の量には全く及ばないことから、火葬後拾骨され、他所



第1図 HZK2007地点 SK24人骨出土状況

に埋葬されたものと推定される。

人骨の分布範囲の外縁付近から鉄釘などの金属製品が出土している。加えて、土壙内南東側の礫上からは土師皿が出土している。これらの出土遺物および炭化材、副葬品の位置関係から、本個体は金具が付いた方形の棺に納棺された状態で本遺構において火葬されたと推定される。

【SK30】

頭位：北向きの可能性あり 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

複数の土壙が密集した地区に位置する円形の土壙内から人骨が出土している。本土壙はSK10・12に切られている。SK12に近接した土壙の北側から頭蓋骨が出土しており、土壙内東側から詳細部位不明骨片と火葬骨片が出土している。人骨の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

【ST31】

頭位：北向きの可能性あり 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙内から人骨が出土している。頭蓋骨は土壙内の北側から出土している。頭蓋骨以外はほぼ残存していない。人骨の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

【ST33】

頭位：不明 葬法：土壙墓（木棺？）  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内の北側から頭蓋骨が顔面部を下に向けた状態で出土している。頭蓋骨の南側から下顎骨片と歯牙が複数出土しており、上下顎は咬合状態を保っている。

以上の出土状況から、本人骨は、うつ伏せで埋葬された可能性と軟部組織の腐朽に伴い、頭蓋骨が前方に転じた可能性が考えられるが人骨の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

別個体の火葬骨が出土している。土壙内から鉄釘が出土している。

【SK35】

頭位：不明 葬法：火葬土坑

埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

土壙内から人骨と炭化物が出土している。土壙北側は攪乱により破壊されている。人骨は残存状況が良好ではなく火葬骨（詳細部位不明）が散乱するのみである。

【SX37】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

近現代の攪乱を除去したのち明確な土壙ラインをもたない砂丘上から頭蓋骨が出土している。頭蓋骨付近から土師坏が出土している。

【SK40】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

長円形の土壙内から人骨が出土している。人骨は残存状況が良好ではなく火葬骨（詳細部位不明）と被熱していない骨片が散乱するのみである。

【SK42】

頭位：不明 葬法：火葬土坑の可能性

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

楕円形の土壙内中央付近から炭化物とともに火葬骨が出土している。

【SK43】

頭位：不明 葬法：土壙墓？

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

楕円形の土壙内から歯牙が1点出土している。

【SK44】

頭位：不明 葬法：土壙墓？

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙内から火葬骨および被熱のみられない人骨が出土している。

【ST45】

頭位：北、躯体正面：南 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：立膝坐葬？ 改葬：不明

土壙内から人骨が出土している。頭蓋骨は土壙の北側から後頭部を上に向けた状態で出土している。頭蓋骨の西側から歯牙が複数出土している。頭蓋骨の下位から上腕骨が出土しており、土壙東側から下肢骨片がほぼ直立した状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位北向きで立膝の屈葬位であったと考えられるが人骨の残存状況が良好ではないため詳細な埋葬姿勢は不明である。その他火葬骨も出土している。

【SK47】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙内から火葬骨が出土している。

【SK49】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

小型の円形の土壙内から火葬骨が出土している。

【SK50】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

小型の円形の土壙内から火葬骨が出土している。

【SK51】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

楕円形の土壙内から歯牙及び火葬骨が出土している。歯牙は土壙内の東側から歯列を保った状態で出土している。これらの歯牙の西側からは火葬骨片も数点出土している。

【SK52】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

小型の円形の土壙内から火葬骨が出土している。

【SK53】

頭位：不明 葬法：火葬土坑

埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

小型の円形の土壙内から大型の炭化材および火葬骨が出土している。

【SK57】

頭位：不明 葬法：火葬土坑

埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

不定形の土壙内から炭化材および火葬骨が出土している。

【SK58】

頭位：北の可能性あり 葬法：火葬土坑

埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

不定形の土壙内から大型の炭化材および火葬骨が出土している。頭蓋骨および前腕骨が土壙内北側から出土していることから、北側に上半身が位置していた可能性が考えられる。

【ST59】 (第2図)

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

甕棺上部が破碎した甕棺内の西側から頭蓋骨が後頭部を上、顔面を下方にした状態で出土している。上下顎

ST59



0 (1/10) 25cm

第2図 HZK2007地点 ST59人骨出土状況

は関節した状態で出土しており、大後頭孔および下顎骨の中央部あたりから頸椎片が複数出土している。頸椎片の東側から上部胸椎が連なった状態で出土しており、その直下から下部胸椎・腰椎・仙骨がほぼ関節状態で出土している。椎骨の左右から肋骨が散乱した状態で出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の南側から左肩甲骨・左上腕骨が背側を上にした状態で出土している。左上腕骨は近位を西、遠位を東にした状態で出土している。左上腕骨の下位から、左橈骨・左尺骨が近位を東に、遠位を南西に向けた状態で出土している。左肘関節は屈した状態で概ね関節状態を保ち、左橈骨と左尺骨も解剖学的位置関係を保ち、遠位端は腹部に位置していたと考えられる。頭蓋骨の北西側から右上腕骨が近位を上方にした状態で出土している。右尺骨と右橈骨はその下位より遠位を南西側やや上方に向け、肘関節の関節状態を保って出土している。右前腕の遠位端は甕棺内の南側、頭蓋骨下位の左膝関節付近より出土しており、右前腕の遠位下方より多数の指骨と錫杖が出土している。

下肢骨は、甕棺内の底部付近東側から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を保って、左右の大腿骨がほぼ直立した状態で遠位を上方に向け出土している。左右の脛骨・腓骨も左右大腿骨の西側からほぼ直立した状態で出土している。左右の股関節および膝関節は関節状態であり、股関節・膝関節ともに強屈した状態である。左右足根骨は甕棺内の西側で左右重なった状態で関節状態を保ち出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を東側に、躯体正面を西に向けた立膝坐葬であると推定される。左肘関節は屈し腹部の上に、右肘関節も屈した状態で左膝関節近くに手を置き、錫杖を握っていたと考えられる。左右の股関節・膝関節は強屈し左右の足は西側向きに揃えられていた。軟部組織が完全に腐朽する前に前方に倒れ込んだものと考えられるため、埋葬時は蓋などがされていたのだろう。一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

#### 【SX60】

頭位：不明 葬法：甕棺？  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

甕棺片出土集中部内および周辺より火葬骨と熱を受けていない人骨が出土している。

#### 【SK61】

頭位：不明 葬法：火葬土坑  
埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

不定形の土壌内から炭化物および火葬骨が出土している。土壌内北側から頭蓋骨片、軸椎片、上肢骨片が出土していることから北側に上半身が位置していた可能性が考えられる。

#### 【ST62】（第3図）

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

口縁部が一部破砕した甕棺内中央部の底部付近から幼児～小児の頭蓋骨が出土している。それ以外の部位は残存状態が良好ではないため不明である。一部火葬骨も出土している。

#### 【ST63】（第4図）

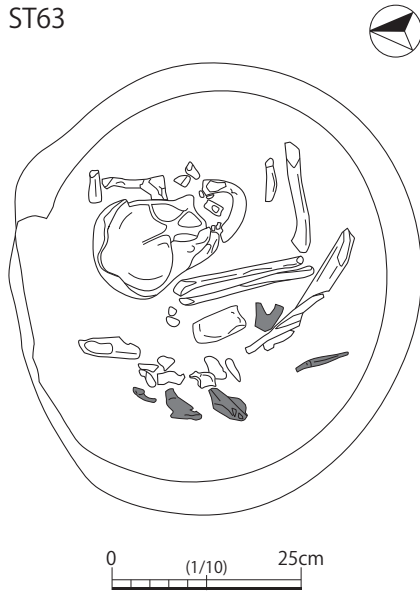
頭位：西、躯体正面：東 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

ST62

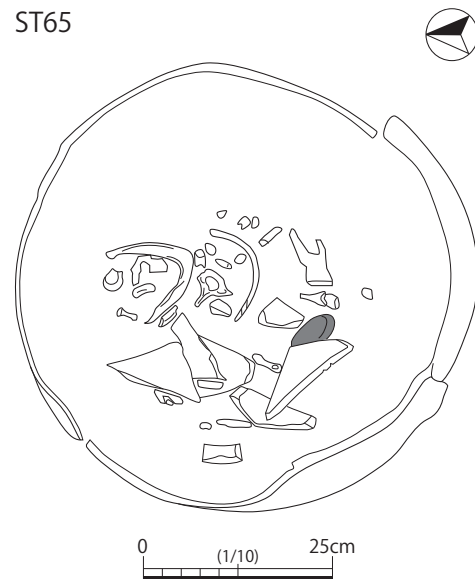


0 (1/10) 25cm

第3図 HZK2007地点 ST62人骨出土状況



第4図 HZK2007地点 ST63人骨出土状況



第5図 HZK2007地点 ST65人骨出土状況

口縁部が破碎した甕棺内北側から頭蓋骨が後頭部を上、顔面を下方にした状態で出土している。上下顎は関節した状態で出土しており、下顎骨の中央部あたりから頸椎片が出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の南側から右上腕骨が近位を東側に、遠位を西側に、外側を上にした状態で出土している。右上腕骨の遠位端付近より右橈骨・右尺骨が近位を南に、遠位を北にした状態で出土し、右前腕の遠位端は頭蓋骨の左側頭部に接している。右前腕の遠位端付近から頭蓋骨の下位で指骨が複数出土している。右肘関節は屈した状態で概ね関節状態を保っている。頭蓋骨の北側、甕棺胴部に接するように左上腕骨が近位を上方に、外側を上にして出土している。左上腕骨と頭蓋骨の間から左肩甲骨が出土している。肩関節は関節状態を保っていたと考えられる。

下肢骨は、甕棺内西側の底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を保って右大腿骨はほぼ直立した状態で遠位を上方に向け出土し、左大腿骨は遠位を東に向け背側を上にした状態で出土している。左右の脛骨片・腓骨片も左右大腿骨の付近から出土している。左右の足根骨は寛骨と同じ位置から出土している。左右の股関節は関節状態であり、足根骨の位置から考えて股関節・膝関節ともに強屈した状態である。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を西側に、躯体正面を東に向けた立膝坐葬であると推定される。左右肘関節は屈し腹部の上に置かれ、左右の股関節・膝関節は強屈した状態で埋葬されたものと考えられる。軟部組織が完全に腐朽する前に上半身が前方に倒れ込んだものと考えられるため、埋葬時は蓋などがされていたのだろう。一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

【ST65】（第5図）

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破碎した甕棺内から人骨が出土した。甕棺内最上部から割れた板石が出土しており、内部には甕棺片が落ち込んでいる。甕棺内中央部の底部付近から下顎骨が出土している。それ以外に肋骨や椎骨、指骨が確認されるが散乱した状態である。人為的な改葬を行ったため、残存部位が少なく甕棺片が内部に入り込んでいる可能性が考えられる。

## 【ST67】（第6図）

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

甕棺内から乳幼児骨が出土した。甕棺内上部からは骨は出土せず、底部付近から骨片が散乱した状態で出土している。骨の残存状態は良好ではないため詳細は不明である。

## 【SK68】

頭位：不明 葬法：不明  
埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

小型の円形の土壙内から大型の炭化材および火葬骨が出土している。

## 【SX69】

頭位：不明 葬法：不明  
埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

形状不明の土壙内から土師皿および火葬骨が出土している。

## 【SK71】

頭位：不明 葬法：不明  
埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

楕円形の土壙内から炭化物および火葬骨が出土している。

## 【SK72】

頭位：不明 葬法：不明  
埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

楕円形の土壙内から炭化物および火葬骨が出土している。

## 【ST73】

頭位：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

上半分が破壊された甕棺内部から前腕を含む四肢骨片および歯牙が散乱した状態で出土している。

## 【ST74】

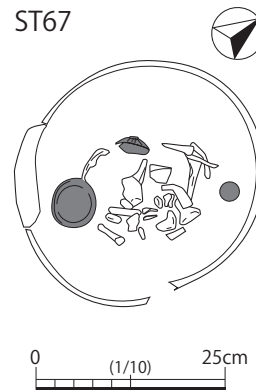
頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

火葬骨片が出土しているが、甕棺の上半部が破壊されており、火葬骨が本来甕棺内に埋葬されていたかは不明である。

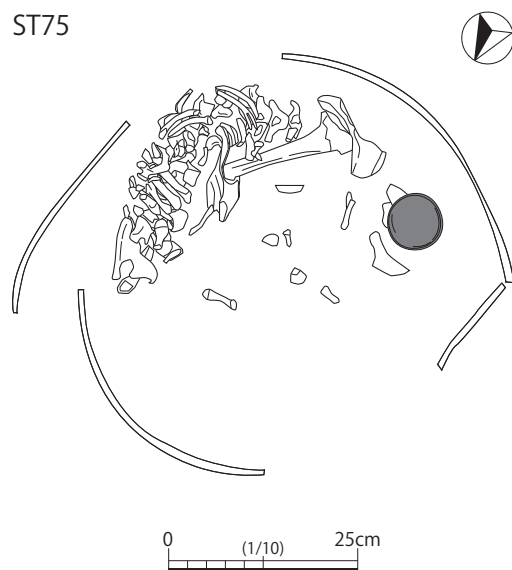
## 【ST75】（第7図）

頭位：南東、躯体正面：北西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：有（収骨あり）

破損した甕棺内から人骨が出土した。甕棺内上部南側から寛骨片が立った状態で出土しており、そ



第6図 HZK2007地点 ST67人骨出土状況



第7図 HZK2007地点 ST75人骨出土状況

の北側から左上腕骨が背面を上、遠位を南に、近位を北に向けた状態で出土している。甕棺内の北側からは右肩甲骨が背面を上にした状態で出土しており、その直下から右上腕骨が出土している。右肩甲骨と右上腕骨は関節状態にはないが相対的位置関係は概ね正しい。右肩甲骨の南側から肋骨片と椎骨片が連なった状態で出土しており、右側胸郭を維持していた可能性が高い。肋骨片の下、甕棺内の東側から右寛骨が仙骨と相対的な位置関係を保って、仙骨底を上に向けて立った状態で出土している。底部付近から甕棺片が出土しており、その上から趾骨が散乱した状態で出土している。

右肋骨や椎骨、右肩甲骨と右上腕骨などの一部の骨は相対的な位置関係を保っていたが、左側は大きく乱れている。寛骨の位置から頭位南東、顔面を北西に向けた状態で埋葬された可能性がある。破損した甕棺の上部片が底部付近に入り込み、その上から人骨が出土するという状況から、甕棺内部を掘り返すような行為があったものと考えられるが、そのタイミングは軟部組織が完全に腐朽する前であった可能性が考えられる。一部の骨は持ち去られ、その際に人骨が大きく動かされた可能性がある。

【SK76】

頭位：不明 葬法：火葬土坑の可能性

埋葬姿勢：不明 拾骨：不明

楕円形の土壌内から大型の炭化材および火葬骨が出土している。

【ST77】（第8図）

頭位：北東、躯体正面：南西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破砕した甕棺内西側から頭蓋骨が頭蓋底部を上、顔面を西側（甕棺の胴部側）にした状態で出土している。下顎は甕棺内の北側底部付近から出土しており上下顎は関節状態にない。甕棺内の北側から頸椎・胸椎が連なった状態で出土しており、その下位から腰椎・仙骨が連なった状態で出土している。左右の肋骨も胸椎と相対的な位置関係を保って出土している。

上肢骨は、椎骨と同じ位置から右肩甲骨・右上腕骨が内側を上、近位を上方に向けた状態で甕棺内で胴部に沿うように直立して出土している。右上腕骨の下位から、右橈骨・右尺骨が近位を北西にした状態で、右上腕骨と関節状態にはないが本来の位置関係に近い位置から出土している。頭蓋骨の北西側から右上腕骨が近位を上方にした状態で出土している。左鎖骨は椎骨よりもやや南側から近位を下方に向けた状態で出土し、左肩甲骨は鎖骨に近接した位置から内側を上、関節窩を下方に向けた状態で出土している。その下位より左上腕骨が、その下位より左尺骨と左橈骨が肘の関節状態を保ってゆるく回内した状態で遠位を西側に向け出土した。左右の指骨は左右下肢骨の間から出土しており、左右肘関節は屈した状態で手を腹部の上ののせていたと考えられる。

下肢骨は、甕棺内の底部付近東側から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を保って左右の大腿骨がほぼ直立した状態で遠位を上方に向け出土している。右大腿骨は頭蓋骨と甕棺胴部の間から、左大腿骨は頭蓋骨の南東側から甕棺胴部に沿って出土している。左右の脛骨・腓骨も左右大腿骨の西側から甕棺胴部に沿うようにほぼ直立した状態で出土している。左右の股関節および膝関節は関節状態であり、股関節・膝関節ともに強屈した状態である。左右足根骨は甕棺内の南西側から左右重なった状態で関節状態を保ち出土している。両足を重ねて埋葬されたものと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を北東側に、躯体正面を南西に向けた立膝坐葬であると推定される。左右肘関節は屈し腹部の上に手を置いていたと考えられる。左右の股関節・膝関節は強屈し左右の足は甕棺内の西側で揃えられていた。軟部組織が腐朽するに伴い頭蓋骨のみが前方に倒れ込み、

その際に下顎骨や左の肩鎖関節が動いたものと考えられる。

埋葬時は蓋などがされていたのだろう。一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

#### 【ST77東側】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：不明  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

ST77号甕棺の東側から人骨が出土した。人骨検出範囲の北側から軸椎が、南側から長管骨片が出土している。残存状態が良好ではないため詳細は不明であるが、骨が散乱したような状態である。

#### 【ST78】（第9図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破碎した甕棺内南側から頭蓋骨が後頭部を上、顔面部を下方にした状態で出土している。上下顎は咬合状態を保って出土している。甕棺内の北側から頸椎・胸椎がまとまった状態で出土しており、その下位から腰椎・仙骨が上下に連なった状態で出土している。左右の肋骨は甕棺内中央部あたりから散乱した状態で出土している。

上肢骨は、甕棺内中央部の肋骨付近から右肩甲骨が背側を上に向けた状態で出土している。右鎖骨は右肩甲骨の下位から出土している。甕棺内の西側から右上腕骨が、近位を南へ内側を上に向けた状態で出土し、遠位は北側に向いており、右尺骨と関節状態を保った状態である。右尺骨・右橈骨は回内した状態で遠位を南東にした状態で出土している。胸骨柄が右上腕骨の上位から出土している。頭蓋骨の北側から左肩甲骨が肩甲窩を下方に出土し、その下方から左鎖骨が出土している。甕棺内の北西側から左上腕骨が近位を上方に背側を上にし、遠位を南東に向けた状態で出土している。左尺骨は左上腕骨と関節状態を保ち、左橈骨も左尺骨に沿って出土し、遠位はともに北西側に向けた状態で出土している。左右肘関節は関節状態を保ち屈した状態で、手で腹部を抱えるようにしていたと考えられる。

下肢骨は、甕棺内北側の底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を保って、左右の大腿骨がほぼ直立した状態で遠位を上方に向け出土している。左右の脛骨・腓骨も左右大腿骨の南東側から甕棺胴部に沿うようにほぼ直立した状態で出土している。左右の股関節および膝関節は関節状態であり、股関節・膝関節ともに強屈した状態である。左右足根骨は脛距関節を保った状態で、甕棺内の南側から左右重なった状態で関節状態を概ね保って出土している。両足を重ねて埋葬されたものと考えられる。



第8図 HZK2007地点 ST77人骨出土状況



第9図 HZK2007地点 ST78人骨出土状況

以上の出土状況から、本人骨は頭位を北側に、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であると推定される。左右肘関節は屈し腹部を抱えるような状態であったと考えられる。左右の股関節・膝関節は強屈し左右の足は甕棺内の南側で揃えられている。軟部組織が腐朽する前に頭蓋骨のみが前方に倒れ込んだものと考えられる。埋葬時は蓋などがされていたのだろう。一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

【SX301】

頭位：不明 葬法：土壙墓？

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

楕円形の土壙内から人骨が出土している。大腿骨や四肢骨片等が出土しているが火葬骨も少量ながら含まれる。

【SX80】 (第10図)

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

明確な土壙ラインをもたない砂丘上50cm×75cmの範囲から人骨が出土している。大腿骨や上腕骨、脛骨、椎骨や肋骨等が出土しているが、いずれの部位も関節状態を保たず散乱した状態である。

【ST81】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：有(収骨あり)

口縁部が破損し、破片の一部が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。甕棺内部から人骨はごく一部しか出土していない。改葬により持ち去られたものと考えられる。

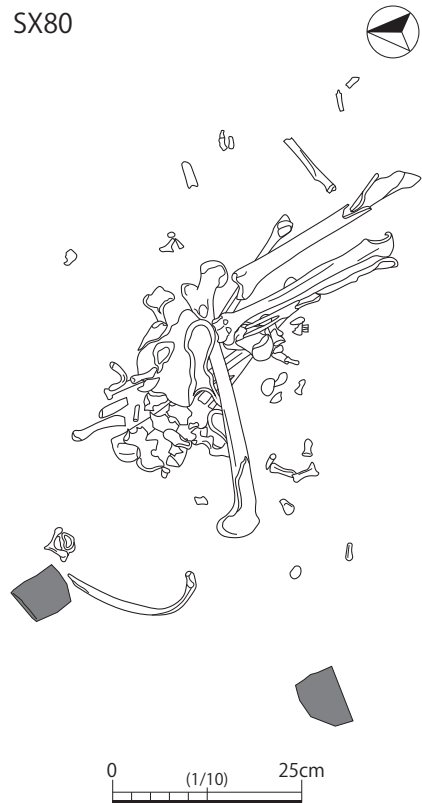
【ST82】 (第11図)

頭位：西、躯体正面：東 葬法：甕棺

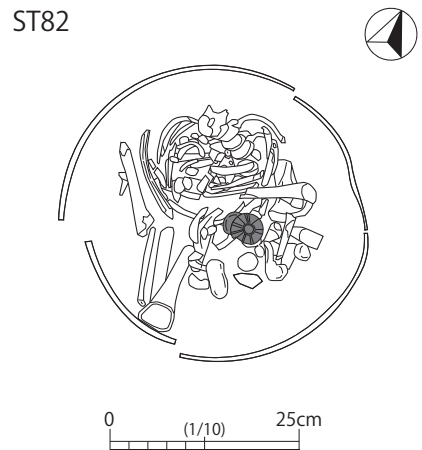
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破碎した甕棺内北西側から頭蓋骨が頭頂部を上、顔面を東側に向けた状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨の下方よりオトガイを東に向けた状態で出土しており、相対的位置関係は概ね保っていると考えられるが上下顎は咬合状態を保っていない。頭蓋骨の北西側下位から椎骨が東側へ連なるような状態で複数出土し、その周辺から肋骨片が確認される。椎骨は下部胸椎以下で上下に連なり、腰椎・仙骨まで関節状態を保って出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の北東側から左上腕骨が外側を上にした状態で出土している。左上腕骨は近位を頭蓋骨側に、遠位を北東にした状態で出土している。左上腕骨と関節状態を保って左橈骨・左尺骨が回内位で遠位を頭蓋骨側に向けた状態で出土している。右上腕骨は頭蓋骨の下位より遠位を下方に立った状態で出土している。右上腕骨と関節状態を保って右橈骨・右尺骨が回外位で遠位を頭蓋骨側



第10図 HZK2007地点 SX80人骨出土状況



第11図 HZK2007地点 ST82人骨出土状況

に向けた状態で出土している。右左の肘関節は屈した状態で概ね関節状態を保ち、両腕を腹部の位置で交差させるような状態であったと考えられる。

下肢骨は、甕棺内の底部付近北側から右寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左寛骨は関節状態にはないが相対的な位置関係は概ね正しい。左右寛骨と股関節の関節状態を保って左右の大腿骨がほぼ直立した状態で遠位を上方に向け出土している。左右の脛骨・腓骨も左右大腿骨と関節状態を保ち甕棺の胴部に接しほぼ直立した状態で出土している。左右の股関節および膝関節はともに強屈した状態である。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を西側に、躯体正面を東に向けた立膝坐葬であると推定される。左右肘関節は屈した状態で腹部の位置で交差するような状態であった。ほとんどの部位が関節状態を保っていることから、軟部組織の腐朽前に蓋が朽ちたか、埋葬時から蓋がされていなかったかの可能性が考えられる。また、一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

【ST83】（第12図）

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損し、破片の一部が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。甕棺内部から人骨は検出されているが、残存状態が悪く、詳細部位は不明である。また、いずれも散乱した状態である。改葬により大部分の骨が持ち去られた可能性が考えられる。

【ST84】

頭位：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

破砕された甕の破片とともに人骨が出土している。出土した人骨は火葬骨および被熱していない未成人の大腿骨・錐体・頭蓋骨片・乳歯片が散乱した状態で出土している。火葬骨と被熱していない未成人の骨は別個体と考えられる。

【ST86】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

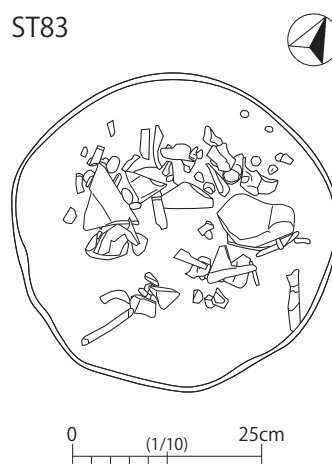
口縁部が破損し、破片の一部が棺外に散乱した状態で甕棺が出土した。棺内および棺外から人骨が検出されているが、残存状態が悪く、左肩甲骨片および右内側楔状骨が棺外から出土している以外は、詳細部位は不明である。また、いずれも散乱した状態である。攪乱ないし改葬により大部分の骨が持ち去られた可能性が考えられる。

【ST87】（第13図）

頭位：北西 葬法：木棺  
埋葬姿勢：顔面左向きの仰臥屈葬 改葬：無

約75cm×50cmの範囲から人骨が出土している。土壌のプランは明瞭ではない。頭蓋骨が土壌内の北側から顔面部を南東に向け、右側頭骨を上にした状態で出土している。上下顎は咬合状態である。

ST83



第12図 HZK2007地点 ST83人骨出土状況

ST87



第13図 HZK2007地点 ST87人骨出土状況

ST88



第14図 HZK2007地点 ST88人骨出土状況

軀幹骨はほぼ残存していない。右上腕骨が頭蓋の南側土壌内西側より近位を北に前面を上に向けて出土している。左上腕骨は反対側から前面を上にした状態で出土している。左右の前腕骨片が上腕骨の南東側から出土しており、屈した状態であったと考えられる。そのさらに南東側から左右大腿骨が近位を西、遠位を東にした状態でほぼ平行して出土している。右大腿骨の直下から左脛骨が、南側より右脛骨が出土しており、膝を左側に倒し膝関節は強屈していたと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位北西の左向きの仰臥屈葬位であったと考えられる。両肘を屈し、腹部で重ねていたと考えられる。埋葬時は膝を立てて埋葬されていたが軟部組織の腐朽に伴い左側に倒れたと考えられ、木棺などに埋葬されていたものと推定される。

【ST88】（第14図）

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破碎した甕棺内南西側から頭蓋骨が後頭部を上、顔面を下方に向けた状態で出土している。頭蓋骨の東側から椎骨が甕棺内の胴部に沿って上下へ連なるような状態で出土し、その周辺から肋骨片が出土している。左右の肩甲骨も肋骨と甕棺内胴部の間から出土しており、相対的な位置関係は保っている。残存状況は良好ではないが椎骨は上下に連なり、腰椎・仙骨まで関節状態を保っていると考えられる。

上肢骨は、頭蓋骨の南側から左上腕骨が近位を上直立した状態で出土している。頭蓋骨の北西側より左橈骨・左尺骨が遠位を上方に向けて出土しており、頭蓋骨直下で肘関節を屈した状態である。頭蓋骨の北側から右上腕骨が前面を上、近位を南、遠位を北に向けた状態で出土した。右上腕骨の遠位端の南西側から右橈骨・右尺骨が近位を上腕骨側に、遠位を頭蓋骨側に向けた状態で出土している。右左肘関節は保存状態の関係で関節状態は保っていないが、位置関係から両腕を屈した状態であった

と考えられる。左右前腕骨の遠位端はともに甕棺内の北西側に位置しており両手を同じような位置に重ねていたものと考えられる。

下肢骨は、甕棺内の底部付近東側から左右寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を保って、左右大腿骨がほぼ直立した状態で遠位を上方に向け出土している。右大腿骨は頭蓋骨よりも西側から、左大腿骨は頭蓋骨よりも東側で、ともに甕棺内で甕胴部に沿うようにして出土している。左右の脛骨・腓骨も左右大腿骨と関節状態を保ち甕棺の胴部に接しほぼ直立した状態で出土している。左右の股関節および膝関節はともに強屈した状態である。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を東側に、躯体正面を西に向けた立膝坐葬であると推定される。左右肘関節は屈した状態で腹部よりも前方の位置で重ねられた状態であった。軟部組織の腐朽に伴い頭蓋骨が前方へ転じたものと考えられる。埋葬時は蓋がされていたと推定される。また、一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

#### 【ST89】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

長円形の土壙内から人骨が出土している。頭蓋骨片が散乱したような状態であるが、残存状態が良好ではなく、詳細は不明である。

#### 【ST90】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

甕の上半部が破損した状態で甕棺が出土した。棺内部からは火葬骨が検出されているが、残存状態が悪く、錐体を除き詳細部位は不明である。

本遺構からは別個体の骨片が出土しているが、火葬骨ではない骨片も出土している。

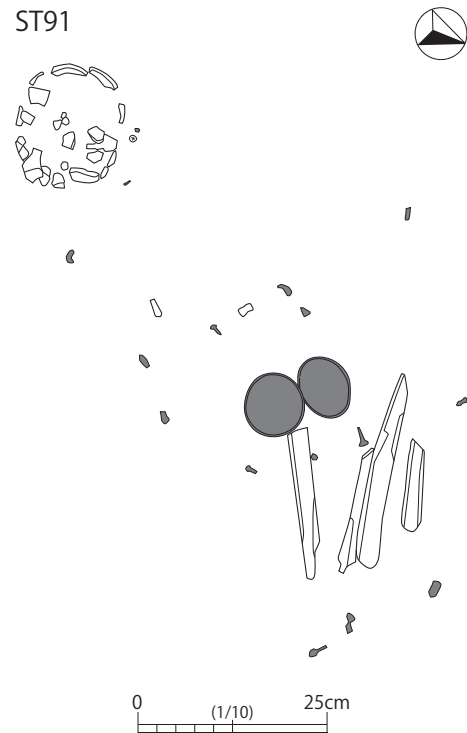
#### 【ST91】（第15図）

頭位：西 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：側臥屈葬 改葬：無

100cm×125cmの範囲から人骨が出土している。土壙内の最も西側で他の骨よりもやや上位のレベルから頭蓋骨が顔面部を北側やや下方に向け、左側頭骨を上にした状態で出土している。下顎骨は出土位置から考えて咬合状態であったと推定される。上半身の骨はほぼ残存していないが、土壙内北東側から左右大腿骨が近位を西、遠位を東にした状態でほぼ平行して出土している。大腿骨の直下より脛骨と腓骨が出土しており、膝関節は強屈していたと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位西向き側臥屈葬位であったと考えられる。頭蓋骨が他の部位よりもやや上位にあることから体幹側にわずかに前屈した状態であったと考えられる。人骨の周囲から釘が出土していることとあわせて、埋葬時は木棺に埋葬されてお



第15図 HZK2007地点 ST91人骨出土状況

り、棺材に頭部から胸部を寄り掛からせるような状態であったのではないかと推測される。

【SK93】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

小型の円形の土壌内から炭化物および火葬骨が出土している。

【SK94】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

小型の円形の土壌内から炭化物および火葬骨が出土している。

【ST95】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

甕の口縁部から胴部の半分が破損した状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨は検出されているが、残存状態が悪く、錐体を除き詳細部位は不明である。また、甕棺外からは火葬骨片が出土している。

【SX96】

頭位：不明 葬法：甕棺？

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

破砕された甕棺の破片とともに人骨が出土している。人骨は被熱しておらず散乱した状態で出土している。

【ST99】（第16図）

頭位：南西、躯体正面：北東 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：有（頭蓋骨のみの収骨か？）

口縁部が破砕した甕棺内から人骨が出土した。頭蓋骨は一部骨片のみが甕棺内の南側から出土している。下顎骨も甕棺内の南側から右側を上にして出土している。頸椎は大きく乱れた状態である。下部胸椎は上下に連なり左右肋骨の大部分は相対的な位置関係を保った状態で出土している。その下位から腰椎が連なった状態で出土し、そのさらに下位より仙骨と左右寛骨が関節状態を保って出土している。

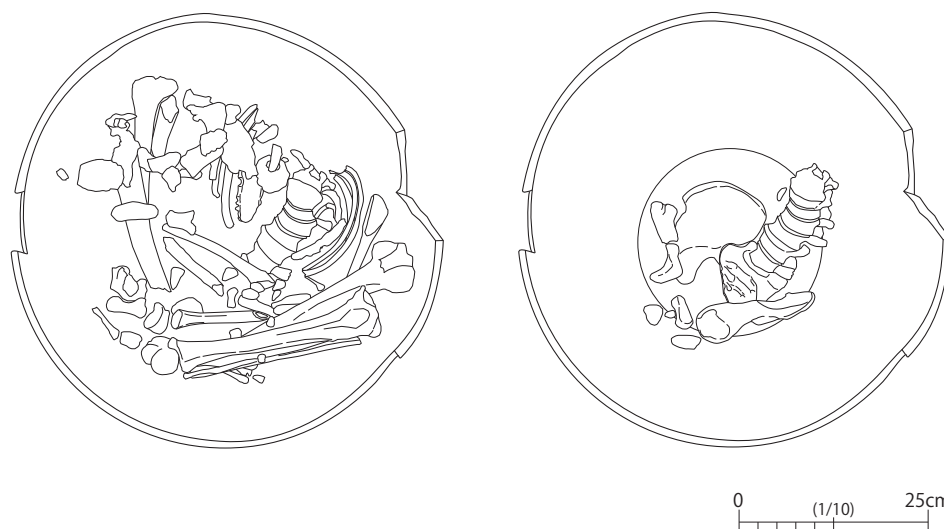
上肢骨は、右肋骨付近から右肩甲骨が内側を上にし、棺内で甕棺胴部に沿うように立った状態で出土している。右肩甲骨と相対的な位置関係を保って右上腕骨が近位を上方に、前面を上にした状態で出土している。右橈骨・右尺骨は右上腕骨と関節状態を保って、遠位を北に向け回内した状態で出土している。右前腕の遠位端から右指骨が出土している。左肋骨の北側から左上腕骨が近位を上方に向けた状態で出土している。左橈骨と左尺骨は左上腕骨と関節状態を保ち、遠位を北西にした状態で出土している。肋骨との位置関係も概ね正しく、肘関節は関節状態を保っている。左右肘関節は屈した状態で右手をより腹部側に、左手を外側にした状態で埋葬されていたと考えられる。

下肢骨は、甕棺内底部中央から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。右寛骨と股関節の関節状態を保って右大腿骨が遠位を上方、背面を上に向け出土している。右大腿骨の北側から右脛骨・右腓骨が近位を上方に向けて出土している。右脛骨の真下から距骨および足根骨が出土している。左寛骨の寛骨臼付近より左大腿骨が背側を上にし、遠位をやや上方に向けた状態で出土しており、その北側から右脛骨・右腓骨が近位を上方に向けた状態で前面を上にして出土している。右脛骨の下位より関節状態を保ち距骨および足根骨が出土している。右足根骨の上に左足根骨ののった状態である。

ST99

1 面目から 4 面目

5 面目



第16図 HZK2007地点 ST99人骨出土状況

左右の股関節・膝関節・脛距関節は概ね関節状態であり、強屈した状態で左大腿骨が軟部組織の腐朽に伴い外側に転じたものと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を南西に、躯体正面を北東に向けた立膝坐葬であると推定される。甕棺内中央部より骨盤が出土していることから深く腰掛けるような状態であったと推定される。左右の肘関節を屈し、右手で腹部を抱えるように、左手を右手よりも外側に置いた状態であり、左右の股関節・膝関節は強屈し、左足を右足の上に重ねるような状態であったと推定される。左大腿骨のみ外側に転じていることから埋葬時は蓋などがされていたものと考えられる。頭蓋骨や頸椎などが一部しか確認されていないことから、頭蓋骨のみ持ち去るという改葬行為を行った可能性も考えられる。

【ST100】(第17図)

頭位：南西、躯体正面：北東 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明（再開口：有）

口縁部が破碎した甕棺内から人骨が出土した。頭蓋骨は甕棺内東側底部付近から頭蓋底を上、頭頂部を下方にした状態で出土している。下顎骨は下顎底を上、上下顎咬合状態を保って頭蓋骨の上から出土している。下顎骨と近接した位置から環椎・軸椎が出土している。甕棺内の東側から胸椎と左右肋骨の大部分が相対的な位置関係を保った状態で出土している。その下位から腰椎が上下に連なった状態で出土し、そのさらに下位より仙骨と左右寛骨が関節状態を保って出土している。

上肢骨は、椎骨付近から右肩甲骨が上角を上にし、棺内で甕棺胴部に沿うように立った状態で出土している。右鎖骨は下顎骨の東側から近位を上方に向け立った状態で出土している。右肩甲骨付近から右上腕骨が遠位を南側にある肩甲骨に接するような状態で、近位を北側に、内側を上に向けた状態で出土している。右橈骨・右尺骨が右上腕骨と関節状態を保って、近位を南に、遠位を北西に向け回内した状態で出土している。胸骨柄が右橈骨の遠位付近から出土している。頭蓋骨の北西側から左肩甲骨が背面を上にした状態で出土している。左肩甲骨の上位から左上腕骨が遠位を南に、近位を北に向け外側を上にした状態で出土している。左橈骨と左尺骨は左上腕骨に平行し、遠位端を上腕骨の遠位端に接し回内した状態で出土している。肩関節は左右ともに関節状態には無いが、左右肘関節は屈

した状態で腹部に手を置いていたものと推定され、軟部組織の腐朽に伴い左右の上腕骨が前方に倒れ込んだと考えられる。

下肢骨は、甕棺内南側、頭蓋骨よりも上位から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左寛骨と股関節の関節状態を保って左大腿骨が近位を南、遠位を北に向け出土している。左大腿骨の西側から左脛骨・左腓骨が近位を上方に向け、棺内で甕棺胴部に沿うような状態で出土している。左脛骨の真下から距骨が出土している。右寛骨と股関節の関節状態を保って右大腿骨が背側を上にし、遠位をやや上方に向けた状態で出土しており、その西側から右脛骨・右腓骨が近位を上方に向けた状態で背面を上にして出土した。右脛骨の下位より関節状態を保ち距骨が出土している。右足根骨は頭蓋骨の下位から、左足根骨は右寛骨の下位から関節状態を保って出土している。左右の股関節および脛距関節は関節状態であるが、膝関節は関節状態を保っておらず、左右の大腿骨が軟部組織の腐朽に伴い前方に倒れ込んだものと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を南西に、躯体正面を北東に向けた立膝坐葬であると推定される。人骨の肩関節や膝関節は大きく動いているが、左右の肘関節・股関節・脛距関節は関節状態を保っている。頭蓋骨が最下層から出土しており、軟部組織が腐朽する前に左右上腕骨と左右大腿骨が前方に倒れ込んだものと考えられるが、あまりに大きく骨が動いていることから、何らかの人為的な行為の結果の可能性が考えられる。一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

【ST101】(第17図)

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破碎した甕棺内から人骨が出土した。甕棺内上層から石が出土した。最上層には肋骨片などが散乱した状態である。甕棺内の石を除いた後に、南側から頭蓋骨が頭蓋底部を上、頭頂部を下方にした状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨の南西側から出土しており上下顎は関節状態にない。下顎骨の下位から頸椎がまとまって出土し、甕棺内の北西側から胸椎・肋骨がまとまった状態で出土しており、その下位から腰椎が出土している。

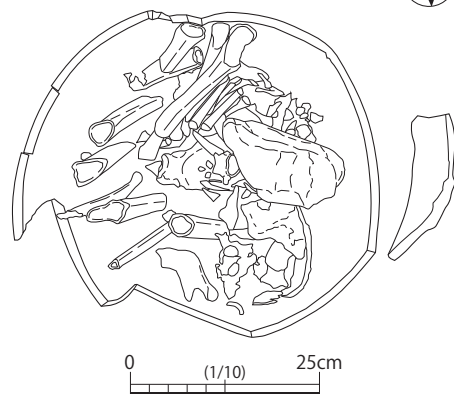
上肢骨は、椎骨付近から左肩甲骨が内側を上にした状態で出土している。左鎖骨は左肩甲骨よりも西側から近位を東に向けた状態で出土している。左肩甲骨の下位から左橈骨と左尺骨が背側を上、近位を北東(頭蓋骨)に向けた状態で出土している。甕棺内の西側胴部に沿うように、右上腕骨が近位を上方に向けて立った状態で出土し、右橈骨・右尺骨がその北側から近位を上方にした状態で出土している。右上腕骨と関節状態にはないが肘関節を屈した状態と考えられる。

下肢骨は、甕棺内北側の底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関

ST100



ST101



第17図 HZK2007地点 ST100・101  
人骨出土状況

節の関節状態を保って左右の大腿骨がほぼ直立した状態で遠位を上方に向け出土している。右大腿骨は棺内で甕棺の西側胴部に寄り掛かる状態、左大腿骨は寛骨の南東からほぼ直立した状態で出土している。左右の脛骨・腓骨も左右大腿骨の南西側から棺内で甕棺胴部に沿うように、ほぼ直立した状態で出土している。大腿骨よりも左右の下腿が内側にあり、膝を閉じた状態と考えられる。左右の足根骨は左右脛骨の間から重なって出土している。左右の股関節および膝関節・脛距関節は関節状態であり、股関節・膝関節・脛距関節ともに強屈した状態である。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を北側に、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であると推定される。上半身は大きく動いており、埋葬時の姿勢は推定できないが、左右の股関節・膝関節・脛距関節は強屈し左右の膝は甕棺内の西側で揃えられていた。軟部組織が腐朽する前後に石や土砂が棺内に流入した結果、上半身が大きく動いたのではないかと考えられる。全身の骨が概ね揃っていることから一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

#### 【ST102】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

ほぼ半分が破損した状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨はわずかしこ検出されておらず、甕棺の棺外南側から頭蓋骨片と四肢骨片が出土している。歯牙が頭蓋骨周辺から散乱した状態で出土している。甕棺が破損した際に棺外部に人骨が流出したか、ST102に先行あるいは近接する墓に伴う骨の可能性もある。棺内部の人骨の残存状態が良好ではないため、南側から出土した人骨と同一個体かどうか判断できない。ST102に先行あるいは近接して造られた土壙墓であった場合は、ST102（甕棺）は改葬による収骨によって肋骨や肩甲骨の一部以外のほぼ全身の骨が持ち去られたものと考えられる。また、棺内上部および南側からそれぞれ火葬骨片（詳細部位不明）が出土しているが別個体の流入であると考えられる。

#### 【SX103】

頭位：不明 葬法：不明  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

明確な土壙ラインをもたない砂丘上25cm×50cmの範囲から人骨が出土している。人骨出土範囲の東側から頭蓋骨の顔面部が出土している。最も東側から下顎骨の一部が歯列を保って出土している。人骨出土範囲の西側から長管骨が出土している。詳細な部位は不明である。人骨の保存状態が良好ではないため頭位や埋葬姿勢などは不明である。

#### 【ST104】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨は検出されておらず、改葬により大部分の人骨が持ち去られた可能性が考えられるが、墓の廃絶によって甕棺が廃棄された可能性もある。

#### 【ST105】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨は検出されておらず、改葬により大部分の人骨が持ち去られた可能性が考えられるが、墓の廃絶によって甕棺が廃棄

された可能性もある。

【ST106】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨は検出されておらず、改葬により大部分の人骨が持ち去られた可能性も考えられるが、墓の廃絶によって甕棺が廃棄された可能性もある。

【ST107】（第18図）

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明（再開口：有）

口縁部が破碎した甕棺内から人骨が出土した。甕棺内上層から大きな礫石が出土した。甕棺内南側から頭蓋骨が顔面部を上向きに、頭頂部を北東にした状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨よりも下位のレベルで甕棺内の中央部からオトガイを下方に向け出土しており、上下顎は関節状態にない。肋骨や肩甲骨が甕棺内の東側から出土しており、特に棺内で甕棺の東側胴部に沿うように出土した肋骨の一部と左右肩甲骨は概ね相対的な位置関係を保って出土している。

上肢骨は、左肩甲骨付近から左上腕骨が近位を南西、遠位を北東に向けた状態で出土している。下顎骨の南東側から左鎖骨が、近位を北に向けた状態で出土している。

下肢骨は、頭蓋骨の頭頂部付近から右大腿骨が外側を上を遠位を南、近位を北に向け出土している。左大腿骨は下顎骨の下位のレベルから近位を北西、遠位を南東に向けた状態で出土している。左脛骨・左腓骨は左大腿骨の南西側から左大腿骨に沿うように出土している。そのさらに南西側から右脛骨が出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を東側に、躯体正面を西に向けた立膝坐葬であると推定される。全身にわたり大きく動いており、埋葬時の姿勢を詳細に推定することはできないが、軟部組織が腐朽した後、礫石や土砂が流入する際に骨が大きく動いた可能性が考えられる。礫石の流入が何らかの人為的な行為に伴うものかどうかは不明である。

【ST108】（第19図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明（再開口：有）

口縁部が破碎した甕棺内から人骨が出土した。甕棺内南側から石が出土した。甕棺内南東側から頭蓋骨が頭頂部を上、顔面部を西にした状態で出土している。下顎骨は顔面部のさらに西側から下顎底を上にした状態で出土しており上下顎は関節状態にない。下顎骨のオトガイ付近より軸椎・環椎・頸椎が出土し、下顎骨の西側から胸椎・肋骨がまとまった状態で出土しており、胸椎の一部は上下に連なり、その下位から腰椎片が出土している。頭蓋骨の南側甕棺内胴部付近より別個体の頭蓋骨片が出土している。

上肢骨は、棺内南側から出土した石の北側、椎骨や肋骨の付近から右肩甲骨と右上腕骨が相対的な位置関係を保って、ほぼ直立した状態で出土している。右鎖骨は右上腕骨に沿うように立った状態で

ST107



第18図 HZK2007地点 ST107人骨出土状況

ST108



第19図 HZK2007地点 ST108人骨出土状況

ST109



第20図 HZK2007地点 ST109人骨出土状況

ある。右上腕骨遠位端付近から右橈骨と右尺骨が背側を上を近位を南（上腕骨遠位端側）に向けた状態で出土している。右前腕の遠位端付近から指骨が出土している。右肘関節は屈した状態で手を腹部に置いていたものと考えられる。下顎骨よりもさらに西側から左上腕骨が外側を上を、近位を南、遠位を北に向けた状態で出土し、右橈骨・右尺骨がそのやや北側から近位を右上腕骨の遠位端に接し、遠位端は頭蓋骨の下位に向けた状態で出土している。右肘関節を屈した状態と考えられる。

下肢骨は、甕棺内北側の底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を保って右大腿骨がほぼ直立した状態で遠位を上方に向け出土している。右大腿骨は棺内で甕棺の西側胴部に寄り掛かる状態で、右の脛骨・腓骨も右大腿骨の南西側から棺内で甕棺胴部に沿うようにほぼ直立した状態で出土している。右足根骨は右脛骨と関節状態を保って右寛骨付近から出土している。左大腿骨は、寛骨と関節状態ではなく、頭蓋骨の西側から近位を北東、遠位を南西に向けた状態で出土しており、左脛骨は左大腿骨と並行して近位を南西に向けて出土している。左腓骨は左脛骨と左大腿骨の間から近位を上方に向けほぼ直立した状態である。右股関節および膝関節・脛距関節は関節状態であり、強屈した状態である。右大腿骨と右脛骨・右腓骨は関節状態にあるが股関節は外れている。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を北側に、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であると推定される。特に左側の骨が大きく動いているため不明点も多いが、右肘を屈し手は腹部の上のせた状態であったと考えられる。軟部組織が腐朽する前に意図的に骨を動かしたものと考えられる。別個体の頭蓋骨や石の流入との関係は不明である。全身の骨が概ね揃っていることから一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

#### 【ST109】（第20図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が一部破碎した甕棺内から人骨が出土した。頭蓋骨は甕棺内中央部から左側頭部を上にした状態で出土している。上下顎は咬合状態を保っている。下部頸椎から胸椎・腰椎は上下に連なり左右

肋骨の大部分は相対的な位置関係を保った状態で出土している。そのさらに下位、甕棺内底部より仙骨と左右寛骨が関節状態を保持して出土している。

上肢骨は、左右の肋骨付近から左右肩甲骨が内側を上にした状態で、棺内で甕棺胴部に沿うように立った状態で出土している。左右上腕骨も左右の肩甲骨と関節状態を概ね保持して出土している。左右橈骨・尺骨は左右上腕骨と関節状態を保持しており、右前腕は回内し右肘関節は屈し、左肘関節はゆるく前方へ向けて屈した状態である。

下肢骨は、甕棺内底部中央から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。右寛骨と股関節の関節状態を保持して右大腿骨が遠位を上方、背面を上に向け出土している。右大腿骨の南側から右腓骨が近位を上方に向けて右大腿骨に接して出土している。右腓骨の遠位端付近から足根骨が出土している。右寛骨付近より左大腿骨が背面を上にし、遠位をやや上方に向けた状態で出土しており、その上位から左脛骨・左腓骨が近位を上方に向けた状態で前面を上にして出土している。右脛骨の下位より関節状態を保ち足根骨が出土している。左右足根骨は揃えた状態である。左右の股関節・膝関節・脛距関節は概ね関節状態であり、強屈した状態で、左大腿骨が軟部組織の腐朽に伴い外側に転じたものと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を北に、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であると推定される。甕棺内中央部より骨盤が出土していることから深く腰掛けるような状態であったと考えられる。左右の肘関節を屈し、右手は右足よりも内側に入れ、左足を抱えるような状態で、左足首あたりで両手を重ねていたと推定される。頭蓋骨が前方に大きく動いていること、左大腿骨が外側に転じていることから埋葬時は蓋などがされており、軟部組織の腐朽に伴い動いたと考えられる。改葬行為は行われていないと考えられる。

【ST110】 (第21図)

頭位：北 葬法：土壙墓 (木棺?)  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

土壙内から人骨が出土している。頭蓋骨片が土壙内の北側から出土している。土壙内の南側からは長管骨片が出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位は北向きであったと考えられるが、人骨の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

【ST111】

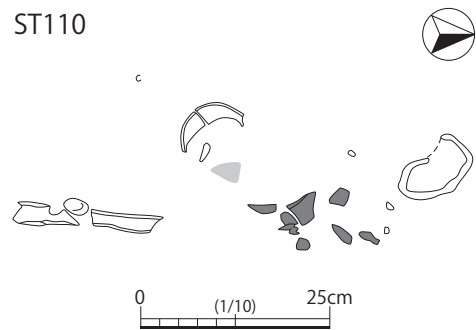
頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有 (改葬による収骨か)

口縁部が破損した状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨は検出されておらず、改葬により持ち去られたものと考えられる。

【ST112】 (第22図)

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有 (改葬による収骨か)

口縁部が破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部からは指骨や歯牙のみが検出されており、改葬により大部分の人骨が持ち去られた可能性も考えられる。



第21図 HZK2007地点 ST110人骨出土状況

【ST113】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
 埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨は検出されておらず、改葬により大部分の人骨が持ち去られた可能性も考えられるが、墓の廃絶によって甕棺が廃棄された可能性もある。

【ST114】（第23図）

頭位：不明 葬法：不明  
 埋葬姿勢：坐葬 改葬：不明

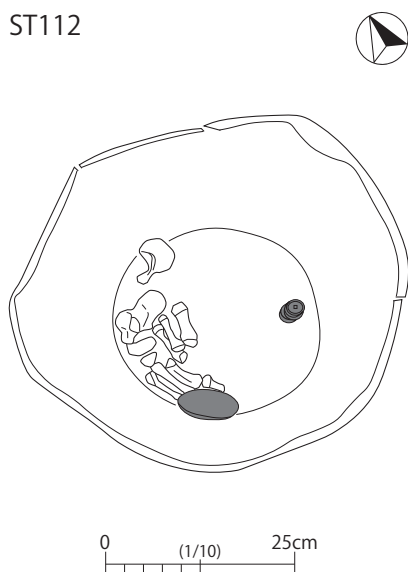
明確な土壌ラインをもたない砂丘上25cm×50cmの範囲から頭蓋骨が顔面部を西に、右側頭部を上に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態を保って出土している。頭蓋骨の東側から長管骨が立った状態で出土しており、坐葬の可能性が高い。頭位などは不明である。

【ST116】

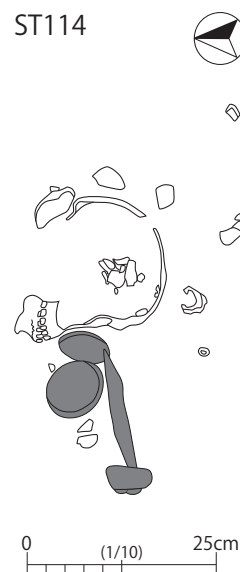
頭位：西 葬法：木棺  
 埋葬姿勢：仰臥屈葬 改葬：無

遺構南側を攪乱により破壊されているため明確な土壌ラインをもたない砂丘上50cm×75cmの範囲から人骨が出土している。人骨出土範囲の最も西側から頭蓋骨が顔面部を東に、右側頭部を上に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態を保っていないが、下顎骨は頭蓋骨の南側から出土しており相対的な位置関係は正しい。頭蓋骨の東側から上腕骨が長軸を東-西に向けた状態で出土している。そのさらに東側から下肢骨片が長軸を北-南へに向けた状態で出土している。これらの人骨の下位より頭蓋骨片や肋骨片が出土している。位置づけは不明であるが、残存状態が良好ではないため別個体と判断する根拠はない。

以上の出土状況から、頭位を西に向けた状態の仰臥屈葬位で埋葬されたと推定される。頭蓋骨および上半身は棺材に寄り掛かるような状態であった可能性が高く、そのため軟部組織の腐朽過程で前方に転じたのではないかと考えられ、木棺などに埋葬されていたと推定される。



第22図 HZK2007地点 ST112人骨出土状況



第23図 HZK2007地点 ST114人骨出土状況

【ST117】（第24図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が一部破砕した甕棺内から人骨が出土した。頭蓋骨は甕棺内中央部から左側頭部・頭頂部を上にした状態で出土している。上下顎は咬合状態を保って出土している。下顎骨の東側から頸椎の一部が出土している。甕棺内底部付近の北側から南側へ胸椎・腰椎が上下に連なり左右肋骨の大部分は相対的な位置関係を保った状態で出土している。そのさらに下位、甕棺内南側底部より仙骨と左右寛骨が関節状態を保って出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の北側から右上腕骨が近位を上にした状態で出土し、そのさらに北側から右肩甲骨と右鎖骨が相対的な位置関係を保って出土している。左肩甲骨はその東側から上角を上にした状態で出土し、左肩甲骨と接するように左上腕骨が近位を北に、遠位を南に向け背側を上にした状態で出土している。右前腕は右上腕骨と関節状態を保ち、頭蓋骨の下位で屈した状態で、左前腕は左上腕骨と関節状態を保っていないが、尺骨の近位が上腕の遠位端に接した状態で、遠位端を頭蓋骨の下方にある寛骨付近に向けた状態で出土している。左右の指骨はともに骨盤付近から出土している。左右肘関節を屈し、手は腰部に置いた状態であったと考えられ、軟部組織の腐朽に伴い左前腕が外側に転じたものと推定される。

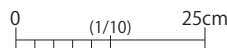
下肢骨は、甕棺内南側底部から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を保って左右大腿骨が遠位を北側やや上方に、外側を上に向けて出土している。左右大腿骨の上位から左右脛骨・腓骨が、近位を北側やや上方に向け、遠位を南側に向けた状態で出土している。左右脛骨の下位、寛骨より北側から左右足根骨が出土している。左右の股関節・膝関節・脛距関節は概ね関節状態であり、躯幹よりも上で膝を強屈した状態であったと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を北に、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であると推定される。甕棺内南側から骨盤が出土していることから、甕棺底部に深く腰掛け、膝を上半身よりも上で屈した状態であったと推定される。左右の肘関節を屈し、両手を腰部に置いていたと推定される。頭蓋骨が前方に大きく動いていること、左上腕骨が外側に転じていることから軟部組織の腐朽に伴い動いたと

ST117

1 面目

2 面目



第24図 HZK2007地点 ST117人骨出土状況

考えられる。埋葬時は蓋などがされていたものと推定される。骨が大きく動いていないこと、全身の部位が残存していることから改葬行為は行われていないと判断される。

【ST118】（第25図）

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬

改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破砕した甕棺内から人骨が出土した。甕棺内の最も高いレベルからは指骨が散乱した状態で出土している。それよりも下位のレベルで甕棺内東側から左右の肩甲骨が左は腹側を上、その下位から右肩甲骨が背側を上にした状態で出土している。右肩甲骨の下位から右肋骨が相対的な位置関係にある程度保って出土し、右肋骨と向かい合うような状態で左肋骨が出土している。左右肋骨の間から腰椎が東から西へ連なった状態で出土している。

左肋骨の南側から左上腕骨が近位を西に、遠位を東に向けた状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を東に、躯体正面を西に向けた立膝坐葬であると推定される。腰椎の位置から深く腰掛けた状態であった可能性も考えられるが人骨の遺存状態が良好ではないため詳細は不明である。甕棺外から甕棺片・大形の礫とともにキセルや人骨片が出土している。棺内の人骨の残存状況から考えて、骨を持ち去るなどの改葬行為が行われた可能性が高いと推定され、甕棺の破損と棺外からの人骨の検出に関しては改葬の際に骨を持ち去り、甕棺を廃棄のために破損したという一連の行為の可能性も考えられるが、これらが全く別のタイミングで行われた可能性も考えられ、判断できない。

【ST119】（第26図）

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明

改葬：有（改葬による収骨か）

半分程度破損した状態で甕棺が出土した。棺内の上部付近より子供の頭蓋骨が、底部付近から左上腕骨と左橈骨と左尺骨、肋骨が出土している。肘関節は関節状態を保っていないが、相対的な位置関係は概ね正しく、膝関節を屈して回内した状態である。人骨は改葬により一部持ち去られたものと考えられる。

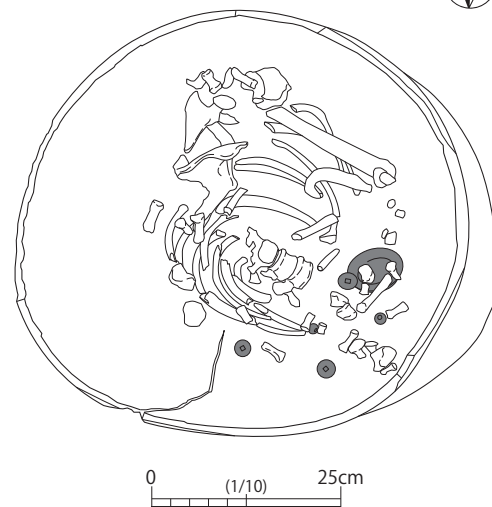
【ST121】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

土壙のプランがやや不明瞭であるが円形に近い土壙から人骨が出土している。本土壙はST122に切られている。詳細部位不明の骨片が散乱した状態であり、それ以外の部位の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

ST118

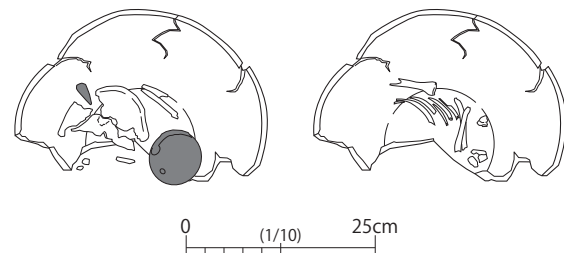


第25図 HZK2007地点 ST118人骨出土状況

ST119

1 面目

2 面目



第26図 HZK2007地点 ST119人骨出土状況

【ST122】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

土壙のプランがやや不明瞭であるが円形に近い土壙内から人骨が出土している。頭蓋骨片や肋骨片が散乱した状態であり、それ以外の部位の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

【SX123】

頭位：西の可能性あり 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：立膝 改葬：不明

明確な土壙ラインをもたない砂丘上50cm×50cmの範囲から人骨が出土している。中央部から左大腿骨片が近位を南側下方に向け、遠位を北側上方に向け背側を上にした状態で出土している。その東側から左脛骨が長軸を揃えた状態で出土している。大腿骨と脛骨の一部は土壙のへりから土壙外へ出ているような状態である。左膝関節を立てた状態で埋葬されたものと推定される。大腿骨の西側から、前腕骨が一部出土している。長軸は東－西に揃えた状態である。

以上の出土状況から、人骨の保存状態が良好ではないため頭位や埋葬姿勢などは不明であるが、可能性としては頭位を西に、膝を立てた状態で埋葬されたが、膝関節が外側に倒れ込んだと考えられる。土壙のラインが不明瞭で下肢骨が土壙推定ライン外に位置することから、木棺などには埋葬されていなかったのではないかと考えられる。

【ST124】

頭位：不明 葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

明確な土壙ラインをもたない砂丘上50cm×50cmの範囲から人骨が出土している。人骨出土範囲の最も南側から頭蓋骨が出土しているが、人骨の保存状態が良好ではないため頭位や埋葬姿勢などは不明である。

【ST125】（第27図）

頭位：西 葬法：木棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明

約60cm×60cmの円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内最も西側から頭蓋骨が顔面部を北東側やや下方に向け、左側頭部を上にした状態で出土している。上下顎は咬合状態である。上半身の骨はほぼ残存していないが、頭蓋骨の北側から上腕骨がほぼ直立した状態で出土している。土壙内東側から寛骨片と足根骨片が出土し、寛骨片の上位から左大腿骨が背側を上にした状態で近位を南東に向け、遠位を北西（頭蓋骨側）に向けて出土している。右大腿骨はその南側から遠位を上方に向けた状態で出土している。

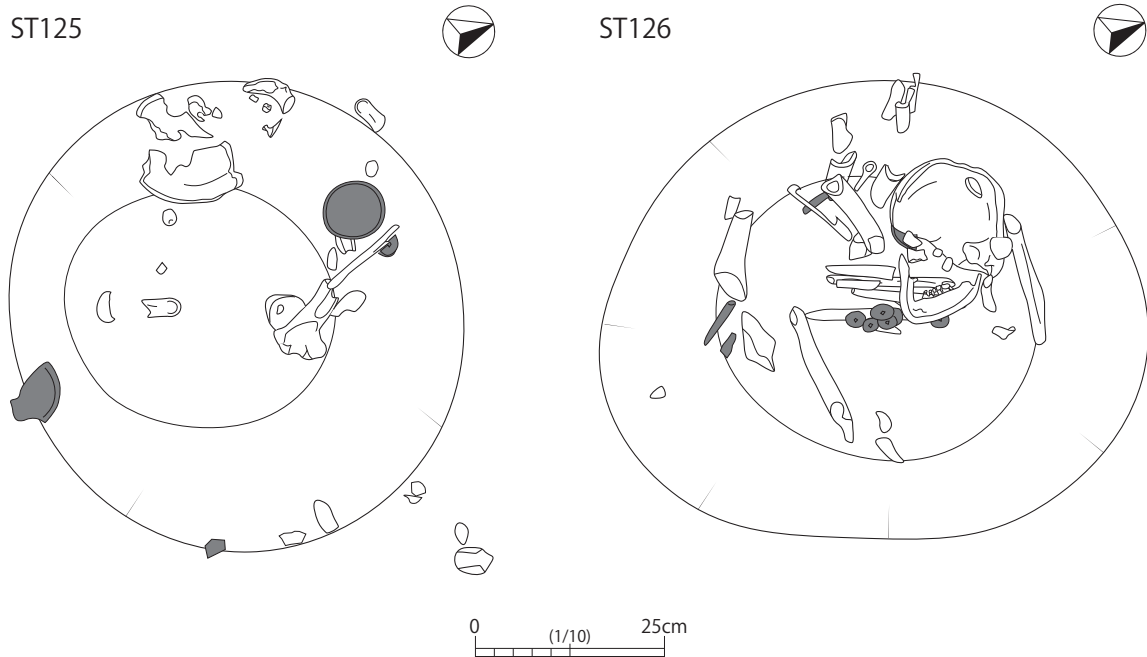
以上の出土状況から、本人骨は頭位西向き、両膝を立てた状態の坐葬であったと考えられる。左大腿骨が後方に転じていることから、埋葬時は木棺などに埋葬されていたと考えられる。

【ST126】（第27図）

頭位：北東 葬法：木棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明

約75cm×60cmの円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内最も西側から頭蓋骨が顔面を下方に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態である。頭蓋骨の北側から右上腕骨が近位を上方にほぼ直立した状態で出土している。下顎骨の北側から右鎖骨が近位を下方に、下面を上向きにした



第27図 HZK2007地点 ST125・126人骨出土状況

状態で出土している。右前腕は近位を上腕骨側に、遠位を南に向けた状態で下顎骨の下位から出土している。頭蓋骨の東側から左上腕が近位を上方、前面を上に向けた状態で出土し、その北側から右前腕に平行するように左前腕が出土している。頭蓋骨の南側から右大腿骨が近位を下方にほぼ直立した状態で出土し、そのさらに南側から右脛骨と右腓骨が近位を上方に向けた状態で出土している。右脛骨のさらに南側から左大腿骨が近位を下方に向けた状態で出土し、その北側から左脛骨・左腓骨が近位を上方に向けた状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位が北東向き、両膝を立てた状態の坐葬であったと考えられる。左右の肘関節は屈した状態で手を腹部に置いていたと推定される。軟部組織の腐朽に伴い頭蓋骨が前方に転じたものと考えられ、木棺に埋葬されていたと推定される。

## 【ST127】(第28図)

頭位：西                      葬法：木棺  
埋葬姿勢：坐葬          改葬：不明

トレンチ内から人骨が出土している。頭蓋骨は人骨出土範囲の最も南側から左側頭部から後頭部左側を上、顔面部を北下方に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態である。頭蓋骨の西側から左上腕骨が近位を頭蓋骨側やや上方に向けて出土している。右上腕骨が人骨出土範囲の最も北側から近位を上方に向けて出土している。頭蓋骨の北側から大腿骨が近位を下方に向けて出土し、その東側から脛骨・腓骨が近位をやや上方に傾けた状態で出土している。その周辺から長管骨片が散乱して出土している。

以上の出土状況から、本人骨は、左右上腕骨の間の西向き頭位であり、上腕骨も下肢骨も立った状態であることから坐葬と考えられるが、人骨の残存状況が良好ではないため詳細な埋葬姿勢は不明である。頭蓋骨が前方に転じていることから、木棺などに埋葬されていたものと推定される。

## 【SX128】

頭位：不明                      葬法：不明

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

土壌のプランが不明瞭な状態で人骨が出土している。前頭部を下に向けて頭蓋骨片が出土しており、それ以外の部位の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

【ST129】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：坐葬 改葬：不明

円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内最も東側から頭蓋骨片が出土している。それ以外の部位の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

【ST130】 (第29図)

頭位：東 躯体正面：西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬

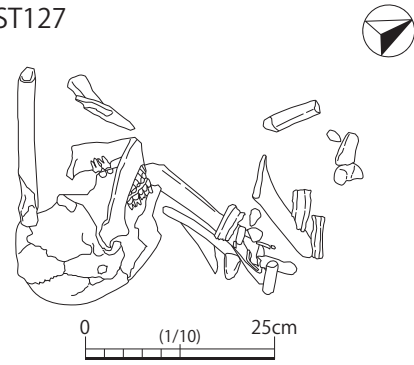
改葬：不明 (再開口：有。収骨は無しの可能性が高い)

口縁部が破碎した甕棺内から人骨が出土した。頭蓋骨は甕棺内の中央部やや西側底部付近から、左側頭部から後頭部左側を上にした状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨の北側から出土しており、上下顎の相対的な位置関係は大きく乱れてはいないが咬合状態にはない。下顎骨と頭蓋骨の間から軸椎が出土している。軸椎と関節状態を保って頸椎が東西方向に連なった状態で出土している。左右の第一肋骨は頸椎の左右から出土している。頭蓋骨や頸椎よりも上層から胸椎が上面と下面が逆さの状態で上下に連なり、左右肋骨は胸椎と概ね関節状態を保って上下逆さの状態で出土している。下部胸椎が東側に倒れており、腰椎は胸椎と関節状態を保って背側を上にし、北から南の方向に連なった状態で出土している。仙骨と左右寛骨も背側を上にした状態で関節状態を保って出土している。

上肢骨は、左上腕骨が頭蓋骨の西側から背側を上にして、近位を下方にほぼ直立した状態で出土している。左尺骨・左橈骨は左上腕骨と関節状態を保ち、遠位を下方に直立した状態である。頭蓋骨の南東側から左指骨が出土している。頸椎よりも北側、甕棺内の最も北側から右上腕骨が前面を上、遠位をやや上方に向けた状態で出土し、右上腕骨と関節状態を保って右橈骨・右尺骨が背面を上、回内した状態で遠位を下方に向けた状態で出土している。右前腕骨の遠位端から右指骨が出土し、左指骨と概ね同じ場所、頭蓋骨の南東側から出土している。左右の肘関節は屈した状態であったと考えられる。

下肢骨は、左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち、背側を上にして甕棺内最上位から出土している。左右寛骨は左右大腿骨と股関節の関節状態を保っていない。右前腕の東側から甕棺に沿うように右大腿骨を近位上方に向け前面を上にしてほぼ直立した状態で出土している。右脛骨・右腓骨は左大腿骨

ST127



第28図 HZK2007地点 ST127人骨出土状況

ST130



第29図 HZK2007地点 ST130人骨出土状況

の南側から遠位を上方に直立した状態で出土している。距骨と踵骨は右脛骨の遠位関節面にのった状態で出土している。左大腿骨は頭蓋骨南東から出土している指骨の東側から近位を上方に向け、ほぼ直立した状態で出土している。左脛骨と左腓骨は左大腿骨よりも南側から遠位を上方に向けほぼ直立した状態で出土している。距骨と踵骨は左脛骨の遠位関節面にのった状態で出土している。左右の膝関節は強屈した状態である。

以上のように、本人骨は頭蓋骨が甕棺内底部付近から出土し、骨盤が甕棺内最上位から出土していることから、埋葬時の姿勢から大きく動かされていると考えられる。躯幹骨の状態から本来の頭位は東、躯体正面は西側、立膝坐葬であると推定される。股関節以外は全身の関節状態をほぼ保っていることから、軟部組織が腐朽する前に、埋葬時は甕棺内底部にあった骨盤を持ち上げるように、遺体が大きく動かされた可能性が考えられる。骨を持ち去ってはいないが人為的に遺体を動かすような改葬行為が行われたものと推定される。

【ST131】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損した状態の甕棺が出土した。人骨は改葬により持ち去られたものと考えられる。

【ST132】（第30図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明（再開口：有）

口縁部が破砕した甕棺内南側の底部付近から頭蓋骨の顔面部および側頭部の一部が出土している。頭蓋と上顎骨の一部は甕棺内の北側から出土している。椎骨が甕棺内の東側から連なった状態で出土しているが頭蓋骨とは関節状態を保っていない。

上肢骨は、頭蓋骨よりも上位から右上腕骨が遠位を南上方にした状態で出土している。左上腕骨は甕棺内の西端から近位を上方に向け前面を上にした状態で出土している。

下肢骨は、頭蓋骨よりも上位、右上腕骨よりも上位から左大腿骨が遠位を南に、近位を北に内側を上にした状態で出土している。その下位より左脛骨と左腓骨が近位を南に、遠位を北東に向けた状態で出土している。左脛骨の遠位端と関節状態を保って左距骨および左足根骨が出土している。

以上の出土状況から、本人骨の埋葬時の頭位は北、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であったと推定される。下肢骨が甕棺内で最も高いレベルから関節状態を保って出土していることから、軟部組織が完全に腐朽する前に甕棺内を大きく乱すような行為があったものと考えられ、改葬などの人為的な行為が行われた可能性が示唆される。

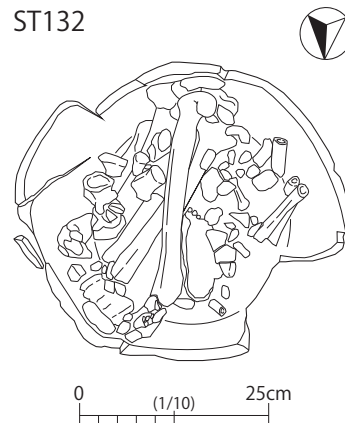
【ST133】（第31図）

頭位：北東 葬法：木棺

埋葬姿勢：坐葬 改葬：無

長円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内南から頭蓋骨が前頭部を北側、後頭部を下方に向けた状態で出土している。頭蓋骨の南側近接した位置から左上腕骨が遠位を上方に前面を上にして立った状態で出土している。土壙内の北東側から椎骨が一部上下に連なった状態で出土しており、

ST132



第30図 HZK2007地点 ST132人骨出土状況

そのさらに下方やや北側から右寛骨が、その下位から左寛骨が相対的位置関係を概ね保って出土している。右寛骨にのるような状態で右上腕骨が遠位を東側、外側を上にして出土している。左右の前腕は確認できず、左右上腕骨は解剖学的な位置関係を保っていない。

右大腿骨は右寛骨と関節状態を保って、右寛骨の西側から近位を北に、遠位を頭蓋骨に接するような状態で内側を上にして出土している。右大腿骨の北西側から長軸を揃えて右脛骨が近位を北に向け、遠位側は右大腿骨に接するような状態で背面を上にして出土している。左寛骨は土壌内より下位のレベルから、左大腿骨と関節した状態で、遠位を南西、内側を上に向けた状態で、遠位側は頭蓋骨の下位から出土している。右大腿骨も近位を北東、遠位を南西、内側を上に向けた状態で出土している。左脛骨は右大腿骨の下位から長軸を揃えて、近位側は左大腿骨の遠位側に接した状態で出土している。その下位より左腓骨が出土している。土壌底付近より大きな石が出土している。左右股関節・膝関節は強屈した状態であったと考えられる。

以上の出土状況から、本人骨は頭位が北東向きの坐葬であったと考えられる。左右下肢骨の強屈状態から考えて右下肢は正座に近い状態で、左下肢は正座よりもやや外側に股関節を開いた胡座に近い状態であったと考えられる。頭蓋骨は軟部組織の腐朽に伴い前方に転じたものと推察される。頭蓋骨が大きく動いていることから埋葬時は木棺などに埋葬されていたものと考えられる。左右の寛骨・下肢骨の出土位置にレベル差があったことから、埋葬時に棺、あるいは棺内の遺体の位置が斜めであった可能性も考えられ、その結果上半身が大きく動いたものと推察される。

【ST134】

頭位：不明 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内中央部から四肢骨片が長軸を西－東に向けた状態で出土している。それ以外の部位の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

【ST137】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

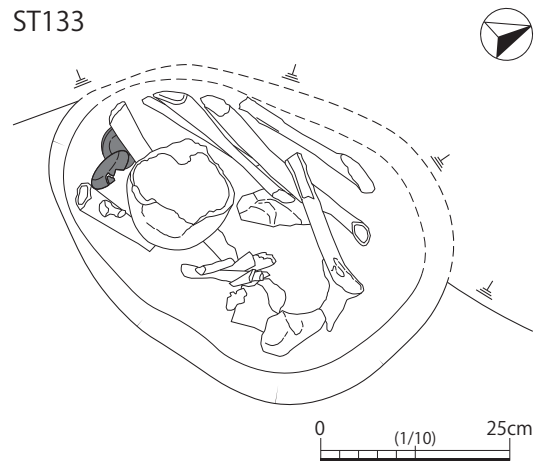
口縁部が破損した状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨は検出されておらず、改葬により持ち去られたものと考えられる。

【ST138】（第32図）

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：有（一部収骨）

口縁部が破碎した甕棺内南側から、頭蓋骨が左側頭部を上顔面部を東に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態を保って出土している。頸椎は頭蓋骨と下顎骨の間から上下に連なった状態で出土している。上下に連なった頸椎と関節状態を保って、胸椎・腰椎は西から東へ連なった状態で出

ST133



第31図 HZK2007地点 ST133人骨出土状況

土しており、甕棺内東側から仙骨が左右寛骨と関節状態を保って出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の北側から左上腕骨が長軸を西－東に向けて外側を上にした状態で出土している。左上腕骨の遠位端から左尺骨と左橈骨が長軸を東－西に向け、関節状態を保って回内した状態で出土している。左肘は屈した状態であったと考えられ、左手は頭蓋骨の下位から出土している。右上腕骨は頭蓋骨の西側から近位を上にして直立した状態で出土している。

下肢骨は、甕棺内東側底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。

以上の出土状況から、本人骨の埋葬時の頭位は東、躯体正面を西に向けた立膝坐葬であったと推定される。軟部組織が腐朽する前に上半身が右側に倒れたと考えられ、埋葬時は蓋などがされており、土砂の流入が妨げられていたものと考えられる。左右の脛骨と左大腿骨などが検出されておらず、改葬により持ち去られた可能性が考えられる。

【ST139】（第33図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破砕した甕棺内南側から、頭蓋骨が左側頭部を上顔面部を南に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態を保って出土している。椎骨は甕棺内の北側から上下に連なった状態で出土しているが頭蓋骨とは関節状態を保っていない。上下に連なった椎骨の東側から左肋骨が、西側から右肋骨が胸椎との関節状態を概ね保った状態で出土している。胸椎の下部から腰椎・仙骨が上下に連なった状態で出土しており、左右寛骨は仙骨と関節状態を保って出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の北側、左肋骨の東側から左肩甲骨が、右肋骨の西側から右肩甲骨が、肩甲下角を上方に背面を内側に向け、直立した状態で出土している。左右の上腕骨は左右の肩甲骨にそれぞれ近接した位置から近位を上方に向け直立した状態で出土している。右尺骨と右橈骨は、頭蓋骨の下位で右上腕骨と関節状態を保ち、頭頂部の西側から、遠位を上方に向け前面を上にした状態で出土している。指骨がその東側からまとまった状態で出土している。左尺骨と左橈骨も頭蓋骨の下位で左上腕骨と関節状態を保ち、遠位を南西に向けた状態で出土している。左右の前腕骨の遠位端は、甕棺内の南側から近接した状態で出土している。左右の肘関節は屈し、前方で両手を合わせた状態であったと推定される。

ST138



0 (1/10) 25cm

第32図 HZK2007地点 ST138人骨出土状況

ST139



0 (1/10) 25cm

第33図 HZK2007地点 ST139人骨出土状況

下肢骨は、甕棺内北側底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を概ね保って、左右の大腿骨が遠位を上方に向け出土している。左右の脛骨・腓骨も左右大腿骨の南西側から関節状態を保って出土している。

以上の出土状況から、本人骨の埋葬時の頭位は北、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であったと推定される。軟部組織が完全に腐朽する前に頭蓋骨が前方に転じたと考えられ、埋葬時は蓋などがされており、土砂の流入が妨げられていたものと考えられる。

【ST140】 (第34図)

頭位：南東、躯体正面：北西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破碎した甕棺内中央部よりもやや北西側から頭蓋骨が、後頭部を上顔面部を下方に向けた状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨よりも西側から右側を上にした状態で出土している。上下顎は咬合状態を保っていない。甕棺内の南東側から椎骨が上下に連なった状態で、さらに胸椎・腰椎・仙骨が南東-北西方向に連なった状態で出土している。上下に連なった椎骨の東から右肋骨が、西側から左肋骨が胸椎との関節状態を概ね保った状態で出土している。左右寛骨は仙骨と関節状態を保って出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の東側、椎骨付近から左右肩甲骨が直立した状態で出土している。左右の上腕骨は左右の肩甲骨とそれぞれ近接した位置から近位を上方に向けほぼ直立した状態で出土している。右尺骨と右橈骨は、頭蓋骨よりも西側から右上腕骨と関節状態を保ち、遠位を南に向けた状態で出土している。左尺骨と左橈骨も頭蓋骨の下位で左上腕骨と関節状態を保ち、遠位は右前腕よりも西側から遠位端を上方に向けた状態で出土している。左前腕骨の遠位端の西側から指骨がまとまった状態で出土している。右前腕骨の南側から右指骨がまとまった状態で出土している。左右の肘関節は屈し、前方で両手を交差させた状態であったと推定される。

下肢骨は、甕棺内北西側底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。その中で右寛骨が最も上位であり、左寛骨が最も下位、甕棺内底部直上から出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を概ね保って左右の大腿骨が遠位を東側上方に向け出土している。左右の脛骨・腓骨も左右大腿骨と関節状態を保って近位を上方に向け出土している。左脛骨と関節状態を保って左足根骨が左寛骨の上から出土しており、右寛骨の上から右足根骨もまとまった状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨の埋葬時の頭位は南東、躯体正面を北西に向けた立膝坐葬であったと推定される。右肘を屈し腹部を抱え、左肘で右腕を抱えるような状態と推定される。甕棺内底部に深く腰掛けるような状態で足は腰部の上に置かれ、左半身が右半身よりも下方に位置しているため埋葬時から体全体が左側に大きく傾いた状態であったと推定される。軟部組織が完全に腐朽する前に頭蓋骨が前方に転じたと考えられ、埋葬時は蓋などがされており、土砂の流入が妨げられていたものと考えられる。

ST140



第34図 HZK2007地点 ST140人骨出土状況

## 【ST141】(第35図)

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬

改葬：不明（再開口：有 収骨は無し、大きく動かされる）

口縁部が破碎した甕棺内北西側から、左右の寛骨と仙骨が関節状態を保って上下反転した状態で出土している。椎骨は仙骨よりも南側から出土している。

仙骨の南東(右)側から左寛骨が出土し、左寛骨と関節状態を保って左大腿骨が遠位を南東に向け背側は上にした状態で出土している。仙骨の北西(左)側から右寛骨が出土し、右大腿骨が遠位を南東に背側を上に向けた状態で出土している。左右大腿骨の遠位端は甕棺内の南東側から近接して出土している。

右大腿骨の東側から左右脛骨が、近位を上方に外側を上に向けて直立した状態で出土しており、その東側から左右腓骨が近位を上方に直立した状態で出土している。

左大腿骨の下位から左上腕骨が、左上腕骨は骨幹中央部で2つに分かれており、下半部は遠位を下方に、上半部は近位を下方に直立した状態で出土している。甕棺内北西側底部付近から左右の肩甲骨が出土している。左肩甲骨は肩甲下角を上方に内側を上にした状態で、右肩甲骨は関節窩を上方に外側を上にした状態で出土している。右上腕骨が甕棺内底部から近位を西側、遠位を東に向けた状態で出土しており、甕棺内の東側から右尺骨が右上腕骨と関節状態を保って遠位を上方に向けて出土している。右橈骨は近位端を右尺骨に近接した状態で、遠位を南西に向けた状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨は大きく乱されているため埋葬時の頭位や躯体正面は不明である。寛骨が上下反転した状態で、下肢骨が甕棺内で最も高いレベルから出土していることから、股関節の軟部組織が完全に腐朽する前に甕棺内を大きく乱すような行為があったものと考えられ、人為的な改葬が示唆される。

## 【ST142】(第36図)

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破碎した甕棺内南東側から頭蓋骨が左後頭部を上、顔面部をやや下方に向けた状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨よりも北西側からオトガイを上にした状態で出土している。上下顎は咬合状態を保っている。甕棺内の北側から椎骨が連なった状態で、さらに胸椎の一部・腰椎・仙骨が北-南方向に連なった状態で出土している。左右寛骨は仙骨と関節状態を保って出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の西側から右上腕骨が背面を上、近位を北、遠位を南に向けた状態で出土している。右上腕骨の遠位端付近より右尺骨と橈骨が近位を北に遠位を南に向けた状態で出土している。左上腕骨が、その近位端を頭蓋骨の下位に置き、長軸を東-西に向けた状態で出土している。左尺骨と左橈骨は、左上腕骨の遠位端に近接し右前腕の下位から出土している。左右の肘関節は屈し左右の前腕を上下に重ねたような状態で埋葬されたと考えられる。

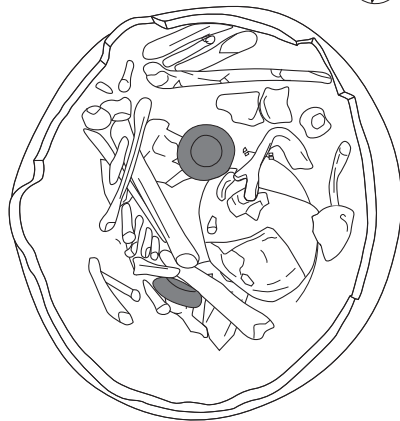
下肢骨は、甕棺内南側底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と左右大腿骨は股関節の関節状態を保っていないが近接した位置から出土している。左大腿骨は頭蓋骨

ST141



第35図 HZK2007地点 ST141人骨出土状況

ST142



第36図 HZK2007地点 ST142人骨出土状況

ST143



第37図 HZK2007地点 ST143人骨出土状況

の南側から遠位を上方に向け、ほぼ直立した状態で出土している。右大腿骨は頭蓋骨の西側から遠位を上方に向け、ほぼ直立した状態で出土している。左右の脛骨・腓骨は左右大腿骨の北側から相対的な位置関係を保って近位を上方に向け出土している。右脛骨と関節状態を保って右足根骨が右寛骨の上から出土している。

以上の出土状況から、本人骨の埋葬時の頭位は北側、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であったと推定される。左右肘関節を屈し右腕を左腕の上へのせ腹部を抱えるような状態であったと推定される。甕棺の底部に深く腰掛けるような状態で、両足は両腕よりも外側に開き、足は腰部の上に置かれた状態で埋葬されたと推定される。軟部組織が完全に腐朽する前に頭蓋骨が前方に転じたと考えられ、埋葬時は蓋などがされており、土砂の流入が妨げられていたものと考えられる。

【ST143】（第37図）

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破碎した甕棺内西側から頭蓋骨が左側頭部を上、顔面部を南に向けた状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨の東側から関節状態を保ち、上下顎は咬合状態を保って出土している。甕棺内の東側から椎骨がまとまって出土しており、その周辺から肋骨が散乱した状態で出土している。甕棺内の東側から下部胸椎・腰椎が上下に連なった状態で出土している。仙骨は腰椎と関節状態には無いが、近接した位置から出土しており、甕棺内の底部付近から左右寛骨は仙骨と関節状態を保って出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の下位から右上腕骨が近位を上方に向け直立した状態で出土している。右上腕骨と関節状態を保って右尺骨と右橈骨が近位を北に、遠位を南に向けた状態で、回内位で出土している。左上腕骨は、甕棺内の南側から近位を上方に向け直立した状態で出土している。左上腕骨と関節状態を保って左尺骨と左橈骨が近位を南東、遠位を北西に向けた状態で出土している。左右の指骨は左右の前腕の遠位端と近接した位置からまとまった状態で出土している。左右の肘関節は屈し腹部を抱えるような状態であったと考えられる。

下肢骨は、甕棺内東側底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と左右大腿骨は股関節の関節状態を保って遠位を上方に直立した状態で出土している。左大腿骨は頭蓋

骨の南側から遠位を上方に向けほぼ直立した状態で出土している。右大腿骨の南西から右脛骨・腓骨が近位を北側上方に向け、遠位を南側下方に向けた状態で出土している。右膝関節は関節状態を保っていないが、股関節・膝関節は屈した状態であったと推定される。右脛骨と関節状態を保って右足根骨が甕棺内南西側底部付近から出土している。左足根骨も右足根骨と同じ位置から出土しており両足を重ねた状態であったと推定される。

以上の出土状況から、本人骨の埋葬時の頭位は東側、躯体正面を西に向けた立膝坐葬であったと推定される。左右肘関節を屈し腹部を抱えるような状態で、両膝は外側に開き、足は揃えた状態で埋葬されたと推定される。軟部組織が完全に腐朽する前に頭蓋骨が右側に転じたと考えられ、埋葬時は蓋などがされており、土砂の流入が妨げられていたものと考えられる。

【SK144】(第38図)

頭位：北 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

長円形の土壙内から風化により白色化した人骨が出土している。土壙内北側から椎骨が一部連なった状態で出土しているが、それ以外の部位の残存状況が良好ではないため埋葬姿勢などの詳細は不明である。

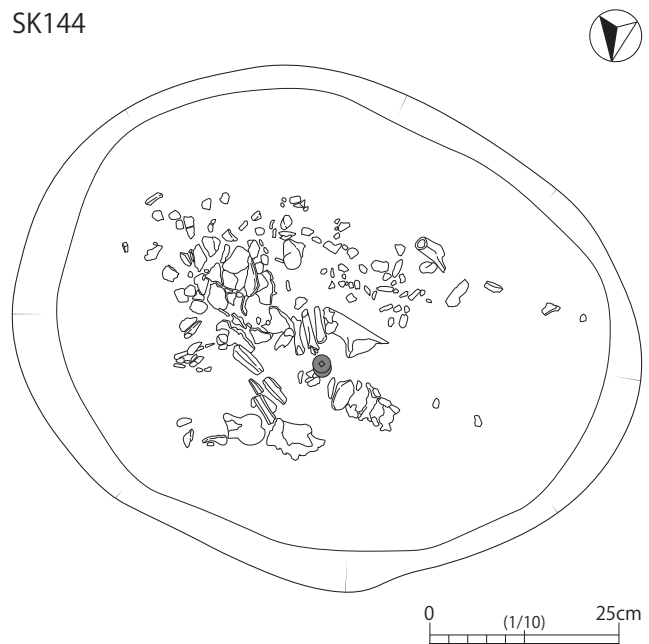
【ST145】(第39図)

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破砕した甕棺内南側から、頭蓋骨が頭頂部を下に頭蓋底部を上にした状態で出土している。下顎骨は甕棺内底部に近い腰椎の上から出土しており、上下顎は関節した状態にない。頭蓋骨の東側から肋骨片が散乱した状態で出土している。頭蓋骨の南側から頸椎が散乱した状態で出土している。甕棺西側の底部付近から胸椎が上下に連なり、下部胸椎・腰椎・仙骨は東-西方向に連なった状態で出土している。椎骨の南から肋骨が散乱した状態で出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の南側から左肩甲骨が背側を前面に、肩甲骨下角を上にした状態で出土している。甕棺内の最も東側から右上腕骨が近位を上方に前面を上にした状態で出土している。右上腕骨と関節状態を保って右尺骨と右橈骨が回内した状態で出土している。右尺骨は遠位を西側に、右橈骨は遠位を南側に向けている。右橈骨がやや躯幹寄りに転じているが右肘関節は屈し、腰部の上に置かれていたものと考えられる。左上腕骨は甕棺内底部付近の下顎骨の西側から、近位を上方に前面を上にした状態で出土している。左尺骨・左橈骨は左上腕骨と関節状態を保って、回内した状態で出土している。左尺骨・左橈骨は遠位を北側にある仙骨の上のせた状態である。

SK144



第38図 HZK2007地点 SK144人骨出土状況

左肘関節も屈した状態で手を腰部の上に置いていた状態であったと考えられる。左右の指骨は頭蓋底部にある骨盤付近から出土している。

下肢骨は、甕棺内西側底部付近から左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を概ね保って、左右の大腿骨が遠位を上方に向け出土している。左大腿骨は外側を上、右大腿骨は背面を上にした状態であり、右大腿骨は外側に転じたものと考えられる。左右の脛骨・腓骨も左右大腿骨と関節状態を保って出土している。右脛骨・腓骨は右大腿骨よりも北側、左脛骨・左腓骨は左大腿骨の南側から出土し、下腿を交差させた状態であったと推定される。足根骨は左右の脛骨よりも西側からまとまって出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を東側に、躯体正面を西に向けた立膝坐葬であると推定される。左右肘関節は屈し腰部の上に手を置いた状態と考えられる。甕棺底部に深く腰掛けるような状態で左右の股関節・膝関節は強屈し左右の足を交差していたと推定される。頭部や下顎骨は軟部組織が完全に腐朽する前に前方に倒れ込んだものと考えられるため、埋葬時は蓋などがされていたのだろう。一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

棺外西側から長管骨が重なった状態で出土している。ST145は全身骨がほぼ揃っているため、当該墓の被葬者ではなく、別の個体と考えられる。別の土壌に埋葬された個体であろう。

【ST146】（第40図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：木棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

長円形の土壌墓から人骨が出土している。土壌内の南側から頭蓋骨が頭頂部を上にした状態で出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の北東から左上腕骨が近位を上方に直立した状態で出土している。その西側から左尺骨と左橈骨が近位を下方に向けた状態で出土している。左肘関節は関節状態を保っていないが相対的位置関係は概ね正しい。右上腕骨は土壌内の西側から遠位を北に、近位を南に外側上向きの状態で出土している。

下肢骨は、左上腕骨の西側から左寛骨片が出土している。そのさらに西側から右寛骨片が出土している。左大腿骨は左寛骨の南側から遠位を上方に向け直立した状態で出土している。左脛骨がその西側から直立した状態で出土している。右大腿骨は右寛骨の南側から遠位を上方に直立した状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨の埋葬時の頭位は北、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であったと推定される。軟部組織が完全に腐朽する前に頭蓋骨が前方に転じたものと考えられ、木棺などに埋葬されたものと推定される。

【ST147】

頭位：北 葬法：土壌墓（木棺？）  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壌内から人骨が出土している。土壌内最も北側から頭蓋骨片が出土している。西側から骨片が出土している。それ以外の部位の残存状況が良好ではないため詳細は不明である。

【ST148】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

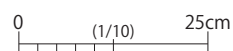
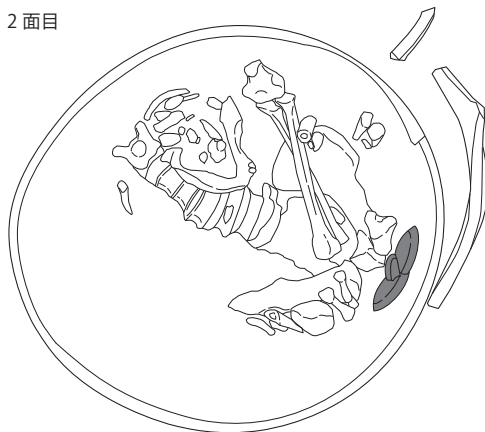
口縁部が破碎した甕棺内中央部の底部付近から人骨が出土している。棺内上部にバラスが入ってお

ST145

1 面目

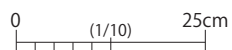
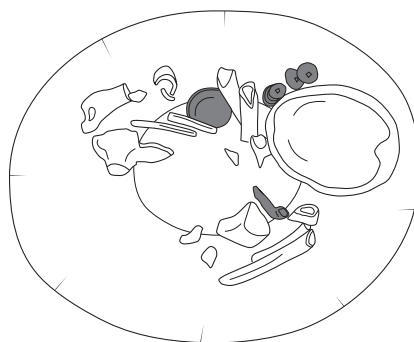


2 面目



第39图 HZK2007地点 ST145人骨出土状况

ST146



第40图 HZK2007地点 ST146人骨出土状况

り、その下位から幼児骨が出土している。残存状態が良好ではないため詳細は不明である。

【ST149】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が一部破損した状態の甕棺が出土した。棺内部からは破損した甕棺片が出土し、人骨は上腕骨片などの長管骨片がごくわずかに検出されるのみである。改葬により持ち去られたものと考えられる。

【ST150】（第41図）

頭位：西 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：側臥屈葬 改葬：不明

円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内最も西側から、頭蓋骨が右側頭部を下方に顔面を南に向けた状態で出土している。頭蓋骨の南側から歯牙が散乱した状態で出土している。頭蓋骨の南東側から大腿骨が長軸を北西-南東に向けた状態で出土し、その北側からも大腿骨が長軸を揃えて出土している。大腿骨は遠位を東側（頭蓋骨側）に向け、遠位側のほうが近位側よりもレベルが高い。土壙南側からも長管骨片が出土している。

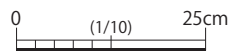
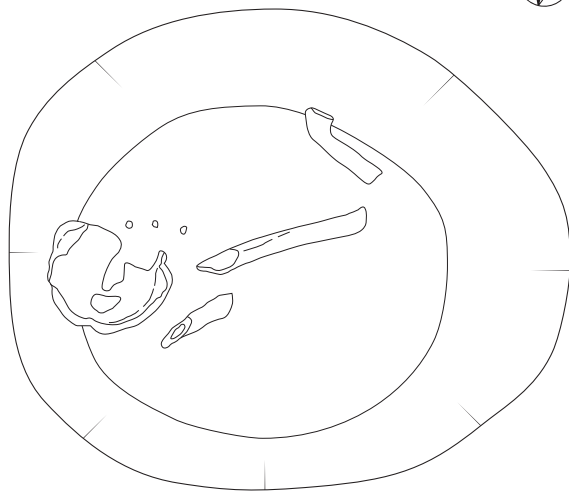
以上の出土状況から、本人骨は頭位西向き、膝に頭をつけるような状態で股関節・膝関節を強屈した側臥屈葬位であったと考えられる。

【ST151】（第42図）

頭位：西 葬法：木棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明

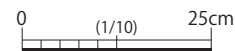
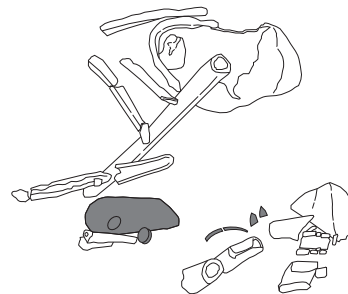
トレンチ内から人骨が出土している。土壙内南側から頭蓋骨が頭蓋底を上頭に頭頂部を下方に向けた状態で出土している。下顎骨も下顎底を上方に向けた状態で出土しており、上下顎は咬合状態である。下顎骨の南側下方から上腕骨が近位を東側下方に、遠位を上方に向けた状態で出土している。土壙内の中央から上腕骨が長軸を東-西に向けて出土している。上腕骨の間から左尺骨と左橈骨が近位を南

ST150



第41図 HZK2007地点 ST150人骨出土状況

ST151



第42図 HZK2007地点 ST151人骨出土状況

側やや下方に、遠位を上方に向けた状態で出土している。頭蓋骨にのるような状態で左大腿骨が頭蓋骨側に遠位を向け、近位を東側やや下方に向けた状態で出土している。土壙墓内の北側から右大腿骨が長軸を西-東に、近位をやや上方に向けた状態で出土している。そのさらに北側から右脛骨片が出土している。寛骨が土壙内の最も東側から出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位西向きの立膝坐葬であったと考えられる。頭蓋骨を含め骨が大きく動いていることから、埋葬時は木棺などに埋葬され、軟部組織が腐朽する前に骨が落ち込んだものと考えられる。

## 【ST152】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が一部破損した状態の甕棺が出土した。棺内部からは破損した甕棺片が出土し、人骨は検出されていない。改葬により持ち去られたものと考えられる。

## 【ST153】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が一部破損した状態の甕棺が出土した。棺内部からは破損した甕棺片が出土し、人骨は鎖骨片（火葬骨）のみ確認された。改葬により持ち去られたものと考えられる。

## 【ST154】

頭位：不明 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：不明（坐葬の可能性あり） 改葬：不明

円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内西側から頭蓋骨片が出土している。さらに土壙内北側から上顎骨の一部と下顎骨が咬合状態を保って出土している。頭蓋骨の東側と西側からそれぞれ長管骨片が立った状態で出土しており、それ以外の部位の残存状況が良好ではないため詳細は不明であるが坐葬の可能性が高い。

本個体に伴い、銅銭、鉄釘が複数出土している。

## 【ST155】（第43図）

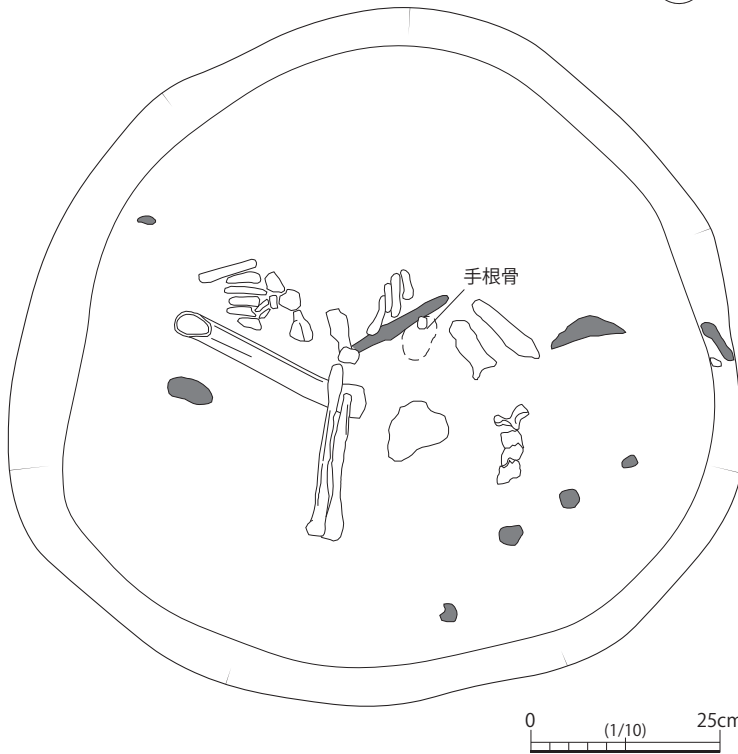
頭位：東 葬法：木棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明

円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内中央部から左寛骨片が出土している。左寛骨の南側から左大腿骨が近位を左寛骨側下方に向け、遠位をやや上方に前面を上に向けた状態で出土している。左大腿骨の近位側にのるような状態で左尺骨と左橈骨が近位を東、遠位を西に向けた状態で出土している。左寛骨の西側から仙骨片が、そのさらに西側から右寛骨片が出土している。仙骨の東側から椎骨片が東西方向に連なった状態で出土している。椎骨は東側の方がやや上方に位置している。仙骨の南側から第2-5中手骨が遠位を南西に向けた状態で関節状態を保って出土している。その北東側から手根骨が関節状態を保って出土している。左大腿骨の西側から足根骨が関節状態を保って出土している。

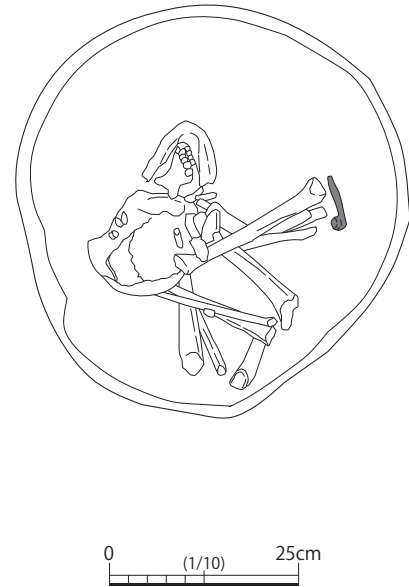
以上の出土状況から、本人骨は頭位東側の立膝坐葬であったと考えられる。左手は腰部付近にのせたような状態であったと考えられる。軟部組織の腐朽に伴い大腿骨が外側に転じたものと推定される。大腿骨が動いていること、加えて椎骨がやや上下に傾いた状態で出土していることから、埋葬時は木棺などに埋葬されており、棺に上半身を寄り掛からせるような状態であったと推定される。

ST155



第43図 HZK2007地点 ST155人骨出土状況

ST157



第44図 HZK2007地点 ST157人骨出土状況

【ST156】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が一部破損した状態の甕棺が出土した。棺内部から人骨は検出されておらず、改葬により持ち去られたものと考えられる。

【ST157】（第44図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：有（右上肢骨の収骨か？）

口縁部が破砕した甕棺内から人骨が出土した。頭蓋骨は甕棺内中央部から顔面部を下に、後頭部を上に向けた状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨と関節状態を保ち、上下顎は咬合状態を保って出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の北側から左肩甲骨が背側を上にした状態で出土し、そのすぐ北側から左上腕骨が近位を東側やや上方に向け、遠位を西側やや下方に向け外側を上にした状態で出土している。左上腕骨の遠位端に近接した位置から左尺骨と左橈骨が近位を西、遠位を東に向けた状態で出土している。左肘関節は屈した状態であったと考えられる。

下肢骨は、甕棺内北側から左右の大腿骨が遠位を上方に向け、直立した状態で出土している。右大腿骨よりも左大腿骨のほうが東側に位置する。右大腿骨の東側から右脛骨・右腓骨が近位を上方に向け直立した状態で出土している。左大腿骨の南側から左脛骨・左腓骨が近位を上方に向け直立した状態で出土している。左右の股関節・膝関節は膝を立て強屈した状態であったと推定される。

以上の出土状況から、本人骨は頭位が北側、躯体正面を南に向けた立膝坐葬であると推定される。軟部組織が腐朽する前に頭蓋骨や左上腕骨が前方に転じたものと考えられる。埋葬時は蓋などがなされていたものと推定される。右上肢骨が出土していないことから、一部の骨を持ち去るなどの改葬行為が行われた可能性も指摘される。

## 【ST159】

頭位：南、躯体正面：北 葬法：木棺  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：無し

長円形の土壙内から人骨が出土している。土壙内の南側から頭蓋骨が、頭頂部を下に後頭部を北に向けた状態で出土している。左右の四肢骨が頭蓋骨の直下から出土している。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を南側、躯体正面を北に向け、坐葬で埋葬されたものと考えられる。木棺などに埋葬されていたため、軟部組織の腐朽に伴い頭蓋骨が前方に転じたものと考えられる。

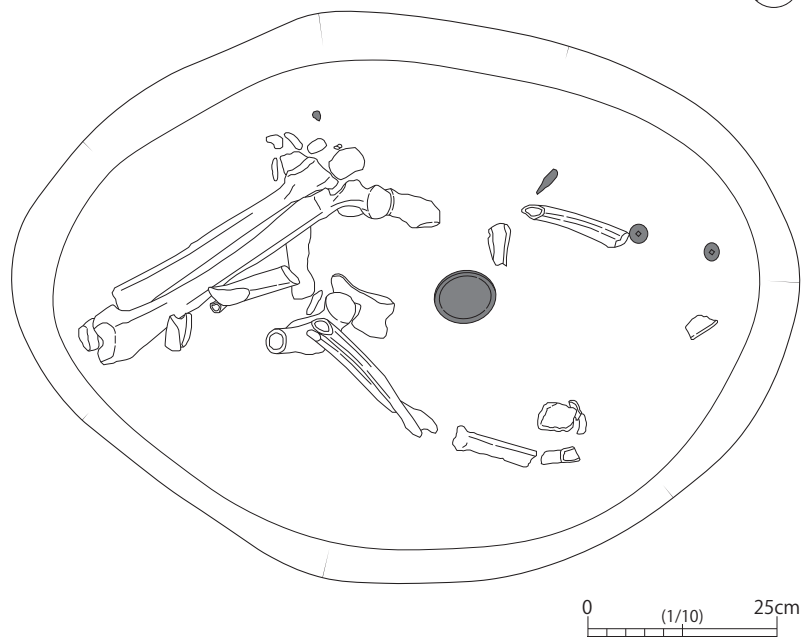
## 【ST160】（第45図）

頭位：北東 葬法：土壙墓（木棺？）  
埋葬姿勢：仰臥屈葬 改葬：無

楕円形の土壙内から人骨が出土している。頭蓋骨や体幹部の骨は残存状態が悪く不明瞭である。土壙内の北西側から右上腕骨が出土し、土壙内の北東側から左上腕骨が出土している。左右上腕骨の長軸はともに北東－南西方向である。右上腕骨の遠位側から右前腕骨片が長軸を西－東方向に向けて出土している。左上腕骨の遠位側から左尺骨と左橈骨が長軸を北東－南西に向けて回内した状態で出土している。右肘関節は屈し腹側に手を置くような状況で、左肘関節は伸展し回内した状態で出土している。

土壙内中央部から左右寛骨が出土している。左右寛骨の南側、寛骨臼と関節状態を保って、前面を上にして長軸を北西－南東に向けて左右大腿骨が出土している。左大腿骨は左前腕遠位端の下位から出土している。左右大腿骨は遠位が近位よりもやや高いレベルから出土している。左脛骨と左腓骨は左右大腿骨の間、右大腿骨に接した状態で出土しており、左足根骨が左脛骨と脛距関節を保って出土している。右脛骨と右腓骨は近位を南東に、遠位を北西に向け右大腿骨と長軸を揃えて出土している。右膝関節は強屈した状態であったと考えられる。右脛骨の遠位側からは右足根骨は脛距関節を保った状態で出土してい

ST160



第45図 HZK2007地点 ST160人骨出土状況

る。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を北東、下肢を西側に向けて強屈した状態の仰臥屈葬位であったと考えられる。左手は腰部付近にのせたような状態で、右手は腹部の上にのせた状態であったと考えられる。

【SK162】

頭位：西 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

長円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内西側から頭蓋骨片が出土している。頭蓋骨の東側から大腿骨が長軸を東－西に向けた状態で出土している。大腿骨の南側から長管骨が出土している。人骨の保存状態は良好ではないため詳細は不明である。

【ST163】（第46図）

頭位：南東 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：仰臥屈葬 改葬：無

100cm×100cmの範囲から人骨が出土している。人骨出土範囲の最も南東側から頭蓋骨が出土している。頭蓋骨に近接して下顎骨片も出土している。頭蓋骨の北西側から右上腕骨が近位を頭蓋骨側に向け、前面を上長軸を南－北へ向けて出土している。上腕骨の北西側から長軸を揃えて前腕骨片が出土している。人骨出土範囲の最も北側から寛骨が出土している。右上腕骨と重なった状態で、より上位のレベルから右大腿骨が出土している。近位を寛骨側に向け、近位の方が遠位よりもやや上方に位置する。人骨出土範囲の西側からも長管骨片が出土している。

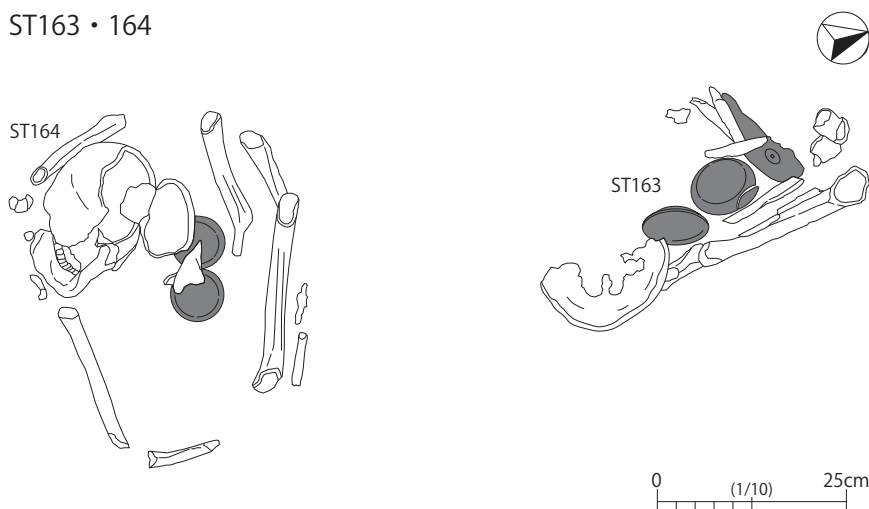
以上の出土状況から、本人骨は頭位を南東に向けた、仰臥屈葬位であったと考えられる。右肘を強屈し手は右胸部に置いていたと推定される。右膝も強屈し上半身の上ののった状態であったと考えられる。

【ST164】（第46図）

頭位：西 葬法：木棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

100cm×100cmの範囲から人骨が出土している。人骨出土範囲の南側から頭蓋骨が後頭部を上顔

ST163・164



第46図 HZK2007地点 ST163・164人骨出土状況

面部を下に向けて出土している。上下顎は咬合状態を保って出土している。頭蓋骨の西側から左上腕骨が近位を上方に向け、ほぼ直立した状態で出土している。頭蓋骨の東側から右上腕骨が近位を上方、外側を上に向けて出土している。右上腕骨の遠位端と近接した位置から右尺骨が近位を南（上腕骨側）、遠位を北に向けて出土している。右肘関節は屈した状態であったと考えられる。頭蓋骨の北側から右大腿骨と左大腿骨がともに近位を下方、遠位を上方に向け出土している。左大腿骨の北側から左脛骨が近位を上方に向けた状態で出土している。両膝を立てた状態であったと推定される。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を西に向けた立膝坐葬であったと考えられる。右肘を軽く屈し手は腰部付近に置いていたと推定される。左右の膝を立てた状態で埋葬され、軟部組織の腐朽に伴い右大腿骨が左側に倒れたと推定される。また頭蓋骨が軟部組織の腐朽とともに前方に転じていることから、元々は棺に埋葬されていたものと考えられる。

#### 【ST165】

頭位：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨はごく小片が検出されるのみであり、改葬により持ち去られたものと考えられる。棺外から火葬骨が出土しているが、本遺構との関係は不明である。

#### 【ST166】（第47図）

頭位：西、躯体正面：東 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明（再開口：有。収骨は無しの可能性が高い）

口縁部が破砕した甕棺内から人骨が出土した。頭蓋骨は甕棺内中央部最下位から破損した状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨の北側から歯牙を上に向けた状態で出土しており上下顎は咬合状態を保っていない。

上肢骨は、左上腕骨が頭蓋骨の北側から近位を上方に向け、棺内で甕棺胴部に沿うような状態で出土している。左上腕骨の東側から左肩甲骨が関節窩を上腕骨側に向けた状態で出土している。左尺骨と左橈骨は左上腕骨と関節状態を保ってはいないが、長軸を北-南に向け頭蓋骨の下位、左上腕骨の遠位端付近から出土している。頭蓋骨の南側から右上腕骨が外側を上、近位をやや上方に向けた状態で出土している。右橈骨・右尺骨が右上腕骨の遠位端付近から長軸を東-西に向けた状態で出土している。左右の肘関節は屈していたと考えられる。

下肢骨は、甕棺内西側の胴部から左右寛骨片と仙骨片がまとまって出土している。左右の大腿骨が甕棺内の西側底部付近から遠位を南側上方に向けて出土している。左右大腿骨の東側から左右脛骨・腓骨が近位を上方に向けた状態で出土している。右前腕骨は右下肢骨と左下肢骨の間から出土している。左右の股関節・膝関節は強屈した状態であったと推定される。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を西、躯体正面を東に向けた立膝坐葬であったと考えられる。左右の膝関節は左側で揃えられ、右腕は左下肢を抱えるよう



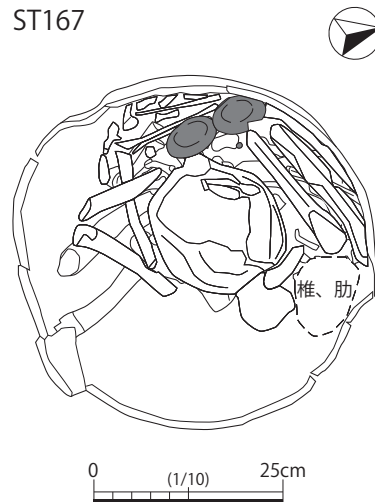
第47図 HZK2007地点 ST166人骨出土状況

な状態であったと推定される。軟部組織が腐朽する前に上半身が前方に転じたと考えられるため、埋葬時は蓋などがなされていたものと推定される。ほぼ全身の骨格が確認できることから一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定されるが、頭蓋骨が最も低い位置から、寛骨が最上位から出土している状況から、骨を持ち去ってはいないが、人為的に遺体を動かすような行為がなされたものと推定される。椎骨が連なった状態であることなどから考えて、軟部組織が完全に腐朽する前に行われた可能性が高く、人為的な移動と考えることが出来よう。

【ST167】(第48図)

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

ST167



第48図 HZK2007地点 ST167人骨出土状況

口縁部が破碎した甕棺内から人骨が出土した。頭蓋骨は甕棺内中央部から頭頂部を下に、顔面部を南に向けた状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨の下位からオトガイ孔を上に向けた状態で出土しており上下顎は咬合状態を保っていない。下顎骨の北側から環椎と軸椎が関節状態を保って出土している。頭蓋骨の東側から椎骨と肋骨がまとまった状態で出土している。さらに頭蓋骨の東側、椎骨と肋骨と頭蓋骨の間から左肩甲骨が関節窩を上方に、左鎖骨が遠位を上方に向けた状態で出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の南側から左上腕骨が近位を上方に、前面を上に向け棺内で甕棺胴部に沿うように直立した状態で出土している。左上腕骨の遠位端に近接した位置から左橈骨が近位を東、遠位を西に前面を上にした状態で出土している。左橈骨の遠位端付近から指骨がまとまった状態で出土している。左肘関節は前方に向け屈した状態と考えられる。右上腕骨は甕棺内の最も北側から近位を上方に、外側を上に向けた状態で出土している。右尺骨と右橈骨は右上腕骨と関節状態を保って、長軸を南-北に向けた状態で出土している。右前腕の遠位端と左前腕の遠位端は、甕棺内南側で近接した位置から出土しており、右指骨も左指骨と同じ位置から出土している。右の肘関節は屈し腹部を抱えるような状態であったと考えられる。

下肢骨は、甕棺東側の底部付近から左右寛骨と仙骨が関節状態を保って出土している。左右の大腿骨は左右の寛骨と股関節の関節状態を保って、遠位を上方に向けて直立した状態で出土している。右大腿骨の南側から大腿骨に沿うように右脛骨・右腓骨が近位を上方に向けた状態で出土している。甕棺内南側から出土した左大腿骨の西側から大腿骨に沿うように左脛骨・左腓骨が近位を上方に向けた状態で出土している。左右の指骨は骨盤の前方、甕棺内西側からまとまった状態で出土している。左右の股関節・膝関節は強屈した状態であったと推定される。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を東側、躯体正面は西に向けた立膝坐葬であると推定される。左腕は左足よりも内側に入れ、左肘を屈し左腕を回内した状態で前方に出し、右腕で右足を抱え右肘は屈し腹部を抱え、体の左側で両手を揃えた状態であったと考えられる。頭蓋骨は軟部組織が腐朽する前に前方に転じ、その際に下顎が下方へ転落したものと考えられる。埋葬時は蓋などがなされていたものと推定される。一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

【SX168】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

攪乱に切られ明確な土壌のラインが検出できないが頭蓋骨が出土している。人骨の保存状態は良好ではないため詳細は不明である。

【ST169】（第49図）

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破碎した甕棺内から人骨が出土した。頭蓋骨は甕棺内西側から頭頂部を下に向け破損した状態で出土している。甕棺内の東側から、上部胸椎を北側に下部胸椎を南側に、ほぼ水平に連なった状態で出土している。その東側から腰椎が上部を南側、下部を北側に向けた状態で出土している。そのさらに北側から仙骨が関節状態を保って出土しており、左右の寛骨も仙骨と関節状態を保って出土している。一部肋骨が椎骨と関節状態を保って出土している。

上肢骨は、甕棺内の北側から右肩甲骨が背側を上にした状態で出土している。右肩甲骨より北側から右上腕骨が近位を上方に向け、前方を上にした状態で出土している。頭蓋骨の下位から尺骨が出土している。

下肢骨は、甕棺内東側の底部付近から左右寛骨と仙骨が関節状態を保って出土している。左右の大腿骨は左右の寛骨と股関節の関節状態を保って出土している。右大腿骨は外側を上にして遠位を北側上方に向け、左大腿骨は左寛骨と関節状態を保って遠位を上方に直立した状態で出土している。左右大腿骨の遠位端は甕棺内の北側で揃えられており、左右脛骨・腓骨は左右大腿骨と近接した位置から近位を上方に向けた状態で出土している。左右の股関節・膝関節は強屈した状態であったと推定される。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を東側、躯体正面は西に向けた、立膝坐葬であると推定される。左右の膝関節は屈し右側で揃えられていたと考えられる。頭蓋骨は軟部組織が腐朽する前に前方に転じたものと考えられる。おそらく同様のタイミングで、椎骨と右肩甲骨も前方やや右寄りに転じたものと考えられる。埋葬時は蓋などがなされていたものと推定される。一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

【ST170】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。甕棺内の底部付近から人骨は検出されたが、肋骨片や指骨片、右橈骨であり、いずれも解剖学的な位置関係を保っておらず散乱した状態である。遺存していない部位に関しては改葬により持ち去られたものと考えられる。

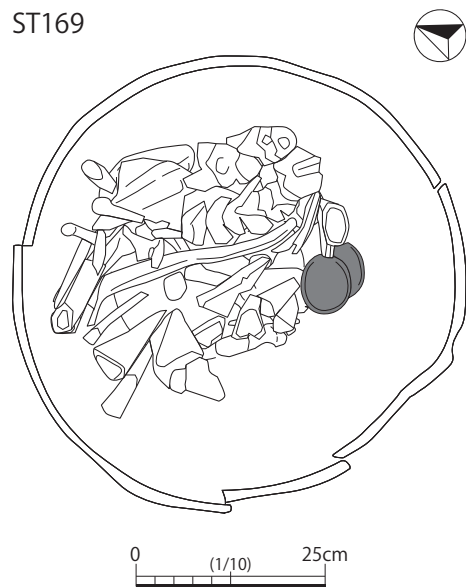
【ST171】（第50図）

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明（再開口：有。収骨無しの可能性が高い）

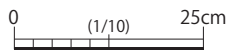
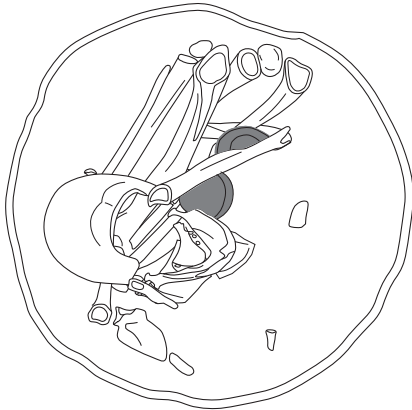
口縁部が破碎した甕棺内から人骨が出土した。最も低いレベルから大きな礫が出土している。頭蓋骨は甕棺内の東側から後頭部を上方に、顔面部を下方に向けた状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨

ST169



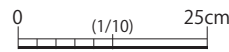
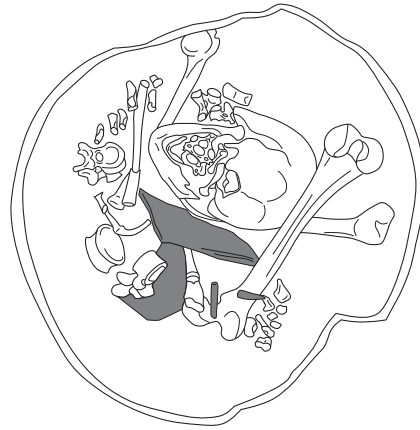
第49図 HZK2007地点 ST169人骨出土状況

ST171



第50図 HZK2007地点 ST171人骨出土状況

ST172



第51図 HZK2007地点 ST172人骨出土状況

の西側から下顎底を上に向けた状態で出土しており、上下顎は咬合状態を保った状態である。甕棺内の北側から南東－北西方向に椎骨が一部連なった状態で出土しており、その上下から肋骨が椎骨との関節状態を保って出土している。

上肢骨は左右上腕骨が長軸を東－西に向けた状態で出土している。尺骨や指骨も出土しているが解剖学的位置関係を保っておらず散乱した状態である。

下肢骨は、甕棺内東側の最上位から左寛骨片が出土している。左大腿骨が左寛骨と関節状態を保って、近位を上方に遠位を下方に、外側を上に向けた状態で出土している。左右脛骨・腓骨は甕棺内の南側から長軸を東－西に概ね揃えた状態で出土している。

本人骨は寛骨が頭蓋骨よりも上位から出土していることから、埋葬時から大きく乱されていると考えられるため、頭位や躯体正面は不明、下肢骨が直立していることから立膝坐葬であったと推定される。

【ST172】（第51図）

頭位：東、躯体正面：西 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明（再開口：有。収骨無しの可能性が高い）

口縁部が破碎した甕棺から人骨が出土した。甕棺内西側の最も高いレベルから頭蓋骨が、前頭部を南、側頭部を北、その間から後頭部という位置関係で破損した状態で出土している。この頭蓋骨の下位、甕棺内の南側から別の頭蓋骨が、頭蓋底を上顔面部を東に向けて出土している。下顎骨も下顎底を上に向け上下顎は咬合状態を保っている。最上層の頭蓋骨は別個体と考えられる。下顎骨の間から頸椎が北－南方向に連なった状態で出土している。甕棺内東側から右肋骨が上下に重なった状態で出土しており、その南側から椎骨が上下に連なった状態で出土している。下部胸椎と腰椎は、甕棺内東側底部付近から関節状態は保っていないがまとまった状態で出土している。甕棺内の西側、別個体の頭蓋骨の下位から仙骨と左右寛骨が背側を上にした状態でまとまって出土している。

上肢骨は、椎骨の南側から左肩甲骨と左上腕骨が棺内で甕棺胴部に沿うように直立した状態で出土している。左上腕骨と関節状態を保って、左尺骨・左橈骨が長軸を南北方向にゆるく屈曲した状態で出土している。椎骨の西側から右肩甲骨が内側を上、関節窩を北に下角を西に向けた状態で出土し、

その下位から右上腕骨が近位を南東、遠位を北西に向け外側を上にした状態で出土している。右上腕骨より西側から右橈骨が近位を南西に向けて前面を上にした状態で出土している。右肩関節・右肘関節は関節状態を保っていないため不明であるが、左肩関節・左肘関節は関節状態を保ち、左肘を屈した状態であった。

下肢骨は、左右の寛骨が仙骨と関節状態を保ってはいないが、近接した位置から背側を上にして出土している。左右寛骨は左右大腿骨と股関節の関節状態を保っていない。甕棺内南側から右大腿骨が前面を上、遠位を南東に近位を北西に向けた状態で出土している。右大腿骨の骨頭は右寛骨に近接した位置から出土している。右脛骨・右腓骨は右大腿骨の南側から近位を南東に、背側を上に向けた状態で大腿骨と長軸を揃えて出土している。左大腿骨は甕棺内南側から背面を上、遠位を上方にほぼ直立した状態で出土している。その北側から左脛骨と左腓骨が近位を上方に向け、ほぼ直立した状態で出土している。距骨と踵骨は左脛骨の遠位関節面直下から出土している。左右の膝関節は強屈した状態であるが、右下肢は本来の埋葬姿勢から大きく動いていると考えられる。

本人骨は頭蓋骨が棺内底部付近から出土し、骨盤が頭蓋骨よりも上位から出土していることから、埋葬時の姿勢から大きく動かされていると考えられる。躯幹骨の状態から本来の頭位は東、躯体正面は西側の、立膝坐葬であると推定される。ほとんど全身の関節状態をほぼ保っていることから軟部組織が腐朽する前に、埋葬時は甕棺内底部にあった骨盤を持ち上げるように大きく遺体を動かした可能性が考えられる。それに加えて右半身の骨が大きく動いていることは、別個体の頭蓋骨が流入した時と関連する可能性もある。骨を持ち去ってはいないが、人為的に遺体を動かすような改葬行為が行われたものと推定される。

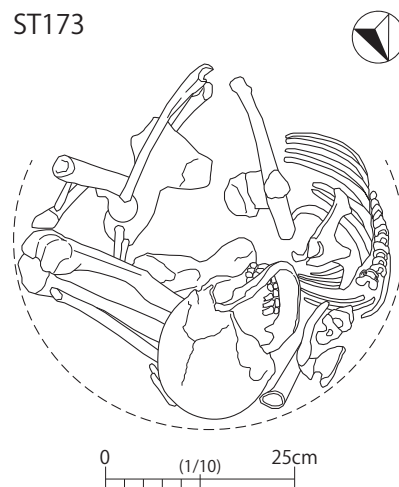
【ST173】(第52図)

頭位：西                      葬法：木棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬      改葬：無

円形の土壌内から人骨が出土している。土壌内北側から頭蓋骨が、後頭部を上方に向け顔面を下方にした状態で出土している。上下顎は咬合状態を保っている。椎骨は頸椎から胸椎まで土壌内の縁に沿うように北から南へ上下に傾斜しながら連なった状態である。左右の肋骨は椎骨と関節状態を保っている。

上肢骨も左右ともにすべての部位で関節状態を保ち、左右の肘関節を屈し、右手を腰部付近に、左手で左下肢を抱えるような状態であった。左右の寛骨および仙骨は頭蓋骨の東側から関節状態を保って出土している。左右大腿骨・脛骨・腓骨もそれぞれ関節状態を保ち、股関節・膝関節・脛距関節を強屈した状態であった。

以上の出土状況から、本人骨は頭位を西に向けた立膝坐葬であったと考えられる。右腕は腰部に、左腕で左足を抱えるような状態で埋葬されていたと考えられる。上下顎含めすべての関節で関節状態を保っているが、上半身が左側に倒れ込んでいるため、埋葬時は木棺などの棺に埋葬されており、軟部組織が腐朽する前に左側に倒れ込んだものと考えられる。



第52図 HZK2007地点 ST173人骨出土状況

【ST174】（第53図）

頭位：北、躯体正面：南 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

口縁部が破砕した甕棺から人骨が出土した。甕棺内東側から頭蓋骨が、右側頭部を上、顔面部を西に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態である。

上肢骨は、下顎骨の北側から右肩甲骨が出土している。その西側から右上腕骨が背側を上、遠位を西に向けた状態で出土している。右上腕骨の遠位端付近南側から、右尺骨・右橈骨が長軸を南-北方向に向けた状態で出土している。右肘は屈した状態で埋葬され、頭蓋骨を含め上半身が左側に倒れたものと考えられる。

下肢骨は、甕棺内の西側から左右の寛骨が仙骨片と関節状態を保ってはいないが近接した位置から出土している。甕棺内西側から右大腿骨が外側を上、近位を南西の寛骨側に向けた状態で出土している。右大腿骨よりも北東側下位から右脛骨と右腓骨が、近位を大腿骨の遠位側に向け、長軸を北東-南西に向けて出土している。右脛骨と右腓骨の遠位端は寛骨の下位に位置する。左大腿骨は甕棺内の南側から長軸を東-西に、遠位をやや上方に向けて出土している。近位側は寛骨の付近に位置する。左脛骨は長軸を北東-南西に向けて出土している。左右の膝関節は強屈した状態であったと考えられるが膝が前方に倒れた状態で出土している。

以上の出土状況から、本人骨は本来の頭位は北、躯体正面は南向きの立膝坐葬であると推定される。軟部組織の腐朽に伴い、まず上下顎の関節が外れるよりも前に上半身は左側に倒れたものと考えられ、その際に左下肢が右下肢と比べてより大きく動いたのではないかと推定される。

【ST176】

頭位：不明 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内北側から頭蓋骨が出土しており、その南側から下肢骨が長軸を東-西に揃えて複数出土している。人骨の保存状態は良好ではないため詳細は不明である。

【ST177】

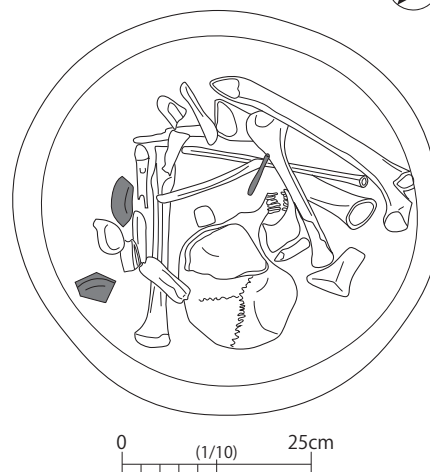
頭位：西、躯体正面：東 葬法：木棺  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：無

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内西側から頭蓋骨が、前頭部を下にした状態で出土している。頭蓋骨は土壙内で高いレベルから出土しており、その北側はかなり下位のレベルから歯牙が出土している。

頭蓋骨の東側から右脛骨が近位を上にしてほぼ直立した状態で出土している。そのさらに東側から右大腿骨が立った状態で出土している。頭蓋骨の北側、歯牙よりも下位のレベルから左大腿骨と左脛骨が長軸を東-西に向けた状態で出土している。左脛骨よりも左大腿骨がより北側で、左大腿骨は遠位を西側、前面を上に向けた状態、左脛骨は近位を西側、前面を上に向けた状態である。

以上の出土状況から、本来は頭位を西に向け、膝を立てた坐葬であったが、軟部組織の腐朽とともに

ST174



第53図 HZK2007地点 ST174人骨出土状況

に、左下肢が側方に倒れ込んだものと考えられ、埋葬時は木棺などに埋葬されていたものと推定される。

## 【ST179】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内最も北側から長管骨片が骨端を上方に向け立った状態で複数出土している。残存部位が良好ではないため、本人骨の頭位・躯体正面は不明である。長管骨片が直立に近い状態であることから立膝坐葬であったと推定される。

## 【ST181】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内南側から頭蓋骨片が出土している。その他土壙中央部からも骨片が出土している。残存部位が良好ではないため、本人骨の頭位・躯体正面は不明である。

## 【ST182】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

大きく破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。甕棺内の底部付近から右橈骨や指骨、椎骨片が出土しているがいずれも解剖学的位置関係を保っていない。改葬により大きく乱され、他の部位については持ち去られたものと考えられる。

## 【SX183】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

大きく破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨はほとんど検出されておらず、改葬により持ち去られたものと考えられる。

## 【ST184】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部から胴部までが大きく破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部から人骨は検出されておらず、改葬により持ち去られたものと考えられる。

## 【ST185】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部からは指骨などの骨片が底部付近から散乱するのみであり、改葬により持ち去られたものと考えられる。

## 【ST186】

頭位：不明 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明（坐葬？） 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内北側から頭蓋骨が出土しており、その東側から上腕骨が直立した状態で出土している。それ以外の人骨の保存状態が良好ではないため詳細は不明であるが、上腕骨が直立していることから坐葬の可能性が高いと考えられる。

【ST187】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内北側から椎骨と肋骨片、指骨などが出土しているが、人骨の保存状態が良好ではないため詳細は不明である。

【ST189】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内の南側から長管骨がまとまった状態で出土している。人骨の保存状態は良好ではなく、詳細は不明である。

【ST193】 (第54図)

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明 (再開口：有。収骨は無し、大きく動かされる)

口縁部が破砕した甕棺から人骨が出土した。頭蓋骨は甕棺内の南東側底部付近から顔面部を上に向けた状態で出土している。下顎骨は頭蓋骨の北東側から出土しており上下顎は関節状態を保っているが咬合状態にはない。下顎骨のオトガイの位置から環椎と軸椎が出土した。それ以外の椎骨や肋骨は散乱した状態で出土している。

上肢骨は、頭蓋骨の北側から近位を南東、遠位を北西に外側を上に向けて出土している。左尺骨は左上腕骨と関節状態を保ち、左橈骨も左尺骨に沿うように内側を上を遠位を南に向けた状態で出土した。左上腕骨の上に重なるように右橈骨・右尺骨が外側を上を遠位を上方、近位を南東下方に向けた状態で出土している。右上腕骨のみ確認できなかったが左右の肘関節は屈した状態であったと考えられる。上肢と同じレベルから蓋様の木製品が出土した。

下肢骨は、頭蓋骨および蓋様の木製品よりも上層から出土した。甕棺内の西側から左右の寛骨が仙骨片と相対的な位置関係を保ち出土している。左右寛骨と股関節の関節状態を保って左右の大腿骨が遠位を東に向け出土している。右脛骨・右腓骨は左大腿骨の下から遠位を右大腿骨の近位側に向けた状態、左腓骨は左大腿骨よりも北東側から出土している。左右の股関節は関節し強屈した状態である。

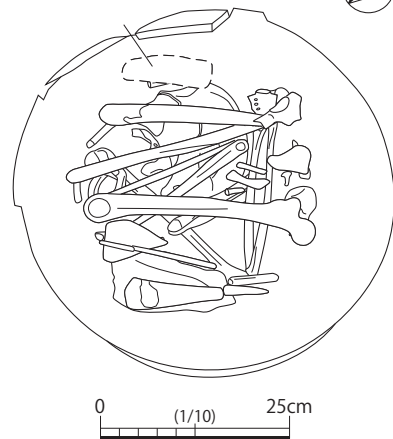
本人骨は骨盤や下肢骨が頭蓋骨よりも上位から出土していること、蓋様の木製品がその間のレベルから出土していることから、埋葬時の姿勢から大きく動かされていると考えられ、頭位や躯体正面は不明、立膝坐葬であると推定される。上下顎が近接していることや左肘関節を維持していることなどから、軟部組織が完全に腐朽する前に、遺体が大きく動かされた可能性が考えられる。この時に蓋も甕棺内部に落ち込んだものと考えられる。右上腕骨と右脛骨が確認できていないが、全身の骨が概ね揃っていることから一部の骨を持ち去るなどの改葬行為は行われていないと推定される。

【ST194】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

ST193



第54図 HZK2007地点 ST193人骨出土状況

円形の土壙墓から壺（船徳利）が立った状態で出土しており、その周辺から火葬骨が出土している。土壙内の西側から白色化した歯牙片・火葬骨片が出土している。人骨の保存状態は良好ではなく、詳細は不明である。

## 【ST195】

頭位：不明 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内西側から頭蓋骨が出土している。その南側から大腿骨が長軸を北西－南東に向けた状態で出土している。それ以外の人骨の保存状態が良好ではないため詳細は不明である。

## 【ST196】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明（坐葬？） 改葬：不明

東側が攪乱に切られた円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内の南側から歯牙と骨片が出土している。人骨の保存状態は良好ではなく詳細は不明であるが、長管骨片がほぼ直立した状態であったため、坐葬の可能性が考えられる。

## 【ST197】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損し、破片が棺内に納められた状態で甕棺が出土した。棺内部から詳細部位不明の人骨片が検出されるのみであり、改葬により持ち去られたものと考えられる。

## 【ST198】

頭位：北、躯体正面：南 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：坐葬 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内の北側から頭蓋骨骨体部片と大腿骨体、長管骨片が出土している。人骨の保存状態は良好ではなく詳細は不明であるが、長管骨と頭蓋骨が近接して出土していることから坐葬であったと推定される。

## 【ST199】

頭位：不明 葬法：土壙墓  
埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内の北側と南側から骨片が出土している。南側からは下顎骨の一部も出土している。人骨の保存状態は良好ではなく詳細は不明である。

## 【ST200】

頭位：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部が破損した甕棺内から人骨が出土している。ごくわずかな骨片が遺存するのみであり、人骨の保存状態が良好ではないため、詳細は不明である。

## 【ST203】

頭位：不明、躯体正面：不明 葬法：甕棺  
埋葬姿勢：不明 改葬：有（改葬による収骨か）

口縁部や胴部の一部が破損した状態の甕棺が出土した。棺内部からは若干の火葬骨と炭化物が出土

しており、それ以外は改葬により持ち去られたものと考えられる。

【ST204】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

東側が切られた円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内中央部から骨片が出土している。人骨の保存状態は良好ではなく、詳細は不明である。

【ST206】

頭位：西側 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明（坐葬？） 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内西側から頭蓋骨片が、その東側から長管骨片が出土している。土壙内の東側から長管骨がほぼ直立した状態で出土しており、坐葬の可能性が高い。人骨の保存状態は良好ではないため詳細は不明である。

【ST207】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内東側から肋骨などの人骨片が出土している。それ以外の人骨の保存状態が良好ではないため詳細は不明である。

【ST208】

頭位：西 葬法：土壙墓（木棺？）

埋葬姿勢：不明（仰臥屈葬？） 改葬：不明

ST182甕棺の北側からプランが不明瞭な状態で人骨が出土している。人骨出土範囲の最も西側から歯牙が歯列を保った状態で出土している。その東側から大腿骨が長軸を北東－南西にし、遠位を上方に向けた状態で出土している。大腿骨の南側から長管骨が出土しており、立膝の状態であった可能性が考えられる。歯牙との位置関係から頭位西向きの仰臥屈葬位の可能性が高いが、それ以外の人骨の保存状態が良好ではないため詳細は不明である。

【ST209】

頭位：不明 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：不明 改葬：不明

円形の土壙墓から人骨が出土している。人骨の保存状態が良好ではないため詳細は不明である。

【ST210】

頭位：北、躯体正面：南 葬法：土壙墓

埋葬姿勢：立膝坐葬 改葬：不明

長円形の土壙墓から人骨が出土している。土壙内の北西側から頭蓋骨が出土している。その西側から上腕骨が直立した状態で出土している。頭蓋骨の南側から下肢骨片が直立した状態で出土している。

以上の出土状況から、頭位は北の立膝坐葬で埋葬されたものと考えられる。

## 2. 形質的特徴

箱崎遺跡（HZK2007）出土人骨の頭蓋骨各計測項目の基礎統計量は第7表に示す。近世江戸時代に関しては鈴木尚（1985a、b）以来、大名家や将軍など名前のわかる個人を中心に研究が進められて

きた（馬場・坂上 2012）。近年、さらに庶民層と中流程度の武士層の形質の違いが明らかにされるなど、階層と形質の関連を中心に研究が展開している（Sakaue2012）。その中で、鈴木の一連の研究（1967、1985a,b）において「典型的貴族形質」の特徴はHZK1801で示したとおりである。江戸時代の武士の中でも特に上位の階級の形質的特徴は、主として上下顎及び咀嚼筋の弱体化を要因とする可能性が高く、その程度に応じて形質の発現に若干の差が生じると述べられている（鈴木 1967）。現在は、発掘個体数の膨大な江戸市中を主な対象として研究が進んでおり、庶民層と武士層の形質の違いも江戸市中における検討がなされるのみである。

一連の研究で、武士階層における貴族形質の共有に関しては地域を超えて確認されつつある。一方で庶民層の形質およびその地域差に関してはほとんど明らかになっていないが、中橋（1987）において福岡市天福寺遺跡出土近世人骨の調査が行われ、顕著な長頭性、高顔性、現在人よりも強い鼻根部の湾曲や歯槽性突顎が指摘されている。これについては都市化現象とも指摘されているが、さらなる検討が必要であった。箱崎遺跡出土人骨は、博多という地方の都市部に近接し、被葬者も七星板を副葬される（齋藤ほか 2019）等、特異な点が指摘されている。この遺跡から出土した人骨の形質的特徴を明らかにすることは極めて重要である。以下、本遺跡出土人骨の形質的特徴を明らかにするため比較群との比較を行っていく。

## 頭蓋骨

### 【男性】（第7・8表）

男性に関しては、計測可能な項目が複数あった個体がST78、100、109、130、139、140、145、172のみであった。

頭蓋最大長は、189.7mmと集団としては最大値を示し比較的多大きい。頭蓋最大幅は140.0mm、Ba-Br 高は141.3mmといずれも相対的に大きな値を示し、HZK1801よりも大きい。頭長幅示数（72.9）は長頭、頭長高示数（73.2）は中頭、頭幅高示数（103.7）は狭頭で、脳頭蓋の形態は幅に対して長径と高径がやや大きく、HZK1801、原田や天福寺など福岡県内の庶民層と同傾向を示す。

頬骨弓幅は133.7mm、中顔幅は101.6mmと、頬骨弓幅はやや狭いが中顔幅は相対的に大きく、顔高は127.3mm、上顔高は77.9mmと極めて大きい。コルマン顔示数（96.7）は高過狭顔を示し、ウィルヒョウ顔示数（124.4）は正顔を示す。コルマン上顔示数（58.3）は高狭上顔を示し、ウィルヒョウ上顔示数（76.8）は狭顔を示す。上顔高が高い値を示し、相対的に幅径は小さいため、高く狭い顔を有すると言えよう。この点においてHZK1801とはやや傾向が異なる。

眼窩の形は、眼窩幅が43.0mm、眼窩高が32.6mm、眼窩示数（75.8）の低眼窩である。顔の高さに比して眼窩型は低い傾向にある。

鼻型は、鼻幅24.7mm、鼻高が54.6mmで鼻示数は45.4と狭鼻であり、幅が狭い傾向を示す。また鼻根部は、鼻根湾曲示数が79.4と比較群中で中間的な値を示し、立体的ではない。

以上、男性の頭蓋骨の形質的特徴を概観すると、脳頭蓋のシェイプは幅径が狭く、長径・高径が大きく、顔面形態は著しい高顔である一方で眼窩・鼻型はやや幅広く、鼻立ちは低いという特徴を示す。

### 【女性】（第7・9表）

女性に関しては、計測可能な項目が複数あった個体がST77、141、166、173のみであり、顔の高さの値が計測できなかった。

頭蓋最大長177.3mm・頭蓋最大幅135.8mm、Ba-Br 高130.0mmと、最大長はやや大きいが、幅径が平均的、高径は小さい。頭長幅示数（76.6）は中頭、頭長高示数（73.7）は中頭、頭幅高示数（95.6）

は中頭を示す。

頬骨弓幅は122.0mm、中顔幅90.5mmと、幅径が平均的であるが、顔面部の高径が不明であるため傾向を指摘することはできない。

眼窩の形は、眼窩幅が40.5mm、眼窩高が33.5mmで、眼窩示数は83.0で中眼窩であり、眼窩の幅径・高径ともに中間的な値を示す。

鼻型は、鼻幅は26.5mm、鼻高は48.0mm、鼻示数は55.2と広鼻であり、幅径が広い。また鼻根部は、鼻根彎曲示数が73.8と比較群中で小さな値を示し、やや立体的な鼻立ちである。

以上、女性の頭蓋骨の形質的特徴を概観すると、脳頭蓋のシェイプは幅径・長径・高径いずれも比較的大きいという項目はなく、中間的、正円に近い丸形である。顔面形態のうち、鼻型は幅広く、鼻立ちはやや高いという特徴を示す。

### 頭蓋骨の比較分析

#### ・主成分分析

頭蓋9項目（頭蓋最大長・最大幅・Ba-Br高・頬骨弓幅・上顔高・眼窩幅・眼窩高・鼻幅・鼻高）を用いて男女それぞれ主成分分析を行った。

#### 【男性】

第一主成分（第1表、固有値2.40、寄与率26.61%）は、脳頭蓋の最大幅以外はすべて正の相関を示すため、頭蓋骨全体のサイズファクターと考えられる。第二主成分（第1表、固有値3.13、寄与率34.80%）は脳頭蓋の最大長、顔面部では頬骨弓幅および鼻幅と負の相関を示し、脳頭蓋は長頭傾向にあり、顔面部の幅が広いという傾向にある。最大幅とBa-Br高、上顔高、眼窩幅、眼窩高、鼻高と正の相関を示し、脳頭蓋の幅径と顔面部の高さ、及び眼窩のサイズが大きいことを示す。第三主成分（第1表、固有値1.45、寄与率16.11%）は最大長と最大幅、Ba-Br高と上顔高、鼻高と負の相関を示し、中でも脳頭蓋のサイズが大きいことを示す。頬骨弓幅と眼窩幅、眼窩高、鼻幅と正の相関を示し、顔面部の幅径と眼窩のサイズが大きいことを示す。第一主成分を横軸に、第二主成分を縦軸にとり二次元展開した図が第55図である。縦軸で上に位置するほど脳頭蓋の幅径および顔面部の高径および眼窩のサイズが大きく、下に位置すると脳頭蓋の長径および顔面部の幅径が大きい傾向を示し、横軸で右に位置するほど頭蓋骨全体サイズが大きく、左に位置するほどサイズが小さい。

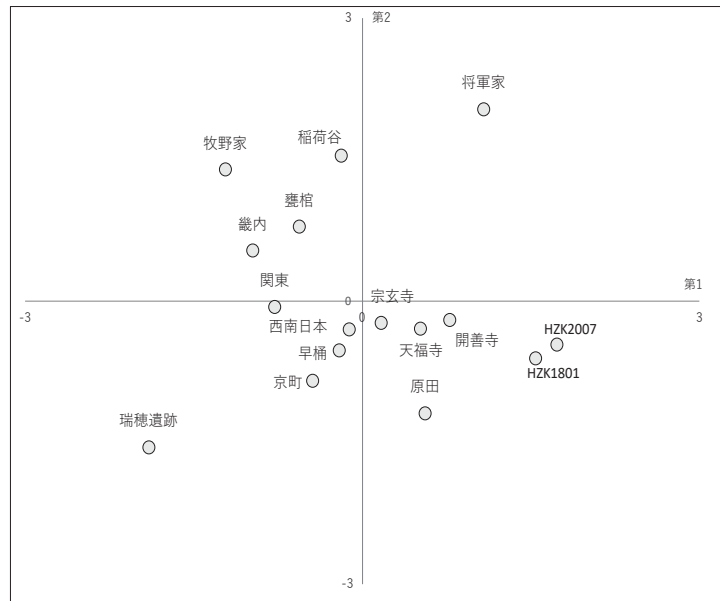
HZK2007とHZK1801出土の男性人骨は第四象限に位置し、相互に極めて類似する傾向を示す。頭蓋骨全体のサイズが大きく、顔面部の形態は原田や天福寺、開善寺のような福岡県内の諸集団と類似する傾向を示し、江戸の武士層や畿内・関東の現代人集団とは形態的に異なる。サイズを示す横軸ではなく、質的な違いを示す縦軸に注目すると、畿内の現代人と武士層、超現代的とも評される将軍・大名家（鈴木1985a,b）とは大きく異なる。一方、江戸市中の庶民層（早桶出土人骨）をはじめ、福岡県内の近世・近代の人骨はすべて負の値を示す。計測値の比較において高顔性を指摘したが、武士層と比較すると顔面部の幅径や長頭傾向が強かったため、このような結果が得られたと考えられ、庶民層と武士層

第1表 男性(HZK2007)頭蓋骨主成分分析集団間比較

	1	2	3
1最大長	0.74	-0.53	-0.39
8最大幅	-0.22	0.71	-0.57
17バジオン・プレグマ高	0.71	0.40	-0.02
45頬骨弓幅	0.59	-0.05	0.76
48上顔高	0.80	0.46	-0.02
51眼窩幅(L)	0.26	0.79	0.28
52眼窩高(L)	0.01	0.83	0.27
54鼻幅	0.17	-0.39	0.48
55鼻高	0.45	0.70	-0.09
固有値	2.40	3.13	1.45
寄与率	26.61	34.80	16.11
累積寄与率	26.61	61.41	77.52

の大きな違いは、ただ高顔性にあるのではなく、脳頭蓋の形や顔幅の減少、眼窩の形態が影響を与えていることがわかる。頭蓋形質の傾向が武士層と異なる点は歯列に顕著な不整が見られないことから指摘することができる。

さらに、HZK1801と同様に個体を対象として主成分分析を行った。第一主成分（第2表、X軸：固有値2.86、寄与率31.75%）は、眼窩高のみと負の相関を示すが、概してサイズファクターといえる。第二主成分（Y軸：固有値2.22、寄与率24.65%）は脳頭蓋では長径と、顔面部は幅径（頬骨弓幅および鼻幅）と負の相関



第55図 箱崎遺跡 (HZK2007) 出土人骨 (男性) 主成分分析二次元展開図

を、脳頭蓋の幅径と Ba-Br 高、顔面部は高径および眼窩のサイズと正の相関を示す。第一主成分を横軸に、第二主成分を縦軸にとり二次元展開した図が第56図である。

第56図をみると箱崎遺跡出土人骨は、HZK1801も HZK2007も第四象限に位置する個体が多く、縦軸でマイナスを示す。集団での比較と同様に原田や天福寺など庶民層と同じ傾向を示す。また、HZK1801は先述した通り、ST57がやや特異である。HZK2007の個体の値を含めた分析の結果、神代9代目の値が大名・將軍家や江戸市中武士層（壺棺）と傾向が異なるという見方も可能であり、HZK1801 ST57よりも HZK2007 ST109と他の個体との差のほうが顕著であろう。箱崎遺跡群出土人骨の中で HZK2007 ST109のみが縦軸で正の値を示し、著しい高顔性を有する個体であることがわかる。これまで武士層以外に武士層に類する形質が発現している事例は、大野城市瑞穂遺跡出土人骨（米元・足達ほか 2022）や古野遺跡出土人骨（中井・米元ほか 2015）があり、古野の場合は保存状態の関係で上顔高を用いていないが、いずれも頭蓋形質が庶民層よりも武士層と近いという結果が得られている。例えば古野の場合は高原家の主な墓域であり、有力層であるがゆえに庶民層とは異なる交流があった可能性が高いことも想定することができるなど、大野城市内に出土するこれらの集団の歴史的経緯や墓地を形成した集団の婚姻圏にこの特異性の要因があるのではないかと指摘した（米元・足達ほか 2022）。箱崎遺跡においても同様に HZK2007 ST109のみ（あるいは HZK1801 ST57も含む）何らかの特異性を有している可能性もあるが、その他の特徴については HZK2007 ST109は長頭であり、下顎骨体の縮小や歯列の不整合も見られていないため、馬場・坂上（2012）の顔高、上顔高の増大と顔幅の減少に基づく超狭顔型化には相当するが、上位階層の將軍や大名の形質とは異なる点も確認

第2表 男性 (HZK2007) 頭蓋骨主成分分析個体比較

	1	2	3
1最大長	0.88	-0.09	-0.41
8最大幅	0.23	0.88	0.32
17バジオン・プレグマ高	0.61	0.50	-0.02
45頬骨弓幅	0.76	-0.47	0.43
48上顔高	0.41	0.46	-0.39
51眼窩幅 (L)	0.60	0.21	0.37
52眼窩高 (L)	-0.03	0.61	0.32
54鼻幅	0.63	-0.36	0.16
55鼻高	0.38	0.47	0.09
固有値	2.86	2.22	0.89
寄与率	31.75	24.65	9.92
累積寄与率	31.75	56.40	66.32



次元展開した図が第57図である。

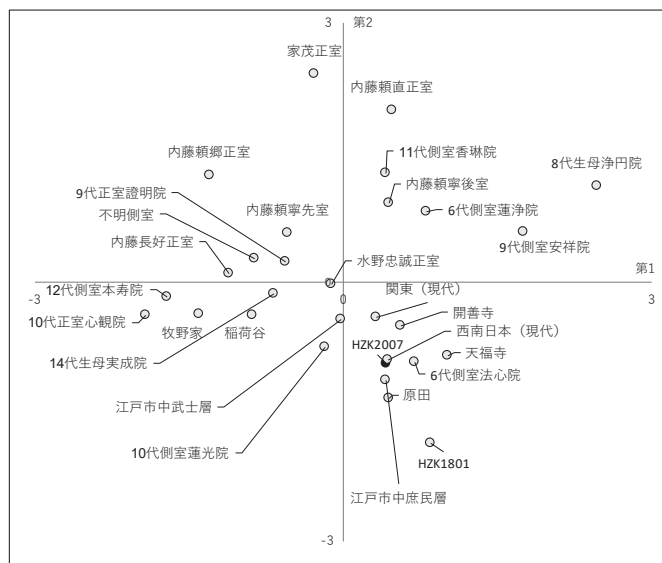
HZK2007の女性は第四象限に位置し、HZK1801 (ST72) と同じであり、原田や天福寺などの福岡県内の各集団や江戸市中庶民層の頭蓋形質と類似する。女性は上位階層のばらつきが極めて大きいのが、上位階層の人々と比べると庶民層は同じ象限にまとまるという点で上位階層のヴァリエーションの取りうる範囲に庶民層とは差があることがわかる。

第3表 女性 (HZK2007) 頭蓋骨主成分分析

	1	2	3	4
1最大長	0.70	-0.16	-0.48	0.51
8最大幅	-0.28	0.79	0.28	0.46
17バジオン・プレグマ高	0.58	0.70	-0.19	-0.35
45頬骨弓幅	0.75	-0.19	0.63	0.04
51眼窩幅 (L)	0.53	0.24	0.05	0.05
52眼窩高 (L)	-0.31	0.49	-0.14	0.22
54鼻幅	0.20	-0.26	0.02	-0.02
55鼻高	0.05	0.51	0.11	0.10
固有値	1.89	1.80	0.77	0.65
寄与率	23.65	22.56	9.64	8.15
累積寄与率	23.65	46.21	55.85	64.00

【主成分分析まとめ】

男性も女性も、HZK1801と HZK2007 の間に大きな形質的な違いはないこと、概して福岡県内の近世・近代に属する集団、原田や天福寺、江戸市中の庶民層と類似する頭蓋形質を示すことがわかる。特に男性は、計測値自体は高顔であるものの顔面部の幅径が相対的に大きい傾向があり、武士層が示すような高狭顔傾向をもたず、脳頭蓋は最大長が大きい傾向を示す。江戸市中出土の早桶に埋葬された庶民層の形質が京町や箱崎や原田・天福寺と形質としては類似し、武士層とは異なることから、武士層の特徴の共通性が強く出ていると同時に、庶民層も地域



第57図 箱崎遺跡 (HZK2007) 出土人骨 (女性) 主成分分析二次元展開図

を越えて共通する形質を有し、階層による違いが地域差を越えて顕現している可能性が高いのではないかと考えられる。近世・近代における形質的な地域性の減少は、福岡県と東京都以外の地域における検討事例の少なさに一部起因するが、庶民層の顔幅・鼻幅が相対的に広く、脳頭蓋は長径が大きく長頭に寄る、眼窩サイズは小さめという傾向が地域を越えて共通することも確かであろう。この点は、形質に地理勾配 (Doi and Tanaka1987) がみられる弥生・古墳時代とは傾向を異にし、おそらく戦国時代以降、江戸時代において形成された傾向であろう。

個体の分析では、HZK2007 ST109のみが徳川家重や家宣と類似する傾向を示した。HZK1801で特異であることを指摘したST57も本分析においてもやや傾向を異にすると言えるが、神代9代目の値が大名・将軍家や江戸市中武士層 (甕棺) と傾向が異なるという見方も可能であり、ST109と他の個体との差のほうが発著であろう。将軍家に近似した結果が得られた要因として、計測項目がやや少ないという点と、ST109の脳頭蓋の最大幅が大きい・高狭顔傾向・眼窩のサイズが大きいという点が挙げられる。この形質的な特異性と相関するような考古学的な所見は現段階では得ることが出来ていないため、庶民層の形質のヴァリエーションの1つに過ぎない可能性もある。しかし、このヴァリエーションがどのような頻度でどの地域にみられるのか、時期差はないのかなど、今後さらなる検討を行う必要がある。

四肢

【男性】

上肢 (第10表)

・上腕骨：最大長は304.0mm、中央周や最小径・最大径も比較群中で大きい。最小周も大きいため、全体として頑丈な傾向を示す。

・橈骨：最大長は比較群中最大、横径、矢状径のいずれも比較群中で大きい。最小周もやや大きいため、全体として頑丈な傾向を示す。

・尺骨：最大長、横径、矢状径のいずれも比較群中で最大の値を示す。最小周もやや大きいため、全体として頑丈な傾向を示す。

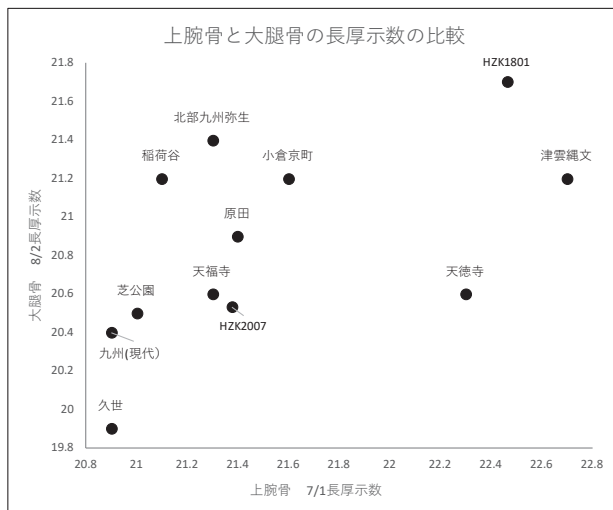
下肢 (第11表)

・大腿骨：最大長が左側427.2mm、右側426.8mmと比較群中では大きい傾向にある。中央周も88.60mmと大きく、長くて太い傾向を示すが、中央断面示数が97.20と横径と矢状径の値が近く、断面形状からみると柱状性や粗線の後方への突出は顕著ではない。上骨体断面示数は79.00と大きく、骨体上矢状径が大きい傾向を示す。外側広筋よりも大殿筋の発達が明瞭であることを示すと考えられる。

・脛骨：全長・最大長は340.4mm・346.6mmと大腿骨と同様に比較群中では大きい傾向にある。中央最大径・中央横径・栄養孔位最大径・栄養孔位横径も大きく、中央周・最小周・栄養孔位周も比較群中で大きい値を示す。大腿骨と同様に長くて太い傾向を示す。中央断面示数は比較群中において大きめの値を示し、栄養孔断面示数は比較群中で平均的な値を示す。脛骨の扁平性は弱く、ヒラメ筋線の発達が不明瞭であることを示す。

上肢と下肢の比較 (第58図)

男性の四肢骨の長さや太さの関係から頑丈性の検討を行うため、上腕骨と大腿骨の長厚示数を2次元プロットした図が第58図である。本分析においては津雲縄文(清野・平井 1926)と北部九州弥生人(中橋・永井 1989)の値も用いている。第58図をみるとHZK1801出土人骨は上腕骨・大腿骨ともに長径に比して周径が大きい、HZK2007は傾向が異なり、長径が多く、比較集団である近世人骨群と同程度であることがわかる。



第58図 箱崎遺跡 (HZK2007) 出土人骨 (男性) の上腕骨と大腿骨の長厚示数の単変量比較

【女性】

上肢 (第12表)

・上腕骨：1体のみの値であるが最大長は279.0mmと比較群中最大の値を示す。中央最大径や最小径は比較集団中で中程度であり、最小周や中央周はやや大きい。

・橈骨：最大長が199.0mm、横径・矢状径・最小周は比較的大きい値を示す。

・尺骨：最大長が224.0mm、横径・矢状径・最小周は比較的大きい値を示す。

下肢 (第13表)

・大腿骨：1体のみの値であるが最大長が361.0mmと比較群中では小さい傾向を示す。中央断面示数は91.24、上骨体断面示数は75.94と小さい。矢状径に対して横径がやや大きい傾向が指摘される。

粗線の後方突出は弱く、殿筋粗面の発達も不明瞭であることがわかる。しかし、中央周が77.75mmと大きいと、華奢ではない。

・脛骨：1体みの値であるが最大長が309.0mmと比較集団中で大きい値を示す。脛骨と大腿骨の傾向の違いは計測が可能であった個体が異なるためである。中央断面示数は69.54、栄養孔位断面示数は63.40と、いずれも小さめの値を示し、脛骨の扁平性はやや強く、ヒラメ筋線の後方への突出は明瞭である。

#### 身長比較 (第4・5表)

大腿骨最大長に Pearson と藤井の身長推定式を適用して身長を算出した。男性の推定身長は161.7cm (Pearson 式)、160.5cm (藤井式) である (第4表)。女性の推定身長は、143.1cm (Pearson 式)、141.9cm (藤井式) である (第5表)。大腿骨の長さから推定した男性の身長は比較集団中で最大であり、江戸時代、特に市中の比較集団中よりはやや大きい。女性は江戸市中の各集団と比較するとやや小さめの身長である。

平本 (1972・2004) は、縄文時代から明治までの身長の変化を検討した結果、古墳時代から近世にかけて平均身長が低くなっていく傾向を指摘し、さらに江戸時代の平均身長は、近代初期と同程度で、日本の歴史上最も低いと指摘している。しかし、箱崎遺跡出土人骨の特に男性に関しては、HZK1801も HZK2007も平均より高い傾向がみられる。平本 (2004) の値は江戸市中の、特に一橋高校遺跡を主体としたものであり、地方にまで低身長化の影響は及んでいない、あるいは身長という形質が西高東低の傾向を示す可能性もあろう。江戸時代における東西の栄養状態の違いと江戸市中の環境の劣悪さ (速水 2000) という状況の違いに起因する可能性と、あるいはサンプリングバイアス、すなわち一橋高校遺跡から算出された江戸市中の推定身長が低すぎただけという可能性も現状は捨てきれない。

箱崎遺跡出土人骨は HZK1801・HZK2007ともに上腕骨と大腿骨の周径も大きく、太く頑丈であるという特徴を有する。HZK2007については高身長という傾向の方がやや顕著であり、周径については他集団と同程度であった。HZK1801と HZK2007に埋葬された集団間で四肢骨の頑丈さの傾向が異なる点については今後、筋付着部の分析も併せて検討を行う必要がある。

第4表 推定身長の比較 (男性) (単位: cm)

男性	n	M		
		(Pearson 式)	(藤井式)	
HZK2007	L	5	161.7	160.5
	R	5	161.5	160.3
HZK1801	(近世)	4	160.9	159.4
古野 (SX36)	(近世)	1	158.8	156.6
天福寺 <sup>1)</sup>	(近世)	24	159.4	157.4
原田 <sup>2)</sup>	(近世)	30	160.4	158.7
稲荷谷 <sup>3)</sup>	(近世)	12	157.9	155.4
席田青木 <sup>4)</sup>	(近世)	30	160.2	158.5
八丁堀三丁目 II <sup>5)</sup>	(近世)	13	159.3	157.3
天徳寺 <sup>6)</sup>	(近世)	37	157.7	155.2
芝公園 <sup>6)</sup>	(近世)	15	160.6	159.0
九州 <sup>7)</sup>	(現代)	59	157.7	155.2

1) 中橋 (1987)、2) 中橋・土肥 (2008)、3) 岡崎ほか (2004)、4) 中橋 (1993)、5) 梶ヶ山・馬場 (1993)、6) 加藤 (1991)、7) 阿部 (1957)  
\*比較集団の身長は平均値より算出。

第5表 推定身長の比較 (女性) (単位: cm)

女性	n	M		
		(Pearson 式)	(藤井式)	
HZK2007	L	1	143.1	141.9
	R (脛骨)	1	145.8	144.3
HZK1801	(近世)	1	-	145.9
天福寺 <sup>1)</sup>	(近世)	18	146.9	146.5
原田 <sup>2)</sup>	(近世)	12	147.3	147.0
稲荷谷 <sup>3)</sup>	(近世)	8	147.1	146.8
席田青木 <sup>4)</sup>	(近世)	15	148.5	148.5
八丁堀三丁目 II <sup>5)</sup>	(近世)	6	142.9	141.8
天徳寺 <sup>6)</sup>	(近世)	19	145.6	145.1
芝公園 <sup>6)</sup>	(近世)	13	147.2	147.0
将軍家 (成人) <sup>7)</sup>	(近世)	8	146.2	-
九州 <sup>8)</sup>	(現代)	13	146.8	146.4

1) 中橋 (1987)、2) 中橋・土肥 (2008)、3) 岡崎ほか (2004)、4) 中橋 (1993)、5) 梶ヶ山・馬場 (1993)、6)・7) 加藤 (1991)、8) 阿部 (1957)、6) 馬場・坂上 (2012) \*比較集団の身長は平均値より算出。

## おわりに

出土の近世人骨についてその出土状況をまとめると以下の通りである。

HZK2007において、被葬者の埋葬姿勢は立膝坐葬および仰臥・側臥屈葬が認められた。このうち坐葬の躯体正面に関しては、躯体正面の明らかな30例中、西を指向している事例が11例、南が10例、東が4例であった。HZK1801では基本的に北から西を向いて埋葬されていることが指摘されているが、HZK2007では南から西が多数を占めるといえよう。HZK2007の遺跡における各墓の頭位あるいは躯体正面に何らかの傾向があるかを検討した図が第59図である。ST99・ST100やST108・ST109のような近接して造られた墓の被葬者の頭位は同じであると言えるが、墓道を意識するような頭位・躯体正面方向の統一は確認できなかった。時期差を含めて箱崎遺跡全体での傾向を検討する必要があるが、江戸市中あるいは都市部の寺院とは墓の造営主体が異なることと関連するものと考えられる。地方の共同墓地に関しては大分県女狐近世墓地 (田中 1996) や中尾近世墓地 (吉田 1999) のような事例では、墓石の向きと墓道の関係が指摘されているが、残念ながら本遺跡では躯体正面と墓石の関係を明らかにすることができない。一方で、原田遺跡 (森山 1993) のように列状をなしながらも家ごとに緩やかにまとまって墓を順次形成していく事例もあるため、HZK2007は原田遺跡に近いとも考えられよう。

また HZK1801では埋葬後の遺体の二次的な移動に関しては3つのパターンが指摘されていた。HZK2007では、そのうちの2つ (①と②) が確認された。

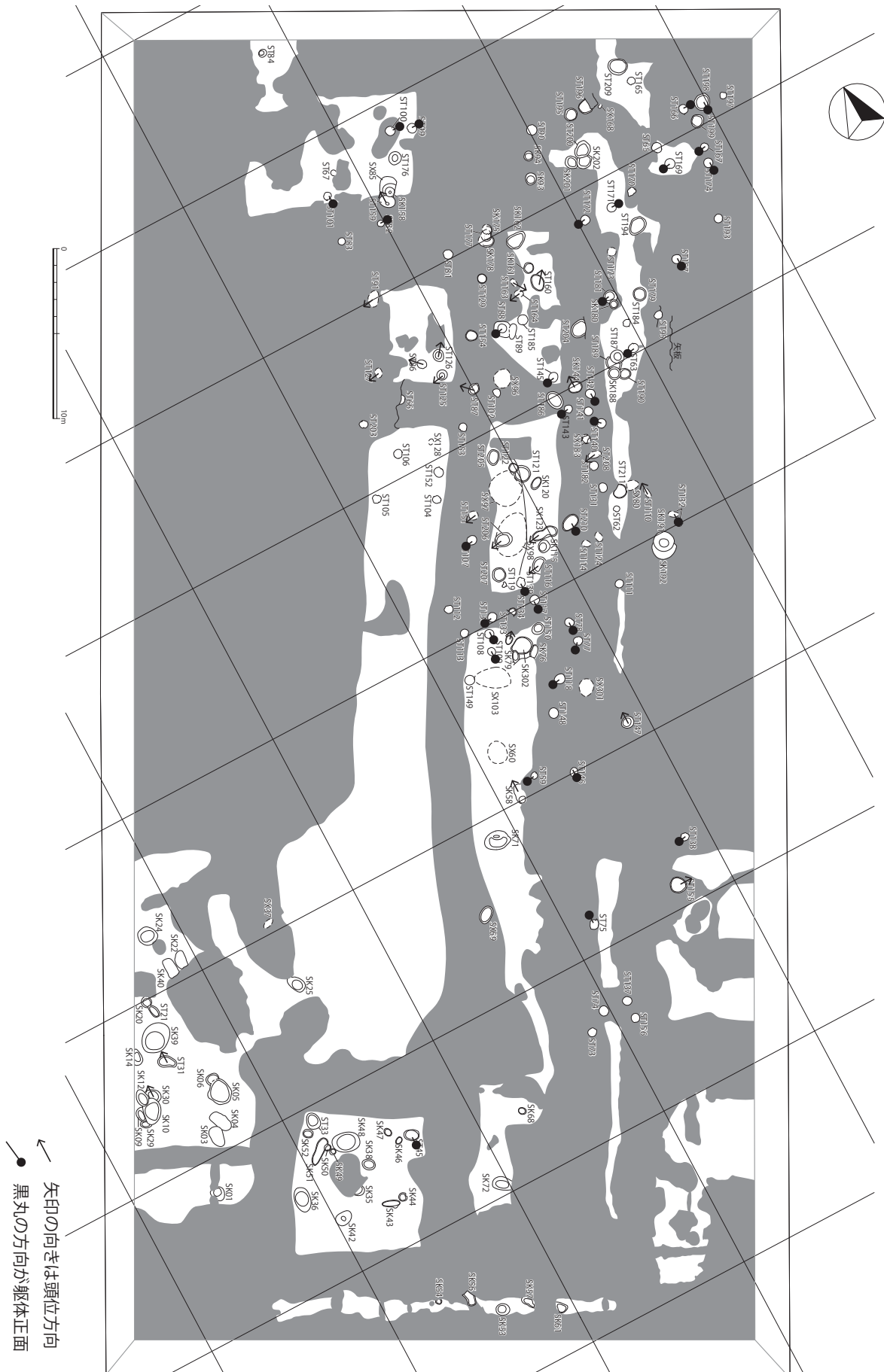
①-1 人骨がほぼ全身持ち去られた改葬と考えられる事例

①-2 人骨が一部のみ持ち去られた改葬と考えられる事例

② 人骨の持ち去りは見られないものの墓を再開口し遺体を大きく動かしている事例

①・②ともに HZK2007の墓域全体に及び、墓域の一部の場所にまとまる、というような傾向はみられない。取骨し棺内をほぼ空にして甕棺を破壊する行為と、遺骨を持ち去らずに棺内の遺骨を大きく乱すという行為はいずれも人為的であると考えられるが、どのような契機でこれらが行われ、①と②の間にはどのような違いがあるのかは現時点では明確ではない。近現代の葬送行為および近世において想定される埋葬後に行われる諸行為の事例のうち、儀礼的な側面を持つものとしては、年忌、石塔あるいは墓石の建立が挙げられ (井之口 1977)、年忌には改葬を伴う事例も見られる (伊東 1979)。HZK2007における②については軟部組織が腐朽する前に行われている可能性がある事例もあり、3回忌や7回忌のような年忌に伴う葬送行為の一環ではないかと考えられよう。一方、①の、特に①-1 ほぼすべての遺骨を持ち去り、甕棺の破壊も伴うような事例については、墓地が使用されなくなる過程で他所への改葬が行われた可能性も考えられよう。田中 (1996) は、明治17年の墓地条例による「墓地の新設は人家などから60間以上隔てること」を定めた法令が各県で施行される際に拡大解釈され、すでにある墓地への新たな埋葬もできなくなっていき、大分県下でも多くの共同墓地の終焉につながったことが指摘されている。箱崎遺跡も同様に①に関しては、明治以降に当該墓地で新しい墓を作ることが出来なくなった際に、改葬が行われ他所に移されたものではないかと現時点では考えている。その場合、近世 (近代も含む) に葬送儀礼の一環として行われた行為は①のみの可能性がある。近世において棺内の遺体を乱すという行為がどの程度一般的なものか、何を契機に行われうるのか、今後の検討が必要である。

HZK1801で指摘された「③本来の埋葬場所から移され別の場所に埋置された事例」については、HZK2007では確認できなかった。HZK2007の ST102南側のように棺内から人骨の出土が無く、棺外



第59図 頭位方向・躯体正面と墓域における墓の位置の関係について

南側から人骨が出土した事例はあるが、本個体については墓の被葬者との関係が不明であり、ST102 甕棺内の人骨を改葬時に棺外に置いた可能性と、先行する墓を壊してST102が作られた可能性が考えられ、③に該当する可能性はあるが確実ではない。

火葬墓・土坑については現時点では形成時期が明確ではない。火葬墓は一般的に蔵骨器や直葬が確認されているが17世紀前葉までは各地で見られ、その後土葬が増加するとともに特に都市部で顕著に減少するが、関東農村部では一部の遺跡に集中して継続することも知られており(田口 2009)、HZK2007の火葬土坑についても中世から近世前期までの可能性が考えられよう。

HZK2007では人骨の出土状況からみて少なくとも16基が火葬土坑(荼毘跡)である可能性が高い。このような荼毘の場は中世・近世それぞれの時期に各地で確認されている(小林 2013; 田口 2013; 吉澤 2013)。中世の火葬土坑(吉澤 2013)は、内底に棺を安定させるための石塊や木桁を置くものや燃焼効率を高めるための通気口が掘り込まれている遺構が確認されている。HZK2007でも通気口などはみられないが棺を安定させ、燃焼効率を上げるための台石・石塊は多くの土坑で確認されている。福岡県奈良尾遺跡に類例がみられる(中間 1991)。HZK2007では発掘者によるとSK58のみ複数回の使用が想定されているという。それ以外は出土した火葬骨の状況から考えると複数回の使用を想定できないため、多くが1回の火葬を行うために掘られたものと考えられる。SK58を含めて、狭い場所に火葬施設が集中しているため、中間(1991)の規定に基づくHZK2007のうち火葬土坑が集中する地点については共同体共有の火葬所とすることもできよう。土坑サイズとして必要最小限である点や頭位を推定することが可能な火葬土坑も存在し、先に挙げた奈良尾遺跡のほか、室町期の大分県笠松遺跡(金・田中 1993; 原田 2018)との類似性を指摘することもできよう。

吉澤(2013)では中世の火葬土坑は在地領主などの限られた階層の人々に採用されたこと、田口(2009)では江戸時代関東の火葬の採用については、僧侶などの非武家の上層の人々に多いことが指摘されているが、土葬ではなく火葬採用の原理は本遺跡においては不明である。甕棺墓を含めたHZK2007の東側に位置する土葬墓群と、西側に位置する火葬墓・土坑群とは空間的な差異があることから時期的な違いによる可能性が高い。今後年代測定の結果を待ちたい。

形質的特徴をまとめると以下のとおりである。

- 男性の頭蓋形質は、上顔高は77.9、上顔示数(K)・上顔示数(V)は58.3・76.8と高く、眼窩は低くやや小さめ、鼻型は狭い傾向を示す。
- 女性の頭蓋形質は、顔面部の高径は不明であるが、眼窩や鼻型なども幅広の傾向を示す。
- 男性・女性ともに頭蓋形質の傾向はHZK1801とHZK2007は共通しており、福岡県内の各集団や江戸市中庶民層と共通する。集団平均値としては江戸時代の上位武士層とは明確に異なる傾向を示すといえよう。顔高の値も大きいですが、脳頭蓋の形態(長頭寄り)や眼窩のサイズが小さいという点で上記の上位階層集団とは異なる。
- 個体ごとの特徴をみていくとHZK2007ではST109のみ傾向が異なり、高狭顔傾向を示す。このように、庶民階層に属する集団・個体の形質がいわゆる貴族形質に類するという傾向は、HZK1801 ST57でも指摘している。本稿の分析により、HZK1801 ST57よりもHZK2007 ST109のほうが顕著な高狭顔傾向を示すことが明らかとなった。これらの個体については何か特殊な歴史的背景がある可能性も考えられるが、いわゆる貴族形質とは異なる点も多々あるため、多様な形質を有していたと考えられる近世・近代の庶民層のヴァリエーションの1つに過ぎない可能性もあろう。副葬品に目立った傾向は得られていないため、時期的な違いなどその他の要素を検討する必要がある。

ある。

- 身長は男性161.7cm (Pearson 式)・160.5cm (藤井式)、女性143.1cm (Pearson 式)・141.9cm (藤井式) であり、男性については江戸市中出土人骨の平均と比較するとやや高身長であるが、女性は平均よりもやや低身長である。江戸市中と比較すると、箱崎遺跡出土人骨をはじめ、原田遺跡など福岡県内の近世近代人骨の平均身長はやや高い傾向を示す。この要因については、さらなる資料の追加が必要であるが、弥生時代以降の高身長化の影響を示している可能性や、西高東低の人口増加 (速水 2000) と関連し栄養状態の良好さ、江戸市中の環境の劣悪さを示している可能性がある。
- 上腕骨と大腿骨の比に関しては、HZK1801のように周径が他集団より顕著に大きいという傾向は得られず、同時代の他集団と傾向を同じくする。HZK1801と HZK2007の四肢骨の傾向の違いについては箱崎遺跡の墓地を形成した集団の職業的な特性と関連する可能性があるため、筋付着部の発達度の分析を含めて今後検討を行う予定である。

## 謝辞

人骨の発掘および本報告を行うにあたり、九州大学埋蔵文化財調査室の谷直子氏、九州大学総合研究博物館の福永将大氏に多くのご配慮を賜りました。深謝いたします。

また、本出土人骨のクリーニング作業に従事した地球社会統合科学府基層構造講座の松尾樹志郎 (現・檀原考古学研究所)・足達悠紀 (現・宮内庁)・森春奈 (現・大分県教育委員会)・日高風海斗 (宮崎県教育委員会)・蓮田賀子・田渕朱莉・矢崎空音・米山玲緒の諸氏のご助力を得ました。人文科学府考古学研究室所属 (当時) の渡邊響・藤岡美優・重石拓郎・栗原悠里子・米倉千穂・横田隼人・長岡海翔・菊池汐夏・加藤諒・江口真佑美・今林潤世・島田理穂子・大和隆誠・北村仁乃、共創学部所属 (当時) の有尾緒美・高原小夏・名嘉山栞・清水絢乃・林千晴・綾部蓉子・浦田馨・黒木鳳弥・三浦愛佳の諸氏に感謝いたします。

## 参考文献

- 馬場悠男 (1991) 人体計測法 II 人骨計測法. 人類学講座別巻 1, 雄山閣出版.
- 馬場悠男・坂上和弘 (2012) 第4章第1節 寛永寺徳川將軍親族遺体の形態学的研究. 寛永寺谷中徳川家近世墓所調査団編, 東叡山寛永寺徳川將軍家御裏方壺. 吉川弘文館. pp.223-394.
- Buikstra J.H. and Ubelaker D.H. (1994) Standards for Data Collection From Human Skeletal Remains. Fayetteville, Arkansas :Arkansas Archaeological Survey Report Number44.
- Brooks S. and Suchey J.M. (1990) Skeletal age determination based on the os pubis: A comparison of the Acsadi-Nemeskeri and Suchey-Brooks methods. Human Evolution 5, pp.227-238.
- Doi Naomi and Tanaka Yoshiyuki. (1987). A Geographical Cline in Metrical Characteristics of Kofun Skulls Western Japan. 人類学雑誌 19-3
- 速水融 (2000) 歴史人口でみた日本 文春新書.
- 平本嘉助 (1972) 縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代変化 人類誌, pp.221-236.
- 平本嘉助 (2004) 江戸時代人の身長と棺の大きさ. 江戸遺跡研究会編, 墓と埋葬と江戸時代, 吉川弘文館, 東京, pp.201-223.
- 原田忠昭 (1954) 西南日本人頭蓋骨の人類学的研究 人類学的研究. 人類学研究 1, pp.11-51.
- 原田昭一 (2018) 中世墓から近世墓へ—九州地方の所様相—. 中世葬送墓制研究会編, 中世墓の終焉と石造物—研究総括報告会発表資料集—科学研究費基盤 (B)「日本中世における葬送墓制に関する総括的研究」(研究代表者: 狭川真一), pp.119-137.

### Ⅲ 箱崎遺跡 (HZK2007地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質的特徴

- 井汲隆夫 (1991) 内部施設と葬法. 発昌寺跡, 新宿区南元町遺跡調査会. 東京, pp.135-138.
- 井之口章次 (1977) 日本の葬式, 筑摩書房, 東京.
- 伊東宏 (1979) 人骨改葬を伴う愛知県渥美町 (高木) と旭町 (浅谷) の両墓制. 葬送墓制集成第1巻, 名著出版, 東京, pp.277-280.
- 欠田早苗 (1959) 畿内人頭蓋骨の人類学的研究—現代畿内人骨と江戸時代後期墳墓骨について—. 人類学輯報25, pp.53-83.
- 加藤征 (1991) 江戸時代人骨の形質に関する人類学的研究. 平成2年度科学研究費補助金一般研究B研究成果報告.
- 川久保善智・澤田純明・大野憲五・竹下直美・隅康二・埴原恒彦 (2011) 第7章1: 東畑瀬遺跡9区から出土した人骨について. 東畑瀬遺跡3 東畑瀬遺跡6G・7・9区—嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6—, pp.218-239.
- 河本美夫 (1959) 久世家歴代の頭骨に就いて 第2部頭蓋観察 人類学研究6, pp.341-400.
- 金宰賢・田中良之 (1993) 笠松遺跡火葬墓出土人骨. 大分県教育委員会編, 笠松遺跡—一般国道10号線宇佐道路埋蔵文化財発掘調査報告書(1)—, 大分県, pp.43-53.
- 清野謙次・宮本博人 (1926) 「津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第2部 頭蓋骨の研究」『人類学雑誌』41
- 小林義孝 (2013) 火葬. 土生田純之編, 事典 墓の考古学. pp.294-295.
- 九州大学医学部解剖第二講座編 (1988) 日本民族・文化の生成2. 九州大学医学部解剖第二講座所蔵個人骨資料集成, 六興出版.
- Lovejoy C.O., Meindl R.S., Pryzbeck T.R., Mensforth R.P. (1985) Chronological metamorphosis of the auricular surface of the ilium: a new method for the determination of adult skeletal age at death. *American Journal of Physical Anthropology*, 68, pp.15-28.
- Martin, R., Saller, K. (1957) *Lehrbuch der anthropologie*. Fischer, Stuttgart.
- 森田茂 (1950) 関東地方人頭蓋骨の人類学的研究. 東京慈恵医科大学解剖学教室業績集3, pp.1-54.
- 森山栄一 (1993) 原田第1・2・40・41号墓地 上巻—原田駅前土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告— 筑紫野市文化財発掘調査報告書第77集, 筑紫野市教育委員会.
- 中橋孝博・永井昌文 (1989) 「弥生人の形質, 男女差, 寿命」『弥生文化の研究1』雄山閣出版.
- 中橋孝博・土肥直美 (2008) 原田第1・2・40・41号墓地出土の近世人骨. 原田第1・2・40・41号墓地地下巻, 筑紫野市教育委員会.
- 中井歩・福永将大・米元史織・岩橋由季・谷澤亜里・早川和賀子・舟橋京子・足立達朗・中野伸彦・小山内康人・田中良之 (2015) 古野遺跡第2次調査出土近世人骨について. 大野城市教育委員会編, 乙金区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 乙金遺跡群—古野第2遺跡調査—.
- 中間研志 (1991) 奈良尾遺跡 今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告第13集. 福岡県教育委員会編, 福岡.
- 小野千吉郎 (1957) 久世家歴代の頭骨に就いて 第一部頭蓋計測 人類学雑誌95, pp.89-106.
- 岡崎健治・重松辰治・舟橋京子・石川健・田中良之 (2004) 稲荷谷近世墓地群から出土した近世人骨. 国道502号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書, pp.262-323.
- 大川市教育委員会編 (1997) 大川市文化財調査報告書4: 西新開遺跡, 大川市教育委員会.
- 大野城市教育委員会編 (2017) 薬師の森遺跡第43次・善一田遺跡第6・7次・古野遺跡第7次調査. 大野城市文化財調査報告書 第146集・乙金第二土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書19・乙金地区遺跡群19, 大野城市教育委員会.
- Sakaue K (2006) Application of the Suchey-Brooks system of pubic age estimation to recent Japanese skeletal material. *Anthropol Sci* 114:59-64.
- Sakaue K (2012) Craniofacial Variation among the Common People of the Edo Period. *Bull Natl Mus Nat Sci, Ser D* 38:39-49.
- 齋藤瑞穂, 三阪一徳, 舟橋京子, 石川健, 谷直子, 富田啓貴, 宮本一夫 (2019) 近世甕棺と七星板—福岡市箱崎遺跡 (九州大学箱崎キャンパス HZK1801地点) の調査成果—, 日本考古学協会第85回総会.
- 坂田邦洋 (1996) 比較人類学. 青山社.
- 鈴木尚 (1985a) 骨は語る 徳川将軍・大名の人びと. 財団法人東京大学出版.
- 鈴木尚 (1985b) 江戸時代における貴族形質の顕現. 人類学雑誌93 (1), pp.1-32.

田口哲也 (2009) 関東の近世墓. 考古学雑誌, 93 (3), pp.169-216.  
 田口哲也 (2013) 村の墓. 土生田純之編, 事典 墓の考古学. pp.290-293.  
 田中祐介 (1996) IV 女狐近世墓地. 大分県教育委員会編, 机張原遺跡・女狐近世墓地・庄ノ原遺跡群 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (5). 大分, pp.39-272.  
 谷川章雄 (2004) 江戸の埋葬施設と副葬品. 江戸遺跡研究会編, 墓と埋葬と江戸時代, 吉川弘文館, 東京, pp.224-250.  
 栃原博 (1957) 日本人歯牙の咬耗に関する研究. 熊本医学会雑誌, 31.  
 Ubelaker, D.H. (1989) Human Skeletal Remains: Excavation, Analysis, Interpretation (2nd Edition). Washington, D.C.: Taraxacum.  
 吉澤悟 (2013) 火葬土坑・火葬場. 土生田純之編, 事典 墓の考古学. pp.252-253.  
 吉田寛 (1999) 中尾近世墓地—国道10号線旦の原交差点拡張に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一. 大分県教育会編, 大分.  
 米元史織・高椋浩史・李ハヤン・岩橋由季・谷澤亜里・早川和賀子・中井歩・舟橋京子・田中良之 (2013) 自然化学分析—福岡県大野城市原口遺跡第4次調査B区出土近世人骨について—. 乙金地区遺跡群7～原口遺跡第1～4次調査～ 大野城市教育委員会.

第6表 HZK2007出土人骨一覧

遺構	人骨所見				出土情報					
	保存状態	年齢	性別	備考	葬法	頭位	躯体正面	姿勢	改葬	改葬部位
SK03	△	不明	不明	火葬骨 (頭蓋骨片)	火葬土坑	不明		不明	拾骨あり	
SK04	△	不明	不明	火葬骨	火葬土坑	不明		不明	拾骨あり	
SK05	△	成人	不明	火葬骨 (頭蓋骨片・大腿骨片含む四肢骨片・椎骨片・指骨・歯牙)	火葬土坑	北		不明	拾骨あり	
SK06	△	不明	不明	火葬骨 (頭蓋片・基節骨)	火葬土坑	不明		不明	拾骨あり	
SK09	△	不明	不明	火葬骨 (頭蓋骨片)	不明	不明		不明	不明	
SK10	△	不明	不明	火葬骨 (頭蓋骨・四肢骨片)	不明	不明		不明	不明	
SK12	△	不明	不明	火葬骨 (四肢骨片)	火葬土坑?	不明		不明	不明	
SK20	△	不明	不明	火葬骨 (頭蓋骨片・四肢骨片)	火葬土坑?	北(?)		不明	不明	
ST21	△	成人	男性		土壇墓	北		側臥屈葬	不明	
SK22	△	不明	不明	火葬骨 (大腿骨片)	火葬土坑?	不明		不明	不明	
SK24	△	成人	不明	火葬骨 (大腿骨片・肩甲骨片・上顎骨片)	火葬土坑?	不明		不明	不明	
SK25	△	不明	不明	火葬骨	火葬土坑?	不明		不明	不明	
SK29	△	不明	不明	火葬骨	不明	不明		不明	不明	
SK30	△	不明	火葬骨は女性?	火葬骨 (中手骨・大腿骨片・四肢骨片) と非火葬骨 (頭蓋骨片) を含む	土壇墓	北(?)		不明	不明	
ST31	△	成人	不明		土壇墓	北(?)		不明	不明	
ST33	△	成人	男性?	火葬骨が少量混じる	土壇墓 (木棺?)	不明		不明	不明	
SK35の北	△	不明	不明	火葬骨 (頭蓋骨片・椎骨片・大腿骨片・肋骨片・仙骨片)	不明	不明		不明	不明	
SK35	△	不明	不明	火葬骨	火葬土坑	不明		不明	不明	
SK36	△	成人	不明	火葬骨 (頭蓋骨片・上腕骨片・肋骨片・大腿骨片・脛骨片)	火葬土坑?	不明		不明	不明	
SX37	△	不明	男性?		不明	不明		不明	不明	
SK38	△	不明	不明	火葬骨 (頭蓋骨片・椎骨片・橈骨片)	不明	不明		不明	不明	
SK40	△	不明	不明	火葬骨と非火葬骨を含む	不明	不明		不明	不明	
SK42	△	不明	不明	火葬骨 (頭蓋骨片・大腿骨片・橈骨片)	火葬土坑?	不明		不明	不明	
SK43	△	不明	不明		土壇墓?	不明		不明	不明	
SK44	△	不明 (火葬されていない個体は若年後半から成年)	不明	火葬骨と非火葬骨を含む	土壇墓?	不明		不明	不明	
ST45	△	不明	不明	火葬骨 (四肢骨片) と非火葬骨 (大腿骨・脛骨) を含む	土壇墓 (木棺?)	北	南	立膝坐葬	不明	
SK47	△	不明	不明	火葬骨 (大腿骨片・脛骨片)	不明	不明		不明	不明	

Ⅲ 箱崎遺跡 (HZK2007地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質の特徴

遺構	人骨所見				出土情報						
	保存状態	年齢	性別	備考	葬法	頭位	躯体正面	姿勢	改葬	改葬部位	
SK49	△	不明	不明	火葬骨	不明	不明		不明	不明		
SK50	△	不明	不明	火葬骨	不明	不明		不明	不明		
SK51	△	成年	不明	火葬骨と非火葬骨(歯牙)を含む	不明	不明		不明	不明		
SK52	△	不明	不明	火葬骨	不明	不明		不明	不明		
SK53	△	不明	不明	火葬骨(長管骨片)	火葬土坑	不明		不明	不明		
SK57	△	不明	不明	火葬骨(長管骨片)	火葬土坑	不明		不明	不明		
SK58	△	不明	不明	火葬骨(頭蓋骨片・左鎖骨・歯根など)と非火葬骨を含む	火葬土坑	北(?)		不明	不明		
ST59	△	老年	男性	ST59周辺検出時出土骨片は火葬骨 ST59北東部出土は別個体(火葬骨と非火葬骨あり)	甕棺	東	西	立膝坐葬	無し		
SX60	△	成人	不明	火葬骨(頭蓋骨片・基節骨)・非火葬骨	甕棺	不明	不明	不明	不明		
SK61	△	成人	不明	火葬骨(軸椎・椎骨片・前頭骨片含む頭蓋骨片・尺骨片・長管骨片)	火葬土坑	北		不明	不明		
ST62	△	幼児~小児	不明	火葬骨を含む	甕棺	不明	不明	不明	不明		
ST63	△	成人	女性		甕棺	西	東	立膝坐葬	無し		
SK64	△	不明	不明	錐体片、下顎の左第二乳臼歯	土壙墓	不明		不明	不明		
ST65	△	不明	不明	胸椎椎間板ヘルニアの疑いあり	甕棺	不明	不明	立膝坐葬	有り	下顎骨や躯幹骨以外ほぼ全身	
ST67	△	乳幼児	不明		甕棺	不明	不明	不明	不明		
SK68	△	不明	不明	火葬骨	不明	不明		不明	不明		
SX69	△	不明	不明	火葬骨 頭蓋骨片が局所的に被熱しておりクラックもないため、骨化後の被熱の可能性あり	不明	不明		不明	不明		
SK71	△	不明	不明	火葬骨(頭蓋骨片・四肢骨片・骨盤片・下肢骨片)	不明	不明		不明	不明		
SK72	△	不明	不明	火葬骨	不明	不明		不明	不明		
ST73	△	成人	不明		甕棺	不明	不明	不明	不明		
ST74	△	不明	不明	火葬骨	甕棺	不明	不明	不明	不明		
ST75	△	成年	女性	前耳状溝あり	甕棺	南東	北西	坐葬	有り	下肢骨	
SK76	△	不明	不明	火葬骨(錐体・頭蓋片や四肢骨片)	火葬土坑?	不明		不明	不明		
ST77	◎	老年	女性		甕棺	北東	南西	立膝坐葬	無し		
ST77(東)	△	成人	男性?		不明	不明		不明	不明		
ST78	◎	熟年	男性	エナメル質減形成あり	甕棺	北	南	立膝坐葬	無し		
SX301	△	不明	不明	火葬骨1点。その他は非火葬の長管骨片	不明(土壙墓?)	不明		不明	不明		
SX80	○	熟年~老年	女性	一部火葬骨含む 腰椎 Lipping あり	不明	不明		不明	不明		
ST81	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身	
ST82	△	小児	不明		甕棺	西	東	立膝坐葬	無し		
ST83	△	成人	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身	
ST84	×	不明	不明	火葬骨と非火葬骨(未成人)あり	甕棺	不明	不明	不明	不明		
SX85	△	未成人(非火葬骨)	不明	火葬骨と非火葬骨を含む	甕棺	不明		不明	不明		
ST86	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身	
ST87	△	成人	女性?	エナメル質減形成あり	木棺	北西		仰臥屈葬	無し		
ST88	△	老年	男性	右脛骨関節炎重度	甕棺	東	西	立膝坐葬	無し		
ST89	△	不明	不明		土壙墓	不明		不明	不明		
ST90	△	不明	不明	火葬骨と非火葬骨を含む	甕棺	不明	不明	不明	不明		
ST91	△	成人	女性		土壙墓(木棺?)	西		側臥屈葬	無し		
SK93	△	不明	不明	火葬骨	不明	不明		不明	不明		
SK94	△	不明	不明	火葬骨	不明	不明		不明	不明		
ST95	△	成人(非火葬骨)	不明	火葬骨(四肢骨片)と非火葬骨(錐体等)を含む	甕棺	不明	不明	不明	不明		
SX96	△	成人	不明		甕棺?	不明		不明	不明		
ST99	○	老年	男性	腰椎に Lipping あり	甕棺	南西	北東	立膝坐葬	有り	頭蓋骨のみ	
ST100	◎	熟年	男性		甕棺	南西	北東	立膝坐葬	再開口	収骨無し 大きく動く	
ST101	○	老年	男性		甕棺	北	南	立膝坐葬	無し		
ST102	△	成人	男性	火葬骨を含む	甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身	
SX103	△	成年	女性		不明	不明		不明	不明		

遺構	人骨所見				出土情報					
	保存状態	年齢	性別	備考	葬法	頭位	躯体正面	姿勢	改葬	改葬部位
ST104	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST105	×	不明	不明	火葬骨片を含む	甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST106	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST107	○	老年	女性		甕棺	東	西	立膝坐葬	再開口	
ST108	○	老年	女性		甕棺	北	南	立膝坐葬	再開口	収骨無し 大きく動く
ST109	◎	熟年	男性	椎骨 Lipping あり	甕棺	北	南	立膝坐葬	無し	
ST110	△	不明	不明		土壇墓(木棺?)	北		不明	不明	
ST111	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST112	×	成人	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST113	×				甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST114	△	成年	男性	歯石沈着 エナメル質減形成あり	不明	不明	東	坐葬	不明	
SK115	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST116	△	不明	男性		木棺	西		仰臥屈葬	無し	
ST117	△	老年	男性	左右大腿骨骨膜炎による肥厚あり。右大腿骨遠位部骨折疑い	甕棺	北	南	立膝坐葬	無し	
ST118	△	老年	男性?	胸椎・腰椎に軽度の Lipping あり	甕棺	東	西	立膝坐葬	有り	頭蓋骨や四肢骨
ST119	△	乳幼児	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	
ST121	△	不明	不明		土壇墓	不明		不明	不明	
ST122	△	不明	不明		土壇墓	不明		不明	不明	
SX123	△	成人	男性?		土壇墓	西(?)		立膝	不明	
ST124	△	成人	女性?		不明	不明		不明	不明	
ST125	△	成人	女性?		木棺	西		立膝坐葬	不明	
ST126	△	熟年~老年	男性		木棺	北東		立膝坐葬	不明	
ST127	△	成年	男性		木棺	西		坐葬	不明	
SX128	△	成人	男性		不明	不明		不明	不明	
ST129	△	未成人(幼児)	不明	火葬骨片(ごくわずか)を含む	土壇墓	不明		坐葬	不明	
ST130	◎	熟年	男性	腰椎 Lipping あり	甕棺	東	西	立膝坐葬	再開口	収骨無し、大きく動く
ST131	△	成人(歯牙)	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST132	△	成人	不明		甕棺	北	南	立膝坐葬	再開口	収骨無し、大きく動く
ST133	○	老年	女性	前耳状溝あり	木棺	北東		坐葬	無し	
ST134	△	成人	女性		土壇墓	不明		不明	不明	
ST137	△	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST138	△	熟年	男性		甕棺	東	西	立膝坐葬	有り	左大腿骨と左右脛骨
ST139	◎	老年	男性	腰椎の Lipping 重度、エナメル質減形成あり	甕棺	北	南	立膝坐葬	無し	
ST140	○	老年	男性	甲状軟骨の骨化 四肢骨の関節炎重度 左橈骨コーレス骨折 右尺骨関節炎	甕棺	南東	北西	立膝坐葬	無し	
ST141	◎	老年	女性	左右上肢の関節炎。骨膜炎有。	甕棺	不明	不明	立膝坐葬	再開口	収骨無し、大きく動く
ST142	○	成年	女性	前耳状溝あり	甕棺	北	南	立膝坐葬	無し	
ST143	△	成年	男性	エナメル質減形成あり	甕棺	東	西	立膝坐葬	無し	
SK144	△	成人	不明	検出時出土の白色化した骨(火葬・焼成温度低い可能性高い)あり	土壇墓	北		不明	不明	
ST145	◎	老年	男性	腰椎 Lipping 重度、骨膜炎重度	甕棺	東	西	立膝坐葬	無し	
ST145西	△	成人	不明	左右大腿骨と長管骨片あり ST145とは別個体	不明	不明		不明	不明	
ST146	△	不明	不明		木棺	北	南	立膝坐葬	無し	
ST147	△	成人	不明		土壇墓(木棺?)	北		不明	不明	
ST148	△	成人	不明		甕棺	不明	不明	不明	不明	
ST149	△	成人	男性?		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST150	△	成人	不明		土壇墓	西		側臥屈葬	不明	
ST151	△	成人	男性		木棺	西		立膝坐葬	不明	
ST152	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST153	×	不明	不明	火葬骨	甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST154	×	幼児	不明		土壇墓(木棺?)	不明	不明	不明	不明	
ST155	△	不明	不明		木棺	東		立膝坐葬	不明	

III 箱崎遺跡 (HZK2007地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質の特徴

遺構	人骨所見				出土情報					
	保存状態	年齢	性別	備考	葬法	頭位	躯体正面	姿勢	改葬	改葬部位
ST156	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST157	○	熟年	女性		甕棺	北	南	立膝坐葬	有り	上肢
ST159	×	成年	女性		木棺	南	北	坐葬	無し	
ST160	×	成人	男性		土壇墓 (木棺?)	北東		仰臥屈葬	無し	
SK162	×	不明	不明		土壇墓	西		不明	不明	
ST163	×	不明	男性		土壇墓	南東		仰臥屈葬	無し	
ST164	×	成年~熟年	女性	歯石沈着	木棺	西		立膝坐葬	無し	
ST165	×	不明	不明	火葬骨と非火葬骨含む	甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST166	◎	熟年以上	女性		甕棺	西	東	立膝坐葬	再開口	収骨無し、大きく動く
ST167	○	老年	男性		甕棺	東	西	立膝坐葬	無し	
SX168	×	成人	男性	火葬骨あり	土壇墓	不明		不明	不明	
ST169	○	熟年	女性	前耳状溝あり 腰椎 Lipping あり	甕棺	東	西	立膝坐葬	無し	
ST170	×	不明	不明	橈骨重度関節炎、白色・黒色の火葬骨含む	甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST171	○	成年	男性	左大腿骨骨折疑い	甕棺	不明	不明	立膝坐葬	再開口	収骨無し、大きく動く
ST172	◎	熟年	男性		甕棺	東	西	立膝坐葬	再開口	収骨無し、大きく動く
ST173	◎	成年	女性	別個体の大腿骨 (白色化 非火葬) あり	木棺	西		立膝坐葬	無し	
ST174	△	熟年以上	女性	脛骨骨膜炎	甕棺	北	南	立膝坐葬	無し	
ST176	△	成人	不明		土壇墓	不明		坐葬	不明	
ST177	△	成年	女性		木棺	西	東	立膝坐葬	無し	
ST179	△	熟年	不明		土壇墓	不明		立膝坐葬	不明	
ST181	△	不明	不明	踵骨・橈骨・指骨片	土壇墓	不明		不明	不明	
ST182	△	成人	不明	矮小歯あり	甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
SX183	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST184	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST185	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST186	△	不明	不明		土壇墓	不明		坐葬?	不明	
ST187	△	不明	不明	腰椎 Lipping あり	土壇墓	不明		不明	不明	
ST189	△	不明	不明		土壇墓	不明		不明	不明	
ST190	△	不明	不明		土壇墓?					
ST193	○	老年	女性	前耳状溝あり	甕棺	不明	不明	立膝坐葬	再開口	収骨無し、大きく動く
ST194	△	不明	不明	火葬骨片・底付近出土焼骨片のみすべて火葬骨 (部位同定不能)	土壇墓	不明	不明	不明	不明	
ST195	△	不明	不明	左腓骨のみ火葬骨	土壇墓	不明		不明	不明	
ST196	△	不明	不明	火葬骨片の混入	土壇墓	不明	不明	坐葬?	不明	
ST197	×	不明	不明		甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST198	△	成人	男性?	別個体 (火葬骨: 右尺骨片) 混入	土壇墓	北	南	坐葬	不明	
ST199	△	不明	不明		土壇墓	不明	不明	不明	不明	
ST200	△	乳幼児	不明	火葬骨あり	甕棺	不明		不明	有り	ほぼ全身
SX201	△	不良	不良	火葬骨の混入有						
SK202	△	不良	不良	火葬骨						
ST203	×	不良	不良	棺内出土浮いた骨の中に炭と火葬骨あり	甕棺	不明	不明	不明	有り	ほぼ全身
ST204	△	不明	不明		土壇墓	不明	不明	不明	不明	
ST206	△	不明	不明		土壇墓	西		坐葬?	不明	
ST207	△	不明	不明		土壇墓	不明		不明	不明	
ST208	△	不明	不明	火葬骨 (四肢骨片) あり	土壇墓 (木棺?)	西		仰臥屈葬?	不明	
ST209	△	不明	不明		土壇墓	不明		不明	不明	
ST210	△	成人	不明		土壇墓	北	南	立膝坐葬	不明	
ST211	△				土壇墓	不明		不明	不明	

遺構	人骨所見				出土情報					
	保存状態	年齢	性別	備考	葬法	頭位	躯体正面	姿勢	改葬	改葬部位
立シ1925-② ST2503	○	成人	男性							
立シ1925-② ST2504	○	老年	男性	胸椎・腰椎 Lipping あり 右肘関節 関節炎重度						
立シ1925注記不 明同一カメ	○	熟年～老年	男性	腰椎 Lipping 重度						
立シ1925ST2505	○	成人	不明							
立シ1925ST2506 人骨 A	○	成人	男性							
立シ1925ST2506 人骨 B	○	熟年～老年	男性	腰椎の Lipping 重度 上腕骨の関節 炎						

Ⅲ 箱崎遺跡 (HZK2007地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質的特徴

第7表 箱崎遺跡 (HZK2007) 出土人骨計測値一覧 (単位: mm)

Martin No		78	100	109	130	139	140	145	172	77	141	166	173
		男性	男性	男性	男性	男性	男性	男性	男性	女性	女性	女性	女性
M1	頭蓋最大長	191	194	194		185	187	184	193	180	174	179	176
M8	頭蓋最大幅	137	131	141	147		145	143	136	141	138	134	130
M17	Ba-Br 高	145	139	141					140		133	127	
M8/1	頭長幅示数	71.7	67.5	72.7			77.5	77.7	70.5	78.3	79.3	74.9	73.9
M17/1	頭長高示数	75.9	71.6	72.7					72.5		76.4	70.9	
M17/8	頭幅高示数	105.8	106.1	100.0					102.9		96.4	94.8	
M5	頭蓋基底長												
M9	最小前頭幅												
M11	両耳幅												
M12	最大後頭幅												
M23	頭蓋水平周	534	545	542				543	536	519	508		
M24	横弧長	322	312	321				325	311	318	312		
M25	正中矢状弧長												
M40	顔長												
M43	上顔幅	105	113	107	111				102	89	99		
M44	両眼窩幅		101	102								92	
M45	頬骨弓幅	133	141	130	132	132		136	132			122	
M46	中顔幅	102	113	106	100	96	100	102	94	92	89		
M47	顔高		130	138	142		116	122	116				
M48	上顔高		72	86	84.5	82		75	68				
M47/45	顔示数 (K)		92.2	106.2	107.6			89.7	87.9				
M48/45	上顔示数 (K)		51.1	66.2	64.0	62.1		55.1	51.5				
M47/46	顔示数 (V)		115.0	130.2	142.0		116.0	119.6	123.4				
M48/46	上顔示数 (V)		63.7	81.1	84.5	85.4		73.5	72.3				
M51L	眼窩幅		42	43			43	44	43	38	43		
M52 L	眼窩高		33	32			32	37	29	33	34		
M52/52 L	眼窩示数 L		78.6	74.4			74.4	84.1	67.4	86.8	79.1		
M51R	眼窩幅		43	44		42	42	44	42	39	43		
M52 R	眼窩高		33	36		37	36	37	31	32	33		
M52/51R	眼窩示数 R		76.7	81.8		88.1	85.7	84.1	73.8	82.1	76.7		
M54	鼻幅		26	30	22	24	18	27	26	29	24		
M55	鼻高		52	56	62	59	47	55	51	48	48		
M54/55	鼻示数		50.0	53.6	35.5	40.7	38.3	49.1	51.0	60.4	50.0		
M50	前眼窩間幅		22	22	15			17	18		13		19
F	鼻根横弧長		27	25	20			24	22		19		24
50/F	鼻根彎曲示数		81.5	88.0	75.0			70.8	81.8		68.4		79.2
M57	鼻骨最小幅		4	9	6			6	9		5		9
M72	全側面角												
M73	鼻側面角												
M74	齒槽側面角												
M65	下顎頭間幅	126							123				
M66	下顎角幅	97	104						109				
M68	下顎骨長	77		73					75				
M69	オトガイ高	42	36	44	46	41		39	31				
M70 R	下顎枝高				72				56				
M70 L	下顎枝高	62	63	66									55
M71 R	下顎枝幅				39				32				
M71 L	下顎枝幅	33	40	35	38								36
M71/70 R	下顎枝示数				54.2				57.1				
M71/70 L	下顎枝示数	53.2	63.5	53.0									65.5

第8表 頭蓋計測値の比較（男性）（単位：mm）

MartinNo.	箱崎 HZK2007			箱崎 HZK1801			裏杓 <sup>1)</sup> (近世)		早稲 <sup>1)</sup> (近世)		原田 <sup>2)</sup> (近世)		開善寺 <sup>3)</sup> (近世)		稲荷谷 <sup>4)</sup> (近世)		天福寺 <sup>5)</sup> (近世)		宗玄寺 <sup>6)</sup> (近世)		京町 <sup>7)</sup> (近世)				
	n	M	S.D	n	M	S.D	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	
1	最大長	7	189.7	4.3	12	186.3	5.6	50	177.4	131	181.5	25	185.3	6	185.2	14	175.4	38	182.6	36	180.8	37	180.3		
8	最大幅	7	140.0	5.6	12	137.1	3.0	50	141.3	131	138.5	26	135.9	4	138.8	15	142.4	38	138.6	44	135.2	30	135.2		
17	バジオン・プレグマ高	4	141.3	2.6	10	138.9	6.0	50	138.0	131	136.2	20	138.4	1	143.0	8	138.9	33	139.2	31	136.9	14	136.9		
8/1	頭長幅示数	6	72.9	4.0	11	73.7	1.7	50	80.0	131	76.0	25	73.6	4	75.2	14	80.7	37	76.0	35	78.3	23	74.6		
17/1	頭長高示数	4	73.2	1.9	9	74.7	2.4	50	78.0	131	75.0	19	75.0	1	75.7	8	79.7	33	76.2	26	75.1	11	75.7		
17/8	頭幅高示数	4	103.7	2.9	10	101.5	3.7	50	98.0	131	98.0	19	101.0			8	96.9	33	100.8	29	96.9	12	101.8		
45	頬骨弓幅	7	133.7	3.7	9	136.7	3.5	50	133.1	131	134.9	19	136.1	3	136.3	8	137.4	25	136.4	18	135.9	2	135.0		
46	中顔幅	8	101.6	5.9	11	101.9	5.7	50	97.3	131	99.9	18	99.5	4	98.3	7	97.7	24	101.8	31	99.0	24	98.1		
47	顔高	6	127.3	11.1	8	124.4	7.6	-	-	-	-	11	121.6	1	133.0	6	128.0	14	126.9	18	128.9	14	125.0		
48	上顔高	6	77.9	7.3	9	73.2	6.0	50	73.7	131	72.2	17	72.8	3	71.0	7	75.6	18	74.5	17	73.3	19	70.3		
47/45	顔示数 (K)	5	96.7	9.4	7	90.0	6.3	-	-	-	-	10	89.6			6	93.9	13	93.2	10	93.3	1	93.3		
47/46	顔示数 (V)	6	124.4	10.2	8	121.4	9.9	-	-	-	-	9	122.5			6	131.1	13	123.9	8	54.4	2	52.6		
48/45	上顔示数 (K)	6	58.3	6.6	8	53.3	4.9	50	55.0	131	54.0	14	53.3	2	51.4	6	56.1	17	54.4	17	130.1	8	127.1		
48/46	上顔示数 (V)	7	76.8	8.4	8	72.5	5.6	50	76.0	131	72.0	11	73.4	2	72.4	6	78.3	17	73.1	16	73.5	12	70.2		
51	眼窩幅	5	43.0	0.7	10	42.1	1.7	50	43.4	131	43.3	24	42.2	4	43.0	8	44.6	24	42.6	29	43.7	29	42.7		
52	眼窩高	5	32.6	2.9	10	33.3	1.7	50	35.6	131	34.1	24	35.0	2	35.5	8	36.9	24	34.1	34	36.1	32	35.0		
52/51 (L)	眼窩示数	5	75.8	6.1	10	79.2	5.4	50	82.0	131	79.0	24	83.0	1	78.7	8	82.7	24	80.9	29	83.1	26	81.2		
54	鼻幅	7	24.7	3.9	11	26.0	1.3	50	24.5	131	25.6	23	25.6	2	23.5	7	26.1	24	26.5	28	25.4	32	25.5		
55	鼻高	7	54.6	5.1	11	52.2	3.0	50	53.6	131	52.3	25	51.2	3	56.7	7	54.4	24	52.9	31	55.5	32	52.4		
54/55	鼻示数	7	45.4	7.1	11	49.9	3.0	50	46.0	131	48.9	23	50.0	2	40.8	7	48.1	24	50.1	28	45.9	28	49.2		
M50	前眼窩間幅	5	18.8	3.1	10	16.9	1.8	50	16.9	131	16.9	22	19.1	4	18.0	6	16.7			27	17.7				
F	鼻根横弧長	5	23.6	2.7	10	23.5	3.0	-	-	-	-	22	21.9	4	22.0	6	19.5								
50/F	鼻根湾曲示数	5	79.4	6.6	10	72.4	7.6	-	-	-	-	22	87.3	4	81.8	6	85.2								
M57	鼻骨最小幅	5	6.8	2.2	10	7.0	2.3	50	7.2	131	7.3	26	8.2	4	8.3	6	8.6			29	7.4				

1) 坂上 (2012)、2) 中橋・土肥 (2008)、3) 松下 (2005)、4) 岡崎ほか (2004)、5) 中橋 (1987)、6) 松下 (1995)、7) 松下 (1993)

MartinNo.	綱重 <sup>8)</sup>	家宣 <sup>9)</sup>	家重 <sup>10)</sup>	家茂 <sup>11)</sup>	徳川義直 <sup>12)</sup>	将軍家 (計)		伊達政宗 <sup>13)</sup>	伊達忠宗 <sup>14)</sup>	伊達綱宗 <sup>15)</sup>	内藤頼尚 <sup>16)</sup>	内藤長好 <sup>17)</sup>	内藤頼直 <sup>18)</sup>	水野忠義 <sup>19)</sup>	水野忠良 <sup>20)</sup>	水野忠武 <sup>21)</sup>	牧野家 <sup>22)</sup> (近世)	神代9代目 <sup>23)</sup>	畿内 <sup>24)</sup> (現代)		西南日本 <sup>25)</sup> (現代)		関東 <sup>26)</sup> (現代)				
						n	M												n	M	n	M		n	M	n	M
1	最大長	190.0	186.0	182.0	192.0	184.0	167.0	6	183.5	193.0	182.0	180.0	179.0	175.0	183.0	181.0	180.5	175.2	9	174.8	179.0	37	177.3	108	181.4	143	178.9
8	最大幅	149.0	144.0	145.0	156.0	142.0	138.0	6	145.7	140.0	150.0	144.0	152.0	147.0	143.0	145.2	141.3	134.5	8	141.5	132.0	37	142.9	108	139.3	143	140.3
17	バジオン・プレグマ高	144.0	136.0	143.0	150.0	142.0	133.0	6	141.3	136.0	138.0	129.0	148.0	138.0	144.0	139.0	141.2	133.5	9	137.7	132.0	37	139.1	108	139.3	143	138.1
8/1	頭長幅示数	78.5	77.4	79.7	81.3	77.3	82.6	6	79.5	72.5	82.4	80.0	84.9	84.0	78.1	80.2	78.2	76.2	8	81.3	73.7	37	80.7	108	76.6	143	78.5
17/1	頭長高示数	75.8	73.2	78.5	70.2	77.3	79.6	6	75.8	70.5	75.8	71.7	84.9	78.9	78.6	76.8	78.2	76.2	9	78.8	73.7	37	78.4	108	76.9	143	77.3
17/8	頭幅高示数	96.7	94.5	98.5	96.2	100.0	96.4	6	97.1	97.1	101.4	89.6	97.4	93.9	100.7	95.7	99.2	99.2	8	97.6	100.0	37	97.5	108	100.1	143	98.6
45	頬骨弓幅	142.0	136.0	140.0	126.0	131.0	113.0	6	131.3	133.0	138.0	132.0	128.0	125.0	127.0	129.8	119.6	119.5	7	129.3	126.0	32	133.5	106	134.5	144	132.9
46	中顔幅	-	-	-	95.0	92.0	83.0	3	90.0	100.0	100.0	98.0	95.0	87.0	92.0	95.8	89.7	88.6	8	93.0	94.0	32	97.2	107	99.9	143	98.6
47	顔高	135.0	137.0	138.0	140.0	141.0	-	5	138.2	(130.0)	(126.0)	120.0	124.0	121.0	-	-	131.0	132.5	5	125.4	-	-	-	66	122.2	142	123.8
48	上顔高	82.0	82.0	78.0	82.0	82.0	73.0	6	79.8	(76.0)	(78.0)	71.0	69.0	72.0	(75.0)	75.7	76.2	75.0	5	73.0	75.0	30	69.9	92	71.8	144	70.7
47/45	顔示数 (K)	95.1	100.7	98.6	111.1	107.6	-	5	102.6	97.7	91.3	90.9	96.9	96.8	-	-	109.5	110.9	5	96.9	-	-	-	64	91.4	142	93.1
47/46	顔示数 (V)	-	-	-	147.3	153.3	-	2	150.3	130.0	126.0	122.4	130.5	139.1	-	-	146.0	149.5	5	132.3	-	-	-	65	122.2	141	125.4
48/45	上顔示数 (K)	57.7	60.3	55.7	65.8	62.6	64.6	6	61.1	57.1	56.5	53.8	53.9	57.6	(59.1)	58.5	63.7	62.8	5	56.4	59.5	27	52.3	90	53.5	144	53.3
48/46	上顔示数 (V)	-	-	-	86.3	89.1	88.0	3	87.8	76.0	78.0	72.4	72.6	82.8	(81.5)	79.0	84.9	84.4	5	77.0	79.8	28	72.1	91	71.8	143	71.8
51	眼窩幅	49.0	48.0	46.0	43.0	46.0	36.0	6	44.7	43.0	43.0	43.0	42.0	42.0	45.0	45.5	41.8	42.2	9	44.3	41.0	37	41.8	108	43.0	142	42.7
52	眼窩高	40.0	39.0	38.0	37.0	38.0	38.0	6	38.3	39.0	38.0	36.0	36.0	36.0	37.0	35.2	35.0	34.0	9	37.8	36.0	37	35.1	108	34.4	144	34.3
52/51 (L)	眼窩示数	81.7	81.3	83.9	86.1	82.6	105.6	6	86.9	90.7	88.4	83.7	87.8	90.8	82.4	77.4	83.7	80.5	9	85.3	87.8	37	84.0	108	80.2	142	80.4
54	鼻幅	28.0	26.0	25.0	23.0	22.0	20.0	6	24.0	26.0	27.0	26.0	26.0	23.0	24.0	23.5	21.2	23.8	9	22.9	21.0	37	25.0	108	25.9	144	25.0
55	鼻高	62.0	62.0	58.0	57.0	58.0	55.0	6	58.7	58.0	59.0	56.0	52.0	51.0	61.0	57.0	51.6	52.3	9	54.3	56.0	37	53.4	108	52.2	143	52.0
54/55	鼻示数	45.2	41.9	43.2	40.4	37.9	36.4	6	40.8	44.8	45.8	46.4	50.0	45.1	39.3	41.2	41.1	45.5	9	42.2	37.5	37	47.0	108	49.8	143	48.4
M50	前眼窩間幅	-	-	-	16.0	15.0	13.0	3	14.7	19.0	18.0	18.0	19.0	16.3	16.3	17.5	14.8	16.4	9	15.6							

III 箱崎遺跡 (HZK2007地点) 調査出土近世人骨の埋葬状態と形質の特徴

第9表 頭蓋計測値の比較 (女性) (単位: mm)

Martin No.	箱崎 HZK2007			HZK1801-ST72号 女性		江戸市中 武士層 (墓) <sup>1)</sup> 女性		江戸市中庶民層 (早稲) <sup>1)</sup> 女性		原田 <sup>7)</sup> (近世) 女性		開善寺 <sup>8)</sup> (近世) 女性		稲荷谷 <sup>4)</sup> (近世) 女性		天福寺 <sup>9)</sup> (近世) 女性		牧野家 <sup>4)</sup> 女性		西南日本 <sup>1)</sup> (現代) 女性		関東 <sup>4)</sup> (現代) 女性	
	n	M	S.D	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1	最大長	4	177.3	2.8	175.0	48	169.1	70	172.3	26	172.8	6.0	172.3	14	164.1	38	174.7	3	167.0	42	172.8	82	170.8
8	最大幅	4	135.8	4.8	127.0	48	135.3	70	133.2	26	131.1	5.0	136.2	15	135.8	38	133.5	4	133.8	42	133.8	82	135.9
17	バジオン・ブレグマ高	2	130.0	4.2	133.0	48	132.0	70	130.6	23	131.3	2.0	132.0	11	130.3	35	132.7	4	131.3	42	131.5	81	132.5
8/1	頭長幅示数	4	76.6	2.6	72.6	48	80.0	70	77.0	24	75.5	5.0	78.7	14	83.4	38	76.5	2	80.4	42	77.5	82	79.7
17/1	頭長高示数	4	73.7	3.9	76.0	48	78.0	70	76.0	22	76.1	2.0	77.4	11	79.5	35	76.1	2	77.7	42	76.2	81	77.7
17/8	頭幅高示数	4	95.6	1.1	104.7	48	98.0	70	98.0	20	100.9	2.0	102.3	11	96.5	35	99.4	3	98.0	42	98.4	81	97.7
45	頬骨弓幅	1	122.0		123.0	48	123.8	70	125.0	19	123.7	2.0	126.5	7	122.3	30	126.5	2	114.5	42	124.3	84	124.9
46	中顔幅	2	90.5	2.1	93.0	48	92.2	70	93.3	19	94.5	2.0	90.0	5	88.8	25	95.5	2	83.5	42	93.6	84	93.5
47	顔高				105.0	-	-	-	-	13	112.2	1.0	115.0	4	113.5	15	115.9	-	-	10	113.0	84	115.0
48	上顔高				64.0	48	68.5	70	66.7	16	67.1	2.0	64.5	5	66.2	22	68.8	1	67.0	48	68.6	83	67.1
47/45	顔示数 (K)				85.4	-	-	-	-	10	92.0	1.0	95.8	3	92.2	15	91.1	-	-	10	90.5	84	92.2
47/46	顔示数 (V)				112.9	-	-	-	-	8	118.1	1.0	127.8	3	127.6	15	120.9	-	-	10	118.3	84	123.3
48/45	上顔示数 (K)				52.0	48	55.0	70	53.0	12	54.6	1.0	51.7	5	53.6	22	54.3	-	-	40	55.1	83	53.8
48/46	上顔示数 (V)				68.8	48	75.0	70	72.0	11	71.6	2	71.7	5	74.5	22	71.8	-	-	40	73.2	83	72.0
51	眼窩幅 (L)	2	40.5	3.5	37.0	48	41.2	70	40.8	19	40.4	2	40.5	6	41.7	30	40.5	2	39.5	42	40.7	84	41.1
52	眼窩高 (L)	2	33.5	0.7	32.0	48	34.6	70	33.3	17	33.9	3	33.7	6	36.3	30	34.3	1	35.0	42	34.0	84	33.8
52/51(L)	眼窩示数	2	83.0	5.5	86.5	48	84.0	70	82.0	17	84.2	2	81.5	6	87.2	29	84.8	1	89.7	42	83.7	84	82.4
54	鼻幅	2	26.5	3.5	26.0	48	24.5	70	24.4	24	25.0	2	22.0	7	25.9	26	25.3	1	24.0	42	25.2	84	24.5
55	鼻高	2	48.0	0.0	47.0	48	49.4	70	48.5	25	47.2	2	49.0	7	48.9	28	49.9	2	49.0	42	48.7	84	49.0
54/55	鼻示数	2	55.2	7.4	55.3	48	50.0	70	51.0	24	53.0	2	45.2	7	52.9	26	51.0	1	48.0	42	51.9	84	50.2
M50	前眼窩間幅	2	16.0	4.2	17.0	48	16.3	70	16.4	25	17.0	1	14.0	7	16.3			2	14.0	57	16.8	84	17.4
F	鼻根横弧長	2	21.5	3.5	18.0	-	-	-	-	24	19.1	1	17.0	7	18.5			-	-	57	19.6	-	-
50/F	鼻根湾曲示数	2	73.8	7.6	94.4	-	-	-	-	24	89.0	1	82.4	7	88.9			-	-	57	88.7	-	-
M57	鼻骨最小幅	2	7.0	2.8	6.0	48	7.8	70	7.0	25	7.5			5	7.7			-	-	57	8.6	84	7.1

MartinNo.	家茂	6代側室	6代側室	9代側室	12代側室	14代生母	10代正室	9代正室	13代正室	不明	11代側室	10代側室	8代生母	内藤頼朝	内藤長好	内藤頼隆	内藤頼隆	内藤頼隆	内藤頼直	水野忠友	水野忠城
	正室 <sup>1)</sup>	法心院 <sup>2)</sup>	蓮浄院 <sup>3)</sup>	安祥院 <sup>4)</sup>	本寿院 <sup>5)</sup>	実成院 <sup>6)</sup>	心観院 <sup>7)</sup>	證明院 <sup>8)</sup>	澄心院 <sup>9)</sup>	側室 <sup>10)</sup>	香琳院 <sup>11)</sup>	蓮光院 <sup>12)</sup>	浄円院 <sup>13)</sup>	正室 <sup>14)</sup>	正室 <sup>15)</sup>	先室 <sup>16)</sup>	後室 <sup>17)</sup>	正室 <sup>18)</sup>	正室 <sup>19)</sup>	正室 <sup>20)</sup>	正室 <sup>21)</sup>
1	最大長	173.0	174.0	171.8	172.1	161.4	169.9	166.0	166.9	159.0	164.8	170.0	174.8	173.3	165.0	172.0	167.0	176.0	172.0	183.5	175.2
8	最大幅	144.0	131.1	137.8	139.1	136.3	140.0	143.0	135.8	126.8	136.8	141.1	139.8	139.5	145.0	140.0	140.0	141.0	140.0	143.5	137.0
17	バジオン・ブレグマ高	141.0	133.0	139.1	138.9	130.1	128.9	123.8	134.8	126.7	133.2	138.3	124.9	142.0	133.0	130.0	132.0	136.0	142.0	136.5	132.8
8/1	頭長幅示数	83.3	75.3	80.2	80.8	84.4	82.4	86.1	81.4	79.7	83.0	83.0	80.5	80.5	87.9	81.4	84.3	80.1	81.4	-	78.1
17/1	頭長高示数	81.5	76.4	80.9	80.7	80.6	75.9	74.5	80.8	79.7	80.8	81.3	71.5	81.9	80.6	75.6	79.0	77.3	82.6	-	75.8
17/8	頭幅高示数	98.0	102.1	100.9	99.9	95.5	92.1	86.2	99.2	99.9	97.3	98.0	89.3	101.8	91.7	93.5	94.3	96.5	101.4	-	96.9
45	頬骨弓幅	114.0	123.4	123.6	131.3	118.6	121.6	120.5	119.4	107.5	120.9	124.2	124.9	134.1	120.0	117.0	124.0	121.0	119.0	-	118.2
46	中顔幅	83.0	90.9	86.3	96.4	83.8	84.4	85.5	87.9	79.3	89.8	94.9	89.9	95.4	91.0	88.0	93.0	89.0	88.0	-	90.0
47	顔高	114.0	-	-	121.7	-	-	111.0	120.1	100.7	-	117.4	115.4	124.5	-	114.0	119.0	119.0	-	-	-
48	上顔高	66.0	-	-	69.6	-	-	70.0	67.8	64.8	71.2	72.8	70.5	74.1	-	65.0	72.0	67.0	-	-	65.7
47/45	顔示数 (K)	100.0	-	-	92.7	-	-	92.1	100.5	93.6	-	94.5	92.4	92.8	-	97.4	96.0	98.4	-	-	-
47/46	顔示数 (V)	137.3	-	-	126.2	-	-	129.8	136.5	127.0	-	123.8	128.3	130.4	119.8	129.6	128.0	133.7	-	-	-
48/45	上顔示数 (K)	57.9	-	-	53.0	-	-	58.1	56.8	60.2	58.9	58.6	56.5	55.3	-	55.6	58.1	55.4	-	-	-
48/46	上顔示数 (V)	79.5	-	-	72.2	-	-	81.9	77.1	81.7	79.2	76.7	78.4	77.7	-	73.9	77.4	75.3	-	-	-
51	眼窩幅 (L)	42.0	40.1	42.1	41.4	37.9	40.7	38.1	41.0	35.5	39.7	39.8	42.3	42.7	37.0	37.0	39.0	40.0	42.5	42.5	39.8
52	眼窩高 (L)	37.0	35.2	36.0	32.1	34.9	34.7	34.8	35.9	37.5	36.4	35.0	38.4	35.1	34.0	36.0	37.0	36.0	37.5	-	36.2
52/51(L)	眼窩示数	88.2	87.9	85.6	77.5	92.1	85.1	91.3	87.5	105.4	91.7	88.0	90.9	82.2	91.9	97.3	94.9	90.0	88.2	-	-
54	鼻幅	25.0	26.3	24.7	26.8	27.3	26.0	24.9	23.3	19.4	21.7	22.4	25.4	25.5	25.0	21.0	21.0	24.0	24.0	-	24.8
55	鼻高	51.0	52.2	47.8	49.7	51.1	50.3	47.7	47.8	46.7	49.8	50.2	51.6	50.9	50.0	48.0	54.0	51.0	54.0	52.7	49.5
54/55	鼻示数	49.0	50.4	51.6	53.9	53.5	51.7	52.2	48.9	41.5	43.5	44.6	49.2	50.2	50.0	43.8	38.9	47.1	44.4	-	-
M50	前眼窩間幅	17.0	17.5	16.9	15.0	14.9	15.5	14.1	16.7	12.2	15.3	15.5	18.3	18.3	19.0	15.0	20.0	14.0	16.0	-	16.5
F	鼻根横弧長	19.0	20.0	21.0	19.0	22.0	20.0	18.0	21.5	17.0	19.0	19.0	21.0	21.9	24.1	18.0	24.0	16.5	22.0	-	-
50/F	鼻根湾曲示数	89.5	87.7	80.5	78.7	67.7	77.5	78.4	77.7	71.8	80.6	81.8	87.1	83.6	78.8	83.3	83.3	84.8	72.7	-	-
M57	鼻骨最小幅	-	4.9	8.1	6.4	7.9	8.1	5.4	5.6	4.7	6.3	7.8	9.6	7.2	-	-	-	-	-	-	-

1) 坂上 (2012)、2) 中橋・土肥 (2008)、3) 松下 (2005)、4) 岡崎ほか (2004) 5) 中橋 (1987)、6) 加藤 (1991)、7) 原田 (1954)、8) 森田 (1950)、9) 鈴木尚 (1985b)、10) 馬場・坂上 (2012)

第10表 上肢の計測値の比較（男性）（単位：mm）

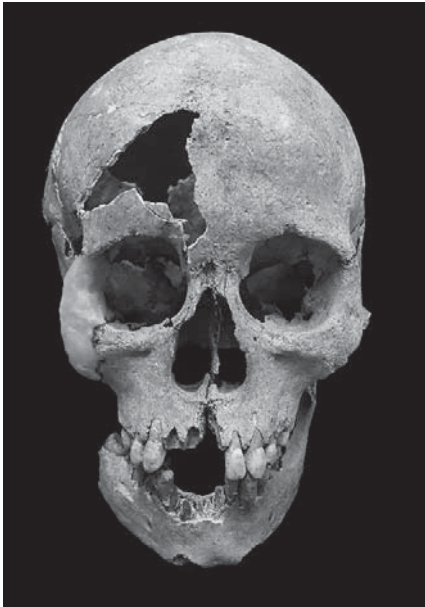
MartinNo.	箱崎遺跡 (HZK2007) 出土近世人骨						HZK1801		古野 <sup>1)</sup>	原口 <sup>2)</sup>	天徳寺 <sup>3)</sup>	芝公園 <sup>4)</sup>	原田 <sup>5)</sup>	稲荷谷 <sup>6)</sup>	天福寺 <sup>7)</sup>	小倉京町 <sup>8)</sup>	久世 <sup>9)</sup>	九州 <sup>10)</sup> (現代)												
	男性			男性			男性			n	M	n	M	n	M	n	M	n	M											
	N	M	S.D	N	M	S.D	N	M	S.D	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M											
上腕骨																														
1最大長	2	304.00	9.90	4	305.25	7.76	5	301.4	15.9	2	287.0	2	287.0	42	289.5	14	301.4	15	294.4	6	293.2	21	296.9	5	278.8	1	301.5	106	295.3	
2全長	2	299.50	7.78	4	302.00	6.27	5	297.6	15.2	1	295.0	2	283.0	41	285.7	14	297.0	15	290.3	8	287.0	19	293.3	5	276.8	1	298	106	290.6	
5中央最大径	13	24.61	2.03	12	25.35	1.63	13	23.3	1.9	1	23.0	2	22.0	83	22.4	47	22.2	22	22.8	6	22.7	22	23.1	11	23.2	6	21.8	106	21.9	
6中央最小径	13	18.45	1.41	12	18.84	1.16	13	18.5	1.2	1	17.0	2	20.1	83	17.0	47	17.3	22	17.8	6	18.5	22	17.7	11	18.0	6	16.8	106	16.9	
7骨体最小周	13	66.92	5.24	10	69.30	3.33	13	66.5	2.9	2	63.5	3	61.0	-	-	46	62.0	28	63.5	16	62.3	22	63.8	9	65.9	5	64.6	106	61.8	
7a中央周	13	73.00	5.05	12	74.25	3.31	13	71.1	4.2	1	67.0	2	66.5	83	64.9	47	65.7	22	67.8	6	64.5	22	66.5	10	69.0	6	65.8	106	63.7	
6/5骨体断面示数	13	75.25	6.78	12	74.45	4.70	13	79.5	6.5	1	-	2	90.7	83	76.2	47	78.4	22	78.4	6	81.8	22	77.6	10	77.8	6	76.6	106	79.1	
7/1長厚示数	2	21.38	0.23	4	23.45	1.91	5	22.5	1.2	2	-	2	21.8	42	22.3	14	21.0	15	21.4	6	21.1	16	21.3	6	21.6	1	20.9	106	20.9	
橈骨																														
1最大長	7	230.71	9.38	9	228.67	7.79	7	222.1	12.2	3	220.3	3	216.3	54	222.8	23	226.9	14	225.8	5	219.6	23	228.5	4	215.8	5	230.4	64	219.9	
2機能長	7	218.00	8.33	9	216.56	8.22	7	209.1	10.9	3	209.0	3	206.0	55	208.4	24	212.8	17	211.8	7	207.7	23	212.2	2	196.5	6	211.7	64	208.2	
3最小周	7	46.00	3.21	9	46.56	1.88	10	44.4	1.5	3	41.3	4	41.5	82	39.9	50	40.4	30	43.6	12	39.8	23	42.2	10	43.3	6	42.1	63	40.1	
4骨体横径	8	17.45	0.66	10	18.44	1.29	13	17.6	1.1	3	16.3	4	16.4	84	16.5	51	16.2	32	17.1	14	301.8	23	17.5	12	17.6			63	16.0	
4a 骨体中央横径	7	16.68	1.28	9	17.40	1.01	7	16.1	1.3	3	15.7	3	14.1	83	15.1	52	14.9	18	15.8	5	15.2	23	15.7	3	16.0	6	14.8	63	15.2	
5骨体矢状径	8	12.88	0.83	10	12.58	0.60	13	12.2	1.2	3	12.3	4	12.1	84	11.7	51	11.6	32	12.2	14	12.2	23	12.6	12	12.3	6	11.7	63	11.7	
5a 骨体中央矢状径	7	13.10	0.78	9	13.08	0.58	7	12.4	0.8	3	12.7	3	11.6	83	11.9	52	11.8	18	12.4	5	12.2	14	12.6	3	13.0			63	11.9	
3/2長厚示数	7	21.11	1.45	9	21.53	1.18	7	21.1	1.1	3	19.8	3	19.3	55	19.3	23	19.4	16	20.5	6	18.9	21	19.8	2	22.1	6	19.9	61	20.4	
5/4骨体断面示数	8	73.85	4.82	10	68.44	4.55	13	69.6	7.2	3	75.6	4	73.8	84	71.2	51	71.9	32	71.7	14	70.0	23	72.0	12	69.8			60	71.4	
5a/4a 中央断面示数	7	78.68	4.43	9	75.33	4.00	7	77.5	8.7	3	81.0	3	82.9	83	78.9	52	79.2	18	79.1	5	80.3	22	80.3	3	81.5			40	77.9	
尺骨																														
1最大長	9	248.78	8.79	7	252.14	8.23	5	242.2	12.2	2	237.0	2	229.5	51	239.2	25	243.0	10	247.8	6	236.2	18	244.6	3	231.0	4	244.8	62	236.2	
2機能長	10	216.00	8.23	6	219.00	7.54	6	213.7	8.8	2	210.0	2	206.0	58	209.1	27	213.1	14	216.7	11	206.8	18	214.6	3	203.7	4	211.5	64	209.2	
3最小周	6	39.33	3.20	8	42.63	3.78	9	39.7	1.9	2	33.5	2	35.0	78	35.4	46	35.8	24	40.9	12	34.8	20	37.5	4	39.3	4	35.9	65	35.8	
11矢状径	12	14.19	0.99	11	14.65	0.93	12	13.8	1.9	2	13.5	3	13.5	89	12.7	52	12.9	38	12.8	17	13.1	24	13.1	10	13.4	8	14.0	63	12.8	
12横径	12	17.72	1.83	11	17.50	1.93	12	16.7	1.7	2	16.0	3	16.8	89	16.4	52	15.9	37	17.0	17	16.4	24	17.0	10	16.9	7	15.0	64	16.5	
3/2長厚示数	6	21.63	8.58	5	23.19	7.13	6	18.6	0.9	2	-	2	17.0	58	17.0	27	17.0	14	18.7	11	16.8	18	17.5	3	18.9	4	17.7	63	17.0	
11/12骨体断面示数	12	81.05	11.84	9	82.00	8.74	12	85.1	24.2	2	-	3	80.7	89	78.3	52	81.8	37	75.5	17	80.2	23	77.9	10	79.8	8	86.8	63	74.9	

1) 中井など、2) 米元など、3) 加藤 (1991)、4) 中橋・土肥 (2008)、5) 岡崎ほか (2004)、6) 中橋 (1987)、7) 松下 (1993)、8) 九州大学医学部解剖学第2講座 (1988)、9) 阿部 (1957)、10) 鑄鍋 (1955)

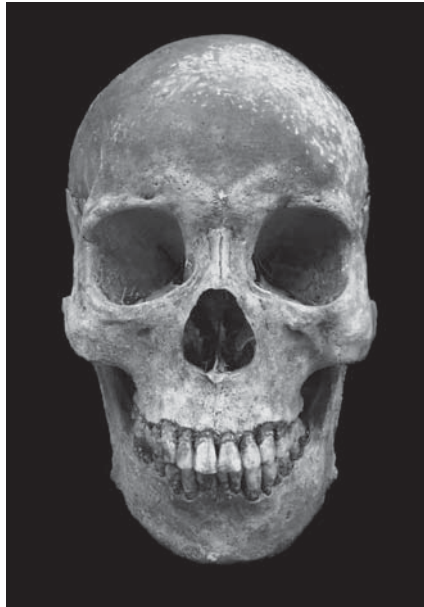
第11表 下肢の計測値の比較（男性）（単位：mm）

MartinNo.	箱崎遺跡 (HZK2007) 出土近世人骨						HZK1801		古野 <sup>1)</sup>	原口 <sup>2)</sup>	天徳寺 <sup>3)</sup>	芝公園 <sup>4)</sup>	原田 <sup>5)</sup>	稲荷谷 <sup>6)</sup>	天福寺 <sup>7)</sup>	小倉京町 <sup>8)</sup>	久世 <sup>9)</sup>	九州 <sup>10)</sup> (現代)												
	男性			男性			男性			n	M	n	M	n	M	n	M	n	M											
	N	M	S.D	N	M	S.D	N	M	S.D	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M											
大腿骨																														
1最大長	5	427.20	21.08	5	426.80	21.25	4	423.5	25.4	1	412.0	1	418.0	41	405.2	18	415.8	24	420.2	9	407.4	19	416.9	10	410.2	2	429.5	59	406.5	
2自然位長	4	414.75	10.50	5	422.80	19.25	4	423.3	26.9	1	410.0	1	414.0	40	403.0	17	418.6	17	415.5	8	406.5	12	412.8	5	389.2	2	425.5	59	403.2	
6中央矢状径	11	28.29	3.06	9	29.51	2.88	15	27.1	2.0	1	29.0	1	25.0	93	27.3	51	27.2	43	28.2	20	28.4	18	27.7	26	28.0	6	28.3	59	26.5	
7中央横径	11	29.17	1.67	9	29.37	1.41	15	28.1	2.8	1	26.0	1	24.9	93	26.1	51	26.7	43	26.6	21	26.7	18	26.7	25	27.5	8	24.8	59	25.6	
8中央周	10	88.60	9.31	8	94.38	6.28	15	87.9	6.5	1	87.0	1	77.0	93	83.6	51	84.8	43	86.4	20	84.1	17	85.2	25	86.9	6	84.7	59	82.4	
9骨体上横径	10	32.66	1.69	9	33.85	1.11	15	32.5	3.0	1	32.0	3	30.1	92	31.3	51	31.2	42	31.6	20	30.6	17	30.2	20	31.8	8	31.8	59	29.4	
10骨体上矢状径	10	25.79	1.30	9	26.37	1.33	15	24.5	1.6	1	23.0	3	22.6	92	24.0	52	23.9	42	25.6	20	25.7	17	26.1	22	24.8	8	24.8	59	24.3	
8/2長厚示数	3	20.53	3.56	5	23.08	0.61	4	21.7	1.3	1	21.2	1	18.6	40	20.6	16	20.5	17	20.9	8	21.2	8	20.6	5	21.2	2	19.9	59	20.4	
6/7中央断面示数	11	97.20	11.31	9	100.74	11.44	15	96.9	9.9	1	111.5	1	100.4	93	105.1	51	102.1	43	106.3	20	106.7	17	103.4	25	101.9	6	114.4	59	103.8	
10/9上骨体断面示数	10	79.00	2.96	9	77.93	3.58	15	75.7	5.8	1	71.9	3	75.1	92	77.1	51	76.9	42	81.5	20	84.2	17	87.3	20	78.1	8	78.2	58	82.8	
脛骨																														
1全長	5	340.40	14.29	5	340.60	13.50	8	341.3	16.5	1	321.0	1	316.0	35	329.9	15	339.4	20	334.2	10	301.8	13	334.5	5	313.6	4	340.3	61	320.3	
1a 最大長	5	346.60	14.47	5	346.00	12.73	8	341.5	17.9	1	328.0	1	320.0	37	334.0	17	343.0	21	339.0	10	335.5	17	336.5	5	318.6	4	344.3	60	326.9	
8中央																														

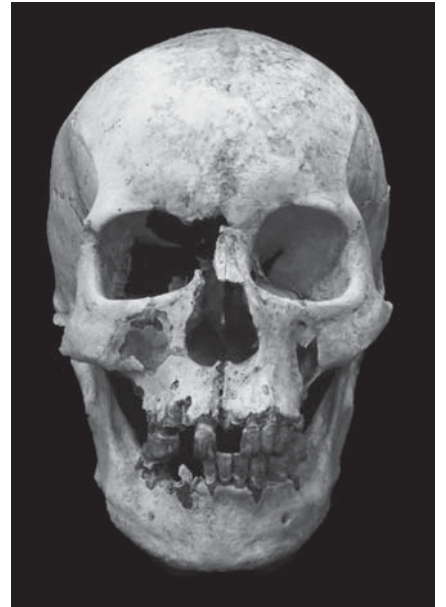




ST40正面観



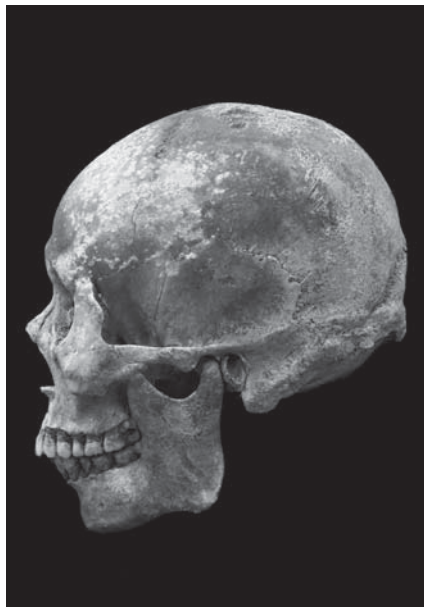
ST57正面観



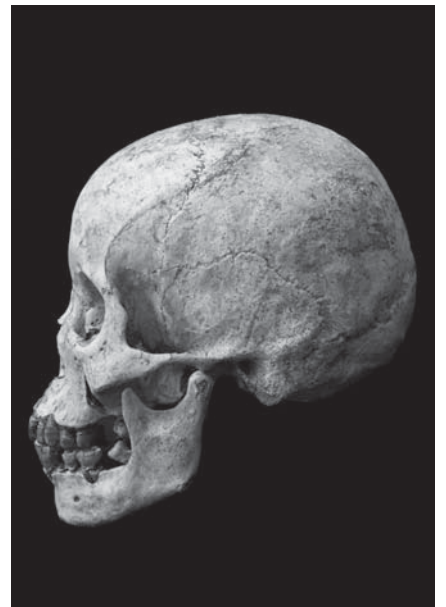
ST61正面観



ST40側面観



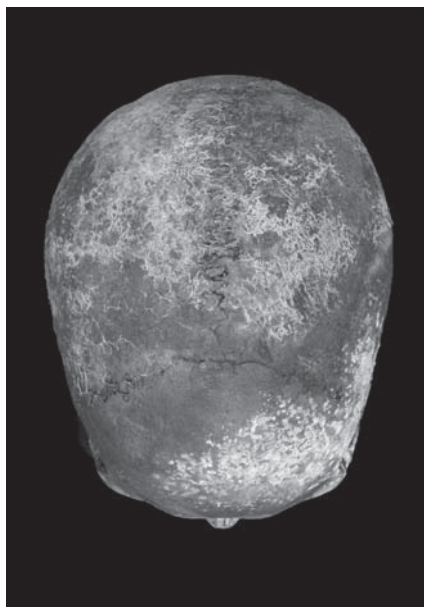
ST57側面観



ST61側面観



ST40上面観



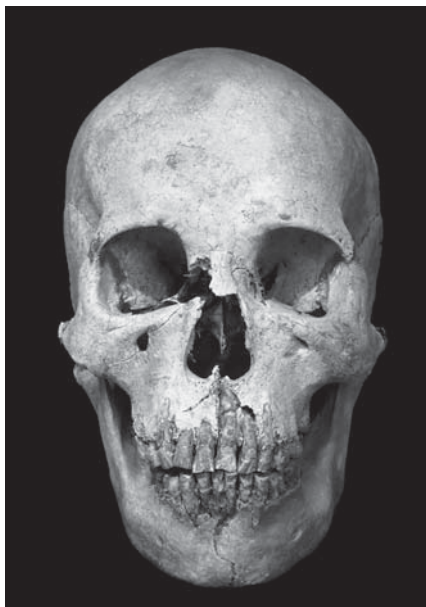
ST57上面観



ST61上面観



ST62正面観



ST63正面観



ST64正面観



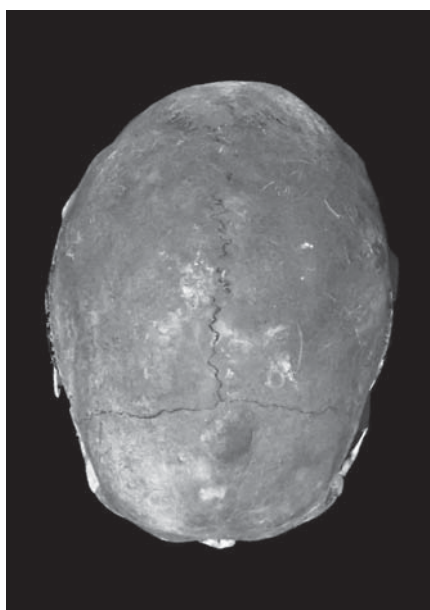
ST62側面観



ST63側面観



ST64側面観



ST62上面観



ST63上面観



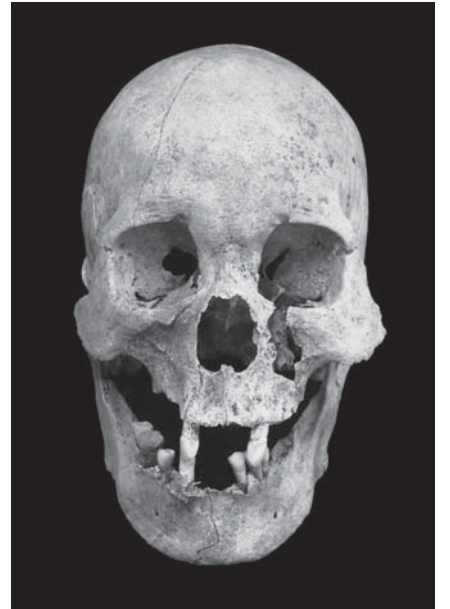
ST64上面観



ST65正面観



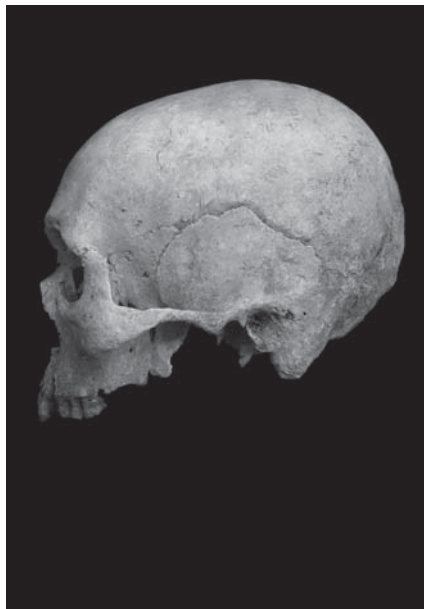
ST66正面観



ST67正面観



ST65側面観



ST66側面観



ST67側面観



ST65上面観



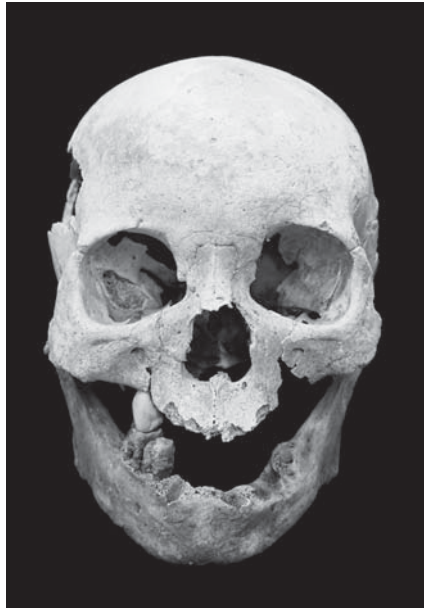
ST66上面観



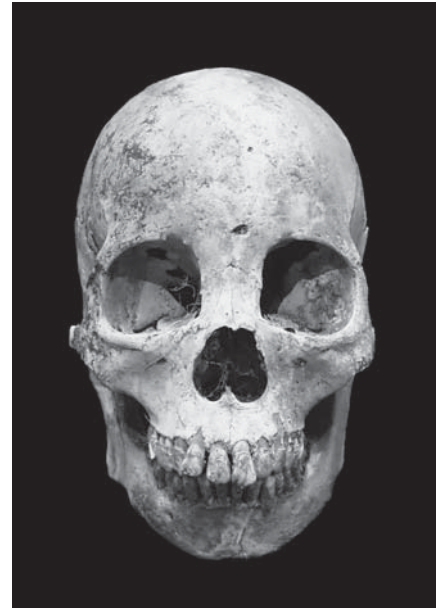
ST67上面観



ST70正面観



ST71正面観



ST72正面観



ST70側面観



ST71側面観



ST72側面観



ST70上面観



ST71上面観



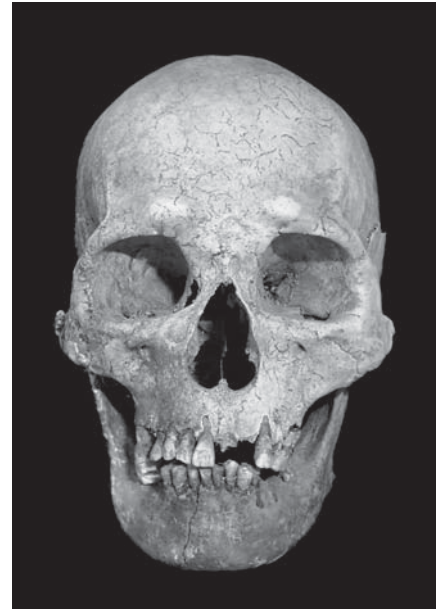
ST72上面観



ST86正面観



ST90正面観



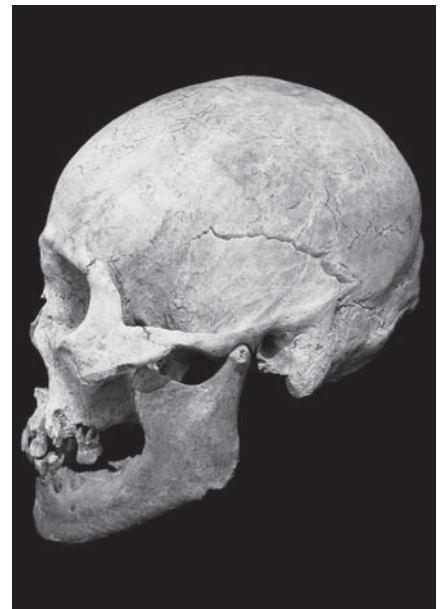
ST93正面観



ST86側面観



ST90側面観



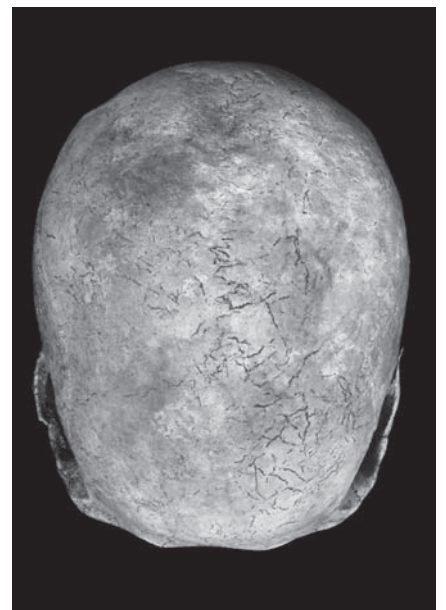
ST93側面観



ST86上面観



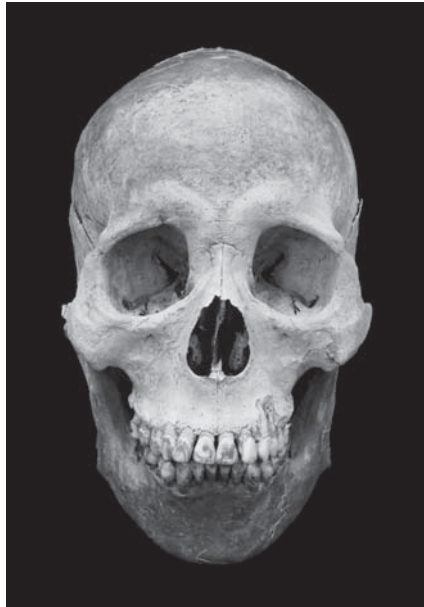
ST90上面観



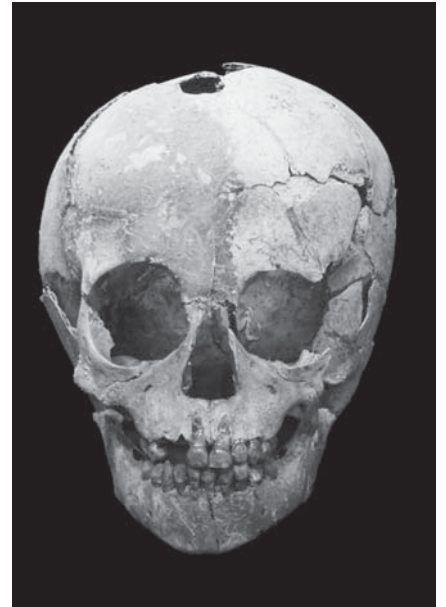
ST93上面観



ST95正面観



ST109正面観



ST127正面観



ST95側面観



ST109側面観



ST127側面観



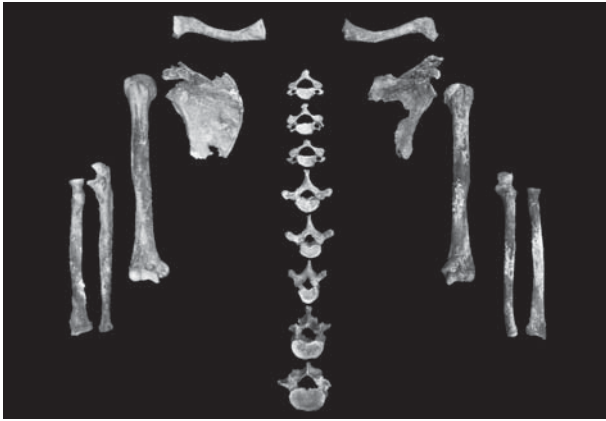
ST95上面観



ST109上面観



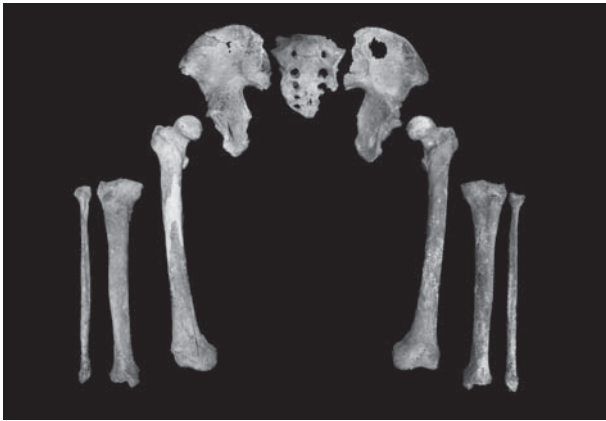
ST127上面観



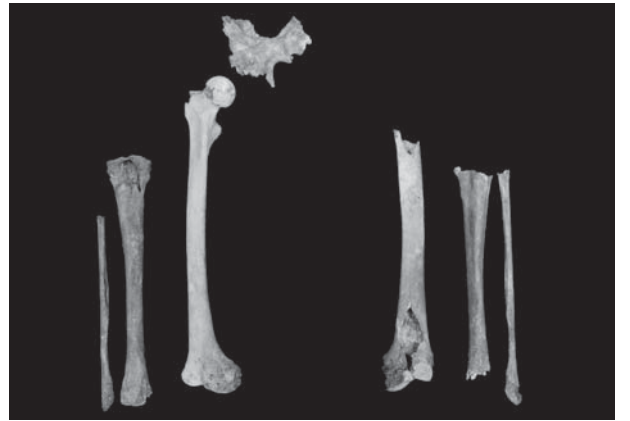
ST57上肢



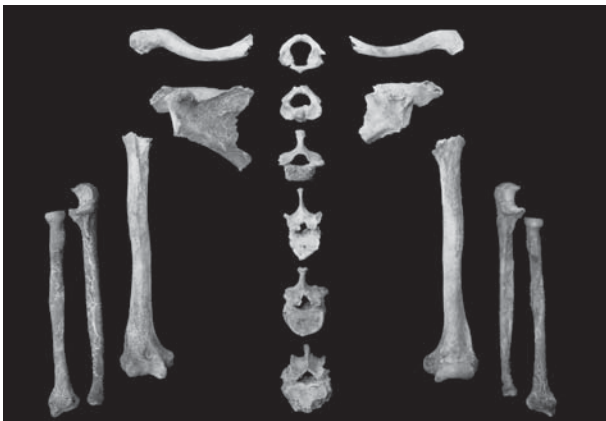
ST63上肢



ST57下肢



ST63下肢



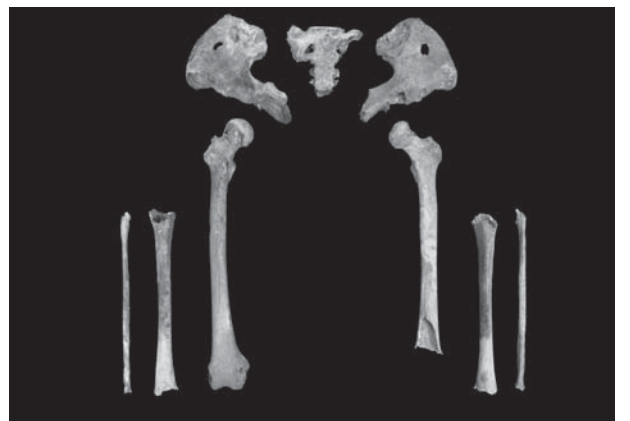
ST62上肢



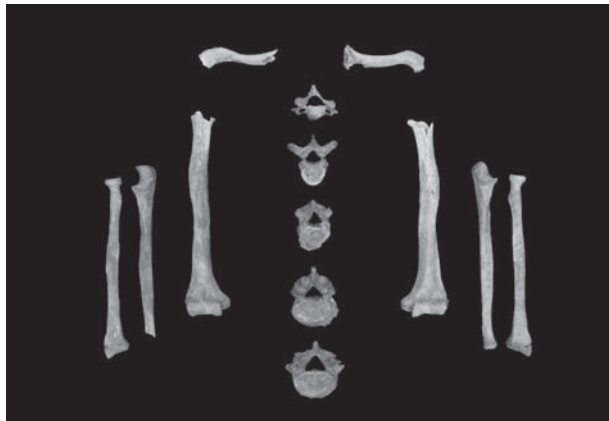
ST64上肢



ST62下肢



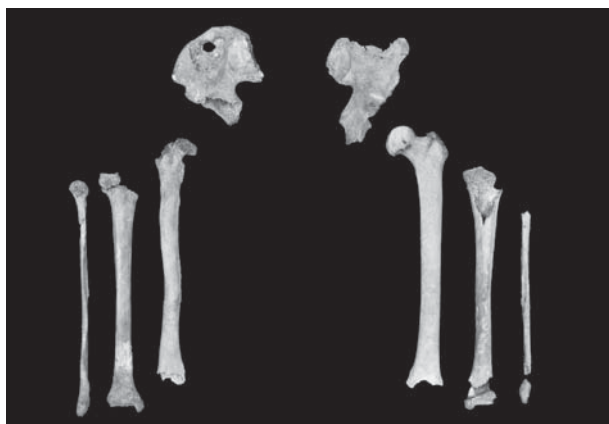
ST64下肢



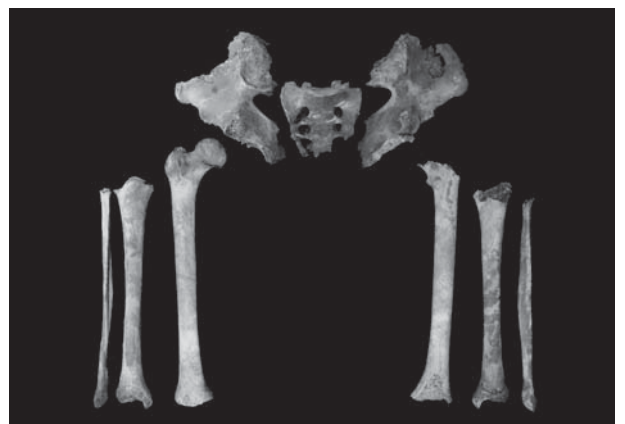
ST65上肢



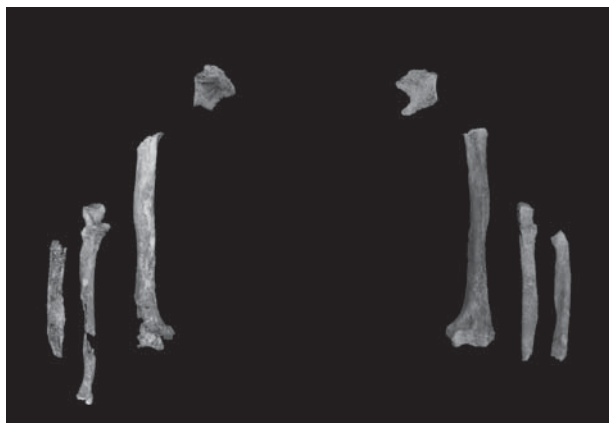
ST67上肢



ST65下肢



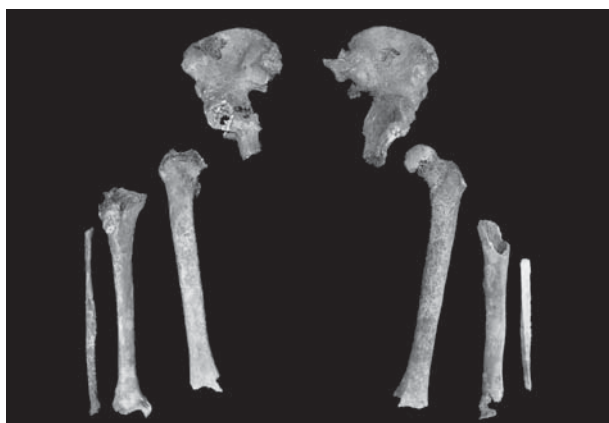
ST67下肢



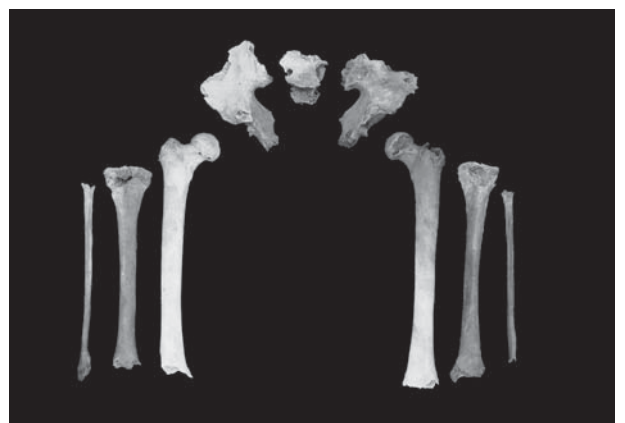
ST66上肢



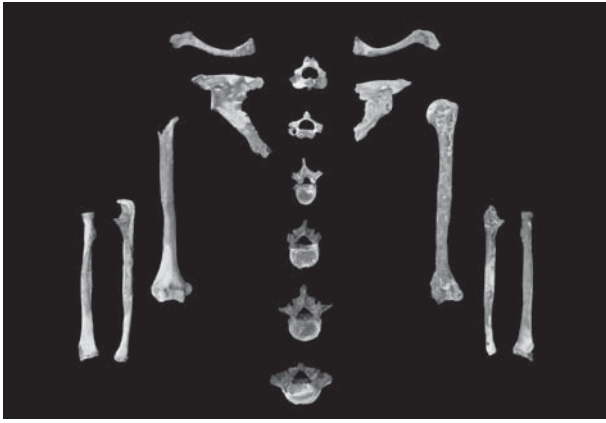
ST71上肢



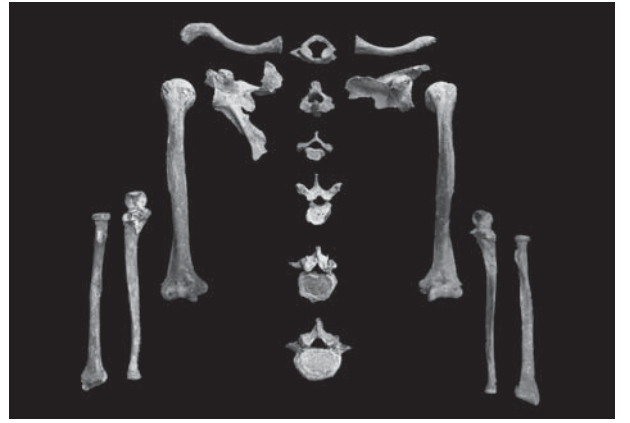
ST66下肢



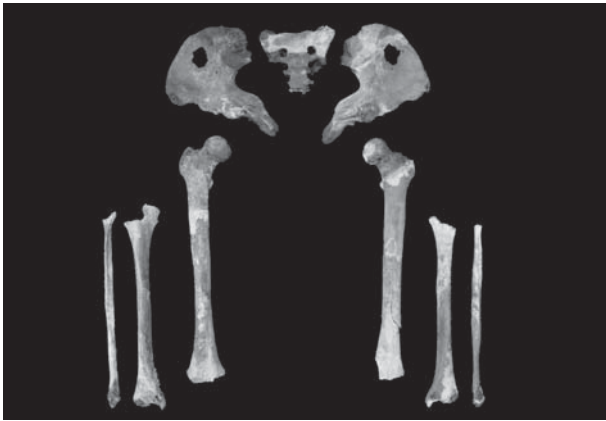
ST71下肢



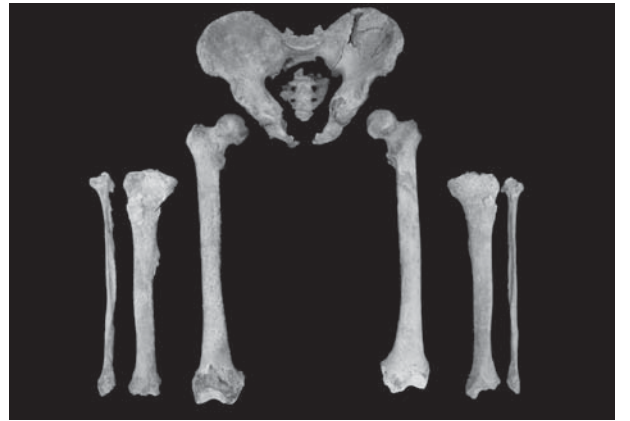
ST72上肢



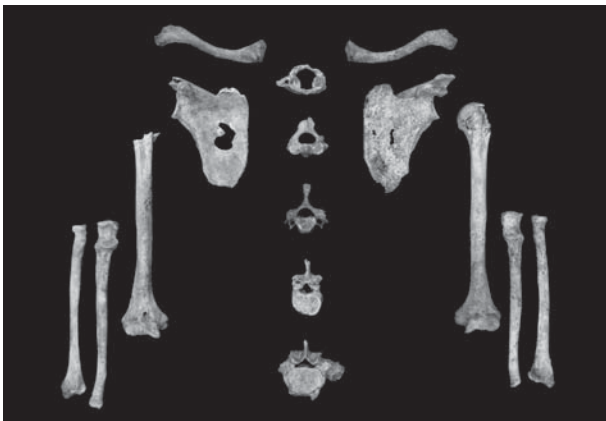
ST90上肢



ST72下肢



ST90下肢



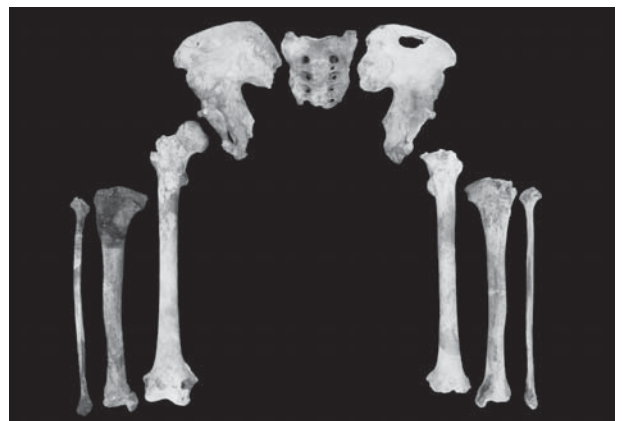
ST86上肢



ST109上肢



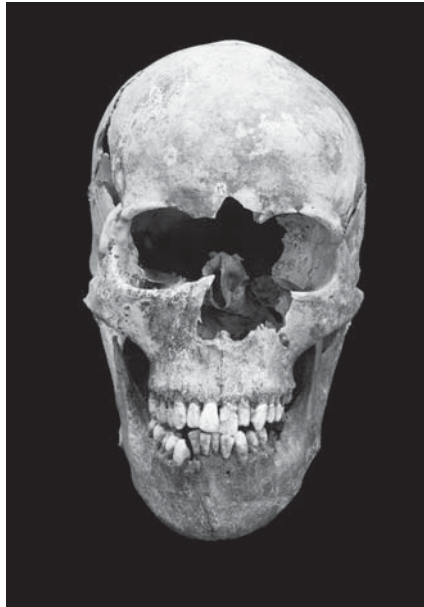
ST86下肢



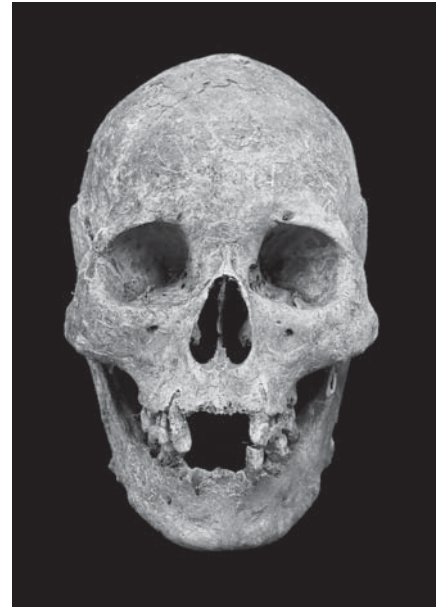
ST109下肢



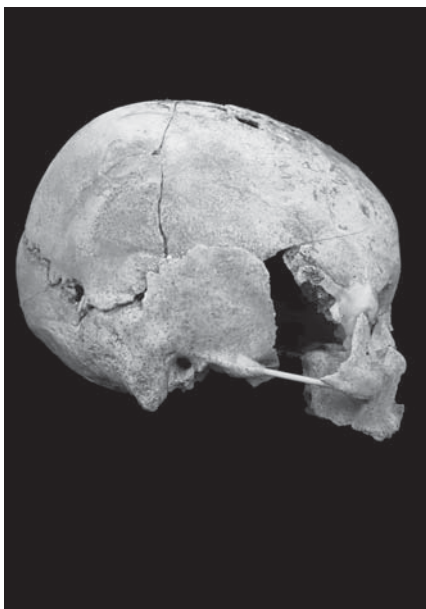
ST77正面観



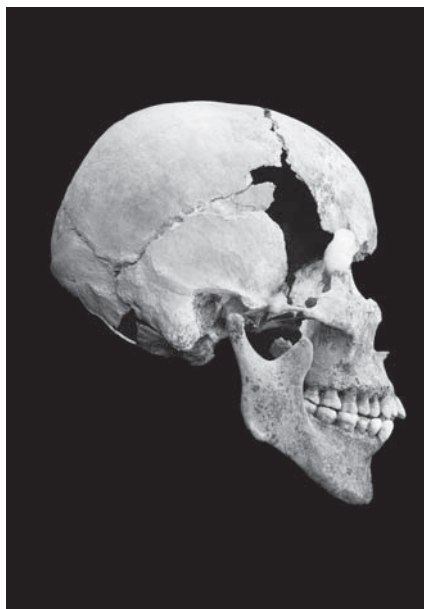
ST78正面観



ST100正面観



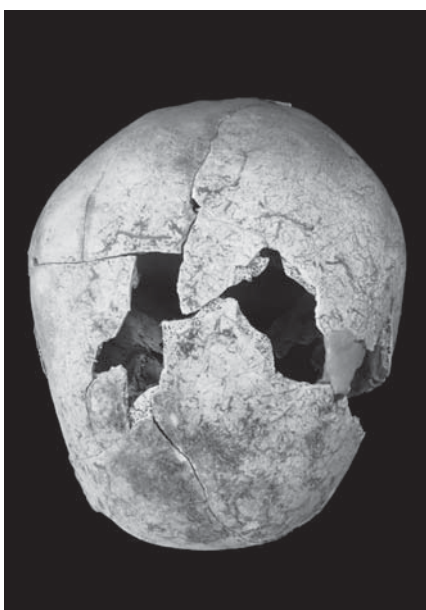
ST77側面観



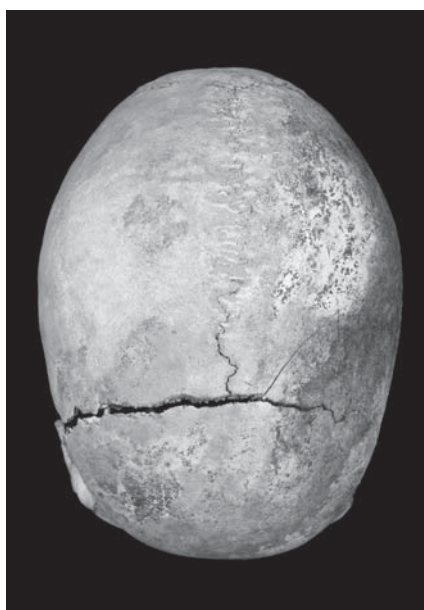
ST78側面観



ST100側面観



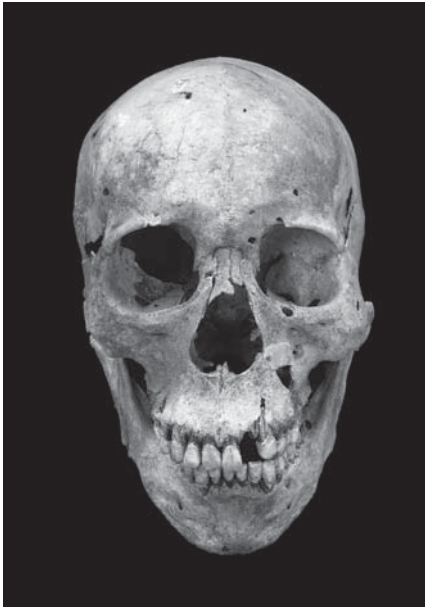
ST77上面観



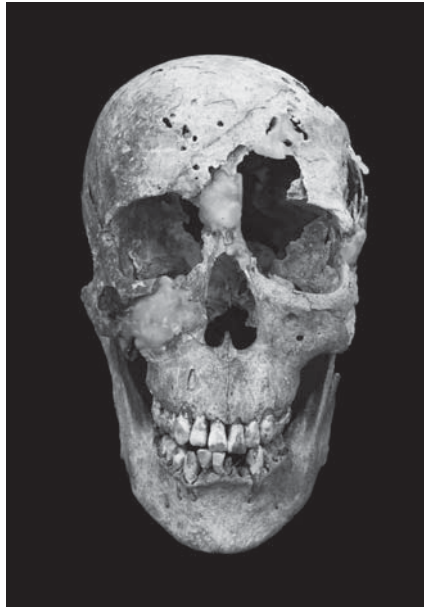
ST78上面観



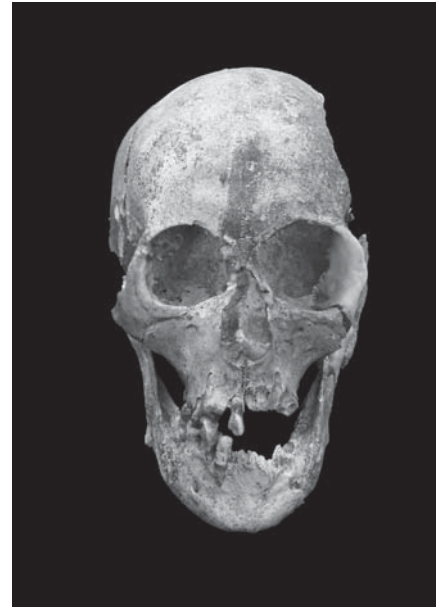
ST100上面観



ST109正面観



ST130正面観



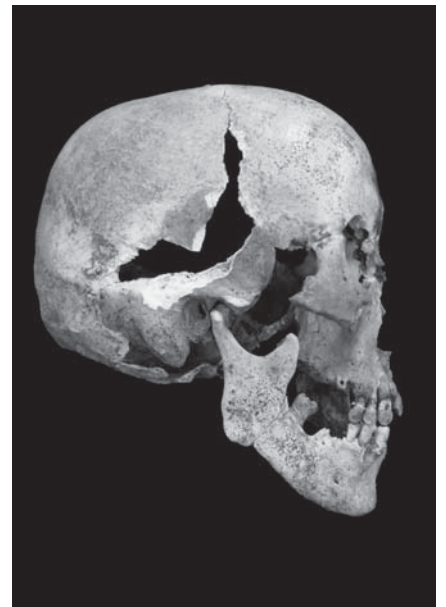
ST139正面観



ST109側面観



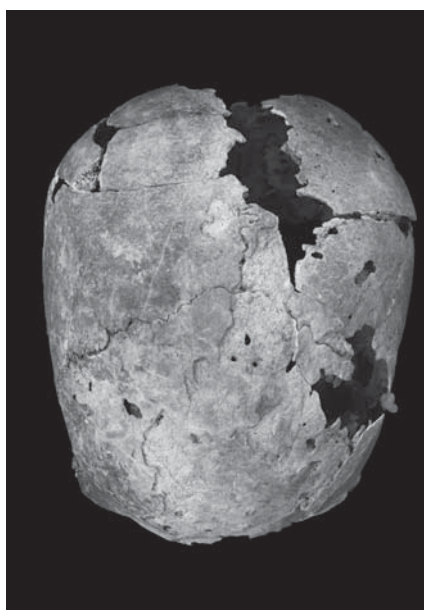
ST130側面観



ST139側面観



ST109上面観



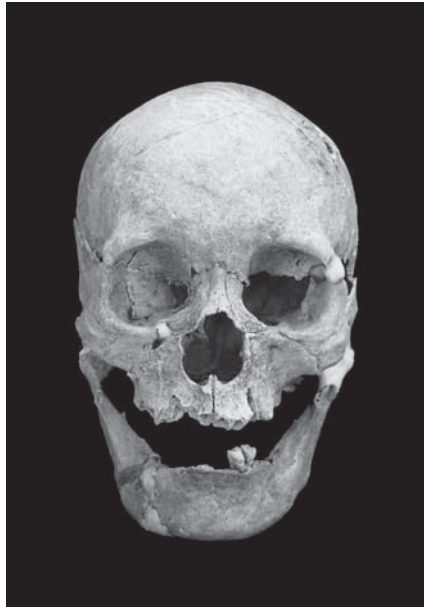
ST130上面観



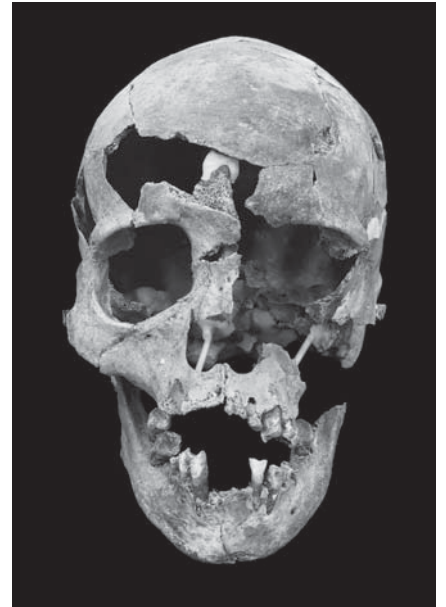
ST139上面観



ST141正面観



ST145正面観



ST166正面観



ST141側面観



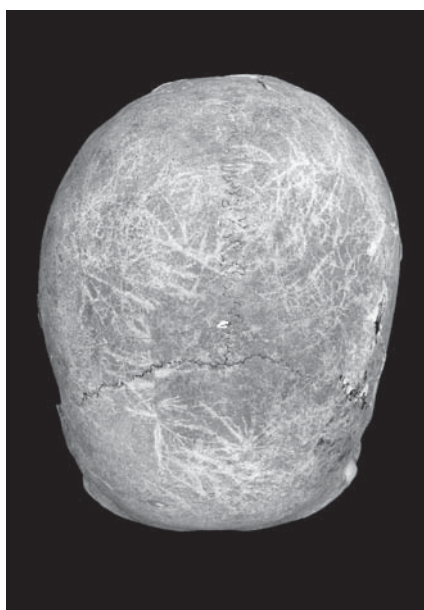
ST145側面観



ST166側面観



ST141上面観



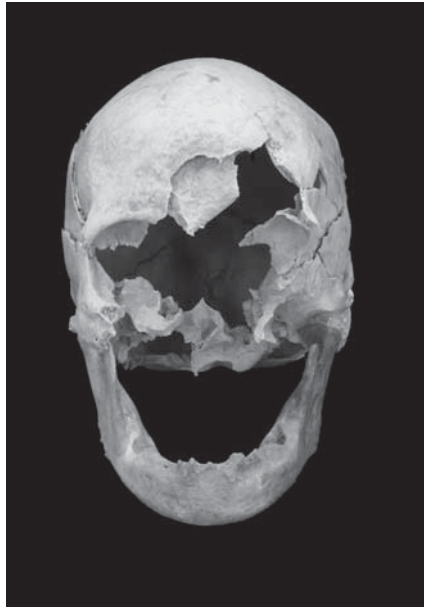
ST145上面観



ST166上面観



ST172正面観



ST193正面観



ST173正面観



ST172側面観



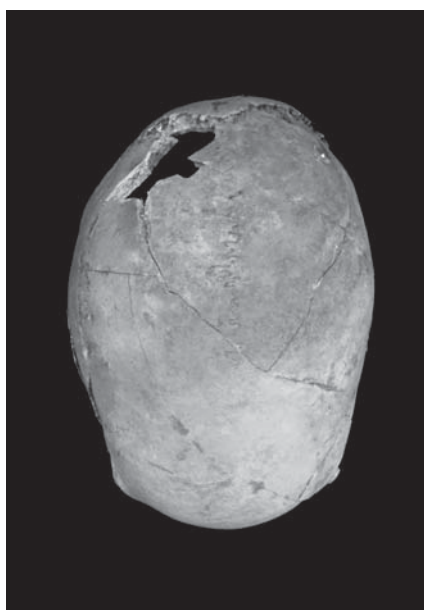
ST193側面観



ST173側面観



ST172上面観



ST193上面観



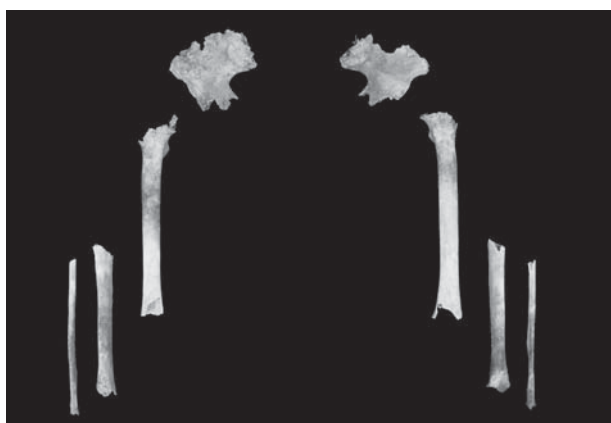
ST173上面観



ST77上肢



ST100上肢



ST77下肢



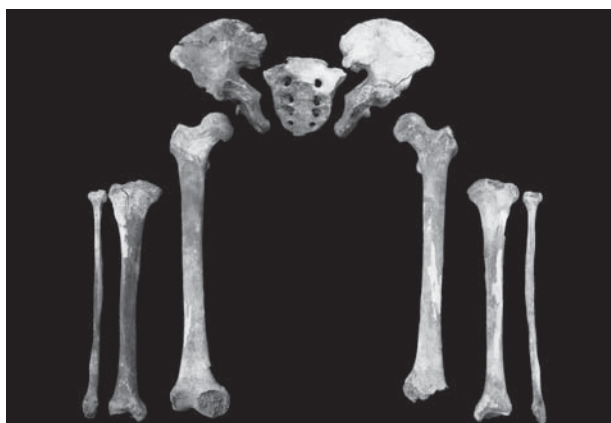
ST100下肢



ST78上肢



ST108上肢



ST78下肢



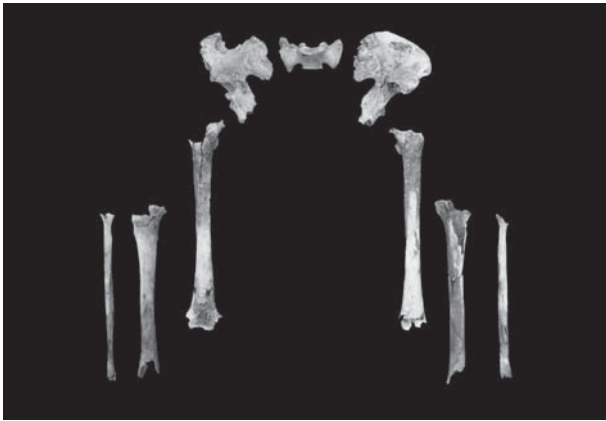
ST108下肢



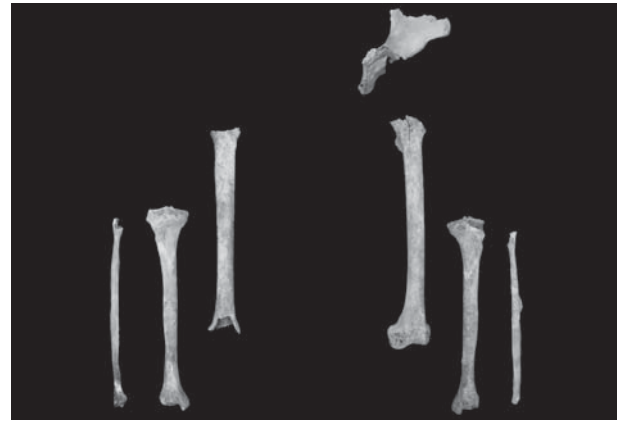
ST109上肢



ST141上肢



ST109下肢



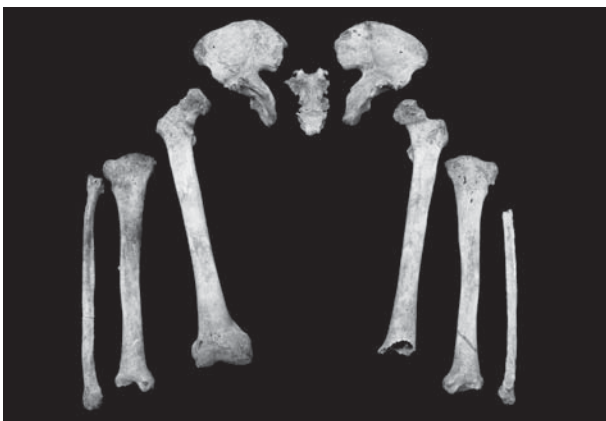
ST141下肢



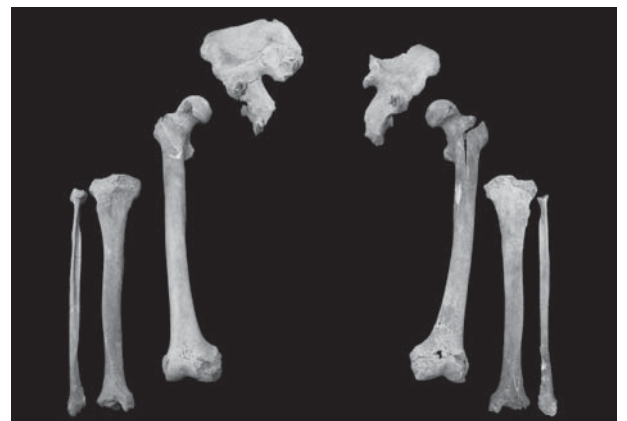
ST130上肢



ST172上肢



ST130下肢



ST172下肢

報告書抄録

ふりがな	はごぎいせき—HZK1801・2006・2007ちてんしゅつどじんこつへん—							
書名	箱崎遺跡—HZK1801・2006・2007地点出土人骨編—							
副書名	九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告							
シリーズ名	九州大学埋蔵文化財調査室報告							
シリーズ番号	第14集							
編著者名	谷 直子 (編)・米元史織・舟橋京子・足達悠紀・松尾樹志郎・星野宙也・出見優人・植野律子・Bai Yang・Stephen Nguyen・James Loftus III・日高風海斗・森春奈・小高蒼大・吉村篤也・田淵朱莉・松村祐奈							
編集機関	九州大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10-1							
発行年月日	2024年12月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK1801地点	ふくおかしひがしく 福岡市東区 はごぎいせき 箱崎6丁目	40131	2639	33° 37' 30"	130° 25' 36"	2018.5.21 ～ 2018.11.9	700	学術研究
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK2006地点	ふくおかしひがしく 福岡市東区 はごぎいせき 箱崎6丁目	40131	2639	33° 37' 24"	130° 25' 36"	2020.10.2 ～ 2021.4.7	1000	学術研究
はごぎいせき 箱崎遺跡 HZK2007地点	ふくおかしひがしく 福岡市東区 はごぎいせき 箱崎6丁目	40131	2639	33° 37' 29"	130° 25' 36"	2021.2.15 ～ 2022.1.28	3200	学術研究
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
HZK1801地点	集落跡・墓地	中世・近世	木棺墓・土壙墓・甕棺墓		人骨			
HZK2006地点	集落跡・墓地	中世	火葬土坑・木棺墓・土壙墓・土坑		人骨 (火葬骨)			
HZK2007地点	集落跡・墓地	中世・近世	火葬土坑・木棺墓・土壙墓・甕棺墓		人骨			
要約	<p>箱崎遺跡九州大学箱崎キャンパス北側の発掘調査地点で、まだ報告されていなかった中世・近世墓地を中心とする発掘地点である HZK1801地点・HZK2006地点・HZK2007地点の人骨の報告を行った。</p> <p>HZK1801地点では、主に近世の木棺墓・土壙墓・甕棺墓から人骨が検出され、出土状況と形質的特徴について報告した。その結果出土状況からは、北から西向きを主としていること、埋葬後の遺体の二次的な移動に関しては、人骨が持ち去られた改葬・持ち去りはないが墓を再開口して遺体を操作している・本来の埋葬場所から移動して埋置したなどの事例がある。形質的特徴としては、男性と女性の頭蓋形質の傾向は共通しており、福岡県内の各集団や江戸市中庶民層と共通するが、異なる形質の人骨も少数含まれていること、上腕骨と大腿骨の周径が他集団より顕著に大きく、太く頑丈な傾向を示すことなどが明らかとなった。</p> <p>HZK2006地点からは、中世から近世の火葬土坑や火葬骨が出土した土坑・土壙墓が検出された。人骨はほとんどが被熱して細片化している。火葬土坑は全て、火葬後に拾骨されており、基本的には単体を一度火葬する際に使用された遺構である。</p> <p>HZK2007地点では、中世から近世の火葬土坑・木棺墓・土壙墓・甕棺墓から人骨が検出され、出土状況と形質的特徴について報告した。その結果出土状況からは、南から西向きが多数を占めること、埋葬後の遺体の二次的な移動に関しては、人骨が持ち去られた改葬と持ち去りはないが墓を再開口して遺体を操作しているという2パターンの事例が見られた。火葬土坑は、複数回火葬に使用した例もあるが、多くは単体を一度火葬する際に使用された遺構である。形質的特徴としては、頭蓋形質の傾向は HZK1801と共通しており、一部に異なる形質の人骨が含まれる。一方上腕骨と大腿骨の周径からは HZK1801のような傾向はみられない。</p>							

---

---

## 箱崎遺跡

— HZK1801・2006・2007地点出土人骨編 —

九州大学埋蔵文化財調査室報告 第14集

令和6年(2024)12月27日

発行 九州大学埋蔵文化財調査室  
福岡市東区箱崎6-10-1

印刷 九州コンピュータ印刷  
福岡市南区向野1丁目19-1

---

---

